

香淳皇后実録 卷九

昭和四十四年（西暦一九六九年） 六十六歳

一月

一日 水曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に奥一の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王の祝賀をお受けになり、続いて北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。また、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二日 木曜日 午前、天皇と共に奥一の間において、憲仁親王始め未成年の皇族等の祝賀をお受けになる。ついで表三の間において、元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官

昭和四十四年一月

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

新年一般参賀につき、この日特別に新宮殿を御使用になる。午前三回と午後七回の計十回、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集の一般参賀者に御会釈を賜う。新年一般参賀へのお出ましは昭和三十八年以来のこととなる。なお、第一回お出ましの際に天皇に向かってパチンコ玉が発射される事件のほか、第四回お出まし直後に宮殿東庭後方で発煙筒が焚かれる事件が発生する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、新年一般参賀綴、重要雑録、年未年始関係、宮内庁庁報、官報、皇宮警察史、戦後警察史

三日 金曜日 午前、元始祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日雍仁親王祥月命日に当たり、墓所への女官御差遣につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

六日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、昨日米国から帰国した島津貴子より新年の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 火曜日 午前十時三十分、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。大谷大学教授西谷啓治より「我と汝」としての人間関係」、関西学院大学教授田岡良一より「平和維持の一方策の

批判」、日本学士院会員沼知福三郎より「水力機械の高速化」と題する進講をお聴きになる。進講後、進講者その他の賜謁があり、天皇と共に拝謁の間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、講書始録、年末年始関係、宮内庁庁報、官報

午後、吹上御所玄関前において元女孀等の新年祝賀を、ついで吹上御所において元女官等の新年祝賀をそれぞれ天皇と共に受けになる。その後お一方にて、拝謁の間において恩師・御学友の拝賀を受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

八日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 金曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「星」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

あたらしき宮居の空に星ひとつあらはれにけり輝きそめぬ

終わって、拝謁の間において召人・選者・諸役の、ついで内廷西玄関前において預選者の賜謁があり、天皇と共ににお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、歌会始録、年末年始関係、典式録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

十三日 月曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部の洋楽演奏を御鑑賞になる。先着の皇太子妃と御対面になり、木管合奏曲・弦楽曲をそれぞれ二曲ずつお聴きになる。一旦御休憩となり、徳仁

昭和四十四年一月

親王と御休所において御対面になった後、お席にお戻りになり、御一緒にシューベルト作曲の管弦楽曲「ロザムンデ序曲」及び交響曲「未完成」第一楽章をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日中のトルコ国外務大臣イフサン・サブリ・チャイヤンギル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、この度離任の米国特命全権大使ウラル・アレクシス・ジョンソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午後、第十二回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}を受賞した中学生・高校生等の賜謁

があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。読売新聞社代表取締役副社長小林与三次の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

十七日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十四分御出門、十一時十四分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十日 月曜日 午後、日本画家前田青邨をお召しになり、絵画の指導を受けられる。以後この年、折に触れて侍従を前田邸に差し遣わされ、御絵の批評等をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十五日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前九時四十五分御出門、十一時十一分皇居に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、

宮内庁序報

二十六日 日曜日 この日、御成婚四十五周年をお迎えになる。天皇と共に側近奉仕者一同より祝賀を受けられる。○女官日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、元掌典長甘露寺受長の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十七日 月曜日 邦彦王^{御父}の四十年式年祭に当たるため、午後二時四十七分御出門、豊島岡墓地に行啓される。久邇邦昭^{御甥}・同夫人正子、東伏見慈治^{御弟}・同夫人保子、及び大谷光暢^{御妹智子の夫}のお出迎えをお

受けになる。ついで邦彦王墓所を御拝礼になり、玉串をお供えになる。御参拝に当たり、天皇・皇后より墓前に櫛を、皇后より菓子をお供えになる。引き続き久邇侂子^{御母}の墓所も御拝礼になる。侂子及

び朝融^{御兄}の墓所にそれぞれ果物のお供えがある。三時二十三分還啓される。なお、女官今城誼子に邦

彦王の霊舎への御拝礼を仰せ付けられ、果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十八日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度離任帰国のノルウェー国駐節特命全權大使須山達夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁序報

午後、天皇と共に吹上御所において、山梨県より昨二十七日還啓の皇太子

第二十四回国民体育大会冬季大会スケート競技会開会式臨席等のため同県に行啓

昭和四十四年二月

と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午前、拝謁の間において、この度赴任のチュニジア国駐箚特命全権大使藤建一、

ノルウェー国駐箚特命全権大使島内敏郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月に

一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

聖路加国際病院に入院中の東久邇盛厚の容体悪化につき、二月四日よりの葉山御用邸行幸啓はお取り

やめになる。なお、昨日お見舞いとして天皇・皇后より切り花及びスープを賜う。○女官長日記、幸啓録、

葉山行幸啓録、贈賜録

二月

一日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、大村文子東久邇成子の息女、御孫と御昼餐を御会食になる。以後、こ

の年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌

二日 日曜日 昨一日東久邇盛厚死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従田中直を、賜物使・

枢前使として侍従松平潔を宮内庁分室^{遺体を安置}に差し遣わされる。さらに、この日御舟入につき、天皇・皇后より切り花をお供えになる。同人死去に際しては、天皇・皇后より祭資を賜い、霊前に榊・菓子、また別に盛花をお供えになる。

東久邇盛厚は大正五年、稔彦王第一王子として東京に生まれる。母は明治天皇第九皇女聡子内親王。昭和十八年十月、天皇・皇后の第一皇女成子内親王と結婚し、三男二女を儲けた。昭和二十二年に皇族の身分を離れ、東久邇姓を名乗り、その後帝都高速度交通営団監事等を務めた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、上奏モノ控簿、東久邇盛厚殿葬儀録、重要雑録

三日 月曜日 午前、謁見の間において、新任のベルギー国特命全権大使フレデガン・コーゲルス及び同夫人、ブラジル国特命全権大使ジェラルド・デ・カルヴァーリョ・シーロス、カンボジア国特命全権大使ボック・チューン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

東久邇盛厚去る一日死去につき、午後三時五十八分御出門、千代田区三番町の宮内庁分室に行啓される。御到着後、葬儀委員長代理山内公猷^{帝都高速度交通営団副総裁}の先導により祭壇の間に進まれ御拝礼になり、玉串をお供えになる。終わって、御休所において東久邇稔彦・同夫人聡子、佳子^{盛厚の後妻}及び子女の信彦・秀彦・真彦・優子、大村和敏・同夫人文子^{盛厚の息女}の拝謁をお受けになり、弔辞を述べられる。四時十七分還啓される。なお、行啓に際し、霊前に果物をお供えになる。また、この日移霊祭の儀につき、天皇・皇后より野菜をお供えになる。さらに六日の葬儀には、天皇・皇后より霊前に榊をお供えになり、葬

昭和四十四年二月

場使として侍従徳川義寛を青山葬儀所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、上奏モノ控簿、東久邇盛厚殿葬儀録、重要雜録、宮内庁庁報

十四日 金曜日 故東久邇成子の遺品を御覧になるため、午前十時御出門、光輪閣に行啓される。故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、東久邇聡子、大村文子その他のお出迎えを受けられ、それより二階に進まれ、宣仁親王妃の説明により漆器・陶器・屏風・衣服等を御覧になる。十一時四十分還啓される。午後、吹上御所に参殿の宣仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼言上を受けられる。

○女官長日記、女官日誌、幸啓録

十五日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、元侍従諏訪部信^{昨年十二月一日付で異動}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任の中華民国特命全權大使陳之邁及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮内庁行事録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 正午前、吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。天皇は、昨二十二日からの御不例のため御対面をお取りやめになる。なお、天皇は三月三日まで御仮床に就かれ、この月二十七日より三月四日まで予定されていた葉山御用邸行幸啓はお取りやめとなる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団演奏会中部日本放送・日本文化財団共催に御臨席のため、午後六時五十分御出門、東京文化会館に行啓される。徳仁親王、崇仁親王・同妃百合子その他のお出迎えをお受けになり、中部日本放送代表取締役社長小島源作の先導により二階のお席にお着きになる。それより、シューベルト作曲交響曲「未完成」、R・シュトラウス作曲交響詩「ティル・オイレンシュピゲルの愉快ないたずら」をお聴きになる。一旦御休憩となり、一階の御休所において小島社長の拝謁をお受けになり、続いてオーストリア国特命全権大使オットー・アイゼルスベルグを御引見になる。その後再びお席にお戻りになり、ベートーヴェン作曲交響曲第七番、さらにアンコール曲をお聴きになる。終わって、九時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 金曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三月

二日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、島津久永及びこの日誕生日を迎えた同夫人貴子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

四日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、東久邇盛厚死去後の忌明けの挨拶のため参殿の東久邇稔彦・同夫人聡子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 木曜日 満六十六歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥一の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。つ

いで西の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、奥一の間において石坂泰三、続いて元皇太后宮女官等、元側近奉仕者の祝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び奥一の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、常侍官候所脇階段下において元女孀等の祝賀を、奥一の間において元御用掛服部豊子ヴァイオ、リニスト、

続いて元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において皇太子妃と御対面になり、着帯の儀終了につきお礼言上を受けられる。この日着帯の儀に当たり、天皇・皇后より皇太子・同妃にそれぞれ鮮鯛代料を賜う。また皇太子・同妃からは、天皇・皇后に鮮鯛代料及び小戴清酒一蓋の献上がある。なお、御帯進献者の宣仁親王に対し、天皇・皇后より白縮緬及び肴料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、儀式録、皇親録、清子内親王御誕生録、紀宮殿下御誕生録、宮内庁庁報

天皇と共に新宮殿にお出ましになり、雪景色を御覧になる。また、御一緒に各部屋を巡られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 木曜日 午前、吹上御所において、イレエヌ・ストライカーより英語の進講をお聴きになる。

この年は同人による進講を、六月四日まで主に水曜日に計九回お受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十七日 月曜日 病氣入院中の松平信子に対し、お尋ねとしてスープを賜う。○女官長日記、贈賜録

十九日 水曜日 午前、天皇と共に新宮殿にお出ましになり、正殿から連翠、豊明殿、長和殿を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日本赤十字社の招待により来日中の赤十字国際委員会事務総長ロジェ・エドゥアルド・ギャロパン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 故東久邇盛厚五十日祭昨日終了につき、午後、天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦・大村文子よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、東久邇盛厚殿葬儀録

二十六日 水曜日 午後、吹上御所において、山岡俊三第七代道明新
兵衛の女婿より組紐の指導をお受けになる。八

月三日にも、組紐の指導を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

二十七日 木曜日 午後、吹上御所において、宣仁親王の代理として参殿の同妃喜久子と御対面になり、親王の快気につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十八日 金曜日 これより先、日本赤十字社の事業発展に資するため御絵を画集として出版することをお許しになる旨の御内意が、侍従次長より三月一日付にて同社社長東竜太郎に通知される。これ

昭和四十四年四月

を受けて東社長から寄せられた御絵お貸し下げの願い出^{昨二十七日付}に対し、本日付をもってお許しになる。

○賜与録、重要雑録、錦芳集、日本赤十字社社史稿

三十日 日曜日 午前、天皇と共に新宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部長高尾亮一の先導により各部屋を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四月

一日 火曜日 この日より新宮殿を正式に御使用になる。午前、天皇と共に新宮殿にお出ましになり、御車寄において写真撮影をお受けになる。続いて鳳凰の間において、宮内庁長官宇佐美毅より祝詞の言上を受けられる。その後お一方にて花の間において、前管理部長西原英次ほか新旧部課長の拝謁をお受けになる。

新宮殿御使用初めにつき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、その他の皇族・御親族等の各家にそれぞれ三種交魚代料を賜う。また三日には、天皇・皇后より、宮殿用各種花瓶の制作に尽力した陶芸家宮之原謙始め関係者にそれぞれ御紋付木盃を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、例規録

これより先、新宮殿御使用に当たり諸儀式の次第が定められ、この日より実施される。正殿松の間は新年祝賀の儀・講書始の儀・歌会始の儀等に、正殿竹の間は外国賓客との御会見・御引見等に、正殿梅の間は皇后誕生日祝賀・皇后の御引見等に、長和殿春秋の間は褒章受章者の賜謁等に、北溜は大臣表彰者等の賜謁に、連翠は各種の御陪食・午餐等に、豊明殿は天皇誕生日宴会の儀・宮中晚餐等に使

用されることとなる。また、これまで外国人の謁見は、公式・非公式の区別がなされていたが、新宮殿の御使用に伴い全て公式となり、謁見の種類は「天皇陛下謁見」・「天皇后両陛下謁見」・「皇陛下謁見」の三種とされる。その際、天皇・皇后の謁見の場へのお出ましは謁見者より先になされることとなり、また、御退出は謁見者の後になされることとなる。○外事取決め・内規、例規録、官報

この日より十月三十一日まで第十四回ユニセフ協力募金を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、事業御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 水曜日 この日、光照院第七世尊清宮後陽成天皇女三百年御忌法要執行につき、京都市の光照院に菓

子及び香華料を賜う。○女官長日記、贈賜録

三日 木曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

四日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のウルグアイ国駐筭特命全権大使林馨及び同夫人、コスタリカ国駐筭特命全権大使貝原庄一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、島津貴子及びこの日誕生日を迎えた同子息禎久と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

新宮殿御使用に当たり、天皇と共に菊栄親睦会会員をお招きになり、豊明殿において御晩餐の御陪食を賜う。これに先立ち、春秋の間において参集の会員と御一緒に中庭における式部職楽部の舞楽賀殿・延喜楽

を御覧になる。御食後は、連翠においてお茶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、アフガニスタン国駐劔特命全権大使松井佐七郎より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録午後、この年三月の音楽大学卒業生による演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。御着後、御休所において先着の正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。それよりお席に着かれ、第一部として、東京芸術大学卒業生による箏曲、国立音楽大学卒業生によるフルート独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、東京芸術大学卒業生によるバリトン独唱、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、桐朋学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏をお聴きになる。御休憩を挟み、第二部として、桐朋学園大学卒業生によるハープ独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるバリトン独唱、上野学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏、国立音楽大学卒業生によるソプラノ独唱、東京芸術大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。演奏終了後、廊下において各音楽大学代表者・出演者等に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女

官日誌、音楽大学卒業生演奏会関係書類、音楽大学演奏会、賜与録

九日 水曜日 午後一時五十七分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓され、国賓として来日されたアフガニスタン国王モハメッド・ザヒール・シャー及び同王妃ホマイラを飛行機タラップ下においてお迎えになる。栄誉礼終了後、王妃と御同車になり、三時十五分皇居に到着される。引き続き天皇と共に正殿竹の間において、国王・王妃と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后に

は太陽最高勲章が贈られる。なお国王・王妃の御入京の際には、皇后より王妃に活花の御贈進がある。夜、国王・王妃のため、天皇と共に宮中晚餐及び宮中夜会を催される。これに先立ち、松風の間に於いて国王・王妃への御贈進品が披露される。天皇・皇后より国王に七宝花瓶青磁地 桜模様及び図録『正倉院宝物』北倉・中倉・南倉三冊を、王妃に銀製宝石箱牡丹模様を、皇后より王妃に『桃苑画集』を御贈進になる。午後七時三十分より宮中晚餐を催され、豊明殿において御会食の後、九時二十分より春秋の間における宮中夜会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、国賓訪日関係、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十日 木曜日 午後、吹上御所において参殿の大谷智子御妹と御対面になり、その後新宮殿の各部屋を

御案内になる。以後この年、皇族・御親族に新宮殿を御案内になる。○女官長日記、女官日誌

十一日 金曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌

十四日 月曜日 午後六時五十七分御出門、天皇と共にホテルニューオータニに行啓され、アフガニスタン国王モハメッド・ザヒール・シャー及び同王妃ホマイラ御主催の晩餐会に御臨席になる。終わつて九時七分還啓される。なお晩餐会前には、国王・王妃より天皇・皇后への御贈進の品が披露され、皇后への御贈進品としてアストラカン毛皮地外套一着分が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

十五日 火曜日 午前九時十三分天皇と共に御出門、アフガニスタン国王モハメッド・ザヒール・シャー及び同王妃ホマイラをお見送りのため、東京国際空港に行啓される。十時四十五分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

十七日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国会の賓客として来日中のソビエト連邦最高会議民族会議議長ユスタス・イグノヴィッチ・パレツキス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午後八時三十六分皇太子妃が内親王を出産し、直ちに宮内庁長官宇佐美毅より天皇・皇后に伝えられる。九時過ぎ、天皇と共に吹上御所において、皇太子と御対面になる。なお、この度の皇孫誕生につき、天皇・皇后より皇太子に五種交魚代料を、皇太子妃に五種交魚代料をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇孫殿下御誕生関係綴、清子内親王御誕生録、紀宮殿下御誕生録、宮内庁庁報、官報

翌十九日千鳥ヶ淵戦没者墓苑において納骨並びに拝礼式を行う厚生省に、天皇・皇后より生花を賜う。

○賜与録、宮内庁庁報

十九日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、南紀青少年スポーツセンター竣工開所式への臨席並びに県内事情視察のため和歌山県への旅行この日より二日までのに出発する正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

皇孫内親王昨十八日誕生につき、天皇と共に芳菊の間において、皇太子と御対面になる。ついで、天皇及び皇太子と共に鳳凰の間において、宮内庁長官以下総代の祝賀を、続いて皇族・元皇族・御縁故者、石坂泰三、内閣総理大臣・衆議院議長代理衆議院副議長・参議院議長・最高裁判所長官の祝賀を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、官報

午後、花の間において、新宮殿拝観のため参内した御学友・御同級生二十九名の拝謁をお受けになる。
ついで一同の拝観に豊明殿まで同行される。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

二十一日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、新任のマダガスカル国代理公使アンドリアンピー・ラマウリミハソを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後一時三十八分御出門、光輪閣に行啓され、小菊会のお花の会にお出ましになる。故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、梨本伊都子の拝謁を受けられる。その後、円照寺門跡の山本静山の拝謁を受けられる。終わって四時十四分還啓される。その後、吹上御所において宣仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 午前、南極点往復調査旅行の成功により内閣総理大臣表彰を受けた第九次南極地域観測越冬隊内陸調査旅行隊員の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。また午後には、天皇と共に正殿竹の間において、同隊長村山雅美及び隊員藤原健蔵より調査旅行の実施状況についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、進講録、宣召録、賜与録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、この度財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者五十一名の賜謁があり、宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長山口正義の挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、皇太子と御対面になる。ついで分俣介助に当たった宮内庁御用掛小林隆ほかから経過説明をお聞きになる。それより皇孫内親王と御対面になり、ついで皇太子妃をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 水曜日 恒久王五十年式年祭につき、午前より午後にかけてお出ましを控えられる。○女官

長日記、女官日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に芳菊の間において、李方子の拝謁をお受けになる。その後お一方にて同人を伴われ、新宮殿を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 木曜日 皇孫誕生七日目に当たり、午前九時、宮内庁病院において浴湯の儀が行われ、十一時、命名の儀が行われる。皇孫の内親王は、清子と命名され、さやこ紀宮と称する。命名の儀と同時刻、賢所皇霊殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われる。また、この日、天皇・皇后より皇太子・同妃それぞれに鮮鯛代料を、清子内親王に鮮鯛代料及び御初召^{御紋付}一重を賜う。

清子内親王命名の儀に当たり、午後二時三十分、天皇及び皇太子と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。三時、天皇と共に正殿竹の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他の祝賀をお受けになる。終わって天皇と共に同所において、皇族、元皇族、御縁故者等の祝賀をお受けになる。引き続き天皇と共に連翠において、菊栄親睦会会員等をお招きの内宴を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、儀式録、

皇親録、祭典録、東宮録、清子内親王御誕生録、紀宮殿下御誕生録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

午後、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の第一回愛育班員全国大会に際し総裁又は会長から表彰

された愛育班員及び愛育班育成功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長新居善太郎の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報、母子愛育会五十年史

二十五日 金曜日 午前、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生大臣斎藤昇の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

アフガニスタン国王妃ホマイラこの度負傷につき、お見舞電報を寄せられる。後日答電が寄せられる。○外交慶弔録

二十六日 土曜日 午前、正殿梅の間において、新任のインドネシア国特命全権大使アスハリ・ダヌディルジョ及び同夫人、ニュージーランド国特命全権大使ロバート・ハンター・ウェイド及び同夫人、中華民国特命全権大使彭孟緝及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代・女官・御用掛の祝賀を、正殿梅の間において皇太子始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の祝賀を、再び花の間において元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等が出席する。宴会の儀には、この年より御臨

昭和四十四年五月

席になる。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国特命全権大使等が出席する。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。なお、天皇誕生日一般参賀のお出ましは、新宮殿造営工事のため、新年一般参賀と同様去る昭和三十九年から中止されていたが、この年より再開される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、天皇誕生日一般参賀綴、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三十日 水曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のビルマ国駐箚特命全権大使都村新次郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五月

一日 木曜日 これまで定期的にニュース映画を御覧になっていたが、この日よりお取りやめになる。○女官日誌、侍従日誌

八日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日宮内庁病院を退院の皇太子妃に、洋菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌

九日 金曜日 元東宮参与松平信子昨日死去につき、天皇・皇后より御使として侍従山本岩雄を松平邸へ差し遣わされ、祭糒料及び櫛を賜う。これとは別に、天皇・皇后より靈前に菓子・切り花を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、皇親録、恩賜録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報

十一日 日曜日 故東久邇盛厚百日祭につき、午後、天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東久邇盛厚殿葬儀録

十三日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、清子内親王出産後初参殿の皇太子妃去る八日宮内庁病院を退院と御対面になり、

天皇・皇后より万那料を賜う。また小忌明につき、三種交魚代料及び菓子^{八日}を賜う。なお、皇太子妃より天皇・皇后へ三種交魚代料等の、また小忌明につき、三種交魚代料及び菓子の献上がある。小忌明は、慣例では出産後満三十日の翌日五月十日であるが、皇太子・同妃の都合によりこの日に繰り上げられた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

十四日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、ドイツ連邦共和国駐劄特命全權大使内田藤雄より同国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十五日 木曜日 常磐会総会に御出席のため、午後一時二十二分御出門、椿山荘に行啓される。御到着後、御休所において正仁親王妃華子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・池田厚子と対面される。それより総会場にお出ましになり、会員一同による「金剛石」歌の合唱をお聴きになる。引き続き余興として、国立音楽大学教授児玉邦夫・同講師児玉幸子児玉邦夫夫人による「アンダンテと変奏曲」な

ど、モーツァルト作品のピアノ連弾をお聴きになる。終わって児玉夫妻に御会釈を賜う。ついで懇親会場に移られ、茶菓をお召し上がりになり、会員と懇談される。四時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

十七日 土曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のドイツ連邦共和国首相クルト・ゲオルク・キージンガー及び同夫人を御引見になる。その際、同夫妻より天皇・皇后への献上品の披露があり、皇后への献上品として十二箇月を象徴する陶製人形^{ケース入、十二体}が披露される。その後、

連翠において首相夫妻のため、天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また夫妻の帰国後、皇后よりキージンガー夫人に『桃苑画集』をお贈りになり、後日首相の書簡^{八月五日付}をもって謝意が表明される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、賜与録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 財団法人結核予防会創立三十周年記念行事として開催の日本のこころ茶の湯展^{財団法人結核}

予防会・主婦の女社主催、三千家協賛、文化庁後援 を御覧になるため、午前九時二十六分御出門、日本橋高島屋に行啓される。高島屋

社長飯田新一の先導により八階会場に進まれ、正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子<sup>展覧会
総裁</sup>・崇仁親王

妃百合子、結核予防会会長島津忠承・表千家家元千宗左^{十三代}・裏千家家元千宗室^{十五代}・武者小路千家家

元千宗守^{十代}・佐藤寛子<sup>内閣総理大臣
佐藤栄作夫人</sup>その他のお出迎えを受けられる。それより主婦の友社社長石川数雄の

先導にて、三千家歴代家元の名品資料、利休までの茶の湯の歴史と資料、利休及び利休同時代の茶人と名品資料、宮家特別出品、著名人の愛蔵品等の各展示及び三千家担当の茶席を、各家元その他の説明を受けられつつ御巡覧になる。終わって、十時四十五分還啓される。なお本展覧会は、主催者より収益の一部を結核予防事業推進の基金に献金することから、その一助として財団法人結核予防会・主婦の友社に金員を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

正午過ぎ、花の間において、この日女官長に就任した北白川祥子<sup>故永久
王妃</sup>の拝謁をお受けになる。去る昭

和四十二年三月、前女官長保科武子が病気で辞職して以来、女官小川梅子が女官長事務代理を務めていた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に生物学御研究所に隣接する水田にお出ましになる。それより天皇が田植えをされる模様を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 水曜日 午前十時三分御出門、天皇と共に多摩<sup>大正天
皇陵</sup>・多摩東陵<sup>貞明皇
后陵</sup>に行啓される。天皇

に続き、両陵を御拝礼になる。午後二時九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、行幸啓録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 財団法人結核予防会創立三十周年記念結核予防全国大会に御臨席のため、午前九

昭和四十四年五月

時四十三分御出門、東京プリンスホテルに行啓される。十一階の御休所にて総裁故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、ついで厚生大臣斎藤昇・結核予防会会長島津忠承・同副会長石坂泰三の拝謁を受けられる。それより二階の会場に進まれ、会長挨拶、結核予防功労者の表彰、各功労者への感謝状贈呈、来賓祝辞等に続き、次のお言葉を賜う。

結核予防全国大会に臨み、日ごろ結核予防に尽力している皆さんに親しく接することができましたことを嬉しく思います。

結核予防会の人々の永年の活動と関係者のたゆまぬ努力により、近年、わが国の結核事情は、著しく好転していますが、なお残された問題が少なくありません。

今後も、さらに皆さんが協力して、結核予防事業を推進し、国民の健康と福祉の増進に寄与するよう、心から希望します。

島津会長の奉答を受けられた後、式場をお発ちになり、十時四十四分還啓される。なおこの日、同会創立功労者として総裁表彰を受けた顧問の広瀬久忠・徳川圀順、石坂副会長、理事岡田文秀に対し、御紋付木盃を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報

二十四日 土曜日 富山県において開催される昭和四十四年度植樹行事に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前八時四十八分御出門、原宿駅より泊駅を経て、午後四時四十二分御泊所延対寺荘に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、ようこそ両陛下

二十五日 日曜日 午前十時七分天皇と共に御泊所延対寺荘を御出発、魚津埋没林博物館、細川機業

株式会社音杉工場、富山県立流杉老人ホーム、株式会社広貴堂を視察され、午後三時三十三分御泊所名鉄トヤマホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

ようこそ両陛下

二十六日 月曜日 午前十時五分天皇と共に御泊所名鉄トヤマホテルを御出発、砺波市の頼成植栽地における植樹行事及び国土緑化大会に臨まれる。天皇に続き、富山県知事吉田実の介添えにてタテヤマスギを、社団法人国土緑化推進委員会会長石井光次郎の介添えにてボカスギを、同理事長徳川宗敬の介添えにてマスマスギを御植栽になる。終わって芹谷山千光寺において御少憩になり、続いて井波町総合社会福祉センターを訪問され、井波彫刻の作品等を御覧になる。同所にて御昼食後、酒池観光ホテルに到着される。これより非公式の御日程として、縄ヶ池みずばしろう群生地を天皇と共に御散策になる。酒池観光ホテルにお戻りの後、城端駅より高岡駅を経て、五時四十八分御泊所高岡ホテル別館ホテル雨晴に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

ようこそ両陛下

二十七日 火曜日 午前十時八分天皇と共に御泊所ホテル雨晴を御出発、富山新港及び臨海工業地帯、次に三協アルミニウム工業株式会社第二工場を御視察になる。続いて小矢部市立石動小学校にて言語障害児教育及び視聴覚教育の状況等を御覧になる。その後、石動駅を御発車、富山駅を経て富山県民会館を訪問され、「富山県の産業と文化展」を御覧になる。午後三時三十六分御泊所名鉄トヤマホテルに到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、ようこそ両陛下

この日より六月一日まで銀座三越において「春の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、この日、吹上

昭和四十四年五月

御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十九日、三十一日にも御出品になる。○贈賜録

二十八日 水曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所名鉄トヤマホテルを御出発、富山県林業試験場におけるお手播き行事に臨まれる。時折激しい雨が降る中、富山県森林組合連合会長平井光太郎^{上市町長}

の介添えによりタテヤマスギの種子をお手播きになる。なお天皇も同種子をお手播きになる。ついで林業資料展示室の各種展示を御覧になり、十一時過ぎ同所を御出発、これより御泊所御到着まで非公式の御日程とされる。富山地方鉄道岩峯寺駅から千寿ヶ原駅に向かわれ、同駅にてケーブルカーに乗り換えられ、美女平駅にて御降車、美女平ホテルに御到着になる。午後は、大観台にて眼下に称名滝を遠望され、付近を御散策になる。続いて美女平カモシカ・ライチョウ保護増殖場を御訪問になる。

終わって美女平ホテルにて御少憩後、四時二十八分御泊所名鉄トヤマホテルにお戻りになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、ようこそ両陛下

二十九日 木曜日 早朝、立山連峰を写生される。午前十時三分天皇と共に御泊所名鉄トヤマホテルを御出発、富山県立中央農業高等学校を御視察になる。ついで社会福祉法人富山県精神薄弱者育成会セーナー苑を御訪問になる。終わって笹津駅を御発車、名古屋駅に御着車になり、午後五時二十九分御泊所名古屋観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、ようこそ両陛下

この日、日生劇場において大谷楽苑演奏会開催につき、大谷智子に金一封及び花束を賜う。翌三十日、吹上御所において大谷光暢及び同夫人智子と御対面になり、お礼言上を受けられる。○女官長日記、女官

日誌、贈賜録

三十日 金曜日 午前九時三十二分天皇と共に御泊所名古屋観光ホテルを御出発、名古屋駅より東京駅を経て、午後零時二分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

六月

二日 月曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

五日 木曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄内において、管理部長高尾亮一の説明により下田の御用邸の地形模型等を御覧になる。なお、この御用邸は昭和四十六年十月に須崎御用邸として落成する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部による洋楽演奏をお聴きになる。崇仁親王妃百合子、鷹司和子が陪聴する。終わって、御休所において楽長安倍季巖以下三名の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子妃に伴われ初参内の清子内親王と御対面になる。これに先立ち、清子内親王は賢所皇靈殿神殿に謁するの儀を行う。同儀に際し、賜物使として侍従田中直を東宮御所に差し遣わされ、天皇・皇后より清子内親王に童形服を贈られる。また別に天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、清子内親王に御台人形代料及び鮮鯛を贈られる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、清子内親王御誕生録、宮内庁序報

昭和四十四年六月

午後一時十八分御出門、光輪閣に行啓され、なでしこ会主催の陶器並びに漆器展示即売会に臨まれる。同会会長の宣仁親王妃喜久子の案内により場内を御覧になり、終わって四時三十分還啓される。その後吹上御所において、行啓のお礼言上のため参殿の宣仁親王妃と御対面になる。なお、展示会の純益は高松宮妃癌研究基金に加えられる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

七日 土曜日 午後、吹上御所において、松平信子死去に伴う忌明けのお礼言上のため参殿の故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。翌十日もお出ましになり、繭掻きをされる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度中華民国に赴任の特命全権大使板垣修及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報
天皇と共に宮殿御車寄において、那須御用邸御滞在中に御使用予定のジープを御覧になり、御一緒に吹上御所まで試乗される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十一日 水曜日 天皇と共に連翠北において、アラブ連合共和国特命全権大使マ・ハムード・ハサン・エル・アルーシー、ベルギー国特命全権大使フレデガン・コーゲルス及び同夫人、ブラジル国特命全権大使ジェラルド・デ・カルヴァーリョ・シーロスのため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、第四回アジア・太平洋協議会閣僚会議に出席の各国首席代表及び同夫人等を御引見になる。なお十六日、同会議に出席の大韓民国外務部長官崔

圭夏及び同夫人から天皇・皇后に献上があり、皇后に洋服生地^麻が献上される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明にて、植込みの縄張を菊の間、泉の間前、連翠、北廊下、西車寄外の御順路にて御覧になる。また二十日には、天皇と共に西車寄前における植込みの縄張を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

午後、吹上御所に前田青邨をお召しになり、那須を描いた絵巻を披露される。○女官長日記、女官日誌、贈
賜録

十三日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、午後一時二分同邸に御到着になる。夕刻、天皇と御一緒に御用邸お庭から附属邸内、附属邸東林道などを散策される。以後御滞在中、天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、天皇と共に植物御調査にお出ましの際、御用邸御車寄前において、那須町長笹沼賢弥及び同議会議長平山力男に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十五日 日曜日 午後、御用邸お庭及び附属邸東林道にお出ましになり、国立科学博物館植物研究部植物第二研究室長黒川道・同室員井上浩ほかの奉仕により、天皇と共に蘚苔類を調査される。御夕食後、天皇と共に映写御遊戯室において、黒川よりスライドを用いた蘚苔類の説明をお聞きになる。ついで黒川・井上と茶を共にされ、御懇談になる。翌日は井上よりスライドを用いての説明をお聞きに

昭和四十四年六月

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、贈賜録、那須御用邸管理事務所日誌

十九日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前九時二十六分御出門、午後零時二十一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のカナダ国駐筭特命全権大使近藤晋一及び同夫人、シリア国駐筭特命全権大使二階重人及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のデンマーク国外務大臣ポール・ハートリング及び同夫人を御引見になる。その際、同夫妻より天皇・皇后に陶製皿付蓋物スミレ模様、ロイヤル・コペンハーゲン製の献上がある。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、インド国駐筭特命全権大使宇山厚の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る六日清子内親王の賢所初参拝・初参内終了につき、この日皇太子・同妃主催の御晩餐に御出席のため、午後六時二十九分御出門、天皇と共に東宮御所に行啓される。御晩餐には正仁親王・同妃華子、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子も出席する。終わって八時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 第二十二回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時二十四分御出門、東京プリンスホテルに行啓される。御到着後、御休所において名誉

副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、衆議院議長石井光次郎・最高裁判所長官石田和外・厚生大臣齋藤昇・日本赤十字社社長東竜太郎・同副社長石坂泰三・同田辺繁雄の拝謁を受けられる。それより式場に臨まれ、御歌「四方の国」の合唱、社長挨拶の後、日本赤十字社静岡県支部看護婦長小山シヅ、和歌山赤十字病院看護部長戸沢せい、元国立八事療養所総看護婦長高橋里の三名にナイチンゲール章記及び記章を授与される。ついで、左のお言葉を賜う。

このたび小山シヅ(ママ)、戸沢せい、高橋里の三人の方々が、赤十字国際委員会から看護婦として最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長い間の献身的な奉仕のたまものであり、本人の榮譽はもとより、わが国にとつても、まことに喜ばしいことでもあります。

受章の方々は、今後とも健康に注意して一層この道に尽くすとともに、後進の指導に当たり、また、他の看護婦の皆さんも、これを模範としてその職に励み、教養を高め、広く内外の人々から信頼と感謝を受けるよう希望してやみません。

続いて来賓祝辞、受章者代表の答辞があり、閉式となる。それより式場を後にされ、十一時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

午後、藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。受章者齊藤久吉学校法人尚綱
女学院理事長の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

糸竹会例会の演奏会に御臨席のため、楽部にお出ましになり、太食調音取、催馬楽伊勢海、傾盃楽急、合歡塩残楽三返、長慶子、輪鼓禪脱、御歌の演奏をお聴きになる。終わって、会員代表甘露寺受長、

楽部代表安倍季巖^{楽長}ほか一名の拝謁を順次受けられる。○女官長日記、女官日誌、糸竹会

二十四日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、国賓として来日中のインド国首相インディラ・ガンジーを御引見になる。同首相から天皇・皇后に献上があり、皇后にはブロード布地及び銀製化粧箱が献上され、御引見の際に披露される。その後同首相のため、天皇と共に連翠において宮中午餐を催される。終わって正殿梅の間において御歓談になる。なおこの度の来訪につき、同首相に対して天皇・皇后より御紋付銀製花瓶等を、皇后より『桃苑画集』を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、天蚕及び柞蚕の繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌

二十六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のイラク国特命全権大使フアイサル・ハビーブ・アル・ハイザラン、ネパール国特命全権大使バット・ラージ・バンダリイ及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答

録、宮殿行事録、宮内庁庁報

翌二十七日東京都小笠原村硫黄島の摺鉢山において、硫黄島顕彰碑建立期成会主催の硫黄島戦没者顕彰碑除幕式が行われるにつき、この日、天皇・皇后より同会に花環を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部長高尾亮一の案内にて、階下の表御服所・御納戸等の各室、及び大膳事務室・調理室を御巡覧になる。大膳の調理室では主厨

長秋山徳蔵の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

七月

一日 火曜日 この日英国皇太子チャールズの立太子式挙行につき、天皇・皇后より同国女王エリザベス二世に祝電を発せられる。これに対し、四日答電が寄せられる。なおこれより先、同国駐箚特命全権大使を通じて同皇太子に天皇・皇后の祝意が伝達され、また綴錦壁掛正倉院宝物
花樹孔雀文が贈られる。後日、

同皇太子より謝意が表明される。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

二日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌

午後五時十九分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、第五十二回ライオンズ世界大会開会式に御臨席になる。同四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

三日 木曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のスイス国駐箚特命全権大使西山昭及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この度の梅雨前線による豪雨のため甚大な被害を受けた鹿児島県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。

○賜与録

四日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度帰国の中華民国駐箚特命全権大使島津久大及び同

昭和四十四年七月

夫人経子島津忠重の息女、御従妹の拝謁をお受けになる。ついで花の間において島津夫人と御談話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、新任のガボン国特命全権大使リュバン・マルシャル・トゥトウメ・オバメ及び同夫人、米国特命全権大使アーミン・ヘンリー・マイヤー及び同夫人・息女、サウジアラビア国特命全権大使アウニー・ワファー・デジャーニー及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のアルゼンチン国特命全権大使ファン・B・マルティン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

宮殿の設備施設等を御視察のため、天皇と共に設備管制所及び地下駐車場などを御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 日曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎及び助手四名の謁見があり、天皇と共に吹上正門前にお出ましになる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

七日 月曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

九日 水曜日 午後、天皇と共に南ヶ丘牧場にお出ましになる。以後、那須御用邸御滞在中、天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌

十二日 土曜日 午後、謁見所において、この度赴任のアルゼンチン国駐箚特命全権大使青木盛夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、拝謁録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、那須行幸啓録

二十九日 火曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午前九時二十六分御出門、午後零時二十一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に連翠南において、第七回日米貿易経済合同委員会に出席の米国务務長官ウィリアム・P・ロジャース及び同夫人始め米国代表の夫妻を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 木曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のニュージーランド国駐箚特命全権大使吉田健一郎及び同夫人、イラン国駐箚特命全権大使前田憲作及び同夫人、キューバ国駐箚特命全権大使近藤四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十四年八月

花の間において、去る十七日に宮内庁御用掛の委嘱を解かれた大川美雄在フィリピン国大使館参事官兼在マニラ総領事の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、賜与録、宮内庁庁報

第四十回都市対抗野球大会を御覧になるため、午後三時二十二分御出門、天皇と共に後樂園球場に啓される。準々決勝第一試合を二回終了まで御観戦になり、四時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

八月

一日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、天皇と共に、内閣総理大臣佐藤栄作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、佐藤栄作日記

十三日 水曜日 午前、御用邸御車寄において、天皇と共に青木和子故元貴族院議員青木農場主青木重夫人に御会釈を賜う。

○女官長日記、侍従日誌、那須行幸啓録

十四日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午前九時二十六分御出門になり、午後零時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、来る二十八日よりスイス国を訪問する宣仁親王・同妃喜久子の

挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

十五日 金曜日 午前十一時四十九分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席になる。終わって午後零時二十四分還啓される。なお天皇・皇后より、追悼式を行う厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のチェコスロバキア国特命全権大使ズデネク・フルドリチカ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、宣仁親王・同妃スイス国訪問の首席随員久保田貫一郎元特命全権大使の拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、那須行幸啓録、重要雑録

十六日 土曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時八分天皇と共に御出門、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十八日 月曜日 博恭王妃経子三十年式年祭に当たるため、終日お出ましを控えられ、組紐等にてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、贈賜録

二十日 水曜日 午後、謁見所において、この度赴任のブルガリア国駐劄特命全権大使山下重明及び同夫人、ドミニカ共和国駐劄特命全権大使滝川正久及び同夫人、タンザニア国駐劄特命全権大使須磨未千秋及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須

昭和四十四年八月

御用邸管理事務所日誌、拝謁録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 秋田県の地方事情御視察のため、那須御用邸を午前九時十二分御出門、天皇と共に同県に行啓される。黒磯駅より秋田駅を経て、午後四時五十分御泊所アキタニューグランドホテルに御到着になる。同県へは昨年五月に植樹行事御臨席などのため行幸啓が予定されていたが、「一九六八年十勝沖地震」による被害などを考慮してお取りやめとなっていた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、秋田県下行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報、秋田県警察史、天皇・皇后両陛下をお迎えして

二十六日 火曜日 午前十時二十分天皇と共に御泊所アキタニューグランドホテルを御出発、秋田市臨海工業用地で開催中の秋田農業大博覧会主会場を御訪問、同博覧会を御巡覧になる。次に秋田県護国神社にお立ち寄りになり、拝殿石階下手前において御拝礼になる。続いて学校法人聖霊学園聖霊女子短期大学を御訪問になり、屋上より市内を御展望になる。その後、土崎駅より男鹿駅を経て男鹿市の八望台展望台に御到着、一ノ目潟・戸賀湾等を御展望になる。続いて秋田県立男鹿水族館を御視察になり、午後四時三十五分御泊所ホテル帝水に御到着になる。後刻、男鹿半島の海の景色、戸賀湾の夕日の光景を写生される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、秋田県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇・皇后両陛下をお迎えして

二十七日 水曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所ホテル帝水を御出発、寒風山回轉展望台において、大潟村や秋田市の遠景を御展望になる。続いて八郎潟中央干拓南部排水機場、秋田農業大博覧会八郎潟会場大潟村公民館を御視察、八郎潟入植指導訓練所において入植訓練生及び入植者に御会釈を賜う。つ

いで八郎潟駅より秋田駅に戻られ、秋田県立美術館を御訪問、藤田嗣治の作品等を鑑賞される。午後三時十三分御泊所アキタニューグランドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、秋田県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓警衛記録、天皇・皇后両陛下をお迎えして

二十八日 木曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所アキタニューグランドホテルを御出発、仁別国民の森にある仁別森林博物館において館内の展示を御覧の後、旭川を隔てた対岸の自然研究路を御散策になる。続いて秋田市立藤倉小学校・中学校を訪問され、校庭にて生徒及び市民の奉迎を受けられる。ついで秋田駅より田沢湖駅を経て大森山植栽地^{昨年五月の植樹行事並びに国土緑化大会会場}に到着され、昨年の行幸啓お取り

やめに伴い、皇居内において鉢にお手植えの後、当地に移植されたアキタスギの生育状況などを御覧になる。午後三時五十分御泊所駒草荘に御到着になる。その後、田沢湖の遠景を写生される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、秋田県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓警衛記録、天皇・皇后両陛下をお迎えして

二十九日 金曜日 午前十時十三分天皇と共に御泊所駒草荘を御出発、田沢湖駅より黒磯駅を経て、午後五時四十九分那須御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、秋田県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

九月

一日 月曜日 関東大震災の日に当たるため、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

二日 火曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになる。栃木県知事横川信夫の奏上をお聞きにな

昭和四十四年九月

り、ついで天皇と共にキジ及びヤマドリを放たれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

四日 木曜日 午後、謁見所において、この度赴任のスペイン国駐節特命全權大使高橋寛及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、拝謁録、宮内庁庁報

八日 月曜日 午前、天皇と共に参殿者休所において、宮内記者会会員にお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、最近どのような絵を描いているのか、また、絵巻物を描いているのかについての質問をお受けになる。最近お描きの絵に関しては、那須の山々や静物などを描いている旨、絵巻物に関しては、植物などを描いている旨をお答えになる。さらに、現在の流行についてのお考えや、苔の御採集、御画集『錦芳集』の刊行についても触れられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、天皇記者会見

九日 火曜日 久邇^御倪子^母の祥月命日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録、典式録

十一日 木曜日 午後、謁見所において、新任の皇宮警察本部長北折篤信、及び前任の皇宮警察本部長長谷川俊之の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、典式録、賜与録、那須御用邸管理事務所日誌

十二日 金曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前九時二十六分御出門、午後零時二十一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、侍従長稲田周一の拝謁をお受けになる。稲田は約六箇月間にとり病氣療養していた。去る五月に退院の際には、皇后よりお尋ねとして果物の賜りがある。○侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、入江相政日記

夕刻、天皇と共に芳菊の間において、去る六日スイス国より帰国の宣仁親王・同妃喜久子より挨拶をお受けになる。ついで萩の間において、天皇と共に帰国祝いの御晚餐を催され、宣仁親王・同妃のほか、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子と御会食になる。終わって芳菊の間において御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内庁序報

十四日 日曜日 午前十一時十二分御出門、天皇と共に霞会館震が開ビル内に行啓され、菊栄親睦会大会に御臨席になる。東京ユース・シンフォニー・オーケストラによる演奏を皇太子・同妃以下の出席者と御一緒にお聴きになり、ついで御会食、御歓談になる。午後三時四十二分還啓される。なお本大会は、この年梨本伊都子が数え八十八歳、北白川房子が数え八十歳を迎えたことを記念し開催された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁序報

十六日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る七月二十九日成年に達した東久邇秀彦の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同人に白羽二重及び万那料・洋服地等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

天皇と共に鳳凰の間において、宣仁親王・同妃のスイス国訪問に随行した首席随員久保田貫一郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

昭和四十四年九月

花の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された真崎秀樹及び羽澄光彦の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、真崎秀樹英文日記

午後、花の間において、新侍従長入江相政・前侍従長稲田周一・新侍従次長徳川義寛の拝謁をお受けになる。なおこの度退職の稲田前侍従長に、天皇・皇后より御紋付銀花瓶等を賜う。これとは別に天皇・皇后より金一封、皇后よりお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、

恩賜録、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報、入江相政日記

十八日 木曜日 午前、御料牧場長高野守雄の賜謁があり、天皇と共に宮殿御車寄内にお出ましになる。なお今般、下総御料牧場が栃木県塩谷郡高根沢町・芳賀郡芳賀町に移転し、去る十日名称が下総御料牧場から御料牧場に改められた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、例規録、

下総御料牧場史

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のルーマニア国特命全権大使イオン・ダトクを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、清子内親王箸初につき、天皇・皇后より内親王へ御台人形ほかを御贈進になる。○女官長日記、

清子内親王御誕生録、紀宮殿下御誕生録、上奏モノ控簿、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、厚生大臣から表彰された第二十一回保健文化賞受賞者の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生大臣斎藤昇の挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣旨録、宮殿行事録、宮内庁庁報

来る二十六日から東京で開催する英国政府による英国週間等の諸行事につき、天皇と共に正殿竹の間

において、式部官長島重信より進講をお聴きになる。続いて天皇と共に芳菊の間において、島官長より英国王妹マーガレット来る二十二日に御会見予定に関する説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、外賓参内録、宮殿行事録

二十一日 日曜日 大相撲九月場所八日目を御覧になるため、午後四時四分御出門、天皇と共に蔵前国技館へ行啓される。幕内力士土俵入りより結びの一番まで御覧になり、六時九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓英国王妹マーガレット及び同夫君スノードン伯爵アンソニー・アームストロング・ジョーンズと御会見になる。続いて天皇と共に豊明殿において、王妹・同夫君のために宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より王妹・同夫君に図録『宮殿』特製本等を、王妹に金蒔絵広蓋尾形光琳画、八つ橋、輪島塗を、夫君に有田焼花瓶桃に柘榴、第十二代今泉今右衛門作を、皇

后より王妹に『桃苑画集』を御贈進になり、王妹・同夫君入京の際には王妹に活花を贈られる。また王妹・同夫君より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には陶器製砂糖入れ千八百年代の製品が贈られる。なお、後日王妹より天皇に貝の御贈進があつたが、天皇から外国王族に親書をお送りになつた前例がないことから、皇后の名をもつてお札の書簡十月二十三日付をお送りになる。これに対し、皇后宛ての答簡十一月十日付が寄

せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、上奏モノ控簿、外賓参内録、国賓訪日関係、外賓接待録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

天皇と共に皇居東御苑本丸にお出ましになり、管理部長高尾亮一の説明により、この日落成した噴泉

昭和四十四年九月

「緑の泉」

東京青年会
議所寄贈

を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録

二十三日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十五日 木曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のユーゴスラビア国駐箚特命全権大使中

川進及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁序報

二十六日 金曜日 午後六時十五分御出門、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団演奏会に御臨席の

ため、東京文化会館に行啓される。正仁親王・同妃華子のお出迎えをお受けになり、日本放送協会会

長前田義徳の先導により二階のお席に御着になる。それよりベルナルト・ハイティンク指揮による演

奏の第一部として、ベートーヴェン作曲「エグモント」序曲、ベネット作曲「オーバード」、バルトー

ク作曲「管弦楽のための協奏曲」をお聴きになる。終わって一階の御休所に移られ、前田会長の拝謁

をお受けになる。再びお席に着かれ、第二部としてブラームス作曲交響曲第一番、ついでアンコール

演奏をお聴きになる。八時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十七日 土曜日 久邇静子十年式年祭に当たるため、お慎みになる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 月曜日 午前、正殿梅の間において、新任のペルー国特命全権大使レネ・フーペル・ロペ

ス及び同夫人、ヨルダン国特命全権大使カメル・アル・シャリーフを順次御引見になる。○女官長日

記、女官日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

三十日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御昼餐を御会食に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

昭和四十四年度国民たすけあい共同募金運動を御奨励のため、天皇・皇后より社会福祉法人中央共同募金会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十月

一日 水曜日 午前、花の間において、新任の侍従卜部亮吾の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後一時四十四分御出門、天皇と共に国立劇場に行啓され、第十六回万国郵便大会議開会式に御臨席になる。終わって二時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

三日 金曜日 午前十時二十八分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、「伝統と発展の英国展」
英国政府・朝日新聞社共催を御覧になる。十一時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

四日 土曜日 ロンドン・フェスティバル・バレエ団特別公演を御覧になるため、午後六時十三分御出門、東京厚生年金会館に行啓される。四階の御休所において皇太子・同妃・徳仁親王・故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。それよりお席に着かれ、「白鳥の湖」を御鑑賞になる。第一幕終了後、御休所においての日本教育テレビ社長山内直元、英国特命全権大使ジョン・ピルチャー及び同夫人、ロンドン市長チャールズ・トゥリンダー及び同夫人の拝謁を受けられる。また第三幕終了後には、芸術

昭和四十四年十月

監督ベリル・グレイのほか舞踊手のジョン・ギルピン王子、白鳥、ダグマ・ケスラー役、マゴー・ミクロシー

黒鳥に御会釈を賜う。全幕終了後に御退席、九時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁

庁報

五日 日曜日 午後、吹上御所において組紐をされる。ついで正仁親王・同妃華子参殿につき御対面になり、親王妃と共に道明新兵衛第七代の親族をお相手に組紐を続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 火曜日 午後、藍綬褒章を授与された最高裁判所関係調停委員等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。名古屋地方・家庭裁判所調停委員宮本基の挨拶をお受けになり、天皇に続

きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 水曜日 昭和四十四年度全国赤十字大会に名誉総裁として御臨席のため、午後一時十七分御出門、九段会館に行啓される。御休所において名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面の後、日本赤十字社社長東竜太郎・同副社長石坂泰三の拝謁をお受けになる。それより式場に出御される。式中、社長挨拶の後、金色有功章受章者総代十一名、章銀の有功章受章者総代一名、特別社員章受章者総代一名に各章及び章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会に出席して、親しく皆さんに接することができ、大変うれしく思います。

日本赤十字社は創立以来九十二年の長い間、人道と博愛をもととして多くの事業を行ない、そ

の使命を果たしてきましたが、赤十字の任務は、国の内外にわたり、今後ますます重要性を加えるものと思います。

日本赤十字社有功章並びに特別社員章を受章した皆さんをはじめ、社員並びに奉仕者の皆さんが、今後とも力を合わせて、赤十字の活動をいつそう推進し、各国の赤十字社と相携えて、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望んでやみません。

続いて社長の奉答、受章者代表佐川清一の謝辞、厚生大臣の祝辞^{厚生事務次官 熊崎正夫代読}、及び赤十字奉仕団員・青

少年赤十字団員の各体験発表、日本赤十字武蔵野女子短期大学学生の「あこがれの赤十字」合唱がある。閉式となった後御退出、二時二十二分還啓される。本式典の名称は、従来は日本赤十字社有功章及び特別社員章御親授式であったが、今回より全国赤十字大会に変更となる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

九日 木曜日 午前、靖国神社霊璽奉安祭に各都道府県より参列した遺族代表の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。権宮司池田良八の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報
天皇と共に鳳凰の間において、去る三日結婚した久邇朝建^{御兄朝融の子息}・同夫人桜子の拝謁をお受けになる。

なおこの度の参内に際し、天皇・皇后より朝建に洋服地、桜子に洋服地^{紅葉山御養蚕所産}を、また同夫妻に万那料等を賜う。これに先立つ九月二十九日、天皇・皇后より久邇邦昭^{朝建の兄}に清酒及び鮮鯛代料を、朝建に白羽二重及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

昭和四十四年十月

この日、翌十日に横浜松屋において開催される横浜市・横浜ばら会共催の展覧会に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十一日 土曜日 皇太子結婚十周年の内宴に御臨席のため、午後五時五十四分御出門、天皇と共に東宮御所に行啓される。皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・正仁親王・同妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王と御会食になり、八時三十六分還啓される。なお、内宴の日程は当初結婚記念日^{四月}が予定されていたが、皇太子妃の出産のため半年後の十月十日に延期され、またその日は左翼各団体の明治公園における集会及び日比谷公園までのデモがあったため、さらに一日延期された。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 午前十時四十五分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、更生保護制度施行二十周年記念全国大会に御臨席になる。終わって十一時十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

正午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のエチオピア国特命全権大使エフライム・ポロウを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午後、藍綬褒章及び黄綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。厚生大臣齋藤昇の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、前田青邨及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

十七日 金曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮を御遙拝、ついで賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

翌十八日から二十四日まで調布市都立神代植物公園において「秋の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

二十日 月曜日 靖国神社創立百年記念大祭につき、午前十時六分御出門、天皇と共に同社に行啓され、天皇に続き本殿御拝座において御拝礼になる。十時五十一分還啓される。なお、御参拝に際し、天皇・皇后より幣帛料及び神饌料をお供えになる。去る七月二十九日には、同社創立百年の記念事業として靈璽簿奉安殿を造営につき、天皇・皇后より金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報、靖国神社社務日誌、靖国神社百年史

皇太子妃の誕生日につき、天皇と共に鳳凰の間において、同妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来日中の前米国副大統領ヒューバート・ホレイシヨウ・ハンフリー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、天皇と共に連翠において、松栄会会員及び夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

昭和四十四年十月

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日仏定期協議に出席のため来日中のフランス国外務大臣モーリス・シューマン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 第二十四回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、三十一日まで天皇と共に長崎県に行啓される。午前九時五十七分御出門、十時三十分東京国際空港を出発され、午後零時十分福岡空港に御到着になる。それより博多駅・長崎駅を経て、四時十一分御泊所矢太楼に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

二十五日 土曜日 午前十時天皇と共に御泊所矢太楼を御出発、長崎県庁を御訪問になる。続いて三菱重工業株式会社長崎造船所、養護老人ホームの長崎市立日見やすらぎ荘、長崎県総合農林センターを視察され、午後四時三十五分御泊所小浜観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

二十六日 日曜日 午前十時十分天皇と共に御泊所小浜観光ホテルを御出発、諫早商工会議所に御到着になる。御昼食後、第二十四回国民体育大会開会式場の長崎県立総合運動公園陸上競技場に向かわれ、会場にてお出迎えの故雍仁親王妃勢津子と共に開会式に臨まれる。その後、長崎市に向かわれる途中、長崎県護国神社にお立ち寄りになり、御拝礼になる。午後四時五十八分御泊所矢太楼に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

二十七日 月曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所矢太楼を御出発、株式会社江崎べっ甲店を御視

察になる。続いて長崎県立長崎国際体育館に到着され、国体体操競技を御覧になる。次に長崎港大波止に向かわれ、同所よりお召し船にて五島列島の福江島に向け御出航、福江港にお着きになり、午後三時二十五分御泊所福江国際会館迎賓館に到着される。この後の御外出は非公式の御日程とされ、鏝瀬海岸にお出ましになり、樹林地帯を散策される。五時過ぎに御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

二十八日 火曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所福江国際会館迎賓館を御出発、社会福祉法人奥浦慈恵院、続いて長崎県五島農業センターを御訪問になる。次に福江港に向かわれ、同港よりお召し船にて佐世保港に向け御出港、倉島岸壁にお着きになる。午後四時五十三分御泊所弓張観光ホテルに到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

二十九日 水曜日 午前十時天皇と共に御泊所弓張観光ホテルを御出発、国体競技を御覧になるため、庭球競技会場の佐世保市総合グラウンド庭球コート、バレーボール競技会場の佐世保市立西高等学校体育館を訪問される。続いて佐世保市役所において御昼食をお召し上がりの後、社会福祉法人佐世保白寿会特別養護老人ホーム白寿荘を御訪問になる。終わって、佐世保駅より特別列車にて平戸口駅に御到着、田平港からお召し船に乗られ平戸港にお着きになり、午後四時十九分御泊所旗松亭に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

三十日 木曜日 午前十時天皇と共に御泊所旗松亭を御出発、平戸市宮相撲場において国体相撲競技を御覧になる。次に平戸国際会館を訪問され、文化財等を御巡覧になる。御泊所に戻られ御昼食の後、非公式の御日程として、平戸港より海上保安庁巡視艇にて黒子島に渡られ、暖地性植物群落地を御散

昭和四十四年十一月

策になる。平戸港に戻られた後、お召し船に乗り換えられ、北九十九島方面を御周航になる。四時十分御泊所旗松亭に御帰着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みゆきの道

三十一日 金曜日 朝、御座所より平戸港の風景を写生される。午前十時七分天皇と共に御泊所旗松亭を御出発、平戸港よりお召し船にて田平港にお着きになる。ついで平戸口駅より博多駅を経て午後二時三十分福岡空港を御出発、四時東京国際空港に御到着、四時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、みゆきの道

十一月

一日 土曜日 午後、御画集『錦芳集』完成につき、これを御覧になる。同書は花鳥・魚介・風景等を画材とした五十五点の御作品を収め、題名は蘇味道^{初唐の詩人}の「詠井」詩の句「桐落秋蛙散桃舒錦芳」に拠る。日本赤十字社社長東竜太郎を編者として、三日に朝日新聞社より発行される。なお日本赤十字社は、この年十二月、朝日新聞社より刊行にかかる納付金として八百万円を受納し、このうち昭憲皇太后基金増額のための資金に四百万円を、血液事業資金及び国際救援活動資金にそれぞれ二百万円を当てる。○女官長日記、女官日記、賜与録、錦芳集、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

三日 月曜日 正午前、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会で特選児童又は優良学校として選ばれた健康優良児童及び健康優良学校代表等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。同表彰会会長広岡知男^{朝日新聞社社長}より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録

夕刻、天皇と共に吹上御所において皇太子と御対面になり、長崎県行幸啓終了に対する御機嫌伺い、及び来る七日よりの長崎県行啓の暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

四日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、政府賓客として来日した米国大統領特使ニール・オールデン・アームストロング宇宙飛行士、アポロ十一号船長及び同夫人、同特使マイケル・コリンズ宇宙飛行士、アポロ十一号乗組員及び同夫人、同特使エドウィン・ユージン・オールドリン・ジュニア同及び同夫人を御引見になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

六日 木曜日 午後、天皇と共に皇居東御苑において、秋の園遊会を催される。会場をお廻りの際、山口蓬春にお声掛けになり、新宮殿の同人揮毫の杉戸絵についてお話しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、園遊会録、行幸啓録、謁見録、宮内庁庁報、読売新聞

十一日 火曜日 午前、花の間において皇太子妃と御対面になり、十月二十一日より宮内庁病院に入院のところ、肋骨先端部の切除手術を終えて去る四日退院につき挨拶を受けられる。○女官長日記、女官日誌、報道関係録

天皇と共に連翠北において、インドネシア国特命全権大使アスハリ・ダヌディルジョ及び同夫人、ニュージールランド国特命全権大使ロバート・ハンター・ウエイド及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

病氣入院中の元日本赤十字社社長徳川圀順に対し、お尋ねとして果物を賜う。○女官長日記、贈賜録

昭和四十四年十一月

十三日 木曜日 午前、天皇と共に楽部にお出ましになり、宮内庁職員組合総合文化祭の美術展を御覧になる。日本画七点^{香樂・すつぽん・磯の香・海の幸・春庭・若狭の海・ハワイの花}及び木目込人形を特別出品される。会場では御作品

とともに、皇太子妃の写真二点^{徳仁親王と馬、文仁親王と清子内親王を撮影}、徳仁親王の登呂遺跡の感想文^{原始人の生活}及び工作品のカレンダー

ンダーロボット^{四郎、君}、正仁親王妃の日本画二点^{らん・ばら}のほか、職員の各種作品を御覧になる。十四日午後

にもお一方にてお出ましになり、御学友・御同級生十八名と御一緒に各展示を御覧になる。○女官長日記

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、重要雑録、文化祭目録、読売新聞

午後、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、先般還暦を迎えて記念の品を拝領したことへのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十四日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のクウェート国特命全権大使モハマッド・ザイド・アル・ヘルビツシュを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、長崎県・佐賀県・大阪府行啓より帰京した皇太子、及び三重県・奈良県お成りより帰京した徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。藍綬褒章受章者ボーイスカウト日本連盟総コミッシヨナー渡辺昭^{天皇の元御学友}の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 元貴族院議長徳川圀順去る十七日死去につき、天皇・皇后より賜物使として侍従井関英男を徳川邸に差し遣わされ、祭塗料を賜う。なお、昨十九日には皇后より、元日本赤十字社社長としての同人の霊前に切り花及び菓子を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使ロドルフォ・ウルバーノ・フレイレ及び同夫人・息女、ネパール国特命全権大使プラカーシユ・チャンド・タクール及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、東京大学教授永田武・国立科学博物館理化学研究室主任研究官村山定男より「アポロ十一号採集の月の岩石について」と題する進講をお聴きになる。進講終了後、正殿梅の間において、月の石の現物を御覧になる。また翌二十五日の御夕餐後には、天皇と共に月の岩石に関する映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 火曜日 午後、吹上御所において李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌

二十六日 水曜日 午後、文部大臣から表彰された教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。芝中学校・芝高等学校総主事榎随純の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に、御画集『錦芳集』に関するニュースの録画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、

昭和四十四年十二月

侍従日誌

二十八日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のパナマ国駐節特命全権大使今井実及び同夫人、セネガル国駐節特命全権大使菅沼潔及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に芳菊の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

三十日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた文仁親王、及び皇太子妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、今般壬生家との養子縁組を行った壬生基博御孫、東久邇、秀彦から改名、並びに東久邇信彦・同真彦・同文子・同優子をお招きになり、鷹司和子も交えて御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

十二月

一日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、壬生基泰御父邦彦王の妹篤子の子息、御従弟との養子縁組を済ませた同基博の拝謁を、ついで基博及び基泰・同夫人淑子の拝謁をそれぞれお受けになる。なお天皇・皇后より基博にお品及び万那料を、基泰夫妻にもお品及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、重要雑録

午後、重要無形文化財保持者^{人間国宝}による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。お出迎への皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子と共に会場に進まれ、それより納富寿童による尺八^{「鹿の遠音」}、富山清琴による永閑節^{「寛活、一休」}、中能島欣一による箏曲^{「しらべ」}、御休憩を挟み、三者による三曲合奏^{「根曳の松」}を御鑑賞になる。皇太子妃・故雍仁親王妃のほか元皇族等が陪聴する。終わって、御休所において主演者の賜謁がある。なお、出演者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、賜与録、桃華楽堂邦楽演奏会記録、邦楽演奏会

三日 水曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のフィリピン国駐筭特命全権大使ト部敏男及び同夫人、帰国の前同国駐筭特命全権大使安川壮及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のグアテマラ国特命全権大使ラファエル・コントウレラス・サラ・ヴィア及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後五時五十二分御出門、天皇と共に常陸宮邸に行啓される。御到着後、正仁親王・同妃華子のお出迎えをお受けになる。二階の御休所において、先着の皇太子・同妃・鷹司和子・島津貴子と対面され、ついで御夕餐を御会食になる。九時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

七日 日曜日 久邇朝融十年式年祭につき、午後三時二十三分御出門、豊島岡墓地に行啓される。久

邇邦昭及び同夫人正子、東伏見慈治及び同夫人保子のお出迎えをお受けになった後、邦彦王、久邇侷子の墓所に続いて朝融の墓所を御拝礼になる。次に朝融王妃知子女王の墓所を御拝礼になる。終わって幄舎において、邦昭よりこの日のお礼言上をお受けになる。三時四十九分還啓される。またこの日、女官長北白川祥子を霊舎に差し遣わされ、拝礼させられる。式年祭に際し、天皇・皇后より霊舎に菓子・榊を、墓所に榊を、皇后より朝融の写真に切り花・果物を、墓所に野菜をそれぞれお供えになる。さらに墓所御拝礼に際し、皇后より邦彦王・久邇侷子・知子女王の各墓所に果物をお供えになる。○

女官長日記、女官日誌、幸啓録、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

八日 月曜日 御画集『錦芳集』を梨本家・北白川家・東久邇家・久邇家・鷹司和子・池田厚子・島津貴子・東伏見慈治・大谷智子に御贈進になる。○女官長日記

九日 火曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代の梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

正殿梅の間において、初代コートジボワール国特命全権大使ピエール・ネルソン・コフィ及び同夫人・息女、ついで新任のポーランド国特命全権大使ジクムント・フルターク及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、東北大学名誉教授江口元起よりオーストラリアにおける深海潜水艇よみうり号の活動についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

十一日 木曜日 大韓民国特命全権大使嚴敏永去る十日東京にて死去につき、この日、天皇・皇后の

弔問使として侍従卜部亮吾を同国大使館に差し遣わされる。また十二日に同国大使館で執り行われる告別式には、天皇・皇后より花環をお供えになる。さらに同日、遺体が本国に送還されるにつき、天皇・皇后より同大使夫人に花束を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、賜与録

十五日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 天皇と共に連翠北において、中華民国特命全權大使彭孟緝及び同夫人、ガボン国特命全權大使リュバン・マルシャル・トウトウメ・オバメのため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

歳末につき、日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助収容患者合計一万一千二百七十七名に手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

十八日 木曜日 午前、天皇と共に御徒歩にて宮殿にお出ましの途中、大道庭園において、元國務大臣松村謙三より献上されたラン等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

午後、楽部による洋楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。先着の正仁親王妃華子と共にモーツァルト作曲ディヴェルティメント第十一番、チャイコフスキー作曲「四季」より「舟歌」、ムソルグスキー作曲交響詩「はげ山の一夜」、及びアンコールのブラームス作曲ハンガリー舞曲第一番をお聴きになる。途中より皇太子妃も陪聴する。終わって御休所において、指揮者沖不可止その他の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十九日 金曜日 天皇と共に連翠において、菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。

御食後、石橋の間においてお茶を供され、この年の宮内庁文化祭に御出品の絵画七点を一同に御披露になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、菊菜親睦会録、宮殿行事録、宮内庁序報

花の間において、新任の宮内庁御用掛石上健次^{歯科}及び前任の宮内庁御用掛檜山健児^同の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

二十日 土曜日 午前、花の間において日本赤十字社社長東竜太郎より進講をお聴きになる。この日、事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。なお、従来同社への恒例賜金は「事業御奨励」と「医療および児童福祉事業に対する補助」で区別されていたが、この度事業御奨励に一本化される。○女官長日記、女官日誌、典式録、賜与録、宮内庁序報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

この日、財団法人結核予防会に対し、事業御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁序報

二十三日 火曜日 皇太子の誕生日につき、正午前、吹上御所において皇太子と御対面になる。ついで侍従長・侍従次長、女官長始め女官、元女官の祝賀をお受けになる。なお、天皇は、去る二十一日からの御風気のためお出ましはなく、二十六日まで御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁序報

この日、歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、

皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十六日 金曜日 午前、正殿梅の間において、初代コンゴ民主共和国特命全権大使レオナル・ム

ランバ及び同夫人、新任のルーマニア国特命全権大使ヨシフ・ゲオルギユウ及び同夫人、エクアドル国特命全権大使アルフレード・コレア・エスコバル及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、

女官日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官以下総代、続いて皇太子始め皇

族・元皇族等、女官長ほか女官より、歳末の祝詞言上をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に芳菊の間において、歳末につき参内の皇太子・同妃・文仁親王と御対面になる。なお、徳

仁親王は宮内庁病院に入院中のため参内を見合わせる。昨二十八日には皇后より徳仁親王に対し、お

見舞いとして洋菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

この月 東京都において例年実施の歳末無料健康相談につき、東京都知事美濃部亮吉より、近年各種

社会保障制度が整備され都民の生活が安定してきたことを機会に、同事業を終了したい旨の申し出^{この}

^{十四}が寄せられ、これを御覧になる。同事業の実施に当たっては、前年まで皇后より賜金があったが、^{日付}

以後お取りやめとなる。○賜与録

昭和四十五年（西曆一九七〇年）

六十七歳

一月

一日 木曜日 新宮殿において初めて行われる新年祝賀の儀に臨まれる。午前九時四十五分より、天皇と共に正殿松の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において内閣総理大臣等の祝賀を、正殿松の間において参議院議長^{衆議院議長は未選出}等の祝賀を、正殿竹の間において最高裁判所長官等の祝賀を、正殿松の間において認証官等の祝賀を、それぞれ天皇と共にお受けになる。午後二時三十分、天皇と共に正殿松の間において、各国外交使節団の長等の祝賀をお受けになる。この間、天皇と共に萩の間において、皇太子始め皇族と御昼餐を御会食になる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、天皇と共に、徳仁親王・文仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、例規録、年末年始関係、

宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、憲仁親王始め未成年の皇族の祝賀を、ついで正殿竹の間において元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録

新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前二回と午後六回の計八回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、年末年始関係、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三日 土曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇霊殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のベトナム共和国特命全権大使、ヴィン・トオ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員村川堅太郎より「アリストテレスと歴史学」、同小町谷操三より「共同海損制度の基本観念」、鳥取大学長井上吉之より「蜜素配糖体について」と題する進講をお聴きになる。進講後、進講者及び進講者控の賜謁があり、天皇と共に正殿竹の間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、年末年始関係、講書始録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官等より新年の祝賀を、宮殿御車寄前において元女嬬等の祝賀をお受けになる。続いて鳳凰の間において、元日の新年祝賀の儀を欠席した故雍仁親王妃勢津子よ

昭和四十五年一月

り、新年の挨拶を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

花の間において、服部豊子^{ヴァイオ}の拝謁をお受けになる。ついで、恩師・御同級生の拝謁を受けられる。

○女官長日記、女官日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王と御夕餐を御会食になる。以後この年は、概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 金曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のオーストラリア国駐箚特命全權大使齊藤鎮男及び同夫人、エルサルバドル国駐箚特命全權大使針谷正之及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

十日 土曜日 毎日新聞社主催「現代女流書展」を御覧になるため、午前九時四十一分御出門、日本橋高島屋に行啓される。高島屋社長飯田新一及び毎日新聞社会長田中香苗の先導により八階会場に進

まれ、毎日新聞社役員並びに出品者一同の奉迎を受けられる。それより書家熊谷恒子^{毎日書道展}の説明

により、漢字、かな、近代詩文書、少字数書、てんこく、刻字、前衛書など七部門八十四点の展示を

御巡覧になる。十時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、毎日新聞

吹上御所において、天皇と共に正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後この年は月に二回ほどの割合で吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 火曜日 午前十時、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題

は「花」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

朝なあさな色とりどりのばらの花きりてささぐるみつくゑの上に

儀終了後、天皇と共に正殿竹の間において召人・選者・諸役の、ついで宮殿回廊において預選者の賜謁がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始関係、歌会始録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

竹田恒正来る十六日結婚につき、天皇・皇后より竹田恒徳恒正の父に清酒及び鮮鯛代料を、恒正に白羽二重及びお品をそれぞれ賜う。○贈賜録

十四日 水曜日 午後、花の間において、大聖寺門跡の花山院慈薫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

正殿梅の間において、今般離日の前大韓民国特命全権大使故嚴敏永昨年十二月東京にて死去夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、東久邇文子・壬生基博・東久邇真彦・同優子の拝謁をお受けになる。ついで御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十六日 金曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のモロッコ国駐劄特命全権大使広瀬達夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に宮殿北溜において、第十三回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援受賞学校代表者の賜

謁があり、読売新聞社副社長小林与三次より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、竹田恒正昨日結婚につきお礼言上のため参内

した竹田恒徳の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 月曜日 午後、花の間において、法華寺門跡の久我高照の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌

二十日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のスーダン国特命全権大使サラ

ハ・エル・ディーン・バビキール・ザルグを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十五分同

邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、

宮内庁庁報

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に城ヶ島にお出ましになり、スイセン野生地を御散策になる。つ

いで海鷗展望台においてウミウ・ヒメウを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉

山行幸啓録

二十四日 土曜日 午後、元女官小倉満子参邸につき、拝謁をお受けになる。以後、この年も、随時

元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十七日 火曜日 邦彦王^御父の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、葉山行幸啓録、典式録

午後、侍従次長徳川義寛を遣わされ、前田青邨に御絵を披露される。夕刻、徳川より復命をお聞きになる。以後、この年も侍従を前田の許へ遣わされ、御絵の講評を受けられる。○女官長日記、女官日誌

二十九日 木曜日 午前九時四十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、祭典録、恒例祭祀録、典式録、宮内庁庁報

二月

一日 日曜日 故東久邇盛厚一周年祭につき、天皇・皇后より権舎に菓子、墓所に榊をお供えになる。翌二日午前、天皇と共に鳳凰の間において東久邇稔彦・同夫人聡子の拝謁をお受けになる。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東久邇盛厚殿葬儀録

二日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄ホールにおいて、管理部長高尾亮一の説明により静岡県賀茂郡下田町に新設される御用邸の模型を御覧になる。なお、この御用邸は翌昭和四十六年十月に須崎御用邸として落成する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東京新聞、毎日新聞

午後、花の間において、この度帰国する英語の進講奉仕者イレエヌ・ストライカーを御引見になる。その際、賜品がある。○女官長日記、女官日誌、典式録、贈賜録

三日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のハンガリー国駐劔特命全權大使上田常光及び同夫人、エクアドル国駐劔特命全權大使島静一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、新宮内庁御用掛深田宏及び前宮内庁御用掛大塚博比古の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

四日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午後、天皇と共に城ヶ島へお出ましになり、海鵜展望台においてウミウ、ヒメウ、クロサギを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十三日 金曜日 午前九時四十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に鳳凰の間において、正仁親王・同妃ネパール国訪問の随員東園基文・黒田実・山本満喜子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十五日 日曜日 この度皇太子が同妃を伴いマレーシア国天皇の御名代・シンガポール国を、正仁親王・同妃華子がネパール国を訪問するため、天皇と共に吹上御所において御晩餐を催される。皇太子・同妃、正仁親王・同妃、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子・同妃のマレーシア国及びシンガポール国訪問の首席随員法眼晋作^{外務審議官}及び随員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十七日 火曜日 元皇后宮女官長島津治子去る十四日死去につき、天皇・皇后より靈前に菓子料・お花料を賜う。また天皇・皇后より祭糝料を賜う。同人は大正十二年八月宮内省御用掛を拝命、翌十三年東宮女官長に任じられ、昭和改元に伴い皇后宮女官となり、翌二年三月皇后宮女官長に任じられた。

○贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、翌十九日よりマレーシア国及びシンガポール国を訪問する皇太子・同妃と御対面になる。この度、皇太子がマレーシア国を天皇の御名代として訪問につき、天皇・皇后より同国王に蒔絵料紙文庫^{黒呂色扇面模様 吉田源十郎作}を、王妃に佐賀錦ハンドバッグを御

贈進になる。翌日の皇太子・同妃の出発に際しては、侍従長入江相政が東京国際空港に差し遣わされ、天皇・皇后のお言葉を皇太子・同妃に伝達する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族殿下外国御訪問空港行事録、皇親録、外交贈答録、宮内庁庁報、入江相政日記

午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のスペイン国特命全權大使ルイス・ガルシア・デ・リエーラを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のドイツ連邦共和国駐劄特命全権大使甲斐文比古及び同夫人、ナイジェリア国駐劄特命全権大使重光晶及び同夫人の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拜謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、厚生省社会局長伊部英男の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に鳳凰の間において、ネパール国皇太子の結婚式に参列のため翌二十四日より同国を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になる。同国皇太子には、天皇・皇后より七宝花瓶赤透四君子文様を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 天皇と共に連翠において、米国特命全権大使アーミン・ヘンリー・マイヤー及び同夫人、サウジアラビア国特命全権大使アウニー・ワフアー・デジャーニー及び同夫人・息女、ペルー国特命全権大使レネ・フーペル・ロペス及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会協会会長石坂泰三及び同事務総長鈴木俊一より、日本万国博覧会の概要についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

この度八十歳となる木戸幸一元内大臣に対し、天皇・皇后より御紋章入りの杖を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、賜与録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、マレーシア国及びシンガポール国訪問よりこの日帰国した皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

三月

一日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、マレーシア国国王の親書を天皇に奉呈のため参殿の皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二日 月曜日 午前、吹上御所において、この日誕生日を迎えた島津貴子と御対面になる。なお、この日より御風気のため五日まで御仮床に就かれ、この日午後には予定の東京大学教授原寛の進講を始め、拝謁その他はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、進講録、典式録、宮殿行事録

三日 火曜日 清子内親王初節句につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、清子内親王に五種交魚代料・御台人形代料・ひな菓子を贈られる。○女官長日記、女官日誌、紀宮殿下御誕生録

六日 金曜日 満六十七歳のお誕生日を迎えられる。

新宮殿において初めて皇后誕生日祝賀が行われ、午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、石坂泰三、続いて皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、正殿竹の間において衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀を、花の間において元皇太后宮女官等の祝賀を、

芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、再び花の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官等の祝賀を、北溜において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を順次お受けになる。なお、皇后の御風気御用心のため、午後に予定されていた御学友等の祝賀、及び皇族・御親族との御晩餐御会食はお取りやめになる。後日、お誕生日に際して言上されたカンボジア国元首シハヌーク、皇太后ならびに同国王室等からの祝意が伝達される。これに対し、深厚な謝意を伝達するよう宮内庁長官宇佐美毅にお命じになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、外交慶弔録、宮内庁庁報

七日 土曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、去る一月十六日に結婚の竹田恒正・同夫人恭子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より竹田夫妻に万那料及び洋服地等を賜う。ついで同所において、去る二月二十一日に結婚の大谷暢道及び同母智子^{御妹}の拝謁をお受けになる。天皇・皇后よりお悦びとして暢道に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

九日 月曜日 御風気のため、光輪閣への行啓をお取りやめになる。○女官長日記、幸啓録

十日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この度ネパール国を訪問した正仁親王・同妃の随員東園基文・黒田実・山本満喜子の拝謁をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。終わって、

天皇と共に宮殿御車寄内において随行員の賜謁があり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に芳菊の間において、去る三日移居の挨拶のため参内の鷹司和子と御対面になる。○女官長日記

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に連翠北において、カンボジア国特命全権大使ポック・チューン及び同夫人、アルゼンチン国特命全権大使ロドルフォ・ウルバーノ・フレイレ及び同夫人・息女のため午餐を催される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、新任のアイスランド国特命全権大使アーニ・トリッグヴァーサン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十一日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、離任のオーストラリア国特命全権大使アレクサン・スタンレー・ブラウン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、この度マレーシア国及びシンガポール国訪問より帰国の皇太子・同妃、並びにネパール国訪問より帰国の正仁親王・同妃華子をお招きになり、御晚餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、正田英三郎^{皇太子の父}・同夫人富美子の拝謁をお受けになる。英三郎より病氣全快の挨拶を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十三日 金曜日 日本万国博覧会開会式に御臨場並びに地方事情を御視察のため、天皇と共に大阪府・京都府及び静岡県に行啓される。午前十一時九分御出門、東京駅より京都駅に向かわれ、午後二時二十九分御泊所の京都大宮御所に御到着になる。その後、天皇と共に御車寄において、旧堂上華族

昭和四十五年三月

その他に御会釈を賜う。さらに、御座所において弘世現御甥久邇邦昭の義父・同夫人芳子の挨拶を受けられる。

それより京都事務所長石川忠の説明により、この度復原工事が行われた京都御所を天皇と共に御覧になり、ついで御車寄において工事関係者に御会釈を賜う。大宮御所にお戻りの後、天皇と共に御座所

において大谷光暢・同夫人智子及び大谷暢道光暢の子息・同夫人礼子の拝謁を受けられ、御食堂において光

暢夫妻と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓

録、京都御所渡廊及び附属建物復原工事報告書、宮内庁庁報、官報

十四日 土曜日 日本万国博覧会開会式に御臨場のため、午前九時二十四分天皇と共に御泊所京都大

宮御所を御出発、大阪府吹田市の日本万国博覧会会場に行啓される。御到着後、迎賓館において、皇

太子日本万国博覧会名誉総裁・同妃、崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついで同所において、日本万国博覧会

名誉会長佐藤栄作内閣総理大臣、通商産業大臣兼日本万国博覧会担当大臣宮沢喜一、日本万国博覧会日本政府

代表萩原徹、日本万国博覧会協会会長石坂泰三その他の拝謁をお受けになる。それよりお祭り広場に

おける開会式に臨まれ、内閣総理大臣ほかの挨拶・祝辞、天皇のお言葉等の後、児童より花束の贈呈

を受けられる。午後、天皇と共に皇太子・同妃、崇仁親王・同妃を伴われ、エキスポタワーより会場

内と遠景を御展望になり、続いてモノレールにて場内を巡覧される。その後テーマ館、カナダ館、日

本館を御視察になり、五時二十一分御泊所の京都大宮御所に戻られる。なお後日、カナダ館御訪問の

記念として同国政府代表より天皇・皇后に献上があり、皇后にソーブストーン彫刻が献上される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、東宮録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会政府公式記

録、日本万国博覧会公式記録、日本万国博覧会公式記録資料集、日本万国博覧会公式記録資料集別冊

十五日 日曜日 午前十時三十五分天皇と共に御泊所の京都大宮御所を御出発、京都駅より三島駅を経て、午後二時十三分旧沼津御用邸^{昨年用途廃止となり大蔵省より沼津市に無償貸付けとなる}に御到着になり、西附属邸、同苑地、本邸苑

地及び東附属邸を御巡覧になる。それより御泊所に向かわれ、途中、伊東市のスカイポート亀石において御少憩の後、五時十五分川奈ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、沼津御用邸関係綴、宮内庁庁報、官報

十六日 月曜日 午前十時二十一分天皇と共に御泊所川奈ホテルを御出発、伊豆シャボテン公園を御訪問になる。ついで今井浜ガーデンにおいて御昼餐の後、午後二時四十八分御泊所下田東急ホテルに御到着になる。なお強風雨につき、御昼餐後に予定の南伊豆荘及び石廊崎灯台へのお立ち寄りはお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十七日 火曜日 午前九時三十六分天皇と共に御泊所下田東急ホテルを御出発、賀茂郡下田町の新御用邸建設地を視察される。終わって、伊豆急下田駅より伊東駅・原宿駅を経て、午後二時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十八日 水曜日 前掌典長徳大寺実厚去る十五日死去につき、賜物使として侍従山本岩雄を差し遣わされ、天皇・皇后より祭装料を賜う。また、天皇・皇后より菓子・野菜・切り花を靈前に賜う。○侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

日本万国博覧会に各国元首・皇族・王族及びその他の賓客来訪につき、天皇・皇后から各国元首に図録『宮殿』^{特製}一冊ずつ、外国皇族・王族・国際連合事務総長・外国元首に準ずる者及び外国首相に

図録『宮殿』普及本一冊ずつを御贈進又は下賜されることがこの日定められる。○外交贈答録、賜与録

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し政府賓客として来日中の欧州共同体^C理事会議長ピエール・C・J・M・ハーメル及び同夫人、欧州共同体委員会委員長ジャン・レイ及び同夫人を御引見になる。この度の来訪に際し、天皇・皇后より議長夫妻及び委員長夫妻にそれぞれ『桃苑画集』等を賜う。議長からは天皇・皇后に献上があり、皇后にレーステーブルセンター等が献上される。また後日、議長より天皇・皇后への謝意を伝える書簡^{宮内庁長、委員長より}

り天皇・皇后への謝意の伝達を望む書簡^{式部官長宛て}がそれぞれ寄せられる。なお日本万国博覧会の期間中、政府賓客として来日した外国の元首及び皇族・王族に対しては、天皇と共に逐次御会見になり、宮中午餐あるいは宮中晩餐に招待される。また政府賓客として来日した外国の副大統領、総督、首相及び国際機関の長に対しては、逐次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外賓接待録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、日本万国博覧会公式記録資料集別冊

二十四日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、イタリア国から帰国した朝香誠彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のイラン国皇姉シャムス・パハラヴィーと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。

この度の来訪につき、天皇・皇后より皇姉に九谷焼飾皿等を、皇后より『桃苑画集』を御贈進になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、ウイルヘルム・ケンプのピアノ独奏会に御臨席になる。崇仁親王・同妃百合子・容子内親王・憲仁親王のほか、元皇族・御縁故者等が陪聴する。

ベートーヴェン作曲ピアノソナタ第三番・同十四番「月光」などをお聴きになり、終わって御休所においてケンプ及び同夫人・息女の拝謁をお受けになる。なお演奏会に際し、ケンプに御署名入りお写真、御紋付青磁花瓶、干菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、御前演奏会録、外国人演奏家による演奏会

二十八日 土曜日 イラン国皇女誕生につき、天皇・皇后より同国皇帝・皇后に祝電を発せられる。

これに対し三月三十日に答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

三十日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のオランダ国王配ベルンハルトと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より同国王配に凶録『宮殿』普及本を御贈進になる。なお後日、王配より来日

中に受けた款待に感謝する旨の書簡が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

外賓参内録、外賓接待録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のネパール国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び王妃と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より国王・王妃に凶録『宮殿』特製本を御贈進になる。なお、去る二十八日の御入京の際には、皇后より王妃に活花の御贈進がある。○

昭和四十五年四月

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

四月

一日 水曜日 正午より天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のチェコスロバキア国大統領ルドヴィーク・スヴオボダ及び同夫人と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において、宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より大統領夫妻に函録『宮殿』特製を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

この日より十月三十一日まで第十五回ユニセフ協力募金を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、事業御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

四日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のフィンランド国国家最高顧問カール・オーガスト・ファージェルフォーム及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同国国家最高顧問夫妻に函録『宮殿』普及を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

六日 月曜日 午後、昭和四十四年度音楽大学卒業生演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましに

なる。皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子のほか、元皇族、御縁故者等が陪聴する。東京芸術大学卒業生による箏曲及びJ・A・ベンダ作曲「二つのヴァイオリンとピアノのためのソナタ」、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、桐朋学園大学卒業生によるコントラバス独奏、国立音楽大学卒業生によるアルト独唱、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになった後、御休憩を挟み、東京芸術大学卒業生による長唄、国立音楽大学卒業生によるクラリネット独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるソプラノ独奏、東京芸術大学卒業生によるカルツェフ作曲「トランペットとピアノのための「二つの小品」、上野学園大学卒業生によるソプラノ独唱、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わって御退出の際、各校代表者、出演者に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、音楽大学演奏会、賜与録

七日 火曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄において、昭和四十四年四月一日から四十五年四月一日までの間に新規採用の宮内庁職員の賜謁があり、長官官房秘書課長福留守より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。なお、昭和五十二年にも宮内庁新規採用職員の拝謁が行われ、以後、恒例となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

来る十一日、文仁親王学習院幼稚園入園につき、天皇・皇后より同親王にお品料・万那料を賜う。○女官長日記、贈賜録

八日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のソビエト連邦大臣会議議長代理^{副首相} ウラジミール・ニコラエヴィッチ・ノヴィコフを御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より議長代理に図録『宮殿』^{普及本}を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

昭和四十五年四月

舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

九日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、英国駐劄特命全權大使湯川盛夫の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のモーリシャス国首相シーウーサグル・ラングーラム及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同国首相に

図録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中の英国皇太子チャールズと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中晚餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后

より同国皇太子に図録『宮殿』特製本等を御贈進になる。同国皇太子より天皇・皇后に御贈進があり、

皇后には金製ブローチが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓接待録、

外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十二日 日曜日 立花美年子成久王第一王女去る十日死去につき、天皇・皇后より靈前へ野菜・切り花・菓子、

北白川房子美年子の母へ菓子をそれぞれ賜う。○贈賜録

十四日 火曜日 正午より、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中の国際連合事務総長ウ・タントを御引見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この

度の来訪につき、天皇・皇后より事務総長に図録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のビルマ国革命委員会議長ネ・ウィン及び同夫人と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より同議長に函録『宮殿』特製を御贈進になる。なお後

日、同議長から天皇に翡翠製酒器の御贈進があり、天皇・皇后からは御紋付銀製花瓶を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、宮殿北溜において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の第二回愛育班員全国大会に際し、総裁又は会長から表彰された愛育班員及び愛育班育成功労者総裁貫の広瀬興並びに會長賞の中原英寿は故人並びに

その配偶者の賜謁があり、同会理事長新居善太郎の挨拶を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のオランダ国王嗣ダ国王嗣ベアトリックス及び同夫君クラウス・フォン・アムスベルグと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より王嗣及び同夫君に函録『正倉院宝物』海外等を、皇后より王嗣に『桃苑画集』を御贈進になる。王嗣及び同夫君からは天皇・皇后にゴッホ画集及びレンブラント画集の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓接待録、外交贈答録、賜与録、外賓参内録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のベルギー

国王弟アルベールと御会見になる。続いて天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より王弟に図録『宮殿』普及本を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し帰国中のアジア開発銀行総裁渡辺武及び同夫人を御引見になる。天皇・皇后より同銀行総裁に図録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

去る八日大阪市宮地下鉄谷町線天神橋筋六丁目交差点付近工事現場でガス爆発事故発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤の資として大阪府に金一封を賜う。○賜与録

十八日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日満一歳の誕生日を迎えた清子内親王、及び皇太子妃と御対面になる。天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、皇太子妃に万那料を、同内親王に鮮鯛及び御台人形代料を、正田家に五種交魚代料をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

この日、バザーを開催の常磐会に、切り花を賜う。○贈賜録

二十一日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のリベリア国特命全権大使ローランド・ヘンリー・クーパー、モロッコ国特命全権大使ハッサン・ハジジュウイ、パナマ国特命全権大使アントニオ・ガスパール・スアレス・シエラを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、

謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、正殿梅の間において、新任のチェコスロバキア国特命全権大使ルードルフ・

コジュシニツク及び同夫人・息女、エチオピア国特命全権大使ハイレ・マリウム・ケベデ及び同夫人、スペイン国特命全権大使アルフォンソ・メリー・デル・ヴァル・イ・アルソーラ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、宮殿北溜において、この度財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者五十四名の賜謁があり、同会理事長山口正義より挨拶を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の賜謁があり、厚生大臣内田常雄より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のスイス国副大統領ルドルフ・グネーギ及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より副大統領夫妻に凶録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

午後一時二十七分御出門、光輪閣に行啓される。御着後、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面、次に児玉希望の賜謁があり、同人揮毫の水墨画を御覧になる。四時四分過ぎ還啓される。後刻、吹上御所に参殿の宣仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼を受けられる。

○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のパキスタン国特命全権大使

昭和四十五年四月

シエド・マクブール・ムルシエド及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のデンマーク国王嗣マルグレーテ及び同夫君ヘンリックと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より王嗣及び同夫君に図録『宮殿』普及本を御贈進になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十五日 土曜日 終戦二十五周年に当たり、厚生省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式に御出席のため、午前十時八分御出門、天皇と共に同墓苑に行啓される。終わって同十八分還啓される。なお、納骨並びに拝礼式実施につき、昨二十四日厚生省に、天皇・皇后より生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

午後、株式会社道明より人を召され、皇太子妃・正仁親王妃華子と共に吹上御所において、組紐の指導をお受けになる。以後この年、同社の山岡俊三第七代道明新
兵衛の女婿ほかよりしばしば指導をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、東宮録、贈賜録

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中の経済協力開発機構事務総長エミール・ヴァン・レネップ及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同事務総長夫妻に図録『宮殿』普及本を、皇后より事務総長夫人に『桃苑画集』を賜う。

後日、事務総長より同画集の下賜に対する謝意表明の書簡外務大臣宛てが寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代の祝賀を、芳菊の間において女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、再び花の間において、元女官長・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他が出席する。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国外交使節団の長等が出席する。両儀の間に、天皇と共に芳菊の間において東久邇真彦ほかの祝賀を、茶会の儀終了後に、天皇と共に吹上御所において徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、天皇誕生日一般参賀綴、宮内庁庁報、官報

五月

一日 金曜日 午前、天皇と共に正殿梅の間において、この度英国大使館勤務より離任帰国する英国

昭和四十五年五月

王族ウイリアム・オブ・グロスターと御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、外交贈答録、外賓参内録、宮内庁庁報

元王族李垠この日死去につき、同夫人方子に天皇・皇后の弔意を侍従長入江相政に電報をもって伝えさせられる。また八日、天皇・皇后より方子に祭資を賜い、霊前に花環をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二日 土曜日 午後、吹上御所において、宮内庁御用掛武者小路不二子をお相手にフランス語を勉強される。以後、翌月までしばしば武者小路をお相手に勉強される。○女官長日記、女官日誌

六日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のオーストラリア国首相ジョン・グレイ・ゴートン及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より首相夫妻に凶録『宮殿』普及本を賜う。なお後日、夫人より皇后に同国に関する映画フィルム「オーストラリアの動物」が献上され、天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、元王族李垠の葬儀来る九日大韓民国ソウルにて挙行に参列する故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

九日 土曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のアフガニスタン国皇太子アーマッド・シャー及び同妃と御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より同国皇太子・同妃に凶録『宮殿』普及本を御贈進

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁
庁報

十一日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子
と御対面になり、元王族李垠の葬儀参列につき報告をお聞きになる。ついで同所において御夕食を御
会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女
官日誌、侍従日誌、卜部亮吾侍従日記

十三日 水曜日 午前、萩の間において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、去る八日故松平信子
松平恒雄夫人、故
雍仁親王妃の奥母一 周忌に際するお仕向けのお礼を受けられる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十四日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、救世軍事業視察のため来日中の救世軍万国
総督エリック・ウィックバーグ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、
内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において皇太子妃と御対面になり、正田きぬ皇太子妃
の祖母 去る九日死去後の喪明け第一期
五日に
つき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、皇親録、宮内庁庁報
正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のスウェーデン国皇太子カ
ル・グスタフと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪
につき、天皇・皇后より同国皇太子に凶録『宮殿』普及
本を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和四十五年五月

侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 正午より、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のドイツ連邦共和国大統領グスタフ・ヴァルター・ハイネマン及び同夫人と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より大統領夫妻に函録『宮殿』^{特製}を御贈進になる。後日、大統領夫妻より来日中に受けた款待に対する礼電が寄せられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外賓接待録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中の大韓民国国務総理丁一権及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より国務総理夫妻に函録『宮殿』^{普及}を

賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十七日 日曜日 午前、貞明皇后例祭の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 福島県において開催される第二十一回全国植樹祭に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時五十三分御出門、原宿駅より黒磯駅・郡山駅・猪苗代駅を経て、午後三時三分御泊所裏磐梯高原ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、福島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十九日 火曜日 午前九時三十一分天皇と共に御泊所裏磐梯高原ホテルを御出発、国立磐梯青年の家

を御視察になる。続いて猪苗代町天鏡台の第二十一回全国植樹祭会場における式典に臨まれる。植栽地において天皇に続き、学校生徒代表山内世利子<sup>福島市立信
陵中学校</sup>・林業後継者渡辺弥重・同五十嵐寿美子・同林正一の介添えにて三本のツシママツをお手植えになる。十一時三十五分会場を御発、翁島駅より会津若松駅を経て、富士通株式会社会津工場、ついで福島県会津若松工業試験場を視察される。その後、会津若松駅より翁島駅を経て、午後四時十七分御泊所福島県迎賓館<sup>旧高松宮
翁島別邸</sup>に御到着になる。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、福島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 水曜日 午前九時三十七分天皇と共に御泊所福島県迎賓館を御出発、翁島駅より郡山駅を経て、お手播き行事会場の福島県林業試験場に御到着になる。ついでお手播き床に進まれ、福島県森林組合連合会会長鈴木省吾<sup>参議院
議員</sup>の介添えにてアカマツの種子を播かれる。天皇はキタガタスギの種子をお手播きになる。その後、展示室を御覧になる。続いて郡山市役所において御昼食の後、福島県立郡山盲・聾学校を訪問される。ついでコパル精密株式会社を視察され、午後三時四十六分御泊所一力旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、福島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 木曜日 午前九時五十一分天皇と共に御泊所一力旅館を出発され、磐梯熱海駅より御乗車、須賀川駅にて御降車になり、笠原工業株式会社を視察される。ついで須賀川牡丹園<sup>国指定
の名勝</sup>において、大輪のボタンなどを御覧になる。その後、須賀川市役所を訪問される。御昼食後、須賀川駅より原宿駅を経て、午後四時二十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍

人供奉日誌、幸啓録、福島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報

昭和四十五年五月

二十二日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所において、蚕の發育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のブルガリア国首相トードル・ジフコフを御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同首相に図録『宮殿』普及本を賜う。同首相より天皇・皇后に献上があり、皇后には香水が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

この日より二十七日まで東急百貨店日本橋店において「春の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十四日、二十六日にも御出品になる。

○女官長日記、贈賜録

二十三日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のコートジボワール国国会議長フィリップ・ヤセ及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より国会議長夫妻に図録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のエチオピア国皇帝ハイレ・セラシエ一世と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中晚餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より同皇帝に図録『宮殿』特製本を御贈進になる。皇帝からは、天皇・皇后にコーヒー豆の御贈進がある。また後日、皇帝より来日中に受けた款待に対する礼電が寄せられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

二十五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任の中央アフリカ国特命全権大使クレマン・セヴオ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のカナダ国首相ヒール・エリオット・トルドーを御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同首相

に凶録『宮殿』^{普及}本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時一分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、園遊会録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のマルタ総督モーリス・ドーマン及び同夫人を御引見になる。この度の来訪に際し、天皇・皇后より総督夫妻に凶録『宮殿』^{普及}本を賜う。なお後日、総督より来日中に受けた款待に感謝する旨の書簡^{式部官}長宛てが寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、外交雑録、宮内庁庁報

常磐会総会に御出席のため、午後一時二十分御出門、椿山荘に行啓される。御到着後、会長伏見朝子・椿山荘支配人公平武の先導により御休所に入られ、宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・容子内親

昭和四十五年六月

王と御対面になり、また伏見朝子・梨本伊都子・賀陽敏子・東久邇聡子の拝謁を受けられる。それより総会場の^{富士の間}に進まれ、余興として松崎倭佳ほかによる長唄「吾妻八景」をお聴きになる。終わって懇親会場^{奉の間}に移られ会場内をお廻りになり、会員一同と御懇談、御会食をされる。ついで展示場^{噴水の間}において、創作折り紙作品の展示を作者吉沢章の説明により御覧になる。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

六月

一日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のベネズエラ国駐節特命全権大使鶴我七蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成長ぶりを御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二日 火曜日 午後、花の間において、この度日本芸術院賞を受賞の元楽長安倍季巖の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、典式録、贈賜録

四日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のニカラグア国大統領アナスタシオ・ソモサ・デバイレ及び同夫人と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后から大統領夫妻に^{特製}「宮殿」^本を御贈進になる。大統領夫妻からは、天皇・皇后に籠花の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

元国務大臣岡部長景去る五月三十日死去につき、天皇・皇后より御使として侍従松平潔を岡部邸に差し遣わされ、祭装料を賜う。また、岡部は昭和四年から翌年にかけて内大臣秘書官長兼式部次長を務めたことから、天皇・皇后より霊前に菓子を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、賜与録

コスタリカ国特命全権大使フェデリーコ・ポリオ・ゴンザレス去る五月三十一日本国において死去につき、この日大使夫人に対する天皇・皇后の弔意が宮内庁長官より外務大臣に伝達される。また弔祭式に際しては、天皇・皇后より霊前に花環をお供えになる。後日、大使夫人よりお礼の書簡が寄せられる。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

八日 月曜日 午後、学習院女学部御卒業五十年を記念し、連翠南において元教授今井熊太郎・同松島彝及び御学友・御同級生約四十名の拝謁をお受けになる。続いて連翠北において、お茶の席を設けられる。その後、西車寄において一同と記念写真の撮影を受けられる。○女官長日記、女官日誌、典式録、宮

殿行事録

十日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のペルー国駐筭特命全権大使番徹夫及び同夫人、ボリビア国駐筭特命全権大使藤本正雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所主任山崎太郎の説明により蚕が繭を作りつつある様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

昭和四十五年六月

十一日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のグアテマラ国特命全権大使カルロス・エンリケ・モリーナ・ムニョス、イラク国特命全権大使アル・サイド・モフセン・フセイン・アル・ハビーブ及び同夫人、オーストラリア国特命全権大使ゴードン・フリース及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、謁見録

十二日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のタンザニア国第二副大統領ラシド・ムファウメ・カワワ及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より第二副大統領夫妻に凶録『宮殿』普及本を賜う。また、第二副大統領夫妻より天皇・皇后に献上があり、皇后にはタンザナイト入り銀製ペンダントが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のタイ国皇太后ラムバイ・バルニと御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき天皇・皇后より、皇太后並びに同席の同国王族カラウィック・チャクラパン及び同妃ポン・パサマニー・チャクラパン皇太后の美妹にそれぞれ凶録『宮殿』普及本を御贈進になる。なお、翌々日の離日に際して皇太后より皇后に盛花の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、外賓参内録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会见学を兼ねて非公式に来日中のヨルダン国王妃モウナ・アル・フセイン及び同国王弟妃フィリアルと御会見になる。この度の来

訪につき、天皇・皇后より王妃及び王弟妃にそれぞれ図録『宮殿』^{普及本}を、皇后より王妃に『桃苑画集』を御贈進になる。王妃からは皇后に貝細工張り宝石箱の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、外賓参内録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に鳳凰の間において、去る五月一日に死去した元王族李垠の子息李玖の拜謁をお受けになる。なお、天皇・皇后より李垠の霊前に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、初繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十八日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のインド国特命全権大使シシール・クマール・バネルジー及び同夫人、ニカラグア国特命全権大使カルロス・マヌエル・ペレス・アロンソ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、天皇と共に正殿梅の間において、米国より帰国の途次来日のタイ国王女ウボン・ラタナと御会見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同王女に図録『宮殿』^{普及本}を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、外賓参内録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿梅の間において、日本万国博覧会に際し来日中のフィリピン国大統領夫人イメルダ・ロムアルデス・マルコスと御会見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同大統領夫人に九谷焼飾皿等を、皇后より『桃苑画集』を御贈進になる。また、同国大統領フェルディナンド・エドラリ

ン・マルコス及び同夫人より天皇・皇后に御贈進があり、皇后にはテーブルマット等が贈られる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十一日 日曜日 午前、日本万国博覧会協会からの願い出により、天皇と共に同博覧会記念の貴賓署名録に御署名になる。なお、貴賓署名録は二十五日に宮内庁次長より同協会東京事務所長に伝達される。○侍従日誌、賜与録、重要雑録

二十五日 木曜日 午前、天皇と共に連翠において、日米知事会議に出席のため来日中のユタ州知事カルヴィン・L・ランプトン及び同夫人、ウイスコンシン州知事ウオレン・P・ノールズ、ミズーリ州知事ウオレン・E・ハーンズ、ネブラスカ州知事ノーバート・T・ティーマン、ケンタッキー州知事ルイ・B・ナン及び同夫人、モンタナ州知事フォーレスト・H・アンダーソン及び同夫人、ウエストバージニア州知事アーチ・A・ムーア、プエルトリコ米国自治連邦区知事ルイス・A・フェレー、オハイオ

州知事ジェイムズ・A・ローズ、アメリカ全国知事会事務局長ブレヴァード・クリフィールドを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の謁謁があり、受章者光島賢正より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、ネパール国エベレスト峰登頂に日本人として初めて成功した日本山岳会エベレスト登山隊隊員等の謁謁があり、隊長松方三郎より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

宮内庁序報

天皇と共に連翠北において、リベリア国特命全権大使ローランド・ヘンリー・クーパー及び同夫人、ネパール国特命全権大使ブラカーシユ・チャンド・タクル及び同夫人、コートジボワール国特命全権大使ピエール・ネルソン・コファイ及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、紅葉山御養蚕所八十年記

念誌

七月

二日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十五分同邸に御到着になる。なお御出発は昨日の御予定であったが、集中豪雨等の影響のため、この日に延期された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

六日 月曜日 午前九時四十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時十三分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

七日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中の中華民国副総

昭和四十五年七月

統敵家淦及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より副総統夫妻に図録『宮殿』

普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮

内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のニュージーランド国首相ケース・ジャツカ・ホリオーク及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より首相夫妻に図録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、

賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 水曜日 来る八月六日の垂仁天皇千九百年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に正殿竹の間において、元東京大学教授齋藤忠より「垂仁天皇の御事蹟について」と題する進講をお聴きになる。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

天皇と共に宮殿御車寄内において、管理部長高尾亮一より昨年九月に栃木県塩谷郡高根沢町・芳賀郡芳賀町に開場した御料牧場についての説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌

九日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国立公衆衛生院労働衛生学部長鈴木武夫より「公衆衛生学からみた「公害」について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

午後、天皇と共に皇居内総合倉庫前広場にお出ましになり、この度カナダ国政府より献上されたモーターボートを御覧になる。本ボートは前回の万国博覧会主催国であるカナダ国政府が、日本万国博覧

会開催を記念して天皇の海洋生物御採集用として献上したもので、この日、献上式が行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交贈答録

十一日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、鷹司和子と御対面になり、去る四日に松平尚武を和子の養子とする件が決まったことにつき、お礼言上を受けられる。ついで和子と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 月曜日 日本万国博覧会会場及び地方事情を御視察のため、天皇と共に大阪府に行啓される。午前九時四分御出門、東京駅より新大阪駅を経て、午後零時五十分大阪府吹田市の日本万国博覧会会場に御到着になる。迎賓館において、日本万国博覧会日本政府代表萩原徹・日本万国博覧会協会会長石坂泰三その他の拝謁をお受けになる。その後、オランダ館、スイス館、日本民芸館の各展示を御覧になる。四時三十六分御泊所大阪ロイヤルホテルに御到着になる。なお後日、天皇・皇后に、オランダ館御訪問の記念として同国政府代表ジョセフ・M・L・T・カルスより書籍『レンブランド』が、スイス館御訪問の記念として同国特命全権大使エミール・シュターデルホーファーより小箱入り書籍『今回の万国博覧会へのスイス国参加のため特に編集されたもの』が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、大阪府行幸啓録、外交贈答録、宮内庁序報、官報、日本万国博覧会公式記録

十四日 火曜日 午前八時二十三分天皇と共に御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、日本万国博覧会会場に行啓され、月の石を展示のアメリカ館のほか、オーストラリア館、ドイツ館、フランス館を御巡覧になる。一旦御泊所に戻られ、午後三時二十四分、再び天皇と共に日本万国博覧会会場に向かわれる。御到着後、大韓民国館、中華民国館、続いて万国博美術館の展示を御覧になる。迎賓館におい

昭和四十五年七月

て御夕食後、近鉄レインボーロープウエーにお乗りになり、会場の夜景を御覧になる。八時十九分御泊所大阪ロイヤルホテルに還御される。なお後日、天皇・皇后にオーストラリア館御訪問の記念として同国政府代表トーマス・K・モリソンより同館に展示のヘゴ^{シダ}植物が、またフランス国特命全権大使ルイ・ド・ギランゴよりフランス館に展示のフロジャックの写真の複製が献上される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、大阪府行幸啓録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会公式記録

十五日 水曜日 午前九時五十九分天皇と共に御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、住吉大社に行啓され、第一本宮・第二本宮・第三本宮・第四本宮の御拝座において、天皇に続きそれぞれ御拝礼になる。その後、大阪護国神社にお立ち寄りになり、拝殿階下において御拝礼になる。次に大阪府臨海センターを御視察の後、仁徳天皇陵に行啓され、御拝所において天皇に続き御拝になる。ついで大阪府公害監視センターを御視察になり、午後三時十分御泊所大阪ロイヤルホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、大阪府行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 木曜日 午前八時二十八分天皇と共に御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、日本万国博覧会会場に行啓され、ソビエト連邦館、ベルギー館、ブルガリア館、英国館を御巡覧になる。日本万国博覧会協会本部において御昼食の後、専売公社館「虹の塔」、地方自治体館、電気通信館の各展示を御覧になり、午後三時四十六分御泊所大阪ロイヤルホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舎人供奉日誌、幸啓録、大阪府行幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会公式記録

十七日 金曜日 午前十時八分天皇と共に御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、日本万国博覧会会場に行啓され、ザンビア館、クウェート館、ニュージーランド館を御巡覧になる。続いて迎賓館におい

て、日本万国博覧会日本政府代表萩原徹・日本万国博覧会協会会長石坂泰三その他の拜謁をお受けになる。終わって、午後零時十九分迎賓館を御出発になり、新大阪駅より東京駅を経て、午後四時六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、大阪府行幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会公式記録

十八日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のガーナ国特命全權大使サミュエル・パトリック・オフエイ・クミを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 日曜日 御昼餐前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十日 月曜日 午前十時八分御出門、天皇と共に那須御用邸に行啓される。その途次、昨年九月に栃木県塩谷郡高根沢町・芳賀郡芳賀町に開場した御料牧場新東京国際空港設置計画に伴い千葉県成田市にあった下総御料牧場より移転にお立ち寄りになり、御昼餐の後、馬車で場内を巡られる。終わって同牧場を御出発、宇都宮駅より黒磯駅を経て、

午後五時二分那須御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に清水沢方面にお出ましになる。以後、那須御用邸御滞在中は天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十二日 水曜日 午前、植物御調査に御出発の際、天皇と共に御用邸御車寄において那須町長笹沼

昭和四十五年七月

賢弥及び同町議会議長平山力男に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

二十三日 木曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、典式録、那須御用邸管理事務所日誌

二十四日 金曜日 この日近衛甯子の第一子命名につき、崇仁親王・同妃百合子へ初孫誕生のお悦びとして天皇・皇后より三種交魚代料を御贈進になる。○女官長日記、贈賜録

二十九日 水曜日 午前九時二十八分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のマレーシア国首相トウンク・アブドウル・ラーマン・プトウラ及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より同首相夫妻に凶録『宮殿』普及本を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、今般養子縁組の手続きを終えた鷹司和子・同尚武が同綏子故鷹司信輔夫人・松平章子尚武実母と共に参内につき、御対面になる。天皇・皇后より鷹司和子に万

那料・菓子を、尚武に万那料及びお品等を、綏子及び松平章子に万那料及び紅葉山御養蚕所産一越縮

緬等を賜う。尚武からは天皇・皇后に万那料の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

八月

四日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二日英国留学より帰国した寛仁親王の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

五日 水曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中の中央アフリカ国大統領ジャン・ベデル・ボカサと御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より大統領に綴錦額^{花籠社丹紋}等を御贈進になる。大統領からは天皇・皇后に象牙モザイク飾り板等の贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 木曜日 午前、垂仁天皇千九百年式年祭の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

七日 金曜日 来日中のエチオピア国皇太子アスファ・ウオセン及び同妃・子女三名のため、天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より回国皇太子・同妃に凶録『宮殿』^{普及本}を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

八日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のベトナム共和

昭和四十五年八月

国首相チャン・テイエン・キイエム及び同夫人を御引見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶等を賜う。首相夫妻からは天皇・皇后に象牙^{木彫}、夫人からは皇后に鼈甲製化粧粉入れ^{丸型}等の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁序報

答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁序報

十二日 水曜日 正午より天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のラオス国王スリ・サヴァン・ワッタナ及び王妃と御会見になる。続いて天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より国王・王妃に有田焼飾皿^{桃絵}等を御贈進になる。後日、国王・王妃より来日中に受けた款待に対する礼電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外賓接待録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

十四日 金曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本万国博覧会に際し来日中のタイ国王族ワン・ワイタヤコン・クロムムン・ナラディップ・ボングプラバン及び同妃と御会見になる。ついで天皇と共に連翠北において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后よりワン・ワイタヤコン及び同妃に図録『宮殿』^{普及本}を、皇后より同妃に『桃苑画集』及び『錦芳集』を御贈進になる。同妃からは皇后にタイ・シルク布地等の御贈進がある。なお別に後日、皇后より同国王妃に両画集を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁序報

十五日 土曜日 午前十一時四十九分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦

没者追悼式に御臨席になる。午後零時二十六分還啓される。なお、天皇・皇后より追悼式を行う厚生省に対して生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十六日 日曜日 日本万国博覧会会場を御視察のため、天皇と共に大阪府に行啓される。午後二時九分御出門、東京駅より新大阪駅を経て、五時四十五分御泊所大阪ロイヤルホテルに御到着になる。その後、日本万国博覧会日本政府代表萩原徹・日本万国博覧会協会会長石坂泰三その他の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、万国博覧会行幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

十七日 月曜日 午前十時御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、天皇と共に日本万国博覧会会場に行啓され、インド館、タイ館、エチオピア館を御巡覧になる。日本万国博覧会協会本部において御昼食の後、チエコスロバキア館、ビルマ館、フィリピン館、タンザニア館、国連館を御巡覧になる。なお、国連館においては平和記念碑に天皇・皇后より生花のお供えがある。午後四時御泊所大阪ロイヤルホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、万国博覧会行幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会公式記録

十八日 火曜日 午前十時御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、天皇と共に日本万国博覧会会場に行啓され、RCD館トルコ国・イラン国・パキスタン国の共同展示館、アルジェリア館、セイロン館、ラオス館を御巡覧になる。日本万国博覧会協会本部において御昼食の後、メキシコ館、キューバ館、コロンビア館、チリ館、ポルトガル館を御巡覧になる。午後四時二十一分御泊所大阪ロイヤルホテルに還御される。なお後日、イラ

昭和四十五年八月

ン国皇帝に代わり同国特命全権大使ヌーレットイン・キアより、天皇・皇后のRCD館御訪問の記念として絹製手織り絨毯が贈られる。また、ラオス館御訪問の記念として同国特命全権大使チャウ・ニット・ノカム及び同夫人より天皇・皇后に献上があり、皇后に絹シヨールが、メキシコ館御訪問の記念として同国ヴェラクルス州知事ラファエル・ムリロ・ヴィダル及び同夫人より天皇・皇后にお二方の御肖像を織り込んだ綴れ手織製サラペ^{肩掛}が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、万国博覧会行幸啓録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会公式記録

十九日 水曜日 午前十時四分御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、天皇と共に日本万国博覧会会場に行啓され、象牙海岸館、シンガポール館、インドネシア館を御巡覧になる。続いて日本万国博覧会協会本部に入られ、日本万国博覧会日本政府代表萩原徹・日本万国博覧会協会会長石坂泰三その他の拝謁をお受けになる。午後零時二十二分協会本部を御出発になり、新大阪駅より東京駅を経て、四時六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、万国博覧会行幸啓録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、日本万国博覧会公式記録

二十日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のアフガニスタン国特命全権大使アブドウル・ハキーム・タビービー及び同夫人を御引見になる。なおこの御引見は、去る十一日に予定のところ、天皇の御風気によりこの日に延期された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、外交贈答録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、近く赴任の米国駐劄特命全権大使牛場信彦及び同夫人、エチオピア国駐劄特命全権大使瓜生復男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、拝謁録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

この度の台風九号により甚大な被害を受けた鹿児島県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

元侍従長藤田尚徳去る七月二十三日死去につき、この日天皇・皇后より祭染料を賜う。翌二十二日、霊前に天皇・皇后より菓子・果物を、皇后より切り花を賜う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 午後、天皇の植物御調査に御同行のため、小深堀方面にお出ましになる。以後、那須御用邸御滞在中は天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十四日 月曜日 午後、天皇と共に謁見所において、内閣総理大臣佐藤栄作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、佐藤栄作日記
二十六日 水曜日 午後、天皇と共に謁見所において、特命全権大使松井明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

この度の台風十号により甚大な被害を受けた高知県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、

宮内庁庁報

二十九日 土曜日 午前九時二十八分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時二十一分皇居に還啓

昭和四十五年九月

される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任の経済協力開発機構^{C D E}日本政府代表部特命全権大使鶴見清彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九月

一日 火曜日 午前、称徳天皇千二百年式年祭の儀につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時八分御出門、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになる。栃木県知事横川信夫よりこの日行われるキジの放鳥についての説明をお聞きになり、ついで知事から献上されたキジをお放ちになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

天皇と共に、御用邸内のテニスコート跡の湿地にお出ましになる。以後、那須御滞在中は天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

四日 金曜日 永久王三十年式年祭に当たるため、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、贈賜録

九日 水曜日 久邇倪子^{御母}の祥月命日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、典式録

十六日 水曜日 午前、天皇と共に参殿者休所において、宮内記者会会員に御会釈を賜い、各記者からの質問にお答えになる。その際に、天皇の御即位後最も印象深く苦労したことについてはいろいろありこれとは言えないこと、料理については今はしていないこと、美容法については特になく美容体操も今はしていないこと、絵画については今は花を描いており、また絵巻物は制作途中であること、天皇のお顔は描いていないが非常に難しいこと、翌年の天皇の七十歳のお祝いについては何も考えていないことなどをお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、天皇記者会見、昭和天皇と私達

十八日 金曜日 午前九時二十八分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十九日 土曜日 午前九時三十七分御出門、天皇と共に東京都立産業会館に行啓され、第一回国際海洋開発展を御覧になる。十時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に石橋の間にお出ましになり、同所の日本画「石橋」の両側に飾り付けるため、今般前田青

昭和四十五年九月

邸が揮毫の白・紅牡丹図を、侍従次長徳川義寛の説明により御覧になる。翌月二十八日にもお一方にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、賜与録

二十日 日曜日 午後三時五十三分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓され、大相撲九月場所八日目を御覧になる。六時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、大阪大学教授井上薫より「称徳天皇御事蹟について」と題する進講をお聴きになる。なおこの進講は去月十日に実施予定のところ、天皇の御風気によりこの日に延期された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、それぞれ御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のカンボジア国特命全権大使ポック・チューン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された第二十二回保健文化賞受賞者の賜謁があり、厚生大臣内田常雄より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 午前十時十二分御出門、昭和四十五年度全国赤十字大会に名誉総裁として御臨席

のため、日比谷公会堂に行啓される。御着後、御休所に入られ、名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。ついで、厚生大臣内田常雄・日本赤十字社社長東竜太郎・同副社長石坂泰三・同田辺繁雄の拝謁を受けられ、それより式場にお出ましになる。「君が代」斉唱、社長挨拶の後、金色有功章受章者総代十一名、章銀の有功章受章者総代一名、特別社員章受章者総代一名に各章及び章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会に出席して、日ごろ赤十字のためにいろいろ力を尽くしている皆さんに、親しく接することができましたことを、大変うれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来九十三年の長い間、人道と博愛を使命として、国の内外にわたり、数々の有益な事業を行なってきましたが、その任務はますます重要性を加えるものと思えます。

ただいま受章した皆さんをはじめ、社員並びに奉仕者の皆さんが、今後とも互いに協力して赤十字の活動を推進し、各国の赤十字社と相携えて、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望んでやみません。

続いて社長の奉答、受章者代表山田福太郎の謝辞、厚生大臣の祝辞、赤十字奉仕団員・青少年赤十字団員の各体験発表、日本赤十字中央女子短期大学学生の「あこがれの赤十字」合唱があり、閉式後御退出、十一時二十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

正午過ぎ、天皇と共に正殿梅の間において、日本万国博覧会名誉会長佐藤栄作内閣総理大臣・同政府代表萩原徹・日本万国博覧会協会会長石坂泰三・同事務総長鈴木俊一等の博覧会関係員に御会釈、天皇に続きお言葉を賜う。引き続き天皇と共に連翠北において、佐藤以下に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女

昭和四十五年十月

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 日曜日 午後一時五十分御出門、天皇と共に鷹司邸^{新居}に行啓される。鷹司和子より各部屋の案内を受けられ、三時四十分還啓される。なおこの度の行幸啓に際し、天皇・皇后より和子に皇后の御絵「椿」、果物、万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 元陸軍中将元侍従武官長宇佐美興屋昨二十七日死去につき、天皇・皇后より靈前に菓子・切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のスウェーデン国特命全權大使カール・フレドリク・アルムクウイスト及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

昭和四十五年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、この日、天皇・皇后より事業御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十月

二日 金曜日 午前十時三分御出門、天皇と共に多摩陵^{大正天皇陵}及び多摩東陵^{貞明皇后陵}に行啓される。御着後、天皇に続き両陵を御拝礼になる。午後二時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、大韓民国訪問の帰途来日中のエルサルバドル国大統領フィデール・サンチェス・エルナンデス及び同夫人と御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、外賓参内録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、厚生大臣内田常雄の挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る九月十三日をもって日本万国博覧会終了につき、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王妃百合子・寛仁親王・宜仁親王を招かれ、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、典式録

六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のコロンビア国特命全権大使エドゥアルド・レストレポ・デル・コラル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、藍綬褒章を授与された最高裁判所関係調停委員等の賜謁があり、東京地方裁判所調停委員新義忠の挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のマレーシア国駐節特命全権大使広田積及び同夫人、メキシコ国駐節特命全権大使加藤匡夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

昭和四十五年十月

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任の大韓民国特命全権大使李厚洛及び同夫人、コスタリカ国特命全権大使ヴィヴィアン・ジェイムス・ウッドフォード・ファーニス・セグレダ及び同夫人・息女、ニカラグア国特命全権大使ミゲル・デスコト・イ・ムニョス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 木曜日 午前、正殿梅の間において、この度任期を終え帰国した前米国駐箚特命全権大使下田武三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 金曜日 岩手県において開催される第二十五回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時十八分御出門、原宿駅より盛岡駅を経て、午後五時四十分御泊所盛岡グランドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十日 土曜日 午前十時八分天皇と共に御泊所盛岡グランドホテルを御出発、岩手県庁を訪問される。物産品等を御覧になり、続いて岩手県バラの会会長久保進の説明によりバラを御観賞になる。御昼食後に御出発、岩手県営運動公園陸上競技場に臨まれ、国民体育大会開会式に御臨席になる。午後三時五十四分御泊所盛岡グランドホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩手国体行幸啓誌

十一日 日曜日 午前十時天皇と共に御泊所盛岡グランドホテルを御出発、西根町立西根中学校にお

いて御少憩になり、岩手山を写生される。その後、日本重化学工業株式会社松川地熱発電所、岩手県養鱒場を御視察になる。同所において御昼食の後、岩手県営運動公園ラグビー場に臨まれ、国体ラグビー競技を御覧になる。終わって、午後三時五十分御泊所盛岡グランドホテルに還御される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩手国体行幸啓誌

十二日 月曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所盛岡グランドホテルを御出発、盛岡駅より北福岡駅を経て岩手県立福岡高等学校体育館に御到着になり、国体剣道競技を御覧になる。次に福岡町役場を訪問され、町民等の奉迎にお応えになる。同所において御昼食後、北福岡駅より沼宮内駅を経て、岩手町営総合グラウンドに御到着になり、国体ホッケー競技を御覧になる。その後、岩手県立農業試験場並びに同県立農業博物館を視察され、午後四時三十五分御泊所盛岡グランドホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩手国体行幸啓誌

翌十三日から十八日まで大阪阪急百貨店において「秋のばら会展」財団法人日本ばら会
会関西支部主催開催につき、この日、

吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。十五日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十三日 火曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所盛岡グランドホテルを御出発、岩手護国神社にお立ち寄りになり、御拝礼になる。ついで岩手県工業試験場を御視察になる。続いて紫波町営自転車競技場において、国体自転車競技を御覧になる。午後零時五十七分御泊所佳松園に御到着になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩手国体行幸啓誌

十四日 水曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所佳松園を御出発、養護老人ホーム北上市立北星荘を御訪問になり、入居する老人たちに天皇に続き励ましのお言葉を賜う。ついで緯度観測所を御視

昭和四十五年十月

察になる。同所にて御昼食の後、水沢競馬場に臨まれ、国体馬術競技を御覧になる。その後、水沢地区合同庁舎を御訪問、市民の奉迎に応えられ、郷土芸能「日高囃子」を御覧になる。次に中尊寺において、金色堂の堂内を御覧になる。午後四時二十分御泊所いづくし園に御到着になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岩手国体行幸啓誌

十五日 木曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所いづくし園を御出発、一ノ関駅より原宿駅を経て、午後四時三十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸

啓録、宮内庁庁報、官報、岩手国体行幸啓誌

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮を御遙拝、ついで賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 日曜日 この日、東宮御所において文仁親王の着袴の儀が行われる。午前、天皇と共に吹上御所において、儀を終え童形服姿のまま参殿の親王と御対面になる。同親王の着袴につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、文仁親王に鮮鯛代料及び御台人形代料を賜う。これとは別に、天皇・皇后より文仁親王にお品を賜う。また、皇太子・同妃より天皇・皇后に鮮鯛代料の、文仁親王より天皇・皇后に鮮鯛の献上がある。なお、この儀は五月十日に挙行の予定であったが、同月九日に正田きぬ死去につき、延期となっていた。

文仁親王着袴の儀に当たり皇太子・同妃主催の内宴に御臨席のため、午後六時二十四分御出門、天皇と共に東宮御所に行啓される。九時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、典式録、贈賜録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、靖国神社靈璽奉安祭に参列の各都道府県沖繩を含むの代表遺族の賜謁があり、靖国神社権宮司池田良八より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

「英国風景画展―ターナー、コンスタブルとその周辺―」

国立西洋美術館、日本経済新聞社、ブリテイッシュ・カウンシル主催、外務省、文化庁、英国大使館後援 を御覧

になるため、午後二時御出門、国立西洋美術館に行啓される。玄関において文部大臣坂田道太、文化庁次長安達健二、英国代理大使D・R・アシュ、ブリテイッシュ・カウンシル総裁フルトン卿及び同夫人、英国国立ビクトリア・アンド・アルバート美術館絵画部長A・G・レイノールズ、ブリテイッシュ・カウンシル駐日代表R・A・H・デューク、日本経済新聞社社長田城寺次郎その他のお出迎えを受けられる。その後、館長山田智三郎の説明により、コンスタブル作「水門」、ターナー作「水のある風景」を始め十八・十九世紀の英国風景画の展示を御巡覧になる。終わって三時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、日本経済新聞

二十日 火曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のタンザニア国特命全権大使ジョージ・バテガ・ルシンビ、インド国特命全権大使ヴィンセント・ハーバート・コエリオ及び同夫人、中央アフリカ国特命全権大使クリストフ・マイドゥ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内

舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 去る二十一日前皇室医務主管前侍医長村山浩一死去につき、天皇・皇后より祭料を賜う。また霊前に天皇・皇后より菓子、皇后より切り花をお供えになる。同じく二十一日元宮内省出仕元侍従内藤政恒死去につき、天皇・皇后より祭料を賜う。また霊前に菓子・切り花をお供えになる。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

二十四日 土曜日 午前、吹上御所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。親王より、国際連合創立二十五周年記念中央祝賀大会この日本武道館において開催に御風気の天皇の御名代として臨席の復命を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 月曜日 午前、花の間において、来る十一月九日結婚の朝香美乃子孚彦王第二王女の拝謁を、天皇の御風気によりお一方にてお受けになる。その際御前にて、天皇・皇后よりの万那料・洋服地等を賜う。また別に、この度の結婚に際し、天皇・皇后より朝香孚彦に清酒・鮮鯛代料を、美乃子に扇子代料・白縮緬を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

午後、花の間において前田青邨の拝謁をお受けになり、御絵を披露される。○女官長日記、女官日誌

二十八日 水曜日 この日から翌月三日まで新宿伊勢丹百貨店において「秋の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。三十日、翌月一日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録、読売新聞

元侯爵華頂博信博恭王第三王子 去る二十二日米国ロサンゼルス市において死去につき、この日、天皇・皇后より霊前に棹物を賜う。十一月二十五日に東京において行われる告別式には、天皇・皇后より霊前に切

り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

十一月

一日 日曜日 迎賓館において開催の錦江会に行幸啓予定のところ、天皇の御風気によりお取りやめになる。○侍従日誌、行幸啓録、贈賜録

二日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のアフガニスタン国特命全権大使サイド・カシム・リシテイヤ、パキスタン国特命全権大使サイド・モタヘル・フセイン及び同夫人を順次御引見になる。
○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 火曜日 正午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会で選ばれた健康優良児童及び健康優良学校の代表等の謁見があり、同表彰会会長岡岡知男朝日新聞社社長より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 水曜日 午後零時十五分御出門、日本赤十字社関東・山静支部連合赤十字大会に名誉総裁として御臨席のため、歌舞伎座に行啓される。御休所において、名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、厚生大臣内田常雄・日本赤十字社長東竜太郎・東京都支部長美濃部亮吉大会代表その他の拝謁を受けられる。それより式場に臨まれる。赤十字平和宣言、大会代表の式辞に続き、日本赤十字社有功章、特別社員章の記章及び章記を御親授になる。続いて社長特別表彰の後、次のお言葉を賜う。

昭和四十五年十一月

本日、関東山静支部連合赤十字大会に出席して、日ごろから赤十字の事業に尽力している皆さんに、親しく接することができましたことを、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来九十三年の長い間、博愛と人道を使命として、数々の有益な事業を行なってきましたが、この地区の赤十字活動も、皆さんの努力により、力強くすすめられていることを聞き、喜びにたえません。

赤十字の任務は、これからますます大きくなると思います。社員及び奉仕者の皆さんは、なおいつそう使命の達成に献身して、人々の信頼と期待にこたえるよう努力されることを希望します。

ついで大会代表の奉答の辞、社長挨拶、厚生大臣祝辞などがある。式後、御休所に入られ御少憩の後、

二階のお席にお出ましになり、松竹七十五周年記念顔見世大歌舞伎公演「伽羅先代萩」のうち鎌倉花水橋・足利家御殿・足利家床下、及び「松と竹」を御鑑賞になる。四時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

五日 木曜日 明治神宮鎮座五十年に当たり御参拝のため、午前九時五十四分御出門、天皇と共に同神宮に行啓され、天皇に続き、内拜殿の御拝座において御拝礼になる。十二時九分還啓される。なお、御参拝に際し、天皇・皇后より明治神宮に幣帛料及び神饌料をお供えになる。また、明治神宮鎮座五十年に当たり次の御歌を賜う。

まなびやにかよひそめたるをさなき日金剛石をみまへにうたひき

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

午後、正殿梅の間において、新任のガーナ国特命全権大使シルヴェスター・コフィ・ウイリアムズ、カンボジア国特命全権大使シム・ヴァル及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 金曜日 天皇と共に正殿竹の間において、政府賓客として来日中のキプロス国大統領マカリオス^{大主}と御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、

天皇・皇后より大統領に七宝花瓶^{紅葉}・凶録『宮殿』^{特製}を御贈進になる。また、大統領より天皇・皇

后に御贈進があり、皇后には麻地手刺繡テーブルクロス及びナプキンが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新女官小野慰子及び前女官小川梅子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十四分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

平安神宮宮司小松輝久去る五日死去につき、天皇・皇后より盛花・菓子^{輝久の子息}を靈前に賜い、小松彰久に祭資を賜う。○贈賜録

十三日 金曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のベトナム共和国駐劄特命全権大使東郷文彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

十四日 土曜日 去る十二日赤坂御用地内に三笠宮新邸が落成につき、天皇・皇后より三笠宮に切子

赤硝子花瓶大正十年九月白耳義硝子会社から献上・三種交魚代料・清酒・料理を賜う。三笠宮は品川区上大崎の旧宮邸より翌

十五日移転する。○女官長日記、贈賜録、官報、朝日新聞、東京新聞、毎日新聞

十五日 日曜日 午前十時五十四分御出門、天皇と共に東宮御所に行啓される。同所において皇太子・

同妃及び徳仁親王・文仁親王・清子内親王、故雍仁親王妃勢津子・鷹司和子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。終わって午後二時に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、元王族李方子の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のトルコ国特命全權大使トウル

グート・アイトゥー及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午前、天皇と共に宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合主催の文化祭

の美術展を御覧になる。同展には御絵「初秋」屏風仕・「春たけなは」同・「入り日」・「ゆふ波」・「ひ

でり」・「晩夏」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、文化祭目録

午後、天皇と共に春秋の間において、藍綬褒章・黄綬褒章又は紫綬褒章を授与された文部省関係功勞者等の賜謁があり、紫綬褒章受章者島蘭順雄より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 午前、花の間において、宮内庁職員組合主催の文化祭の美術展を観覧のため参上の御学友等の拝謁をお受けになる。午後も同所において、観覧に参上の元奉仕者の拝謁を受けられる。

○女官長日記、女官日誌

ポーランド国特命全権大使ジグムント・フルターク及び同夫人、コンゴ民主共和国特命全権大使レオナルド・ムランバ及び同夫人、ルーマニア国特命全権大使ヨシフ・ゲオルギウ及び同夫人のため、天皇と共に連翠北において午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、近く赴任のトルコ国駐節特命全権大使須山達夫及び同夫人、ジュネーブ国際機関日本政府代表部特命全権大使北原秀雄及び同夫人、ザンビア国駐節特命全権大使松尾隆男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 御昼餐前、天皇と共に芳菊の間において、明治神宮宮司甘露寺受長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十六日 木曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、文部大臣から表彰された教育功労者等の謁があり、被表彰者高橋早苗より挨拶を受けられ、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 日曜日 午前十時三十七分御出門、天皇と共に国会議事堂に行啓され、議会開設八十年記念式典に御臨席になる。終わって、議会政治資料を御覧になり、また永年在職表彰現議員の拝謁を受けられる。午後零時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、

賜与録、宮内庁庁報、官報

三十日 月曜日 午前、宮殿北溜において、全国未亡人団体協議会創立二十周年記念大会に出席の会

長及び副会長等百六十六名の賜謁があり、財団法人全国未亡人団体協議会会長守田厚子滋賀県未亡人団体連合会会長より

挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、重要無形文化財保持者による人形浄瑠璃文楽の会を御鑑賞のため、桃華楽堂にお出ましになる。

竹本越路大夫浄瑠璃・野沢喜左衛門浄瑠璃による浄瑠璃「芦屋道満大内鑑」葛の葉子別の段の後、御休憩を挟み、竹本

津大夫浄瑠璃・鶴沢寛治浄瑠璃・竹沢弥七浄瑠璃・吉田栄三浄瑠璃・吉田文雀浄瑠璃・吉田小玉浄瑠璃・桐竹紋弥浄瑠璃・吉田兵次浄瑠璃

口による人形浄瑠璃「本朝廿四孝」狐火の段を御覧になる。皇太子妃、正仁親王・同妃華子、崇仁親王及び

元皇族・元王族等が陪観する。御退場後、御休所において出演者のうち六名の拝謁をお受けになる。

この日、出演者に御紋付木盃・酒肴料を賜う。○女官長日記、女官日誌、桃華楽堂人形浄瑠璃文楽の会記録、賜与録

十二月

一日 火曜日 来る九日よりタイ国バンコク市で開催される第六回アジア競技大会に日本代表選手団

参加につき、御奨励のため、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁
報

二日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のセイロン国特命全権大使ハーバ
ト・アーネスト・テンアクーン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、
内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

四日 金曜日 東バキスタン高潮被害者救援金の受付けを実施中の日本赤十字社に金一封を賜う。○
賜与録、宮内庁庁報

五日 土曜日 午前、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の雍仁親王例祭に
際するお仕向けのお札を受けられる。同親王例祭執行に当たっては、天皇・皇后より、豊島岡墓地の
御代拝を女官今城誼子に仰せ付けられ、また霊舎・写真・墓所にお供えがある。○女官長日記、女官日誌、
侍従職日誌、典式録

八日 火曜日 エクアドル国特命全権大使アルフレード・コレア・エスコバル及び同夫人・息
女、大韓民国特命全権大使李厚洛及び同夫人、パナマ国特命全権大使アントニオ・ガスパール・スア
レス・シエラ及び同夫人・息女のため、天皇と共に連翠北において午餐を催される。なお翌日、エク
アドル国大使夫妻より午餐のお礼として皇后に花束の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従
職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、近く赴任のノルウェー国駐節特命全権大使藤田久治郎及び同夫人、ルーマニア
国駐節特命全権大使下田吉人及び同夫人、ラオス国駐節特命全権大使谷盛規及び同夫人の拝謁をお受

昭和四十五年十二月

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、翌年一月の崇仁親王・同妃オーストラリア・ニュージーランド両国訪問に際しての随員今城登の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

午後、楽部の洋楽演奏会につき、桃華楽堂にお出ましになる。先着の皇太子妃と共に、メンデルスゾーン作曲序曲「フィンガルの洞窟」、シューベルト作曲交響曲「未完成」などをお聴きになる。途中より徳仁親王も同席し、また別に鷹司和子、久邇邦昭^{御甥}ほか陪聴する。終わって御休所において、楽長辻寿男その他の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 金曜日 午前、花の間において、京都在任の堂上会総代冷泉為安の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のユーゴスラビア国特命全権大使クリスト・ブライイチ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 木曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎ほか二名の拝謁をお受けになる。引き続き同所において進講を聴取され、ついでアフリカのピアフラに関するスライドを御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、典式録

十八日 金曜日 菊栄親睦会会員の皇太子始め皇族・元皇族等を御招待になり、天皇と共に連翠において午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、

東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報

タイ国王族ワン・ワイタヤコン・クロマムン・ナラディップ・ポンプラパン妃より象の置物象牙製の御贈進がある。これに対し後日、式部職に謝意を伝達させられる。○外交贈答録

二十二日 火曜日 歳末につき、この日までに日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助収容患者合計一万一千八百六名に手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録

組紐の指導に際して、病氣中の道明新兵衛第七代に代わりこの年たびたび御用奉仕の山岡俊三道明の女孀に賜物

がある。○贈賜録

二十三日 水曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀を、続いて女官長・女官・元奉仕者等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報
事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を、皇后より財団法人結核予防会に金一封をそれぞれ賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十五日 金曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁

庁報

昭和四十五年十二月

二十六日 土曜日 午後、吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十八日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のブラジル国駐節特命全権大使中村茂及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官以下総代、ついで皇太子始め皇族・元皇族・御縁故者、さらに女官長・女官等より、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

昭和四十六年（西曆一九七一年） 六十八歳

一月

一日 金曜日 午前九時四十五分より宮殿において新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及び各国外交使節団の長等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、天皇と共に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等や宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、東宮録、宮内庁序報、官報

二日 土曜日 新年一般参賀につき、長和殿ベランダに天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共ににお出ましになり、宮殿東庭に集まった一般参賀者に御会釈を賜う。午前二回・午後六回の計八回にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、年末年始諸行事綴、典式録、儀式録、東宮録、宮内庁序報、官報

新年一般参賀の一回目のお出ましの後、天皇と共に鳳凰の間において、憲仁親王始め未成年の皇族等の祝賀を、ついで正殿竹の間において元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録

昭和四十六年一月

三日 日曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、儀式録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。ついでお揃いにて、オーストラリア・ニュージールランド両国訪問一月五日出発、同月二十三日帰国につき挨拶のため参殿の崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

五日 火曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国した前スウェーデン国駐箚特命全権大使三宅喜二郎、近く任地へ赴くイスラエル国駐箚特命全権大使都倉栄二及び同夫人、ネパール国駐箚特命全権大使根本博及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日の雍仁親王祥月命日に際しての豊島岡墓地への女官御差遣につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のフィンランド国特命全権大使オケ・ルドルフ・ヴィヒトルを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王と御夕餐を御会食になる。その後、参殿の清子内親王も加わり、御団欒になる。以後、この年は概ね水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

七日 木曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士

院会員麻生磯次より「芭蕉の自然愛「よく見れば薺花咲く垣根かな」の句を中心に」、慶応義塾大学教授高村象平より「ドイツ・ハンザの経済史的意義」、日本学士院会員内村祐之より「異常な精神現象の進化論的解釈」と題する進講をお聴きになる。進講後、進講者及び進講者控の賜謁があり、天皇と共に正殿竹の間にお出ましになる。なお、この度より正殿松の間に設けられた報道室を宮内記者会が使用することが認められ、明治二年に御講釈が始まって以来、儀式の様子が初めて公開された。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、講書始録、年末年始諸行事綴、宮殿行事録、例規録、宮内庁庁報、官報

午後、鳳凰の間において元女官等より、宮殿御車寄前において元女嬬・元出仕等より、それぞれ新年の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、入江相政日記

花の間において、服部豊子^{ヴァイオ}リニストの拝謁を受けられ、ついで元学習院教授の今井熊太郎、及び御学友・御同級生七名より祝賀を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

元宮内府御用掛島津伊楚子去る五日死去につき、天皇・皇后より祭糒料を賜い、霊前へ切り花・菓子をお供えになる。これとは別に皇后より霊前に野菜一籠を、遺族に料理を賜う。伊楚子は御叔父島津忠重夫人にて、昭和二十一年から同二十三年にかけて宮内省御用掛及び宮内府御用掛を務める。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

八日 金曜日 午後、花の間において、大谷光暢・同夫人智子^御、大谷暢順・同夫人綾乃の拝謁を受けられる。大谷暢順・同綾乃は昨年結婚につき、天皇・皇后より暢順にお品及び万那料を、綾乃にお品及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

夕刻、正殿竹の間において、離任挨拶のため来日した前大韓民国特命全權大使李厚洛及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
元侍医神戸久誠昨年十二月三十一日死去につき、天皇・皇后より祭送料を賜い、霊前に菓子・切り花をお供えになる。神戸は大正十五年から昭和二十年まで侍医を務める。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内

庁庁報

十一日 月曜日 午後、花の間において、曇華院門跡の飛鳥井慈孝の拝謁を受けられる。○女官長日記、

女官日誌、内舍人日誌

十二日 火曜日 午前十時、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「家」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

鴨川の堤のほとりなつかしさをさなきころにすみしかの家

儀終了後、正殿竹の間において召人・選者・諸役の、ついで宮殿回廊において預選者の賜謁があり、天皇と共に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、歌会始録、年末年始諸行事綴、

典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

十三日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のビルマ国特命全權大使バ・シユエ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 来る二十七日の後花園天皇五百年式年祭に先立ち、午前、正殿竹の間において、元東京大学史料編纂所教授玉村竹二より「後花園天皇御事蹟について」と題する進講を天皇と共に聴

きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、例規録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午前、第十四回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援受賞者代表等の賜謁があり、天皇と

共に宮殿北溜にお出ましになる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄より挨拶を受けられ、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

十七日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦・同文子・同真彦・同優子・壬生基博と御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十八日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くカンボジア国駐劄特命全権大使杉浦徳、

ビルマ国駐劄特命全権大使鈴木孝及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿竹の間において、この度離任のメキシコ国特命全権大使フリアン・ロドリゲス・アダメを天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午後、吹上御所において皇太子妃・正仁親王妃華子と御対面になる。それより株式会社道明より人を召され、御一緒に組紐の指導を受けられ、ついでお揃いにて茶菓をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、講書始の儀、歌会始の儀の記録映画等を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十五日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くウルグアイ国駐筭特命全権大使大城
齊敏及び同夫人、スイス国ジュネーブの軍縮委員会日本政府代表部在勤特命全権大使田中弘人及び同
夫人、ポーランド国駐筭特命全権大使力石健次郎及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日
誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に芳菊の間において、オーストラリア・ニュージーランド両国訪問から去る二十三日帰国に
つき参内の崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、
宣召録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くアイルランド国駐筭特命全権大使佐
藤日史及び同夫人、ホンジュラス国駐筭特命全権大使横田弘及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長
日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

午後、正殿梅の間において、新任のトルコ国特命全権大使シユクリユ・エレキダー、大韓民国特命全
権大使李滯及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午前、後花園天皇五百年式年祭の儀が行われるが、邦彦王祥月命日につき、御拝
礼・御代拝共にならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、祭典録、典式録
この日、火災により葉山御用邸本邸の大部分が焼失する。二十八日朝、天皇と共に、当直の侍従井関
英男より火災についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十八日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くベルギー国駐筭特命全権大使安倍勲
及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁序報

午後、宮内庁御用掛武者小路不二子故元駐独大使武者小路公共夫人を召され、フランス語を学習される。以後この年は、

しばしば武者小路を召されフランス語・英語を学習される。○女官長日記、女官日誌

崇仁親王・同妃百合子がオーストラリア・ニュージーランド両国訪問から去る二十三日帰国したため、同親王・同妃及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子をお招きになり、吹上御所において天皇と共に御晩餐を御会食になる。お茶の席には故雍仁親王妃勢津子も出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、重要雑録、宮内庁序報

二十九日 金曜日 午前、花の間において新任の皇宮警察本部長重光武徳ほか一名、前任の同北折篤信ほか一名より拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁序報

オーストラリア・ニュージーランド両国より帰国した崇仁親王・同妃の随員今城登より、鳳凰の間において天皇と共に拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、祭典録
三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二月

一日 月曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、午前中、宮殿へのお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

昭和四十六年二月

二日 火曜日 去る一月三十日、ネパール国王妃ラトナが狩猟中に負傷されたとの報を受け、この日天皇・皇后より国王及び王妃にお見舞電報を發せられる。これに対し二月七日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十五日 月曜日 午前、正殿竹の間において、天皇と共に英国王族マイケル・オブ・ケント英国女王エリザベス二世の従弟と御会見になる。同王子は、去る七日より開催の札幌国際冬季スポーツ大会に出場する英国ボブスレー・チームの一員として来日し、この日、離日する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

十八日 木曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国した前ウルグアイ国駐箚特命全権大使林馨及び同夫人、近く任地へ赴くスウェーデン国駐箚特命全権大使日向精蔵及び同夫人、マダガスカル国駐箚特命全権大使志水志郎及び同夫人の拝謁を順次受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十九日 金曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のエルサルバドル国特命全権大使サルヴァドル・ハウレギを天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 日曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十三日 火曜日 モロッコ国特命全権大使ハッサン・ハジュウイ、チェコスロバキア国特命全権大使ルードルフ・コジュシニツク及び同夫人・息女、イラク国特命全権大使アル・サイド・モフセン・フセイン・アル・ハビーブをお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

この日の朝、天皇・皇后のヨーロッパ諸国御訪問について閣議決定がなされる。なお、御訪問はこの年の九月二十七日から十月十四日までの十八日間であり、ベルギー国・英国・ドイツ連邦共和国を公的に御訪問のほか、オランダ国及びデンマーク国にお立ち寄りになり、御休養地としてフランス国・スイス国にも赴かれる。今回の御訪問は、皇后にとって初めての海外旅行となる。○女官長日記、女官日誌、天皇皇后両陛下御渡欧関係、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、官報、閣議資料

二十五日 木曜日 午後一時十八分御出門、光輪閣へ行啓される。御着後、正仁親王妃華子・崇仁親王妃百合子・梨本伊都子・東久邇聡子・賀陽敏子と御対面になる。ついで円照寺門跡の山本静山の拝謁を受けられ、山村流の生花をなさる。御歓談の後、四時十二分還啓される。夕刻、吹上御所において参殿の宣仁親王妃喜久子と御対面になり、この日の行啓につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

元侍従加藤泰通去る二十三日死去につき、天皇・皇后より霊前にお花料・菓子料を賜う。加藤は昭和二年より同三年まで皇后宮職庶務課長を務める。○贈賜録

三月

二日 火曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のギリシヤ国特命全権大使、ディミトウリ・アヴラミデイス及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、前ベルギー国駐劔特命全権大使小田部謙一の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

午後四時二十三分天皇と共に御出門になり、昨年赤坂御用地内に新築された三笠宮邸に行啓される。新築に伴い昨年十一月十五日同邸に移転した崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王・憲仁親王・容子内親王のお出迎えをお受けになり、皇太子・同妃、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子を交え暫時御団欒になる。ついで邸内の各部屋を御巡覧になった後、御夕餐を御会食になり、八時五十八分還啓される。なお、天皇・皇后より三笠宮に菓子及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、官報

四日 木曜日 午後、天皇と共に芳菊の間において、今般チリ国へ出発する竹田恒徳の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、お誕生日用の写真及び記録映画「組紐をおあみになる皇后陛下」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

六日 土曜日 満六十八歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。つ

いで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、花の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、御車寄前において元女嬬等の祝賀を、花の間において元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。その後、吹上御所において、徳仁親王・文仁親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王、鷹司和子、島津久永・同貴子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

八日 月曜日 祐子内親王の祥月命日につき、午前中は吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

九日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くソビエト連邦駐劄特命全権大使新関欽哉及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報
蕃薇の間において天皇と共に、東京大学名誉教授三上次男より福岡県宗像郡の沖ノ島の遺跡についての進講を、出土品を御覧になりつつお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

午後、芳菊の間において宮内庁長官宇佐美毅の拝謁を天皇と共に受けられ、十月十一日から十三日ま

でのドイツ連邦共和国御訪問の御日程についてお聞きになる。侍従長入江相政・侍従次長徳川義寛・式部官長島重信が同席する。以降九月二十七日の御訪欧御出発までの間、芳菊の間もしくは吹上御所において、式部官長を中心に、宮内庁長官・侍従長・侍従次長・女官長ほかより御訪欧の日程、現地下検分の結果や注意事項等についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、入江相政日記

十日 水曜日 葉山御用邸附属邸に行啓のため、午前九時四十八分天皇と共に御出門になり、十一時十六分に御到着になる。なお去る一月二十七日の本邸焼失に伴い、類焼を免れた附属邸を一部改修し、この度の行啓となった。天皇と共に附属邸に滞在されるのは初めてのことである。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

御昼食後、附属邸海岸柵門から天皇と共に海岸にお出ましになり、昨年竣工した天皇の海洋生物御採集用に造られた御用和船「たけ」を御覧になる。海岸を御散策の後、本邸の敷地内に入られる。以後、約三十分にわたり焼け跡を視察される。特に片隅にスイセンの蕾を見つけられ、御感慨を漏らされる。十七日にも本邸焼け跡まで御散策になり、庭木のウメやソテツを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

十一日 木曜日 午後、前田青邨の拝謁をお受けになり、御絵をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十四日 日曜日 夕刻、元特命全権大使沢田節蔵の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十五日 月曜日 午前九時三十二分、葉山御用邸附属邸を天皇と共に御出門、京急油壺マリンパーク

に行啓される。十一時三十分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、けいひん、神奈川新聞

十六日 火曜日 午前九時四十分、葉山御用邸附属邸を天皇と共に御出門になり、江ノ島水族館に行啓される。十一時五十五分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、江の島水族館二五年のあゆみ、水のなかま、神奈川新聞

十八日 木曜日 葉山御用邸附属邸より還啓のため、午前九時四十四分天皇と共に御出門になり、十一時十一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、正殿竹の間において、この度離任のチリ国特命全権大使アウグスト・マランビオ・カブレラ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 午後、吹上御所において、正仁親王妃華子と御対面になり、株式会社道明から人を召されて御一緒に組紐の指導を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十一日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のドイツ連邦共和国特命全権大使フランツ・クラップフ及び同夫人・息女を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 オーストラリア国特命全権大使ゴードン・フリース及び同夫人、タンザニア国特命全権大使ジョージ・バテガ・ルシンビをお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国した前国際連合日本政府代表部在勤特命全権大使鶴岡千伋及び同夫人、近く任地へ赴くチェコスロバキア国駐劄特命全権大使兼松武及び同夫人、アフガニスタン国駐劄特命全権大使中尾賢次及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十五日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のセイロン国特命全権大使アーサー・バスナヤケ、ついでコロンビア国特命全権大使カルロス・ホルメス・トルヒーリョ及び同夫人を御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 翌二十八日、厚生省主催により硫黄島において同島戦没者の慰霊碑竣工並びに追悼式が行われるに当たり、この日、天皇・皇后より同省に花環を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、千鳥ヶ淵

二十九日 月曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のシンガポール国特命全権大使アン・コック・ペン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、元文化放送企画部長有坂愛彦を召され、連翠南において「音楽史について」と題する進講をお聴きになる。本進講は全三回に及び、四月十二日・五月四日はレコードを用いての進講となる。○女官長日記、女官日誌、進講録、宮殿行事録、天皇皇后両陛下御渡欧記録

三十日 火曜日 午前九時三十二分御出門、「米寿記念前田青邨展」朝日新聞社主催を御覧になるため、日本橋

高島屋に行啓される。御到着後、八階会場において前田青邨及び同夫人、東京大学文学部教授秋山光和ほかのお出迎えを受けられる。青邨の説明及び秋山の補助説明にて展示室を御巡覧になった後、十時三十三分還啓される。なお同展は、青邨の米寿を祝して東京・大阪・名古屋で開催されるもので、「伝教大師絵伝」「西遊記」「洞窟の頼朝」など青邨自らが選んだ作品が展示された。この度の行啓は、青邨が長年皇后の指南役を務めたことから、朝日新聞社より願い出があつたものである。○女官長日記、

女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、吹上御所において天皇と共に竹田恒徳の拝謁を受けられ、チリ国より帰国の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三十一日 水曜日 午前、この日退職する五十五歳以上で勤続二十年以上の宮内庁職員課長以上を除くの賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。退職者代表の長官官房秘書課長補佐高久要より挨拶を受けられ、お言葉を賜う。右基準による退職職員の賜謁はこの度が初めてで、以後恒例となる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のスウェーデン国特命全権大使グンナール・エドヴァルド・ヘックシャー及び同夫人、ついでユーゴスラビア国特命全権大使ヨージェ・スモレ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四月

一日 木曜日 午後、昭和四十五年度音楽大学卒業生による演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・東伏見慈治・同保子・東久邇真彦・同優子・宇治量子のほか、特に思召しにより有坂愛彦・同夫人・服部豊子が陪聴する。第一部として東京芸術大学卒業生による仕舞、武蔵野音楽大学卒業生によるテューバ独奏、国立音楽大学卒業生によるメゾ・ソプラノ独唱、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるソプラノ独唱、桐朋学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏をお聴きになる。御休憩を挟み、第二部の上野学園大学卒業生によるチェンバロ独奏、東京芸術大学卒業生によるソプラノ独唱、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるヴァイオリン独奏、東京芸術大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わって、楽部に設けられた御休所脇廊下において各校代表者、ついで楽部玄関内において出演者に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、音楽大学演奏会、恩賜録

第十六回ユニセフ協力募金を実施の財団法人日本ユニセフ協会に、この日、事業御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 金曜日 午前、正殿竹の間において、コンゴ民主共和国駐劄特命全權大使矢野泰男より同国についての進講を天皇と共にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

午後、鳳凰の間において新侍従職御用掛有島暁子・同安東秀子の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

吹上御所において、参殿の李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

光輪閣が老朽化によりこの月末で閉鎖するため、午後四時十八分天皇と共に御出門になり、同所に行啓される。宣仁親王・同妃喜久子はじめ皇族方と御対面、御少憩の後、お揃いにて高松宮邸内の庭を御散策になる。それより御夕餐を御会食になり、終わって八時四十二分還啓される。なお行幸啓の折、天皇・皇后より高松宮に洋菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記

三日 土曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

四日 日曜日 元皇族伏見朝子^{博義王妃}昨日三日死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされる。また、枢前使・賜物使として侍従卜部亮吾を千代田区三番町の宮内庁分室に差し遣わされ、天皇・皇后より霊前に榊・菓子を、喪主の伏見博明に祭糝料を賜う。また、これとは別に、天皇・皇后より盛花を、皇后より野菜を霊前にお供えになる。さらに五日の葬儀に際し、皇后宮使として侍従井関英男を式場の宮内庁分室に差し遣わされ、拝礼させられる。八日には女官長北白川祥子を伏見邸に差し遣わされ、霊前に盛花を賜う。なお、朝子は、皇后の女子学習院における御同窓生に当たる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、墓誌銘録、贈賜録、伏見朝子葬儀録

六日 火曜日 国賓として来日するコンゴ民主共和国大統領ジョゼフ・デジレ・モブツ及び同夫人をお出迎えのため、午後三時十三分天皇と共に御出門になり、東京国際空港に行啓される。空港行事の後、大統領夫人と御同乗にて皇居に戻られ、引き続き正殿竹の間において天皇と共に大統領夫妻と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、天皇・皇后にレオパール一等勲章がそれぞれ贈られる。

なお、この度の来日に際し天皇・皇后より大統領に七宝花瓶^{桜模}を、大統領夫人に銀製宝石箱^{桜模}を、

大統領夫妻に凶録『宮殿』^{特製}を御贈進になる。これとは別に、大統領夫妻入京の際、皇后より夫人

に花束を贈られる。大統領側からの御贈進品の披露は、翌日の宮中晩餐後に行われることとなる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、接待書類、幸啓録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、

宮内庁庁報、官報

七日 水曜日 午後七時四十五分、天皇と共に豊明殿において、コンゴ民主共和国大統領ジョゼフ・デジレ・モブツ及び同夫人のため宮中晩餐を催される。御食後、北の間において大統領夫妻からの御贈進品が披露され、大統領より説明をお受けになる。天皇・皇后に木製テーブル・椅子、象牙製卓上ランプ、コンゴ^{風景}絵画^画二面、ケース入りダイヤモンド^{十三・二四}カラット^{カラット}及び原石、同国紹介の書籍が贈られる。

九時二十分より春秋の間において宮中夜会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

八日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のエクアドル国特命全権大使アルフレード・コレア・エスコバル及び同夫人・息女を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 月曜日 午後、財団法人結核予防会総裁表彰の結核予防事業功労者等六十名の謁見があり、宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長山口正義より挨拶を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、連翠南において、元文化放送企画部長有坂愛彦より音楽史についてのレコードを用いた進講をお受けになる。この日の進講は全三回のうち二回目にあたる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、天皇后両陛下御渡欧記録

コンゴ民主共和国大統領ジョゼフ・デジレ・モブツ及び同夫人主催の御晩餐に御出席のため、午後七時二十六分天皇と共に御出門になり、ホテルニューオータニに行啓される。九時三十五分還啓される。十九日、大統領夫妻より日本国滞在中に受けた款待に対する天皇・皇后への礼電が寄せられ、これに対し、二十六日に答電を寄せられる。また、二十四日にも大統領より天皇・皇后の歓迎に対する礼電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、外賓接待録、接待書類、宮内庁庁報、官報

去る三月二十日、宜仁親王学習院大学卒業につき、この日、天皇・皇后より同親王にお品料・万那料を賜う。○女官長日記、贈賜録

十四日 水曜日 午後、吹上御所において、この度デンマーク国コペンハーゲンに赴任する久邇邦昭御より御機嫌奉伺を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日、侍従山本岩雄に国立科学博物館の展覧会に出品される蘚苔類をお渡しになる。○女官日誌

十五日 木曜日 島根県及び広島県共催の第二十二回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、広島・島根両県に行啓、御帰途岡山県にお立ち寄りになる。午前九時十九分天皇と共に御出門、九時五十五分東京国際空港をお発ちになり、十一時三十分山口県の岩国空港に御到着になる。それより岩国駅から広島駅に向かわれ、広島県庁を御訪問になる。午後二時三十七分、御泊所広島グランドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、広島県庁所蔵資料

十六日 金曜日 午前十時、天皇と共に御泊所広島グランドホテルを御出発、広島平和都市記念碑^{原爆}にお立ち寄りになり、お立所において黙禱される。天皇・皇后より広島県に生花を賜い、碑前にお供えになる。次に広島原爆養護ホームを御訪問になる。各居室を御巡覧になった後、天皇と共に集會室において入居者に御会釈を賜う。その際、天皇に続きお言葉がある。なお、この度の御訪問に際し、天皇・皇后より、同所入居者及び日本赤十字社広島原爆病院の入院患者に菓子^{者慰}を賜う。それより比治山公園の比治山展望台に臨まれ、戦災復興の進む市内の様子等を御展望になる。次に広島県立産業会館を御訪問になり、御昼食の後、産業展を御観覧になる。ついで東洋工業株式会社本館、続いて同社宇品車両組立工場を御視察になる。その後、広島県立盲学校及び同学校併設の県立点字図書館を御訪問になる。なお、この度の御訪問に際し、天皇・皇后より同校生徒に菓子^{者慰}を賜う。御視察を終えて、広島護国神社に向かわれ、拝殿前御座所において御拝礼になる。終わって午後三時五十分、御泊所広島グランドホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、広島原爆養護ホーム所蔵資料、広島県庁所蔵資料、広島護国神社所蔵資料、広島県立盲学校創立

十七日 土曜日 午前九時五十七分、天皇と共に御泊所広島グランドホテルを御出発になり、広島駅より三次駅を経て、第二十二回全国植樹祭お手播き行事会場である広島県立林業試験場に向かわれる。御到着の後、お手播き地に進まれ、天皇はヒノキを、皇后は広島県森林組合連合会会長永山忠則の介添えにてモミジを御播種になる。ついで試験場内の森林資料館を御見学になる。終わって、同試験場本館に御到着になる。御昼食の後、布野村立横谷小学校を御視察になる。それより自動車にて島根県に入られ、赤来町国民保養センター衣掛荘、頓原町立志々小学校を御訪問になる。終わって、午後四時五十分、大田市の御泊所三瓶簡易保険保養センターに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、広島県庁所蔵資料、島根県庁所蔵資料、頓原町役場所蔵資料、志々小学校所蔵資料、島根路の両陛下、開校百周年記念誌よこたに、赤来町史、広報あかぎ、広報とんぼら

十八日 日曜日 午前十時三十六分、天皇と共に御泊所三瓶簡易保険保養センターを御出発になり、三瓶山西山麓にある浮布池の池畔に設置された展望地より景観を御覧になった後、三瓶山植栽地で行われる第二十二回全国植樹祭に臨まれる。お手植地に進まれ、天皇に続き広島県議会副議長大山広司・広島県山村振興地域青年会議代表竹間幸子・学生生徒代表佐々木秀孝^{四十五年度広島県健康優良児童}・青年の山造成グループ代表中島直子の介添えにてクロマツの苗三本をお手植えになる。レストハウス北の原にて御昼食の後、三瓶山北の原登山口に向かわれる。御到着後、男三瓶山北斜面山麓の自然林を一時間余にわたり御散策になる。終わって、午後三時十二分自動車にて御泊所三瓶簡易保険保養センターにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

昭和四十六年四月

島根県庁所蔵資料、大田市役所所蔵資料、島根路の両陸下、大田市三十年誌、広報おおだ

十九日 月曜日 午前十時、天皇と共に御泊所三瓶簡易保険保養センターを御出発、農林省中国農業試験場畜産部、イワミ電子工業株式会社を御視察になる。ついで大田市民会館にて郷土芸能田植ばやしを御覧になる。御昼餐の後、大田市駅から江津駅を経て、有限会社丸八島根窯業所のリハビリテーション作業施設一灯寮を御訪問になる。次に株式会社室崎商店桃山製瓦工場を御視察になり、午後三時三十六分浜田市にある御泊所の国民宿舎千畳苑に御到着、別館に入られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、大田市役所所蔵資料、丸八窯業株式会社所蔵資料、卜部亮吾侍従日記、島根路の両陸下、中国農試ニュース、うみうし通信

二十日 火曜日 御朝食の後、天皇と共に、御泊所前に広がる畳ヶ浦の海岸砂丘を御散策になる。午前十時二十分御泊所国民宿舎千畳苑を御出発、浜田港展望地より御展望の後、浜田漁港を御視察になる。終わって浜田合同庁舎に向かわれ、鹿足郡津和野町の弥栄神社に伝わる古典芸能神事の鷺舞舞無形文化財

を御覧になる。御昼食の後、浜田駅から大田市駅・出雲市駅を経て松江駅にて御降車になり、午後三時四十七分松江市の御泊所ホテル一畑に御到着になる。その後、元男爵北島英孝出雲教 主管・同夫人洋子御姪

の拝謁をお受けになり、引き続きお一方にて洋子と御懇談になる。五時二十分より約三十分間、天皇と共に二階松の間において宮内記者会会員の挨拶をお受けになり、杉浦重剛元宮内省御用掛、良子女王殿下御学問所において修身を教授との

思い出等についての質問に応じられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県

下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、島根県庁所蔵資料、株式会社ホテル一畑所蔵資料、入江相政日記、島根路の両陸下、昭和

天皇と私達、淡交

二十一日 水曜日 午前十時、天皇と共に御泊所ホテル一畑を御出発、島根県立松江整肢学園を御訪問になり、重症児等に励ましのお言葉を賜う。なお、この度の御訪問に際し、天皇・皇后より園児に菓子を賜う。終わって、松江駅を御出発、米子駅・生山駅・新見駅を経て、岡山駅にて御下車になる。

それより池田邸を御訪問になり、池田隆政・厚子夫妻と御対面の上、御歓談になる。この度の御訪問に際し、天皇・皇后より同夫妻にクッキー・焼海苔を賜う。午後五時十分後楽園内の御泊所延養亭に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、広島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、島根県立松江整肢学園所蔵資料、株式会社ホテル一畑所蔵資料、島根路の両陛下、おかやま、島根県立松江清心養護学校創立十周年記念誌、淡交

二十二日 木曜日 午前九時四十七分、天皇と共に御泊所延養亭を御出発になる。岡山駅より新大阪駅・東京駅を経て、午後四時七分皇居に還啓される。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、広

島・島根・岡山各県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る十八日に誕生日を迎えた清子内親王、及び皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

午後、米国人の黒人霊歌の歌手マヘリア・ジャクソンの独唱会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。先着の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宜仁親王と御対面の後、会場に進まれる。特に思召しにより、豊増昇^{ピアニ}・服部豊子・有坂愛彦及び同夫人が陪聴する。約一時間にわたり、天皇のために特に作曲された米国の福音音楽「カノ大いなる計画をつくりし

昭和四十六年四月

は誰ぞ」^{Who Made the Great Plan}、^{レイン・ゴロー作詩・作曲}始め計八曲とアンコール一曲をお聴きになる。演奏会終了後、御休所においてジャクソンを御引見になる。演奏会に際し、ジャクソンに菓子及び御紋章付瑠璃花瓶を、ピアノ伴奏者ジーン・ライトナー及びオルガン伴奏者クリーブ・クレンシーにそれぞれ御紋章付青磁花瓶を賜う。後日、六月二十三日付のジャクソンからの礼状をお受けになる。なお、この度の演奏会は、米国外使館を通じて御前演奏の申し出があり、皇后がお受けになったものである。○女官長日記、女官日誌、御前演奏会録、読売新聞

翌二十四日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の納骨並びに拝礼式が行われるに当たり、この日、天皇・皇后より同省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、千鳥ヶ淵

この日、常磐会バザー開催につき切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十四日 土曜日 午前、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の第三回愛育班員全国大会に際し総裁または会長より表彰を受ける愛育班員並びに愛育班育成功労者等三十四名の賜謁があり、宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長新居善太郎より挨拶を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、正殿梅の間において、エリザベス・グレイ・ヴァイニング^{元皇太子家庭教師}を御引見になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

二十六日 月曜日 午前、正殿竹の間において、公賓として来日中のポーランド国外務大臣ステファン・イエンドリホフスキー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。なお、天皇・皇后より同夫妻に凶

録『宮殿』^{普及}を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、

賜与録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、ペルー国大統領夫人コンスエロ・ゴンサーレス・デ・ヴェラスコと御会見になる。同国漁業大臣夫人マルガリータ・アルブル・デ・タンタレアンが同伴する。なお、この度の御会見に当たり、大統領夫人に『宮殿』^{特製}・漁業大臣夫人に函録『宮殿』^{普及}を贈られる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、御写真録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

これより先、マレーシア国トレンガヌ州サルタンのトウアング・イスマイル・ナシルディン・シヤール及び同夫人テング・アンプアン・ベサルより、天皇・皇后に金製蓋付杖と同国製布地の献上がある。天皇・皇后より同夫妻に謝意を伝達するよう式部官長島重信に仰せ付けられ、この日、島式部官長よりマレーシア国特命全権大使にその旨が伝達される。○女官長日記、外交贈答録

二十七日 火曜日 午前、身体障害者福祉大会に当たり厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生政務次官橋本竜太郎の挨拶を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

御夕食後、吹上御所において、去る二十三日に行われたマヘリア・ジャクソン独唱会の十六ミリフィルム等を天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十八日 水曜日 午後、吹上御所において、主厨長秋山徳蔵の拝謁を受けられ、フランスの料理アカデミーより秋山に贈られた名誉会員証および記章を御覧になり、お言葉を賜う。秋山はこの年二月

に日本人として初めて同アカデミーより名誉会員に選出されたほか、パリ調理士協会名誉会員・フランス主厨長協会会員となった。○女官長日記、女官日誌、秋山徳藏選集、読売新聞

二十九日 木曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代の祝賀を、正殿梅の間において皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀を、再び花の間において元女官長始め元女官等の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他が出席する。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国外交使節団の長等が出席する。両儀の間に、芳菊の間において、東久邇文子・同真彦・同優子の拝謁をお受けになる。御夕食前には、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王と御対面になる。なお、古希に当たり、天皇にお祝いとして倒立型簡易培養顕微鏡をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に集まった一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三十日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のペルー国特命全権大使レネ・フーペル・ロペス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見

録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五月

三日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この度デンマーク国に転勤の久邇邦昭の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同人に、万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くオーストリア国駐劔特命全權大使藤山檜一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、連翠南において、元文化放送企画部長有坂愛彦より「音楽史について」と題するレコードを用いた進講をお聴きになる。この日の進講は全三回のうち三回目当たる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌、宮殿行事録、天皇皇后兩陛下御渡欧記録

七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、全国私立学校審議会連合会第二十六回総会出席の私立学校校長等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。郁文館学園高等学校校長棚橋勝太郎の挨拶を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 日曜日 午後、宮殿において、天皇古希奉祝会を催される。最初に天皇と共に松風の間に御出ましになり、皇太子始め皇族・元皇族等の祝詞言上をお受けになる。ついで春秋の間において室井馬琴^{五代}の講談「曲垣平九郎^{愛宕の}春駒^目」、野村万蔵^{六世}その他による狂言「棒縛」を御観覧になる。終わって正

殿梅の間にて御少憩の後、北渡脇階段上において講談・狂言出演者等の賜謁があり、天皇に続きお言葉を賜う。それより連翠にお出ましになり、この日のお催しに出席した皇族・元皇族との茶会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、済寧

十日 月曜日 午前、鳳凰の間において、この度チリ国に赴任の元皇族竹田恒治の拝謁を天皇と共に受けられる。なお天皇・皇后より同人に真珠入手卸及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

スウェーデン国王女クリスティーナ・ルイズ・ヘレナ 国王グスタフ六世アドルフの孫、皇太子カール・グスタフの姉 をお招きになり、連翠に

おいて天皇と共に宮中午餐を催される。天皇・皇后より王女に凶録『宮殿』普及本を御贈進になる。十三

日に王女が正倉院を視察する際には、天皇・皇后より正倉院事務所長を通じて王女に書籍『正倉院の陶器』をお贈りになる。また、王女に託して国王グスタフ六世アドルフにも同書を御贈進になる。後

日、王女より皇后にこの度の御贈進に対するお礼の書簡がある。なお王女は、翌十一日から日本橋の高島屋で開催される国王御所蔵品による「中国古美術展」日本スウェーデン協同会・朝日新聞社主催開会式出席のため、昨九日来

日した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 火曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、例規録、宮内庁庁報、官報

十二日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のオーストリア国特命全権大使オットー・アイゼルスベルグを天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇及び皇太子・同妃と定例の御夕餐を御会食の後、学習院初等科六年修学旅行^{福島県下}よりこの日帰還の徳仁親王、ついで清子内親王と御対面になり、お揃いにてしばし御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

十三日 木曜日 午前、正殿竹の間において、来日中のジョン・デイヴィソン・ロックフェラー三世^{ロックフェラー財団理事長}及び同夫人を天皇と共に御引見になる。この度の来訪に際し、ロックフェラー三世夫妻に

対し天皇・皇后より^{普及本}図録『宮殿』を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成育を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十四日 金曜日 午後、天皇と共に桃華楽堂及び東御苑天守台前広芝にお出ましになり、木曜会・旧奉仕者会主催による天皇古希奉祝の催しに臨まれる。桃華楽堂においてマジックショーを御覧になり、天守台前広芝では各種模擬店テントを廻られ、諸員と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

十五日 土曜日 スウェーデン国王所蔵「中国古美術展」を御覧になるため、午前九時三十分御出門、日本橋高島屋へ行啓される。御着後、八階エレベーター前にて、中国古美術展覧会名誉総裁故雍仁親

王妃勢津子、駐日スウェーデン大使グンナル・ヘックシャー及び同夫人、国王所蔵中国古美術品監督官ボ・ギレンスベード及び同夫人その他のお出迎えを受けられる。会場では東京大学名誉教授三上次男の説明にて御巡覧になる。十時四十分還啓される。なお同展は、日本スウェーデン協会・朝日新聞社主催で、スウェーデン国王グスタフ六世アドルフの中国古美術品のコレクションの中から百点を厳選して公開するもので、北魏時代の加彩立女俑二躯、明時代の法花瓶、殷時代の罍などが展示される。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十六日 日曜日 大相撲五月場所八日目を御覧になるため、午後三時四十七分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓される。幕内力士俵入りから結びの一番までを御覧になり、六時十分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十七日 月曜日 午前、貞明皇后二十年式年祭の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

貞明皇后二十年式年祭に当たり、皇太子・同妃始め皇族・御親族を天皇と共に御招待になり、連翠において御晩餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、宮殿行事録

十八日 火曜日 来る二十六日の欽明天皇千四百年式年祭に先立ち、午前、正殿竹の間において東京大学教授井上光貞より「欽明天皇の御事蹟について」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿竹の間において、サウジアラビア国駐劔特命全権大使田村秀治より同国に関する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 多摩陵^{大正天皇陵} 及び多摩東陵^{貞明皇后陵}に御参拝のため、午前十時三分天皇と共に御出門になり、両陵に行啓される。午後二時六分還啓される。なお、この度の御参拝は雨儀にて行われ、御参拝時刻がそれぞれ五分早められた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、秋の英国公式御訪問に先立ち、同国駐劭特命全権大使湯川盛夫より「英国事情について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、天皇后兩陛下御渡欧記録

午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓として来日されたサウジアラビア国王ファイサル・イブン・アブドウル・アジーズ・アール・サウードと御会見になる。引き続き七時三十分より、天皇と共に豊明殿において、同国王のため宮中晚餐を催される。ついで九時二十分より、天皇と共に春秋の間において、宮中夜会を催される。この度の来日に際し、天皇・皇后より国王に綴錦屏風^{秋庭}・図録^{宮殿}を御贈進になる。また、国王より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には首飾り^{ダイヤ・サファア}が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、幸啓録、賜与録、例規録、外交贈

答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

去る十八日より二十三日まで大阪阪急百貨店において「春のばら会展」^{財団法人日本ばら会関西支部主催} 開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のブラジル国特命全権大使ジェ

昭和四十六年五月

ラルド・デ・カルヴァーリヨ・シーロス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日より二十六日まで東急百貨店日本橋店において「春の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十三日、二十五日にも御出品になる。

○女官長日記、贈賜録

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、アフガニスタン国を訪問予定の皇太子・同妃の首席随員法眼晋作外務審議官及び随員鈴木菊男以下の拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のフィリピン国特命全権大使ホセ・ソテロ・ラウレル三世及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

国賓のサウジアラビア国王ファイサル・イブン・アブドウル・アジーズ・アール・サウード御主催の御晩餐に御出席のため、午後七時二十七分天皇と共に御出門になり、ホテルニューオータニに行啓される。九時三十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、接待書類、

宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十五日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、北白川房子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 水曜日 午前、欽明天皇千四百年式年祭の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けら

れる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十八日 金曜日 午前、正殿竹の間において、公賓として来日中のオーストラリア国副首相兼貿易産業大臣ジョン・ダグラス・アンソニー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

椿山荘での常磐会総会に御臨席のため、午後一時二十分に御出門、同所に行啓される。御着後、御休所において正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子及び元皇族と御対面になり、理事、評議員のお出迎えを受けられる。ついで、総会場に充てられた瑞雲の間にお出ましになる。お立台に立たれ、会員一同の「金剛石」の合唱をお聴きになる。ついで菊原初子・吉武文子の三絃と上野梅子の箏による「千代の鶯」、約二十五名の会員による貞明皇后の御歌「つれづれの友となりて」・御歌「曙」始めのコーラスを御鑑賞になる。終わって御懇談・御会食の後、会場内を廻られつつ、新会員・演奏者等に御会釈を賜う。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁序報

三十一日 月曜日 午後、薔薇の間において、宮内庁御用掛武者小路不二子始め大野操子・安東秀子・有島暁子より今秋の御渡欧についての話を御聴取になる。女官長北白川祥子が陪聴する。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六月

一日 火曜日 来る三日より皇太子・同妃がアフガニスタン国を訪問イラン国及びタ、イ国に立ち寄り、並びに来る十一日

昭和四十六年六月

より宜仁親王がオーストラリア国に留学につき、歓送のため、夕刻、皇族・元皇族等を招かれ、吹上御所において天皇と共に内宴を催される。最初に天皇と共に皇太子妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。その際、天皇・皇后より皇太子・同妃に万那料・お品料を賜う。なお、皇太子は風気のため参殿を取りやめる。ついで正仁親王始め皇族・元皇族等と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のハンガリー国特命全権大使カーロイ・シグティ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、石橋の間において、竹友会会員及び同夫人より、天皇の古希奉祝の拝謁を天皇と共に受けられる。ついで春秋の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、典式録、宮殿行事録

山口蓬春が五月三十一日死去につき、霊前に菓子を賜う。蓬春は新宮殿建設に当たり「新皇居皇后宮御居間用」の花鳥図屏風「秋意」、正殿松の間東回廊の杉戸絵「楓」を制作した。また、昭和四十年には文化勲章を受章した。皇后は葉山御用邸御滞在時、昭和二十二年より葉山に居住の同人を召され、写生についての助言申し入れを受けるなど、絵画を介して交流を持たれた。○女官長日記、女官日誌、贈賜

録、香淳皇后の御絵と画伯たち、山口蓬春日記

三日 木曜日 秋のヨーロッパ諸国御訪問を控えて、午前、正殿竹の間において、北海道大学名誉教授館脇操よりスライドを用いた「欧州の植物について」と題する進講を天皇と共にお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮殿行事録

この日の夜アフガニスタン国訪問に出発する皇太子・同妃が参殿につき、午後、吹上御所において天皇と共に御対面になり、暇乞いの挨拶を受けられる。皇太子を通じて、天皇・皇后より国王に綴錦壁

掛正倉院宝物紋、
樹下に鹿、王妃に九谷焼飾皿極彩色更紗
小紋文様を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、外交贈答録、賜与録、東宮録、皇親録、宮内庁庁報

七日 月曜日 午前、宮殿の芳菊の間及びつつじの庭において天皇と共に写真撮影を受けられる。この日の撮影は新たに宮内庁の依頼を受けた写真家吉岡專造による。また十五日午前にも、正殿梅の間において天皇と共に吉岡の写真撮影を受けられ、二十二日午前も、芳菊の間にて写真撮影を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、素顔の昭和天皇

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

正殿梅の間において、新任のビルマ国特命全権大使チツ・コー・コー及び同夫人、続いて新任のメキシコ国特命全権大使グスタヴォ・ロメロ・コルベック及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 火曜日 ヨーロッパ諸国御訪問に先立ち、公式御訪問国である英国の特命全権大使ジョン・アーサー・ピルチャー及び同夫人をお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のヨルダン国特命全権大使ムアタシム・ビルベイシイ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、翌十一日よりオーストラリア国に留学する宜仁親王と御対面になる。なおこの度の留学につき、天皇・皇后より同親王に金員及びお品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

花の間において、新任の皇宮警察本部警備部長藤巻清太郎、前任の皇宮警察本部警備部長大河内平左衛門ほか一名の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、初繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、正殿梅の間において、新任のチリ国特命全権大使オスカル・ピノチェ及び同夫人、続いて新任のフィンランド国特命全権大使アールノ・エイノ・カールヒーロ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 この日の夕刻、皇太子・同妃がアフガニスタン国よりタイ国経由で帰国につき、御夕食後、吹上御所において天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 皇太子・同妃がアフガニスタン国訪問から帰国につき、午前、鳳凰の間において、首席随員法眼晋作及び随員鈴木菊男等の拝謁を天皇と共に受けられ、天皇に続きお言葉を賜う。引き続き随行員の賜謁があり、天皇と共に宮殿御車寄内にお出ましになる。天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報

秋のヨーロッパ諸国御訪問を控えて、午後、連翠南において、蚕糸科学研究所研究員松本介より「わが国の蚕糸業について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、進講録、天皇皇后

両陛下御渡欧記録、宮殿行事録

皇太子・同妃がアフガニスタン国訪問より一昨日帰国したため、吹上御所において天皇と共に、皇族・御親族を招いての内宴を催され、御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、東宮録、宮内庁序報

十五日 火曜日 夕刻、天皇と共に東御苑にお出ましになり、庭園課長宇野佐・庭園第三係長平栗徳雄の説明にて都道府県の木やハナシヨウブ等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌

十六日 水曜日 秋のヨーロッパ諸国御訪問を控えて、午前、正殿竹の間において、東京大学名誉教授本田正次及び東京動物園協合理事長古賀忠道より「わが国における自然保護の現況について」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、天皇皇后

両陛下御渡欧記録、宮殿行事録、入江相政日記

十七日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のスイス国特命全権大使エミール・シュターデルホーファー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十八日 金曜日 エチオピア国特命全権大使ハイレ・マリウム・ケベデ及び同夫人、スペイン国特命全権大使メリー・デル・ヴァル及び同夫人、コスタリカ国特命全権大使ヴィヴィアン・ジェイムス・ウッドフォード・ファーニス・セグレダ及び同夫人・息女二名をお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十九日 土曜日 午後、紅葉山御養蚕所元奉仕者百十四名の賜謁があり、吹上正門前にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録

二十日 日曜日 皇太子・同妃始めお子様方が主催する天皇の古希祝いの集まりに御出席のため、午前十一時二十分天皇と共に御出門になり、港区元赤坂の鷹司邸に行啓される。御会食・御歓談の後、午後三時三十四分還啓される。なおこの度の行啓に際し、天皇・皇后より鷹司和子に万那料及び果物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 第二十三回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に日本赤十字社名誉総裁として御臨席のため、午前十時三十分御出門、京王プラザホテルに行啓される。四十三階スターライトルームの御休所において、同社名誉副総裁である皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで衆議院議長船田中・最高裁判所長官石田和外・日本赤十字社社長東竜太郎・同社副社長石坂泰三・同田辺繁雄・日本赤十字社名誉社長長島津忠承の拝謁を受けられる。五階式場に移られ、御着席になる。社長挨拶に続いて、高槻赤十字病院看護部長森オトメ・元姫路赤十字病院看護部長小林マツエ・別府市私立豊島病院看護婦長栗本ソヨ元国立療養所光の園総看護婦長にそれぞれ章記並びに記章を御親授になり、次のお言葉を賜う。

このたび、森オトメ・小林マツエ・栗本ソヨの三名の方々が、赤十字国際委員会から看護婦として最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、本人の榮譽はもとより、わが国にとつても、まことに喜ばしいことであります。

このたびの受章は、長年にわたる献身的努力のたまものと思いますが、今後も健康に注意して

後進の指導に当たるなどいっそうこの道に尽くしてほしいと思います。

また、他の看護婦の皆さんも、これを模範として、その職に励み、教養を高め、広く内外の人々から感謝と信頼を受けるよう努力されることを希望して止みません。

終わって、祝辞・答辞をお聞きになり、十一時五十五分還啓される。

午後、昭和三十年以降のフロレンス・ナイチンゲール記章受章者等二十名を連翠にお招きになる。

最初に東日赤社長より諸員の紹介をお受けになり、ついで受章者代表の網谷オシエ昭和三十四年受章者より終戦時

の広島、井深八重昭和三十六年受章者より後輩指導の要諦、内山喜久代昭和四十年受章者より現在の生活について、金子シズ

昭和四十二年受章者より結核患者の看護、鈴木モヨ昭和四十二年受章者より関東大震災時の苦労、小山シヅ昭和四十四年受章者より従軍看護

の労苦について順次お話を聴きになる。次にお茶の席を設けられ、名誉副総裁皇太子妃以下皇族妃

が陪席する。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のオランダ国特命全権大使ヨハン・クイ

ライン・バス・バツケル及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 午前、吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、楽部職員による洋楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。途中休憩を挟み、モーツアルト作曲歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲、ブリテン作曲「シンブル・シンフォニー」、ベートー

ヴェン作曲交響曲第七番をお聴きになる。終わって、楽長辻寿男ほか二名の拝謁をお受けになる。なお、途中より皇太子妃が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十五日 金曜日 午後、天皇と共に芳菊の間において、約一時間にわたり東宮大夫鈴木菊男の拝謁をお受けになり、皇太子・同妃のアフガニスタン国訪問についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十九日 火曜日 東京都多摩動物公園を御視察のため、午前十時二分天皇と共に御出門になり、日野市程久保の同園に行啓される。午後三時六分還啓される。なお、この度の行啓は御訪欧時に動物園を御視察になる予定のため、事前に国内の動物園も御覧になりたいとの天皇の思召しによる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、幸啓録、東京都庁所蔵資料、宮内庁庁報、官報、多摩動物公園五十年史、日本の昆虫館、どうぶつと動物園、昭和
去る二十七日、ネパール国皇太子ブレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに王子が誕生したため、この日、同国国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに天皇・皇后より祝電を發せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

七月

一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

御夕餐後、吹上御所において、大正十年に皇太子時代の天皇が渡欧された際の記録フィルムを編集し

た「皇太子殿下海外御巡遊フィルム」を天皇と共に御覧になる。翌二日・三日、及び十八日にも御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、読売新聞

二日 金曜日 秋のヨーロッパ諸国御訪問を控えて、午前、正殿竹の間において、前文部事務次官天城勲より「日本の教育の現状と課題」と題する進講を天皇と共にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮殿行事録、入江相政日記

正午前、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎ほか四名の賜謁があり、天皇と共に宮殿西車寄前にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

六日 火曜日 ヨーロッパ諸国御訪問に先立ち、公式御訪問国であるベルギー国の特命全権大使フレデガン・コーゲルス及び同夫人をお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁序報、入江相政日記

七日 水曜日 午前、鳳凰の間において、ローブ・デコルテにティアラ御着用の正装にて、写真家吉岡専造の奉仕により、同じく正装の天皇と共にお二方にて、ついでお一方にてヨーロッパ諸国御訪問時の御贈進用写真の撮影に応じられる。十三日午前にも同じく、桐の間において和服姿にて写真撮影をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、素顔の昭和天皇

八日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くアルゼンチン国駐節特命全権大使服部五郎、セイロン国駐節特命全権大使松井佐七郎及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

昭和四十六年七月

正殿竹の間において、この度離任のマレーシア国特命全権大使フセイン・モハメッド・オスマン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

九日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のドイツ連邦共和国特命全権大使ヴィルヘルム・ゲオルク・グレーヴェ及び同夫人、同じくギリシャ国特命全権大使テミストクレス・L・クリサントプロスを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くレバノン国駐劄特命全権大使猪名川治郎及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

秋のヨーロッパ諸国御訪問を控えて、正殿竹の間において、自治省行政局長宮沢弘より「わが国の大都市の諸問題について」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮殿行事録

正午前、鳳凰の間において、昨日故伏見朝子百日祭が滞りなく終了につき参内の伏見博明及び同夫人和子より、天皇と共にお礼言上をお受けになる。続いて午後、花の間において、同じくお礼参内の尾崎光子^{博明の姉}・草刈章子^{博明の妹}の拝謁をお一方にて受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

英国女王アン^{英国女王エリザベス二世の第一王女}の病気につき、この日、天皇・皇后より女王エリザベス二世にお見舞電報を

発せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十三日 火曜日 ヨーロッパ諸国御訪問に先立ち、公式御訪問国であるドイツ連邦共和国の特命全権大使ヴィルヘルム・ゲオルク・グレーヴェ及び同夫人をお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、謁見録、宮殿行事録、

宮内庁庁報、真崎秀樹英文日記

十四日 水曜日 午後、正殿竹の間において、この度離任のアルゼンチン国特命全権大使ロドルフォ・ウルバーノ・フレイレ及び同夫人、続いてリベリア国特命全権大使ローランド・ヘンリー・クーパーを天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁
庁報

十五日 木曜日 東久邇成子十年祭に先立ち、午後一時三十分天皇と共に御出門になり、豊島岡墓地の東久邇家墓所に行啓される。東久邇家墓所の御拝座にて御拝礼、終わって東久邇信彦よりお礼言上をお受けになった後、二時一分還啓される。なお、この度の行啓に際し、天皇・皇后より墓前に果物及び榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁
庁報

十九日 月曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時八分天皇と共に御出門になり、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報、栃木県庁所蔵資料

来る二十一日、東本願寺函館別院において東亜国内航空株式会社の飛行機墜落事故による犠牲者の合同慰霊法要が行われるにつき、この日、天皇・皇后より法要を主催する同社に生花を賜う。○賜与録、

宮内庁庁報

昭和四十六年七月

二十日 火曜日 午前九時四十分那須御用邸を御出門、植物御調査のため、天皇と共に沼原にお出ましになる。以後御用邸御滞在中、天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

二十三日 金曜日 東久邇成子の祥月命日^{十年}につき、終日お出ましをお控えになる。なお天皇・皇后

より東久邇成子の霊舎に盛菓子・榊を、墓所に榊を、それぞれお供えになる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、那須行幸啓録

二十四日 土曜日 午前、天皇と共に御散策に御出発の際、御用邸御車寄前において那須町長笹沼賢弥・同町議会議長石沢利治に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十六日 月曜日 東パラグアイ国特命全権大使ニコラス・デ・バリ・フレーチャ・トールスが帰国療養中のところ昨二十五日死去したため、同国における葬儀当日のこの日、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

二十九日 木曜日 那須御用邸より一時御帰京のため、午前九時二十八分天皇と共に御出門になり、午後零時二十一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

午後、鳳凰の間において、この日退職の女官今城誼子の拝謁を天皇と共に受けられる。終わって、お一方にて花の間に出御され、再び今城の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 土曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時八分天皇と共に御出門になり、午後一時二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

八月

七日 土曜日 午前、ベランダ及び御内庭に天皇と共にお出ましになり、英国人カメラマンのデービス並びに宮内庁嘱託カメラマン七名による写真撮影に応じられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

台風十九号により甚大な被害を受けた鹿児島県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

十一日 水曜日 那須御用邸より還啓のため、午前九時二十八分天皇と共に御出門になり、午後零時二十一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

正殿竹の間において、この度離任のガボン国特命全権大使リュバン・マルシャル・トゥトウメ・オバメ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報、宮内庁庁報

連翠北において、ヨーロッパ諸国御訪問の際の各国元首・王族等への御贈進品を天皇と共に御覧になる。九月一日の午後にも同所において天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十二日 木曜日 午前、吹上御所において、参殿の故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、去る八日に仮寓のため千代田区三番町の宮内庁分室へ転居につき、お礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌

午後、吹上御所において、天皇・皇后の御日常の記録映画^{十六ミリカラー、無声、この時点では未完成品}を天皇と共に御覧になる。

これは日本放送協会が、天皇・皇后のヨーロッパ諸国御訪問に当たり、外国に発表するテレビ映画用として撮影したもので、撮影は七月六日・七日・十日・十五日に行われた。このうち、六日は桐の間においてお一方にて「花菖蒲」の絵を描かれる御様子、十日は皇太子妃・正仁親王妃華子と御一緒に組紐をなさる御様子が撮影される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録

御渡欧の前に外国での御宿泊振りのお試しと側近の御用奉仕の習礼等のため、この日、天皇と共に宮殿に御宿泊になる。御夕餐前には、通御廊下において内廷関係の随行員内定者に天皇と共に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 金曜日 正午過ぎ、花の間において新任の皇宮警察本部警務部長菊池和平及び前任の武藤昭の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十五日 日曜日 政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時四十九分天皇と共に御出門、日本武道館に行啓される。午後零時二十四分還啓される。なお、天皇・皇后より追悼式を行う厚生省に対して生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮

内庁庁報、官報

十六日 月曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時八分天皇と共に御出門になり、午後一時二分同邸に御到着になる。ついで、新任の関東管区警察局長柏原及也、同じく新任の栃木県警察本部長安田隆の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

十九日 木曜日 夕刻、元侍医高木頭の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

二十三日 月曜日 午後、内閣総理大臣佐藤栄作及び同夫人の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、佐藤栄作日記

二十四日 火曜日 午後、御用奉仕のため参邸した株式会社道明の山岡俊三をお相手に組紐をされる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

翌二十五日に日本武道館において政府及び全日本空輸株式会社共催による「全日空機遭難者合同慰霊式」が行われるに際し、この日、天皇・皇后より全日空機事故対策本部に生花を賜う。慰霊式は、去る七月三十日に発生した全日本空輸株式会社所属の旅客機と航空自衛隊所属の戦闘機との衝突事故による犠牲者のために執り行われた。○賜与録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午前、御用邸御内庭において、御料牧場で飼育したキジ二十羽を天皇と共に放鳥される。なお、同牧場産のキジの放鳥はこの度が初めてとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌

昭和四十六年九月

奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

午後、近く任地へ赴く。ポルトガル国駐劄特命全權大使和田周作及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、拝謁録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午前、嚶鳴亭において天皇と共に、栃木県知事横川信夫より「キジの放鳥」並びに「県勢の概況と県政当面の課題」についての説明をお聞きになる。続いて同所付近において天皇・皇后御手ずからのもも含めキジ五十羽が放鳥される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

九月

一日 水曜日 那須御用邸より還啓のため、午前九時二十八分天皇と共に御出門になり、午後零時二十一分皇居に御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

午後、正殿竹の間において、この度離任のレバノン国特命全權大使トウフィック・アウアド及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午前、花の間において、朝香鳩彦より拝謁を受けられ、怪我より全快のお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌

鳳凰の間において、来る十日から二十日まで米国を訪問する正仁親王・同妃の首席随員島津久大

外務省
参与

の拝謁を天皇と共に受けられる。帰国後の二十二日午前にも、鳳凰の間において島津首席随員の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、祭典録、宮内庁庁報、入江相政日記

三日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、ベルギー国公式御訪問に先立ち、同国駐劄特命全権大使安倍勲より「ベルギー国事情について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録

正午前、天皇と共に芳菊の間において、米国・メキシコ国旅行より帰国した池田隆政・同夫人厚子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に連翠において、ヨーロッパ諸国御訪問を前に、菊栄親睦会会員の皇太子始め皇族・元皇族等を御招待になり午餐の御陪食を賜う。御食後、石橋の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宣召録、東宮録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、菊栄親睦

会録、宮内庁庁報

四日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、ヨーロッパ諸国御訪問の首席随員の外務大臣福田赳夫、及び随員の宮内庁長官宇佐美毅始めの拝謁をお受けになる。福田首席随員より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。続いて随行員・関係出張員の賜謁があり、天皇と共に宮殿御車寄内にお出ましになり、天皇に続きお言葉を賜う。終わって、内閣総理大臣佐藤栄作及び随員等をお招きになり、連翠において午餐の御陪食を賜う。御食後、お茶の席を設けられる。同時刻、随行員等にも賜餐がある。なお、この日欠席した随員の拝謁は、十七日午前、天皇と共に鳳凰の間においてお受けになる。

昭和四十六年九月

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、宮内庁庁報、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、官報、入江相政日記、佐藤榮作日記

六日 月曜日 ヨーロッパ諸国御訪問につき神宮に御奉告のため、三重県に行啓される。午前十時三十分天皇と共に御出門になり、東京駅より名古屋駅・近鉄宇治山田駅を経て、午後二時三十分、伊勢市の御泊所内宮齋館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、三重県下行幸啓録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報、官報、三重県庁所蔵資料、両陛下をお迎えして

七日 火曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所内宮齋館を御出発、豊受大神宮に御参拝のため、外宮齋館に向かわれる。同所にて御潔斎の後、天皇に続き、正殿階下の御座に進まれ御拝礼になる。ついで皇大神宮に御参拝のため、内宮齋館に向かわれる。同所において御昼食、御潔斎の後、天皇に続き、正殿階下の御座に進まれ御拝礼になる。なお、雨天のため、この日の御参拝は雨儀にて行われる。この度の御参拝に当たり、天皇・皇后より皇大神宮・豊受大神宮及び別宮十四所にそれぞれ幣帛料・神饌料をお供えになる。同所を御出発になり、伊勢志摩スカイラインを経て、午後三時五十五分、鳥羽市の御泊所鳥羽国際ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、三重県下行幸啓録、臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報、官報、三重県庁所蔵資料、入江相政日記、両陛下をお迎えして、神宮囊報、瑞垣、広報とば

八日 水曜日 午前十一時四十八分、天皇と共に御泊所鳥羽国際ホテルを御出発になり、近鉄鳥羽駅より名古屋駅を経て東京駅に御到着、午後四時六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、三重県下行幸啓録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報、官報、三重県庁

所蔵資料、両陛下をお迎えして、広報とは

天皇と共に吹上御所において、来る十日より米国を訪問する正仁親王・同妃華子のため、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と御晚餐を御会食になる。なお、天皇・皇后より親王・同妃にお品料及び金員を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、重要雑録、宮内庁庁報

この度のヨーロッパ諸国御訪問につき、この日午前、神武天皇山陵に奉告の儀が行われ、侍従井関英男に神武天皇陵の御代拝を仰せ付けられる。○臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報

九日 木曜日 久邇侁子^御祥月命日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌

十日 金曜日 午後、厚生大臣から表彰された第二十三回保健文化賞受賞者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生大臣齋藤昇より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、ペルー国特命全権大使ホセ・カルロス・マリアテギ・アレリヤノ及び同夫人、ついでオーストリア国特命全権大使レギナルド・トーマス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

台風二十五号により甚大な被害を受けた千葉県に対し、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内

庁庁報

十一日 土曜日 ヨーロッパ諸国御訪問につき皇族・御親族主催の歓送会に御臨席のため、午後五時四十六分天皇と共に御出門になり、開東閣^{旧岩崎家別邸}に行啓される。ロビーにおいて、出席の皇太子・同妃

始め十二方と御対面になる。御晩餐御会食の後、御歓談になり、午後八時四十四分還啓される。なおこの度のヨーロッパ諸国御訪問につき、皇太子・同妃よりお品料・鮮鯛料を天皇と共にお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧関係書類、幸啓録、東宮録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のイスラエル国特命全権大使モツシエ・バートゥル及び同夫人・息女を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 ヨーロッパ諸国御訪問につき、大正天皇山陵御参拝の儀並びに貞明皇后山陵御参拝の儀に臨まれるため、午前十時三分天皇と共に御出門になり、多摩陵及び多摩東陵に行啓される。

原宿駅より高尾駅を経て陵所に御到着、御休所にて御少憩の後、天皇に続いて両陵を順次御拝礼になる。午後二時六分、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、大谷光暢及び同夫人智子と御対面になり、ヨーロッパ諸国御訪問につきお悦びの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 木曜日 午前、千草の間・千鳥の間において、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選に臨まれる。開票の結果、議員に宣仁親王・崇仁親王が、予備議員に故雍仁親王妃勢津子・皇太子が選ばれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇室会議皇族議員互選録、宮殿行事録、重要雑

録、宮内庁庁報、官報

互選後、女官長室に移られ、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御一緒に御渡欧用の洋服を御覧になる。ついでお揃いにて、萩の間において御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東京新聞

午後、来る二十七日付にて刊行の生物学御研究所編『相模湾産貝類』丸善株式
会社発行を御覧になる。○女官日誌、相模湾産貝類

相模湾産貝類

十九日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において島津久永・同夫人貴子と御対面になり、ヨーロッパ諸国御訪問につきお祝品の献上を受けられる。また貴子より、今般米国及びヨーロッパ諸国を旅行につき挨拶をお受けになる。この旅行に際し、天皇・皇后より同人にお品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十日 月曜日 ヨーロッパ諸国御訪問につき、午前、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀に臨まれ、三殿を御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、ヨーロッパ諸国御訪問に同行する宮内記者会会員の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、初めての海外旅行への期待や各国でのスケッチの御予定についての質問をお受けになり、初めての機会であるため心配なこともあるが、出来るだけ親善に努めたく、また様々なものを見聞し、折を見てスケッチも行いたい旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇記者会見、天皇皇后両陛下御渡欧記録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸

昭和四十六年九月

国御訪問綴、宣召録、宮殿行事録、昭和天皇と私達

二十一日 火曜日 午後、吹上御所において天皇と共に、正仁親王・同妃華子と御対面になる。米国

訪問九月十日から
二十日までより帰国の挨拶を受けられ、訪問に関するお話を種々お聞きになる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

二十二日 水曜日 午前、堂上会総代の二条弼基・橋本実斐・綾小路護の賜謁があり、天皇と共に宮殿の通御廊下にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

去る二十日米国より帰国した正仁親王・同妃華子のため、吹上御所において天皇と共に御晚餐を催される。皇太子・同妃も出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁序報

二十三日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くケニア国駐劄特命全権大使中根正己及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁序報、入江相政日記

二十四日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十五日 土曜日 崇仁親王・同妃百合子来る十月十一日より二十三日までペルシャ帝国建国二千五百年記念式典に出席、併せて国際親善のためイラン国を訪問につき、午前、芳菊の間において天皇と

共に御対面になり、挨拶をお受けになる。引き続き鳳凰の間において、随員代表小川省三宮務課長の拝謁を天皇と共に受けられる。なおこの度の訪問につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃に金員を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、重要雑録、宮内庁序報

元侍女鈴木タカ

故元内閣総理大臣元侍従長
鈴木真太郎夫人、旧姓足立

去る二十三日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜い、また別に

霊前に切り花・菓子をお供えになる。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

二十六日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、翌日ヨーロッパ諸国へ御出発につき、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王より挨拶をお受けになる。なお、皇太子・同妃より天皇・皇后に鮮鯛料及びお品が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 天皇と共に、公式にベルギー国・英国・ドイツ連邦共和国の三箇国を、非公式にデンマーク国・フランス国・オランダ国・スイス国の四箇国を御訪問になる。午前八時三十五分、皇太子妃及び四親王妃より贈られた二輪のカトレアの花を胸に飾られ、元皇族始め関係者多数の奉送のうち、天皇と共に皇居を御出門、九時東京国際空港に御到着になる。歓送の空港行事に臨まれ、お召し機の日本航空特別機にて九時二十六分に出発される。

飛行機は日付変更線を通して、現地時間の二十六日午後九時五十分、給油のため米国アラスカ州アンカレジのエルメンドルフ空軍基地に着陸、十時、同基地第五格納庫前に到着する。なお、アンカレジ御到着に寄せた御歌は次のとおり。

アメリカの空軍の吹くファンファーレ夜空に高くひびき渡らぬ

お出迎えの大統領リチャード・ミルハウス・ニクソン及び同夫人と御握手になった後、格納庫における歓迎の式典に臨まれる。終了後、大統領夫人と御同車にてアラスカ軍司令官邸に移られ、応接室において天皇及び大統領夫妻と共に暫時御歓談になる。その際、天皇・皇后より大統領夫妻に、天皇及び皇后の御署名入りお写真御紋付
銀縁を御贈進になり、大統領夫妻より天皇・皇后に夫妻の署名入り写真銀枠
入り

の御贈進があり、それぞれ披露される。続いてお一方にて大統領夫人と共に隣室に移られ、御歓談になる。ついで、國務長官ウィリアム・P・ロジャース夫人、儀典長ロバート・アダム・モスバッカー夫人、駐日米国大使アーミン・ヘンリー・マイヤー夫人、米国駐節特命全權大使牛場信彦夫人より挨拶を受けられる。天皇及び大統領夫妻と共に自動車で空軍基地に戻られ、十一時四十分同所からデンマーク国に向けて御出発になる。離陸後、機内よりオーロラを御覧になる。なお、オーロラ御覧に寄せた御歌は次のとおり。

オーロラを空より見つつ外国の旅にある身のこころときめく

また機内から、米国大統領領に対し、大統領夫妻が遠路アンカレッジまで出向き迎えてくれたことにつき、天皇・皇后より札電を発せられる。

約八時間三十分間のフライトの後、現地時間の二十七日午後六時二十分、デンマーク国のカストラップ空港に御到着になる。同国は公式の御訪問ではないが、国王フレデリック九世・王妃イングリットのお出迎えを受けられる。なお、デンマーク御到着に寄せた御歌は次のとおり。

空港に出迎へませるデンマークの国王王妃に手をさしのべぬ

空港行事を終えて、空港を自動車にて御出発になる。なお、空港御出発の際、自動車お列に向けて、日本人三名が天皇制批判のビラを撒き、うち二名は直ちに地元警察に逮捕される。七時頃、コペンハーゲン市の御泊所ロイヤル・ホテルに御到着になる。少時の後、同国に赴任中の川崎汽船株式会社社員久邇邦昭^{御甥}を天皇と共にお招きになり、御座所において拝謁を受けられ、ついで御食堂^{パノラマルーム}において、お三方にて御夕食をお召し上がりになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎

人供奉日誌、空港行事録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下御渡欧関係書類、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、外交贈答録、外交雑録、宮内庁庁報、官報、ニクソン文書、入江相政日記、いくたびの春、素顔の昭和天皇、あけぼの集、Le Soir、東京新聞

二十八日 火曜日 午前十時、天皇と共に御泊所ロイヤル・ホテルを御出発、ロイヤル・コペンハーゲン陶器工場を御視察になる。この際、同工場より天皇・皇后への記念品として「ブルー・フィッシュ」と名付けられたシーラカンスの陶磁製置物ジヤンヌ・グ、リニュー原型、同社の代表的文様であるフローラ・ダニカの陶製蓋物台皿付きの献上をお受けになる。また、天皇と共に、賓客名簿に御署名になる。ついでランゲリーニ海岸通りのブロンズ像「人魚像」を御覧になる。終わって、克蘭ペンボーにある公園ディア・ハブンを車中より御覧になりつつ北上し、ベスベックの海岸沿いに建つ東海大学ヨーロッパ学術センターを御訪問になる。午後零時十分頃、ヘルシンゲルのクロンボー城に御到着になる。城壁より景色を御眺望になった後、城内を御見学になり、天皇と共に小ホールにおいて賓客名簿に御署名になる。次に、フレデンスボー離宮に向かわれ、国王フレデリック九世・王妃イングリットと御会見になる。引き続き御贈進品の御披露がある。天皇・皇后より国王に天皇の御署名入りお写真御紋付、銀縁、皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁、有田焼蓋物第十三代酒井田柿右衛門作、濁手草花紋を、王妃に佐賀錦ハンドバッグ宝飾付きを御贈進になる。王嗣マルグレーテ王女始め王子女等にもそれぞれ御贈進がある。さらに、皇后より王妃に、紅葉山御養蚕所製生糸にて作られた手織りの絹洋服地を御贈進になる。また、国王・王妃より天皇・皇后に国王の御署名入りお写真銀枠、入り、王妃の御署名入りお写真銀枠、入り、銀製鉢及びポットいずれもジョージ・ジェンセン製が贈られる。

引き続き同離宮において国王・王妃御主催の非公式の午餐会が催される。終わって、御予定にはなかったが、国王・王妃のお誘いにより、天皇と共に庭園を御散策になる。三時二十五分、国王・王妃のお見送りをお受けになり、同離宮を後にされる。途次、車中よりクローグランプ・ホーム・ファームデンマークを御覧になり、在デンマーク日本国大使公邸にお立ち寄りになる。同国駐箚特命全權大使ク式農法の特長を活かした農場を御覧になり、

小川平四郎のお出迎えをお受けになり、二階にて御少憩の後、デンマーク日本協会会長ポール・ラーセン及び同夫人を御引見、日本航空デンマーク支店長丹後次光及び同夫人の拝謁をお受けになり、続いて久邇邦昭ほか日本企業役員、在留邦人夫妻等に御会釈を賜う。四時三十分御泊所ロイヤル・ホテルに戻られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下御渡欧関係書類、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問綴、外交贈答録、官報、東海大学五十年史、松前重義わが昭和史、贈るころ・受けられた美、*Le Figaro*、*The Japan Times*、読売新聞、時の動き

二十九日 水曜日 午前九時天皇と共に御泊所ロイヤル・ホテルを御出発、カストラップ空港に御到着になる。国王フレデリック九世・王妃イングリットのお見送りのもと、九時三十分公式御訪問国であるベルギー国に向けてお召し機にて御出発になる。十一時五分ブリュッセル空港に御到着になる。国王ボードワン一世・王妃ファビオラ、王弟リエージュ公アルベール・同妃パオラのお出迎えのもと空港行事に臨まれ、王妃と御同車にて空港を御出発、王宮前庭において儀仗隊の榮譽礼をお受けになり、御通過の際、車中より御会釈になる。十一時四十分御泊所ブリュッセル王宮に御到着になる。なお、ブリュッセル王宮御到着に寄せた御歌は次のとおり。

さながらに古き絵に見る心地して王宮に入りぬ王妃とともに

午後零時四十五分、天皇と共に御泊所を御出発、ラーケン王宮において、国王・王妃御主催の非公式午餐会に臨まれる。御食後、御贈進品の御披露がある。天皇・皇后より国王に天皇の御署名入りお写真を御贈進になり、皇后より王妃に紅葉山御養蚕所製生糸にて作られた手織りの絹洋服地、『桃園画集』を御贈進になる。このほか王弟始め王子女にも天皇・皇后よりそれぞれ御贈進がある。また、国王・王妃より天皇・皇后にゴブラン織草花文様壁掛（ジャン・ヴァンノーテン原画、シヤドワール工房製作）・銀製花器（台付）が、天皇に記録映画フィルム「サンゴ礁の魚」が贈られ、王妃ファビオラより皇后に著書『ファビオラ王妃の童話』が贈られる。なお、午餐会に寄せた御歌は次のとおり。

美しき森にかこまるるラーケンの王宮に入りて昼餼（ひるげ）をとみにす

午餐会を終えて、一旦御泊所にお戻りになる。御少憩の後、三時十分、天皇及びお出迎えの王弟・同妃と共に再び御泊所を御出発、王弟妃と御同車にてブリュッセル市庁舎に向かわれる。市庁舎の向かいの建物（王の館）前にて御降車、栄誉礼をお受けになる天皇及び王弟と別れて王弟妃と共に庁舎入口にお進みになり、ブリュッセル市長ルシアン・ジョルジュ・フランソワ・フィリップ・コールマン及び同夫人の挨拶をお受けになる。この際、市長夫人より皇后に花束の贈呈がある。ついで儀仗隊の閲兵を終えられた天皇及び王弟と共に庁舎内にお進みになる。市長より歓迎の辞をお受けになった後、天皇と共に賓客名簿に御署名になる。また、皇太子時代の天皇が大正十年の同市御訪問時に御署名になった記念帳が御覧に呈される。この際、市長より皇后に記念品としてレース製ショールの献上がある。そ

の後、天皇及び王弟・同妃と共にバルコニーより、大広場^{グラン・プラス}で催される民族舞踊オメガングの演目を御観覧になる。なお、オメガング御覧に寄せた御歌は次のとおり。

古き世の面影のこる広場にて旗振りて踊るオメガング人^{びと}らは

終わって室内にお戻りになり、オメガング保存委員会代表レオン・M・ヴァン・アッカーほか数名を御引見になる。四時二十分、王弟・同妃と共に御泊所ブリュッセル王宮に御帰還になる。御泊所にお戻りの後、外交団長バチカン大使始め同国駐在外交使節団長夫妻を御引見になる。続いてこの度の御訪問・お立ち寄り国の大使、米国代理大使の各夫妻と順次御歓談になる。

夜、ローブ・デコルテに勲一等宝冠章の副章並びにレオポルド大綬章及び同副章を佩用され、テイアラを着用されて、天皇と共に王宮内における国王・王妃御主催の公式晩餐会に臨まれる。終わって御料室にお戻りになる。

この日、ブリュッセル市において、天皇・皇后よりデンマーク国王フレリック九世に、同国御滞在中にお受けになった懇篤な款待と厚遇についての礼電を発せられる。これに対し、同日答電をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下御渡欧関係書類、

外交贈答録、外交雑録、官報、天皇皇后ヨーロッパ訪問記念写真集、毎日グラフ、贈るところ・受けとられた美、あけぼの集、*Le Soir*、

昭和四十六年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より事業御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁序報

三十日 木曜日 午前九時四十五分、天皇及びお出迎えの国王・王妃と共に御泊所ブリュッセル王宮を御出発、王妃と御同車にてアントワープ市に向かわれる。市庁舎前広場到着直前に卵一個が御料車

に投げられ、屋根に当たる。なお、その後これは、十六歳のベルギー人男子学生による悪戯と判明した。市庁舎前にて下車され、広場での儀仗隊閲兵を終えられた天皇及び国王と合流の後、アントワープ市長フランソワ・フェルディナンド・ルイ・クラライベックのお出迎えを受けられる。また、市庁舎入り口において、お出迎えの市長夫人より花束の贈呈がある。それより庁舎内において市長より歓迎の辞を受けられ、賓客名簿に天皇と共に万年筆で御署名になる。その際、皇太子時代の天皇が十年の同市御訪問時に御署名になった記念帳を、フアビオラ妃と共に御覧になる。続いて市長より天皇・皇后に記念品として動植物に関する初期のプリント版 Joannes Eusebius Nierenberg, Historia Naturae Anwerpen officina plantarum, 1635. の献上がある。ついで午前十一時十五分、ノートルダム大聖堂を御訪問になり、アントワープ市立美術館館長フランス・ボードワンのフランス語での説明にて、堂内のピーテル・パウル・ルーベンスの祭壇画数点を順次御鑑賞になる。同所を御出発の後、ロイエルス埠頭より遊覧船「フランドリア号」に乗船され、約二時間二十分にわたりアントワープ港の港湾施設を御視察になる。船上においてはアントワープ市長主催の午餐会が開かれ、同会に臨まれる。午後二時ステーン埠頭に御到着になる。御下船の後、ダイヤモンド・クラブ アントワープ最古のダイヤモンド取引所 を御視察になり、ダイヤモンド研磨の様子を御覧、作業にあたる女性に種々御下問になる。なお、この度の御訪問に当たり、ダイヤモンド・センターから天皇・皇后に対し記念品として記念切手帳の献上がある。ついでアントワープ動物園 一八四三年に開園した王立動物園 を御訪問になる。終わってアントワープ中央駅よりブリュッセル中央駅を経て、四時四十分御泊所に御到着、御料室まで国王・王妃のお見送りを受けられる。午後四時五十五分、再び御泊所を御出発になり、在ベルギー

昭和四十六年十月

日本国大使公邸を御訪問になる。大使館関係者・日本政府関係者等より順次挨拶を受けられた後、御休所に移られ、内輪の御夕食を御会食になる。七時五分御泊所にお戻りになる。

午後八時二十分、和服を召されて、お出迎えの国王・王妃・王弟リエージュ公アルベル・同妃パオラと共に御泊所を御出発、パレ・デ・ボザール芸術宮殿におけるベルギー国政府主催の歓迎音楽会に臨まれる。

なお、本御旅程において初めて、和服姿にての行事御臨席となる。御到着の際、玄関ホールにおいてベルギー人の少女より皇后に花束の贈呈がある。ベルギー国立管弦楽団によるメンデルスゾーン作品等を御鑑賞になる。途中休憩の際には、貴賓室において指揮者ダニエル・ステルネフェルト、コンサートマスターのジョルジュ・オクトールを御引見、メンデルスゾーン作品でのヴァイオリン独奏者藤原浜雄の拝謁をお受けになる。終演後、九時五十五分御泊所ブリュッセル王宮にお戻りになり、御料室まで国王・王妃・王弟・同妃のお見送りを受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、官報、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、*Het Laatste Nieuws*、*Le Soir*

十月

一日 金曜日 朝、御泊所ブリュッセル王宮の内庭を天皇と共に約十分間御散策になる。午前十時、天皇及びお出迎えの王弟リエージュ公・同妃パオラと共に御泊所を御出発、王弟妃と御同車にてワテルローに向かわれる。御到着の際、在留邦人の少女より皇后に花束の贈呈がある。パノラマ館にてベルギー王立士官学校教授アンリ・ベルナルの説明にて、ワテルローの戦いを描いたパノラマ画を御観覧になる。館内にて賓客名簿に天皇と共に御署名になり、ワテルロー町長アンドレ・コーサ

ンより記念品としてクリスタル製灰皿、記念メダル及び銀製飾盆の献上を受けられる。ついで王弟妃と御同車にてシャルルロワ市に向かわれ、同市市庁舎入口前にて御下車になる。その後、閲兵を終えた天皇及び王弟と御一緒に、市庁舎玄関ホールにおいて市長クロード・ネストール・ルイ・ユボー及び同夫人の挨拶を受けられる。その際、市長夫人より皇后に花束の贈呈がある。庁舎内において市長より歓迎の辞を受けられた後、賓客名簿に天皇と共に御署名になる。また、同市から天皇・皇后に記念品の献上があり、皇后は壁掛の献上を受けられる。終わって、玄関前階段において、広場で繰り広げられるジルの舞踊を御覧になる。その際、皇后はジルの踊り手より民族人形の献上を受けられる。ついで皇后は王弟妃と御同車にてパレ・デ・ボザール宮殿に移られる。この際、自動車が人並みのなかで停止した折りに、踊り手の子供よりオレンジの献上がある。御到着の後、お揃いにて芸術作品の展示を御覧の後、天皇及び王弟と別れ、王弟妃と共に文化展示品を御覧になる。途中より天皇及び王弟も加わる。御少憩を挟んで、祝祭ホールにて開かれるシャルルロワ市長主催の午餐会に臨まれる。なお、シャルルロワでの午餐に寄せた御歌は次のとおり。

日の丸を花もて作りしシャルロワの食堂の飾に心ひかれぬ

この際、同市ガラス協会から記念品として天皇・皇后に書籍 *Dictionary of glass-making* = *Dictionnaire de verrerie* = *Glas-Fachwörterbuch* とその日本語版書籍の献上がある。三時四十五分御泊所に戻られ、御料室まで王弟・同妃の見送りをお受けになる。五時よりサロン・ブルー青のにおいて、お一方にてレースの展示品及び製作作業を御覧になる。途中より天皇も加わられる。

昭和四十六年十月

夜、和服をお召しになり、再び御泊所を御出発、パレ・ド・サンカントネール建国五十周年記念館における天皇・皇后御主催のお返し晩餐会に臨まれる。国王・王妃・王弟・同妃その他が列席される。終わって十時五十分御泊所ブリュッセル王宮にお戻りになる。なお、晩餐会に当たり、皇后より王妃に対しベルギー御訪問の記念として『桃苑画集』が贈られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、外交雑録、官報、入江相政日記、毎日グラフ、贈るところ・受けとられた美、*The Sun*、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、あけぼの集

二日 土曜日 午前八時三十分、皇后は御微行にて御泊所ブリュッセル王宮を御出発、グラン・プラ
ス近くに建つマヌカン・ピス小便を御覧になる。その後、大方の商店が開店する前の静かな町をしぼし
御散策になり、レースを編む少女の人形をお買い上げになる。ついでグラン・プラスで花屋等を御覧
の後、九時頃御泊所にお戻りになる。その後、御贈進品のお礼に参上の王妃及び皇子方と御対面にな
る。午前九時三十五分、天皇及びお出迎えの国王・王妃と共に御泊所を御出発、ブリュッセル空港に
向かわれる。予定外に機内まで国王・王妃のお見送りを受けられ、十時十五分御出発、フランス国に
向かわれる。

午前十時五十分、フランス国パリのオルリー空港に御到着になる。なお空港御到着の際、機側までお
出迎えの行政改革担当大臣ロジェ・フレイ議会議会担当相夫人より皇后に花束の贈呈がある。空港行事の
後、同空港を自動車にて御出発、十一時三十五分御泊所のホテル・クリヨンに御到着になる。

午後一時十分御泊所を御出発になり、エリゼー宮における大統領ジョルジュ・ポンピドゥ及び同夫人
主催の午餐会に御臨席になる。御会食に先立ち御贈進品の御披露があり、天皇・皇后より大統領に天

皇の御署名入りお写真御紋付、銀縁、皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁、九谷焼飾皿上出喜山作、極、彩色更紗鉄線紋、大統領夫人に佐賀錦ハンドバッグ宝飾付を御贈進になり、大統領夫妻より皇后にコンパクトが贈られる。御会食を終えて、三時五分、一旦御泊所に戻られる。

御少憩の後、市内各所御見学のため、午後三時三十分御泊所を再び御出発になる。最初に、シテ島にあるノートルダム大聖堂を御見学になり、パイプオルガンの演奏を御鑑賞になる。この際、司祭長エミール・ベラルより天皇・皇后にノートルダム大聖堂からの記念品として書籍 *Notre-Dame de Paris* とノートルダム大聖堂の絵画及び象牙製のマリア像の献上がある。次に、同じくシテ島にあるカペー王朝の廟所サント・シャペルを御見学、最高裁判所の中庭を経て、御乗車になり、市庁舎を始めパリの市街地を、約一時間にわたって車中より見学される。五時二十分、御泊所にお戻りになる。

午後七時、再び御出発になり、在フランス日本国大使公邸において在留邦人ほかに御会釈を賜い、それよりフランス国駐劄特命全権大使中山賀博及び同夫人、経済協力開発機構日本政府代表部在勤特命全権大使鶴見清彦及び同夫人ほかと御夕食を共にされる。九時五分御泊所ホテル・クリヨンにお戻りになる。

この日パリ市において、ベルギー国御滞在中に受けられた懇篤な款待と厚遇に対し、国王ボードワン一世に天皇・皇后より札電を発せられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、外交贈答録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問綴、外交雑録、宮内庁庁報、官報、*Le Monde*、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞

三日 日曜日 午前九時二十五分、御泊所ホテル・クリヨンを天皇と共に御出発、ルーブル美術館を

昭和四十六年十月

御見学になる。皇后の御希望により、ミレー作「晩鐘」等が特別に展示される。この度の御訪問に際し、館長アンドレ・パロより皇后に書籍 *Les Merveilles du Louvre* の献上がある。正午、フォンテーヌブロー宮^{王室の狩猟のための館}にお立ち寄りになり、中庭にて鯉や白鳥に餌をお与えになる。なお、フォンテーヌブロー御訪問に寄せた御歌は次のとおり。

フォンテンブローの池の面^{おぼして}に秋の日は輝きにつつ鈴懸樹^{アラカダナス}散る

その後バルビゾン村のホテル「バ・ブレオ」のレストランにおいて御昼食をお召し上がりになり、午後三時過ぎ、御泊所にお戻りになる。

御少憩の後、お一方にてマリー・シモーヌ・ルヌー^{元日仏会館館長故ルイ・ルヌーの夫人、皇后の元フランス語教師}を御引見になる。この度の

御引見に当たり、同人に御署名入りお写真^{皮縁}を賜う。また同人よりインドに関する著書 *L'Inde que j'aime* の献上がある。ついでピアノを通じて親交のあつた元駐日フランス国特命全権大使シャルル・アルセーヌ・アンリー夫人ヨランダ^{昭和十二年五月七日に天皇・皇后と午餐を御会食}を御引見になる。

午後六時五十分、再び御泊所を御出発になり、セーヌ河畔にあるレストランのトゥール・ダルジヤンにおいて、御夕食をお召し上がりになる。御食後、ライトアップされたノートルダム大聖堂などの夜景を窓から御覧になり楽しまれる。九時過ぎ、御泊所ホテル・クリヨンにお戻りになる。○女官長日記、

女官日誌、内舍人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問綴、官報、外交記録、昭和天皇皇后両陛下パリ御訪問日記、*The Japan Times*、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞、東京新聞、読売新聞、*Le Monde*、あけぼの集

四日 月曜日 午前十時、御泊所ホテル・クリヨンを天皇と共に御出発になり、パリ市郊外イヴリーヌ県のヴェルサイユ宮殿に御到着になる。賓客名簿に天皇と共に御署名後、館長ジェラルド・オフレ・ヴァン・デル・ケンブより宮殿の概略をお聞きになる。それより天皇は予定を変更して御休憩になり、皇后は館長の案内にて引き続き宮殿内を御見学になる。終了後、天皇と共に御乗車、小トリアノン宮近くの水車小屋付近で下車されて御散策になる。再びヴェルサイユ宮殿にお戻りになり、ルイ十三世の間におけるフランス国政府主催の午餐会に臨まれる。

その後、パリ市西側郊外の都市再開発地区であるラ・デファンスに向かわれ、トゥール・ノーベル建物に名を冠するノーベル社は化学品・薬品の製造・販売会社の二十八階より周囲を展望される。午後三時過ぎ、ブローニユの森の中にある

ウインザー公エドワード元英国国王エドワード八世邸を御訪問になる。その際、天皇及び皇后の御署名入りお写真銀梓入りを

御贈進になる。それより直接御泊所に戻られる予定であったところ、天皇の御希望により、ブローニユの森のバガテル公園を市民に交じって御散策になる。四時十六分御泊所ホテル・クリヨンに戻られる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、外交雑録、宮内庁庁報、官報、昭和天皇皇后両陛下パリ御訪問日記、*Le Figaro*、*Le Monde*、*The Japan Times*、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、読売新聞、東京新聞

この日、去る三日に死去したホンジュラス国特命全権大使アルトゥーロ・トーレス・ウイルスの葬儀が行われるに当たり、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。○天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、

外交贈答録、賜与録

この日、ノルウェー国皇太子ハラルドの第一王女誕生につき、パリ市において同国王オラフ五世に天皇・皇后より祝電を発せられる。これに対し六日に答電がある。○天皇皇后両陛下御渡欧記録、外交慶弔録、

昭和四十六年十月

宮内庁庁報、官報

五日 火曜日 午前九時二十五分、天皇と共に御泊所ホテル・クリヨンを御出発になる。オルリー空港における空港行事に臨まれ、十時二十分過ぎ公式御訪問国である英国に向けて御出発になる。

十一時十五分、ロンドンのガトウィック空港に御到着になり、女王エリザベス二世の御名代としてお出迎えの王女マーガレット、及び夫君スノードン伯爵アンソニー・アームストロング・ジョーンズ臨席の空港行事に臨まれる。それより皇后はスノードン伯と御同乗にてガトウィック空港駅に移動され、同駅より天皇及び王女・スノードン伯と共に特別列車にてビクトリア駅に向かわれる。午後零時三十分ビクトリア駅に御到着、御下車の後、お出迎えのエリザベス女王より御挨拶をお受けになる。王配エディンバラ公フィリップ及びマーガレット王女と共に駅前のハドソン広場に歩を進められ、コールドストリーム近衛連隊の栄誉礼をお受けになる。天皇及び王配の儀仗隊閲兵が終わって、天皇は女王と六頭立ての馬車に、皇后は王配と四頭立ての馬車に御同乗になり、御泊所に充てられたバッキンガム宮殿に向かわれる。なお、同宮殿までのパレードに寄せた御歌は次のとおり。

六頭の白馬のひけるみくるま 儀装馬車に大君はのりましぬ女王とともに

ウエストミンスターの鐘の音響おとく秋の日を今儀装馬車は進む

秋の日のまばゆきばかり光るなかいま華やかに馬車進みゆく

一時、バッキンガム宮殿に御到着になる。宮殿内において催される非公式の午餐会に臨まれる。その後、御贈進品の御披露がある。天皇・皇后より女王に天皇の御署名入りお写真御紋付、銀縁、皇太后エリザベスに天皇及

りお写真御紋付、銀縁、綴錦屏風川島織物製作、四曲、蹴鞠の図を、王配に九谷焼飾皿上出喜山作、極彩、色更紗小紋文様を、

び皇后の御署名入りお写真御紋付
銀縁と金蒔絵寶石箱近江
八景を御贈進になる。さらに、皇后より女王に紅葉山御

養蚕所製生糸にて作られた手織りの絹洋服地、お手ずから描かれた葡萄の御絵金額縁
入り、『桃苑画集』を、

皇太后に紅葉山御養蚕所製生糸にて作られた手織りの絹洋服地を御贈進になる。このほか、皇太子始

め王女等にも天皇・皇后よりそれぞれ御贈進がある。また、女王より天皇・皇后に女王の御署名入り

お写真銀枠
入りとチョコレートが、皇后に銀製小箱ガラード社製とダイヤ入りブローチアンドリユー・グ
リマのデザインが贈られる。そ

のほか天皇・皇后に、皇太后より皇太后の御署名入りお写真銀枠
入りが、王配より王配の御署名入りお写真

銀枠
入りが、王女アンより王女の署名入り写真皮製枠
入りがそれぞれ贈られる。なお御帰国後、サンフランシス

コにおける貿易週間に出席のため滞米中であつた王女アレキサンドラより皇后に対し、御贈進に対す

るお礼の親書十一月
九日付が寄せられる。

四時、天皇と共に自動車にて御泊所を御出発、天皇による無名戦士の墓への供花の式に御同行のため、

ウエストミンスター寺院に向かわれる。御到着後、天皇は花環をお供えになり、その後全員で黙禱さ

れる。式が終わって、寺院内の各所を御巡覧の後、天皇と共に賓客名簿に御署名になる。なお、この

度の御同行は皇后が特に御希望になつたものである。御訪問に寄せた御歌は次のとおり。

堂内の無名戦士の墓のうへに花環そなへてふかくいのりぬ

ついで、クラレンス・ハウスにおける皇太后御主催の茶会に臨まれる。終わって、特に御希望により、

近接するセント・ジェームス宮殿の玉座の間スローン・
ルームにおける大ロンドン行政委員会並びにウエストミ

ンスター市代表による天皇歓迎の式に御同行になる。歓迎式終了後、宮殿内を短時間御巡覧になり、

五時五十七分御泊所のバッキンガム宮殿にお戻りになる。

夜、ローブ・デコルテに勲一等宝冠章を佩用され、ティアラを着用されて、天皇及びお迎えの王配と共に御料室を御出発、宮殿内における女王御主催の公式晩餐会に臨まれる。終わって、王配の御案内にて御料室にお戻りになる。

この日、ロンドンにおいて、天皇・皇后よりフランス国大統領ジョルジュ・ポンピドゥに、同国御滞在中にお受けになった懇篤な款待と厚遇についての礼電を發せられる。これに対し、九日に答電がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、外交贈答録、外交雑録、宮内庁庁報、官報、贈るところ・受けとられた美、毎日グラフ、読売新聞

六日 水曜日 午前、天皇・皇后は、皇太后及び病氣療養中のグロスター公ヘンリーに対する表敬のため、クラレンス・ハウス及びグロスター公邸に侍従次長徳川義寛を御差遣になる。

正午前、御泊所バッキンガム宮殿を天皇と共に御出発になり、ロンドン王立協会を御訪問、天皇を名誉会員に推戴する儀式に御臨席になり、終わって海洋生物の標本等を御見学になる。午後一時、ハンプトン・コート宮殿に御移動になり、英国政府主催の午餐会に出席される。終わって三時五分、自動車にてキュー王立植物園を御訪問になる。天皇による植樹が終わって、天皇は植物標本館に向かわれ、皇后はお一方にて園内見学に向かわれる。御出発までの少時、市民が皇后のもとにかけよる。この折、お近くにいた少女より花束の献上があり、少女の手をとってお応えになる。それより園長ジャック・ヘスロップハリソン夫人の案内により、樹木園・草園・温室を自動車にて御巡覧になる。ジョドレル研究所で天皇と合流され、ロック・ガーデンを廻られた後、五時三十分、御泊所にお戻りになる。

なお、この度の御訪問に際し、植物園より書籍 *Gardens and Buildings at Kew* ウイリアム・チエンバース著 の献上がある。

午後七時十五分、和服を召され、再び天皇と共に御泊所を御出発、ギルド・ホールにおけるロンドン市長及び同市主催の歓迎会・晩餐会に御出席になる。ギルド・ホール御到着に際し、ロンドン市長ピーター・スタッド夫人より花束の献上を受けられる。御会食を終えて、午後十時四十分御泊所バッキンガム宮殿にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、外交雑録、官報、ギルドホール文書、来し方の記、毎日グラフ、*The Japan Times*、*The Times*、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 木曜日 午前十時三十分、御泊所バッキンガム宮殿を天皇と共に御出発、リンネ協会を御訪問になり、動物や植物の標本コレクション、カール・フォン・リンネの養殖した真珠等を御覧になる。その中には日本の植物の標本も特別に陳列される。なお、御到着後に同協会会長アレクサンダー・ジェイムズ・エドワード・ケープ夫人より皇后に花束の献上がある。ついで、ロンドン動物学協会を御訪問になり、天皇を同協会の名誉会員に推戴する儀式に御臨席になる。終わって、同協会が運営するロンドン動物園を御巡覧の後、午後一時十分頃、御泊所にお戻りになる。

午後二時四十七分、お一方にて御泊所を御出発、大英博物館を御訪問になる。玄関にてカムデン区長 A・E・シンナー及び同区タウン・クラークである B・H・ウイルソンのお出迎えを受けられる。続いて大英博物館理事長トレベリアンより挨拶があり、館長ジョン・ウオルフェンデンの紹介をお受けになる。館内に進まれ、理事長から理事会役員の紹介を受けられる。理事長及び館長の案内により、グレコ・ロマン部門、西アジア部門、東洋部門を御巡覧になる。東洋部門では、この日まで開催の伏

昭和四十六年十月

見天皇及び後陽成天皇の宸翰や円山応挙の牡丹に孔雀図ほか絵画等を展示した天皇皇后両陛下御訪欧記念宝物展を御覧になり、同展の部屋において賓客名簿に毛筆にて御署名になる。四時二十八分御泊所に戻られる。この度の行啓に際し、大英博物館より書籍 *SCULPTURES OF ASHURBANIPAL*、スライド集 *SUMERIAN ART* 及び書籍 *Fifty masterpieces of classical art in the British Museum* の献上がある。なお、御訪問に際し一般参観の制限は行われなかった。

午後五時二十五分、再び御泊所を天皇と共に御出発、クラリッジス・ホテルにおけるロンドン日英協会・日本クラブ・対日貿易連合会・ロンドン日本人商工会議所主催の歓迎会に臨まれる。六時五分御泊所にお戻りになる。

午後七時五十五分、和服を召されて再び御泊所を御出発、在英日本国大使公邸において天皇と共にお返し晩餐会を催される。女王エリザベス二世及び王配エディンバラ公フィリップ並びに同伴の王女アンの御到着時には、玄関階段上まで天皇と共にお出迎えになり、お帰りの際には同じく玄関までお見送りになる。十一時五十分頃御泊所バッキンガム宮殿に戻られる。

この日午後、昨日キュー王立植物園において天皇がお手植えのスギが切り倒され、その根元に劇物の塩素酸ナトリウムがかけられて、「彼等は無意味に死んだのではない」という趣旨のプラカードが残されているのが発見される。これについて、この夜英国外務省は遺憾の意を表した。

この日、ロンドン庭師組合長より皇后に花束の贈呈がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、外交贈答録、外交雑録、官報、英国外務省文書、*A Bicentenary History of the Linnean Society of London*

The Times、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、*Art Treasures from the Imperial Collections*

八日 金曜日 この日、英国をお発ちになるに当たり、御泊所バッキンガム宮殿において、女王エリザベス二世・王配エディンバラ公フィリップ及びアン女王御臨席のお別れの行事が行われる。終わって女王・王配・王女のお見送りをお受けになり、午前十時二十分天皇と共に御泊所を御出発、ヒースロー空港に向かわれる。空港行事が非公式にて行われ、十一時過ぎ同空港をお発ちになり、オランダ国に向かわれる。

午後零時五分、オランダ国ハーレマーメル市のスキポール空港に御到着になる。空港行事の後、同所を自動車にて御出発、零時五十五分、御泊所に充てられたハーグ市のハイス・テン・ボス宮殿に御到着になる。三時、御泊所を御出発になる。ロッテルダム市に向かわれ、展望台ユーロマスト高さ百八十メートルのタワー建築物に御到着になる。同所前において市長ウイレム・トーマセン及び同夫人の挨拶をお受けになり、御握手になる。この時、小児より皇后に花束の贈呈がある。展望台内部にお進みになり、屋外の展望台、ついで展望レストランより市街や港湾を御展望になる。なお、ユーロマスト御視察に寄せた御歌は次のとおり。

少女をとめよりうけし花束を抱きつつユーロマストに登り港見おろす

同所をお発ちになり御泊所に向かわれる途次、お召し自動車はハーグ市内に入った際、車体に液体入り魔法瓶が投げつけられるという事件が起きる。車は外側が破損したものの、停止せずにそのまま進み、四時四十五分御泊所ハイス・テン・ボス宮殿に御到着になる。

七時、再び御泊所を御出発、在オランダ日本国大使公邸において和食の御夕食をお取りになった後、八時五十分御泊所ハイス・テン・ボス宮殿にお戻りになる。翌九日午前一時頃、この日御夕食を取ら

れた日本国大使公邸にレンガが投げ込まれるという事件が起きる。このほかにも、沿道の諸所にて御訪問に反対してプラカードを掲げる者などが見られ、以後同国御滞在中、こうした御訪問反対運動が各所で起きる。

この日、ハーグ市において、天皇・皇后より英国女王エリザベス二世に、同国御滞在中にお受けになった款待と厚遇についての礼電を寄せられる。これに対し、九日に答電がある。○女官長日記、女官日記、内舍人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、外交雑録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、いくたびの春、毎日グラフ、*Algemeen Dagblad*、*De Telegraaf*、*NRC Handelsblad*

九日 土曜日 午前九時十分天皇と共に御泊所ハイス・テン・ボス宮殿を御出発、アムステルダム動物園を御視察になる。ついでアムステルダム国立美術館を御訪問になり、レンブラントやフェルメール等の絵画を御鑑賞になる。正午よりホテル・オークラにおいて、オランダのオーケストラに所属する在留日本人団員による「君が代」の演奏をお聴きになり、ついで在留日本人ほかに御会釈を賜う。同ホテルをお発ちになった後、ユトレヒト市郊外のスースタダイク宮殿に向かわれ、女王ユリアナ御主催の午餐会に臨まれる。御会食に先立ち御贈進品が披露される。天皇・皇后より女王に、天皇の御署名入りお写真御紋付、銀縁、皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁、金蒔絵手筈山水の図を、王配ベルンハルトに有田焼花瓶第十三代酒井田柿右衛門作、濁手草花紋を、王嗣ベアトリックスに天皇及び皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁と有田焼コーヒー碗十二客、第十二代衛門作を、王女マルグリートに天皇及び皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁と金蒔絵宝石箱一段型花鳥文をそれぞれ御贈進になる。さらに、皇后より女王に紅葉山御養蚕所製生糸にて作られた手織りの絹洋服地、

お手ずから描かれたあやめの御絵金額縁入り、『桃園画集』を御贈進になる。また、天皇・皇后に、女王・王配より女王・王配の御署名入りお写真銀枠入りが、女王よりハーグ旧宮殿の絵画額入りが贈られる。御会食の後、玄関階段上まで女王のお見送りをお受けになって同所を御出発、四時、御泊所ハイス・テン・ボス宮殿にお帰りになる。なお、スーストダイク宮殿御訪問に寄せた御歌は次のとおり。

森を廻らす池にはむるる鴨も見ゆスーストダイク王宮の静かなる庭

御泊所にお戻りになった後、お一方にて、在オランダ国日本大使館が手配したオランダ陶器や人形などの展示を御覧になり、お買い上げになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、*NRC Handelsblad*、*The Japan Times*

十日 日曜日 午前九時十五分、御泊所ハイス・テン・ボス宮殿を天皇と共に御出発、スキポール空港に向かわれる。空港行事に臨まれ、十時五分、スイス国に向けて同空港をお召し機にてお発ちになる。

なお、オランダ国内での数々の反対運動について、翌十一日及び十五日に同国政府は遺憾の意を表明する。

午前十一時二十五分、スイス国のジュネーブ空港に御到着になる。空港行事に臨まれ、皇后は連邦政府代表チャールズ・ヴェッターヴァルト外務省儀典長夫人より花束の献上を受けられる。十一時四十分同空港を自動車で御出発になり、十一時五十分赤十字国際委員会本部に御到着になる。委員長マルセル・アルフレード・ナビューユより歓迎の辞をお受けになる。そのなかで、歴代の皇后が赤十字事業に尽力さ

れたことへの感謝が述べられる。終わって、委員長夫妻としばし御会話になる。その際、赤十字国際委員会に対する御贈進品の九谷焼飾皿上出喜山作、極彩色更紗牡丹紋が披露される。なお、赤十字国際委員会御訪問に寄せた御歌は次のとおり。

赤十字を始めしデュナンの苦しみをジュネーヴの秋にしみじみと思ふ

毛筆にて賓客名簿に天皇と共に御署名になった後、同所を御出発、レマン湖の大噴水等を車中より御覧になりながら、郊外ジャントーの在ジュネーブ国際機関日本政府代表部大使公邸に向かわれる。御到着の際、玄関前において少女公邸所有者の息女より皇后に花束の献上があり、御握手を賜う。主な館員夫妻等の挨拶を受けられた後、和食の御昼食を取られ、同所を御出発になる。午後二時五十分、御泊所に充てられたローザンヌ市のレマン湖畔に立つホテル・ボー・リヴァージュに入られる。

三時三十分御泊所を御出発、レマン湖畔東岸を自動車にて遊覧されつつ、湖畔に建つホテル・ミラドルに御到着になる。景色を御展望の後、ブユーラツハ・アルペンホルン三重奏団、ヨーデル合唱団アルペブルーメによる演奏を御鑑賞、終わってヨーデル合唱団の指揮者フレッド・カウフマンを御引見になる。五時同ホテルをお発ちになり、御泊所への帰途、グランヴォー村のブドウ園に立ち寄られ、ブドウ畑において皇后は白ブドウをハサミでお摘みになる。お発ちの際、天皇・皇后に籠入りのブドウと白葡萄酒飾台付の献上がある。なお、ブドウ園御訪問に寄せた御歌は次のとおり。

つみとりし葡萄のふさは籠にあふれ岡のゆふべに香を放ちけり

五時四十分、御泊所ホテル・ボー・リヴァージュにお戻りになる。その後、表敬のため訪問のスイス

国大統領ルドルフ・グネーギ及び同夫人と御会見になる。大統領夫妻が到着の際には、天皇と共にエレーターまでお出迎えになる。御会見の終わりに、御贈進品が披露される。天皇・皇后より大統領に、天皇の御署名入りお写真^{御紋付、銀縁}、皇后の御署名入りお写真^{御紋付、銀縁}、大統領夫人に佐賀錦ハンドバッグ^{宝飾付}を御贈進になる。天皇・皇后には大統領夫妻より刺繍テーブルクロス^{一五五三年製}が贈られる。なお、後日スイス国駐劄特命全権大使を通じて皇后より大統領夫人に『桃苑画集』が贈られ、これに対し、大統領より天皇に対する親書の中で大統領夫人よりの謝意が併せて表される。終わって、お一方にて東伏見睿^{御弟東伏見 慈治の子息}の拝謁をお受けになる。

この日ジュネーブ市において、オランダ国御滞在中に受けられた懇篤な款待と厚遇に対し、同国女王ユリアナに天皇・皇后より礼電を発せられる。これに対し、十三日に答電がある。○女官長日記、女官日記、内舍人供奉日記、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、外交雑録、外交贈答録、宮内庁序報、官報、入江相政日記、*Neue Zürcher Zeitung*、読売新聞、あけぼの集

十一日 月曜日 午前九時、御泊所ホテル・ボー・リヴァージュを天皇と共に御出発になり、ジュネーブ空港に向かわれる。御着後、空港行事が行われ、九時五十分、公式御訪問国であるドイツ連邦共和国に向けて同空港をお召し機にて出発される。十一時四十五分、ケルン・ボン空港に御到着になる。入院加療中の大統領グスタフ・ヴァルター・ハイネマンに代わり、大統領代行の参議院議長ハンス・コシュニツク及び同夫人がお出迎えのもと、空港行事に臨まれる。皇后は大統領代行夫人と御同車にて空港を出発される。午後零時三十分、ボン

昭和四十六年十月

市の御泊所である首相官邸附属邸バンガローに御到着になる。

御少憩の後、零時五十五分、天皇と共に御泊所を自動車にて御出発になり、大統領官邸ウイラ・ハマーシュユミットに

おいて開かれる大統領代行夫妻主催の非公式午餐会に臨まれる。ハイネマン大統領夫人始め諸員と共に

御会食の後、御贈進品等が披露される。すなわち天皇・皇后より大統領に、天皇の御署名入りお写

真御紋付、銀縁、皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁、七宝花瓶舞楽延、喜楽、大統領夫人に金蒔絵手筈梨子地、桜模様、大統領代行に

天皇及び皇后の御署名入りお写真御紋付、銀縁及び銀花瓶、大統領代行夫人に西陣織イブニングバッグを御贈

進になる。また大統領より皇后に陶製人形置物マイセが贈られ、大統領代行夫妻より天皇・皇后に大統

領代行及び同夫人の署名入り写真銀枠入りが贈られる。二時三十五分、御泊所にお戻りになる。

御少憩後、三時二十五分、再び御泊所を天皇と共に御出発、ボン市庁舎を御訪問になる。市長ペーター・

クレマーより歓迎の辞を受けられ、賓客名簿に天皇と共に御署名の後、同所を御出発になる。つい

でバート・ゴードスベルクのラ・レドウートこの時期、外賓接遇等に利用された施設においてドイツ連邦共和国駐在の各国特命

全権大使を順次御引見になる。四時四十五分御泊所にお戻りになる。

午後七時十分、ローブ・デコルテに勲一等宝冠章の副章及びドイツ連邦共和国功績大十字特別章を佩

用され、ティアラを着用されて、天皇と共に御泊所を御出発、ブリュールにあるアウグストウスブル

ク城における大統領代行夫妻主催の公式晩餐会及び夜会に臨まれる。十時四十五分、御泊所首相官邸

附属邸にお帰りになる。

この日ボンにおいて、スイス国御滞在中に受けられた懇篤な款待に対し、同国大統領ルドルフ・グネー

ギに天皇・皇后より札電を発せられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、昭和天皇御渡欧米関係書類、外交贈答録、外交雑録、宮内庁庁報、官報、Frankfurter Allgemeine Zeitung、Le Monde

十二日 火曜日 午前九時十分、天皇と共に御泊所首相官邸附属邸を御出発になり、ボン中央駅よりビンゲン駅を経て、ライン河畔のビンゲン船着場に御到着になる。十時四十五分、河岸乗船場からライン河下りの観光船「ローレライ号」に御乗船になり、午後二時二十分頃、六十キロメートル離れたコブレンツ船着場に御到着になる。船内ではドイツの詩人ハインリッヒ・ハイネの詩によるフリーツプ・フリードリヒ・ジルヒャー作曲「ローレライ」が演奏され、歌手のリードにて大合唱に和せられる。乗船中には沿岸に並ぶ古城の風景をスケッチされる。なお、ライン河下りに寄せた御歌は次のとおり。

黄葉もみぢするラインのほとり霧はれてゆくてに古城たちならぶ見ゆ

ついで自動車にてコブレンツ駅に向かわれ、特別列車でケルン中央駅に御到着になる。ケルン市長テオ・ブラウエン及び同夫人のお出迎えをお受けになり、御握手になる。同駅を御出発、ケルン市庁舎に向かわれる。途中、御訪問に反対する者たちにより御行路の妨礙が行われたり、ポスターや赤い旗が掲げられたりするなどの騒動が起こり、また市庁舎前では小銃を携帯する者が拘束されるという事件が起きる。御到着後、市長テオ・ブラウエンより歓迎の辞をお受けになり、天皇と共に賓客名簿に御署名になる。その後、特別に陳列されたローマ・ゲルマン博物館の所蔵品、地下に保存されているローマ時代の遺構や遺品を御覧になる。次にケルン大聖堂を御訪問になる。内部を御見学になり、またパイオルガンによる「君が代」の変奏曲をお聴きになる。終わって同所を御出発の際、皇后は

群衆の中から駆け寄った少年よりバラの花束の献上をお受けになり、御握手になる。天皇も同じく御握手になる。ついで日本文化会館を御訪問になり、在留邦人に御会釈を賜い、天皇后両陛下御訪欧記念宝物展を御見学になる。御到着の際、会館前において左翼学生約八十名が騒ぎ、車列にトマト・ジャガイモ等を投げ付けるが、御料車には当たらず警察に排除された。また、御出発の際にも、先の極左学生が発煙筒を焚くという反対運動を行ったが、車列に影響はなかった。五時四十分、在ドイツ連邦共和国日本国大使公邸に御到着、和服にお召し替えになり、天皇と共にお返し晩餐会を催され、大統領代行夫妻他と御会食になる。終わって十一時過ぎ御泊所首相官邸附属邸にお帰りになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、昭和天皇御渡欧米関係書類、天皇后両陛下御渡欧書類、外交雑録、官報、天皇后ヨーロッパ訪問記念写真集、*Frankfurter Allgemeine Zeitung*、*The Japan Times*、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、時の動き

十三日 水曜日 午前九時過ぎ、天皇と共に御泊所首相官邸附属邸の御前庭にお出ましになる。皇后はスケッチブックに写生される。なお、早朝の御写生に寄せた御歌は次のとおり。

さはやかに風かよふドイツの秋の朝絵筆をとりぬ庭にたちつつ

十時、天皇と共に御泊所を御出発になり、ベートーヴェン・ハウスベートーヴェンの生家を改装した記念館を御訪問になる。

ベートーヴェン協会会長ヘルマン・ヨゼフ・アプス及び同夫人の案内により、各階に展示されたベートーヴェンゆかりの品々を御覧になり、皇后は楽器や補聴器等について種々御下問になる。ついで三階演奏室において、晩年ベートーヴェンが使用したコンサート・グラーフ製作のピアノによりピアノのクリストフ・エッシェンバッハが演奏するベートーヴェン作曲ピアノソナタ第十四番「月光」

第一楽章をお聴きになる。終わって、ベートーヴェンが誕生した部屋を御覧になった後、二階において、スタインウェイ製のピアノ古い時代のピアノによりエツシエンバッハが演奏するベートーヴェン作曲ピアノソナタ第三十一番をお聴きになる。終わって演奏者と御握手になる。なお、同所でのピアノ演奏御鑑賞は皇后の希望によるものであり、エツシエンバッハに対し、大好きな作曲家の演奏に接して嬉しく思う旨のお言葉を賜う。この度のご訪問に際し、ベートーヴェン・ハウスより天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはエツシエンバッハ演奏のモーツアルトレコード集が献上される。また、同所をお発ちになる際、少女が走り寄って皇后に花束を差し上げる。十一時御泊所にお戻りになる。

その後、天皇と共に、ドイツ連邦共和国前大統領ハインリッヒ・リュプケ夫人を御引見になる。この際、天皇・皇后に、昭和三十八年のリュプケ大統領訪日記念にドイツ連邦共和国で作成された金製メダルの献上がある。午後零時二十分、天皇と共に御泊所を徒歩にて御出発になり、首相官邸における首相主催の午餐会に臨まれる。御会食の後、一旦御泊所にお戻りになる。

二時二十分御泊所首相官邸附属邸を御出発になり、ケルン・ボン空港に御到着になる。大統領代行ハンス・コシュニツク及び同夫人等の見送りのもと、三時十七分、御帰国のため同空港を御出発になる。約九時間半の飛行の後、飛行機は米国アラスカ州に入り、現地時間の十三日午後二時三十五分、給油のためアンカレジ空港に着陸する。給油が終わって、三時三十五分、空港を御出発になる。

機内において、天皇・皇后よりドイツ連邦共和国大統領代行ハンス・コシュニツクに、同国御滞在中に受けられた懇篤な款待と厚遇についての礼電を発せられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇

皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、昭和天皇御渡欧米関係書類、外交雑録、宮内庁庁報、官報、Frankfurter Allgemeine Zeitung、The

昭和四十六年十月

Japan Times、サンケイ

十四日 木曜日 日付変更線を通過され、定刻の午後五時四十五分、東京国際空港に御到着になる。

雨儀にて行われた空港行事の後、皇族及び諸員のお見送りのうちに同空港を御出発になり、六時二十五分、天皇と共に皇居に還啓される。御出発の際と同様に、関係者多数の奉迎のうちに宮殿に入られる。御座所にて御少憩の後、千鳥の間・千草の間において、首席随員福田赳夫より無事御帰国につき挨拶をお受けになり、天皇・皇后よりそれぞれ随員に労いのお言葉を賜う。終わって宮内庁長官の発声により乾杯を行われ、御退室になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、天皇后両陛下御渡欧記録、天皇后両陛下御渡欧関係書類、空港行事録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、素顔の昭和天皇

この日、天皇后両陛下御訪欧記念切手<sup>一シート十五
円切手二枚</sup>が発行され、凶案には「天皇旗・菊花・鳳凰」及び

『錦芳集』所載の御絵「海の彼方」が使用された。○天皇后両陛下御渡欧書類、官報、サンケイ、錦芳集

十五日 金曜日 午後及び御夕食後、昨日テレビ放送された御渡欧より帰国等に関する番組の録画ビデオを天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

この日より十八日まで東急百貨店日本橋店において「秋の日本ばら会展」<sup>財団法人日本
ばら会主催</sup>開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。十七日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十六日 土曜日 ヨーロッパ諸国御訪問から御帰国につき、午前、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀に臨まれ、三殿を御拝礼になる。なお、昨十五日には神宮に御奉告のため、侍従安楽定信に皇大神宮並びに豊受大神宮の御代拝を仰せ付けられる。二十一日午前には神武天皇山陵に奉告の儀につき、侍従卜

部亮吾に御代拝を仰せ付けられる。また二十二日午前には大正天皇山陵に奉告の儀並びに貞明皇后山陵に奉告の儀につき、侍従井関英男にそれぞれ御代拝を仰せ付けられる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に鳳凰の間において、御訪欧の首席随員福田赳夫始め随員の拝謁をお受けになる。福田首席随員より挨拶をお受けになり、慰労のお言葉を賜う。ついで随行員・関係出張員の賜謁があり、天皇と共に宮殿御車寄内広間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、宮内庁庁報、入江相政日記

十七日 日曜日 午前、神嘗祭賢所の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、ヨーロッパ諸国からのお土産品を御覧になる。ついで参殿の皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王と御対面になり、お土産品をお渡しになる。天皇・皇后より皇太子・同妃に硝子花瓶^{ラリッ}を、同妃にブローチ^{カルヴァ}を賜い、徳仁親王・文仁親王・清子内親王にはそれぞれアノラックとズボン^{いずれもミニ}を賜う。引き続き御夕食を御会食になり、御食後、参殿の清子内親王も加わり、御団欒になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、天皇皇后両陛下御渡欧記録

翌十九日より二十四日まで大阪阪急百貨店において「秋の日本ばら会展」^{財団法人日本ばら会主催}開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十一日にも御出品になる。○贈賜録

昭和四十六年十月

十九日 火曜日 午前、正殿竹の間において、米国大統領特使として東南アジア訪問の帰途に訪日した公賓ロナルド・ウイルソン・レーガンカリフォルニア州知事及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、靖国神社霊璽奉安祭に各都道府県代表として参列の遺族の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。靖国神社権宮司池田良人より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報、靖国

正殿竹の間において、この度離任のポルトガル国特命全権大使ヴィルジリオ・アルマンド・マルティンス及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

月の間において、この度御訪問になったヨーロッパ各国からの御贈進・献上の品々を天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録

夕刻、吹上御所において天皇と共に、参殿の正仁親王・同妃華子と御対面の上、御訪欧の際の土産品として親王・同妃にサンルイ社製硝子花瓶を、同妃にカルヴァン社製の小鳥型ブローチをお渡しになる。それよりお揃いにて御夕餐を御会食になる。終わって、御一緒に宮殿月の間にお出ましになり、ヨーロッパ各国からの御贈進及び献上の品々を同親王・同妃にお見せになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、読売新聞

二十日 水曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、同妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始めより祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、ベルギー国御訪問時に同国国王ボードワン一世・王妃より御贈進の記録映画「サンゴ礁の魚」、デンマーク国コペンハーゲン日本国名誉総領事カール・クロイヤーより献上の記録映画「グリーンランド」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録

デンマーク国王妃イングリットが病気のため入院したとの報せを受け、この日、天皇・皇后より同国王フレデリック九世にお見舞電報を発せられる。同日、御答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報
二十二日 金曜日 午後、吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十三日 土曜日 和歌山県において開催される第二十六回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、午前十時二十九分天皇と共に御出門、同県に行啓される。東京駅より京都駅・奈良駅・和歌山駅を経て、午後四時五十三分、和歌山市の御泊所新和歌浦観光ホテルに御到着になる。御夕餐後、天皇と共に御座所前バルコニーより、約百艘の漁船による歓迎の海上パレードを御覧になり、赤色の提灯を振ってお応えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、京都府庁所蔵資料、和歌山県庁所蔵資料、入江相政日記、和歌山新聞

二十四日 日曜日 午前九時五十分、天皇と共に御泊所新和歌浦観光ホテルを御出発、和歌山県民文化会館にお立ち寄りになり、物産品の展示を御覧になる。御昼食と御少憩の後、和歌山県宮紀三井寺運動公園陸上競技場に向かわれ、第二十六回国民体育大会秋季大会開会式に御臨場になる。午後三時

昭和四十六年十月

五十二分御泊所新和歌浦観光ホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、

宮内庁庁報、官報、紀伊民報、紀南新聞、和歌山新聞

バザー開催の常磐会に、この日切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十五日 月曜日 午前九時三十九分、天皇と共に御泊所新和歌浦観光ホテルを御出発になる。柔道

競技場である和歌山市立松下体育館において高校の部の試合富山対東京と福岡対岡山を御覧になる。続いて紀伊風土

記の丘に向かわれ、お立所より周囲を御展望になる。ついで松下記念資料館考古セを御見学になった後、

那賀郡の粉河町立体育館に移られ、レスリング競技を御覧になる。同所を御発の後、粉河駅・和歌山

駅・紀伊田辺駅を経て、午後は田辺市立弓道場において、弓道競技高等学校の部女子の試合を御覧に

なる。次に同市内の紀南農業協同組合中央選果場を御視察になり、午後四時三十分、西牟婁郡白浜町

の御泊所ホテル川久に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

紀南農業協同組合所蔵資料、行幸啓誌、紀伊民報、和歌山新聞

二十六日 火曜日 午前八時四十四分天皇と共に御泊所ホテル川久を御出発になり、白浜駅から東京

駅を経て、午後四時六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供

奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、紀伊民報、紀南新聞、和歌山新聞

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、去る二十三日イラン国訪問から帰国の崇仁

親王・同妃百合子と御対面になる。引き続き鳳凰の間において、随員代表小川省三宮務課長の拝謁を天皇と

共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 午前、堂上会総代二条弼基・綾小路護・壬生基泰の賜謁があり、天皇と共に宮殿の通御廊下にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

十一月

一日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る十月二十三日に成年に達し、この日賢所・皇靈殿・神殿に参拝した容子内親王と御対面になる。その際皇后が、健やかに学業に励むことを祈る旨のお言葉を述べられる。後刻、勲章親授の式を終えた容子内親王と、花の間において、お一方にて御対面になる。なお、この度の参内に際し、天皇・皇后より内親王に白羽二重を、また別にお品・絹洋服地・菓子及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、容子内親王成年式一件、重要雑録、賢所諸件、宮殿行事録、例規録、宮内庁序報

この度のヨーロッパ諸国御訪問について尽力した内閣総理大臣始め内閣・外務省・警視庁・日本航空等の関係者に対し、天皇・皇后よりお写真・銀盃等を賜う。○天皇皇后両陛下御渡欧記録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問綴、外国御訪問録、入江相政日記

二日 火曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分、天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁序報、官報

三日 水曜日 午前、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会で選ばれた健康優良学校代表・健康優良児童等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。同表彰会会長広岡知男朝日新聞

昭和四十六年十一月

社
長 社 長 より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、

宣召録、宮殿行事録、宮内庁序報、朝日新聞

四日 木曜日 ヨーロッパ諸国御訪問から御帰国につき、午後、吹上御所において、前女官長保科武子始め元女官等より天皇と共に御機嫌奉伺をお受けになる。天皇が退出された後も引き続き、御訪欧の際購入された人形等を披露されながら御歓談になる。なお、天皇・皇后よりそれぞれに土産品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十日 水曜日 午前、鳳凰の間において、新任の女官福永泰子の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、入江相政日記

十二日 金曜日 午前、天皇と共に石橋の間において、宮内記者会会員とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、御渡欧の御感想等について、またベルギーをお発ちになる前にお一方にて御散策になり民族人形を買われたことについての質問をお受けになる。初めての御訪問の御感想に関しては、良い時にお供できて嬉しく思うとともにできるだけ親善に努めたこと、ベルギーの民族舞踊が大変面白かったこと、スケッチをする暇がなかったこと、ベルギーの民族人形に関しては、大きな人形と小さな人形を購入したが、孫たちへのお土産にするか、それとも自分のものにするかで迷っていることをお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇記者会見、天皇皇

后両陛下御渡欧記録、宮殿行事録

十三日 土曜日 ヨーロッパ諸国御訪問から御帰国につき、吹上御所において天皇と共に、参殿の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、ついで御昼餐を

御会食になる。なおこの度の御訪問より御帰国につき、天皇・皇后より故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子に白縮緬・お品を賜う。終わって、ホールに並べられた御訪問先からの御贈進品・献上品を披露され、天皇と御一緒に説明を行われる。崇仁親王・同妃、続いて天皇の御退出後、引き続き故雍仁親王妃・宣仁親王妃と御歓談になる。また御夕食は、天皇及び参殿の東久邇信彦・同文子・同真彦・同優子・壬生基博と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 月曜日 午前、この度新たに宮内庁御用掛を委嘱された熊谷直博、委嘱を解かれた池部健より、花の間において拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、アルジェリア国特命全権大使ブラヒム・ガーファー及び同夫人、オランダ国特命全権大使テオドル・ポール・ベルフスマ及び同夫人、初代トリニダード・トバゴ国特命全権大使アシユフォード・サストリ・シナナン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴くガーナ国駐箚特命全権大使上川洋及び同夫人、サウジアラビア国駐箚特命全権大使高杉幹二及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、マレーシア国特命全権大使ラジャ・アズナム・ビン・ラジャ・ハジ・アハマド及び同夫人、アルゼンチン国特命全権大使ホルヘ・サルヴァドール・マリア・オリア及び同夫人、ブ

昭和四十六年十一月

ラジル国特命全権大使。パウロ・リヤオン・デ・モーラを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後三時、石橋の間において、社団法人日本外国特派員協会^{F C}内の在日外国報道協会^{F P}会長サムエ

ル・W・ジエームソン<sup>ロサンゼルスタイ
ムズ東京支局長</sup>始め同会所属のヨーロッパ諸国御訪問関係国の記者を天皇と共に御

引見になる。これは天皇・皇后のヨーロッパ御訪問の御感想を伺いたいとの御訪問国記者からの願ひ
出により行われ、記者は、在京の米国・英国・仏国・デンマーク国・オランダ国・ドイツ連邦共和国
の六箇国の新聞社・通信社・放送局からなる。始めにジエームソン会長よりお礼の挨拶をお受けにな
り、ついで種々質問をお受けになる。天皇の御訪問に賛成しない意思表示があつたことについて、天
皇の身の上につき心配はなかつたかとの質問に対しては、心配はしたけれども、そのようなことはな
いだらうと思つていた旨を答えられる。また、初めての海外旅行であつたことに関して、ヨーロッパ
へお供することが決まつた際には大変驚き、また大変嬉しく思つたが、良いお供ができたことは一
生忘れない旨を述べられる。さらに、一番驚かれたこと、及びパリで昔の先生と面会された印象につ
いて質問があり、とくに驚いたということはないが、先生に面会したことは大変良い印象を得た旨を
お答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪
問録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 ヨーロッパ諸国御訪問に尽力した閣僚<sup>国会開会中につき経済企画
庁長官木村俊夫のみ出席</sup>及び元閣僚、外交団、随員

及び随行員、日本航空株式会社関係職員、関係官庁職員など関係者約二百名を天皇と共にお招きにな

り、豊明殿においてお茶の席を設けられる。その際、それぞれより種々お話を聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 創立二十周年記念全日本精神薄弱者育成会全国大会手をつなぐ親の会に御臨席のため、午後一時十九分御出門、渋谷公会堂に行啓される。御着後、社団法人東京都精神薄弱者育成会会長代理経政次郎副会
長、故雍仁親王妃勢津子、全日本精神薄弱者育成会参与徳川正子まさこのお出迎えを受けられる。全日本精神薄弱者育成会理事長徳川義親による式辞、厚生大臣感謝状・同会理事長感謝状・同表彰状の授与に続き、次のお言葉を賜う。

本日創立二十周年記念全日本精神薄弱者育成会全国大会に出席して、日ごろ心身に障害をもつこどもたちのために尽力している皆さんに親しく接することができましたことを、大変うれしく思います。

皆さんは、薄幸な人々のために、手をつなぐ親の運動を推進し、地味ではありますが社会的に有意義な活躍を続けて今日にいたりました。

ここに二十年間の努力がみのつて、このように盛大な大会が開催され、この事業が力強くすすめられていることは、喜びにたえません。今後とも関係者が協力して、なおいつそう使命の達成に努力することを希望します。

続いて理事長の奉答、母親代表の仙台精神薄弱者育成会会長安彦ひさ子による手をつなぐ親の体験報告をお聞きになった後、会場を御発、二時十七分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、

昭和四十六年十一月

幸啓録、宮内庁庁報、東京都育成会

十九日 金曜日 正午、正殿竹の間において天皇と共に、タイ国王ラーマ九世プミポン・アドゥンヤデートから派遣された同国皇太子ワチラロンコンと御会見になる。その際、御贈進品が披露され、天皇・皇后よりタイ国皇太子に、日本光学工業株式会社製写真機ニツコール・オート、図録『宮殿』普及本をお贈りになり、タイ国皇太子より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には同国の扇子が贈られる。その後、連翠において宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓接待録、外賓参内録、賜与録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、紫綬褒章・藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省・厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。紫綬褒章受章者藤野恒三郎文部省関係功労者より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

宮内庁庁舎三階講堂に天皇と共にお出ましになり、宮内庁職員組合による文化祭の美術展を御巡覧になる。同展には、「那須にて」「河原の夏」「高原」と題する御絵三点を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧奉仕者会誌、文化祭目録

二十日 土曜日 午前、花の間において、この日宮内庁職員組合による文化祭の美術展を観覧した御学友・御同級生十六名の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十五日 木曜日 午前、正殿梅の間において、キューバ国特命全権大使リカルド・カブリサス・ルイス及び同夫人、スイス国特命全権大使ジョヴァンニ・エンリコ・ブツヘル、イスラエル国特命全権

大使エイタン・ロン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この度のヨーロッパ諸国御訪問に尽力した関係省庁・宮内庁・日本航空株式会社等職員の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下ヨーロッパ諸国御訪問録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において池田厚子と御対面になり、種々御歓談になる。その際、ベルギー国御訪問のお土産として天皇・皇后より同人にレース編み人形を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十六日 金曜日 午後、文部大臣から表彰された教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。私立成田高等学校校長川瀬信雄より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

吹上御所において、昨年死去した元掌典長徳大寺実厚の夫人米子製作の曼荼羅刺繍を、侍従次長徳川義寛の説明にて天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十七日 土曜日 午前、芳菊の間において、鷹司和子と御対面になる。ついで天皇も加わり御一緒に萩の間に移られ、御昼餐を御会食になる。なお、この度のヨーロッパ諸国御訪問のお土産として、天皇・皇后より同人にベルギー国のレース編み人形及びスイス製腕時計を賜い、これとは別に果物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和四十六年十二月

御夕食後、吹上御所において、後に「天皇皇后両陛下ヨーロッパ御訪問の旅」として完成することになる、編集途中の御渡欧記録映画を天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御渡欧記録、外国御訪問録

二十八日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 火曜日 ニカラグア国特命全権大使ミゲル・デスコト・イ・ムニョス及び同夫人、インド国特命全権大使ヴィンセント・ハーバート・コエリオ及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使サイド・カシム・リシテイヤをお招きになり、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に芳菊の間において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

吹上御所において、天皇及び御相伴に召された元女官今城誼子等と御夕食を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二月

一日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のニュージーランド国特命全権大使ロバート・ハンター・ウエイド及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

皇太子・同妃始め皇族・元皇族・御親族に対し、天皇・皇后より御訪欧の記念としてボンボニエールを賜う。○女官長日記、天皇皇后両陛下御渡欧記録

五日 日曜日 午前、吹上御所において天皇と共に故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の故雍仁親王例祭が無事終了につき、天皇・皇后よりのお供え物についてのお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

六日 月曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のポーランド国特命全権大使ジグムント・フルターク及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 火曜日 久邇朝融祥月命日につき、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌

八日 水曜日 午前、花の間において、近くコペンハーゲンに出立の久邇正子の拝謁をお受けになる。

その際、万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

九日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のエジプト国特命全権大使マハムード・ハサン・エル・アルシー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、重要無形文化財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。皇太子妃・故秩父宮妃勢津子始め皇族・元皇族・御縁故者等に加え、服部豊子・重要無形文化財保持者等が陪席する。御休所において先着の皇族方より挨拶をお受けになった後、会場にお進みになる。途中休憩を挟み、長唄「馬場先踊」「釣狐」唄は日吉小三八、三味線は、杵屋栄二・稀音家六多郎、箏曲「桜狩」箏・唄は上原真佐喜・山瀬松韻、三絃・唄は高橋栄清を御鑑賞に

なる。終わって楽部に設けられた御休所において、長唄・箏曲の出演者より順次拝謁をお受けになる。

ついで楽部御発の際、出演者及び三曲協会会長米川文子に御会釈を賜う。この度の演奏会に際し、出

演の重要無形文化財保持者の杵屋栄二藤間吉太郎・上原真佐喜林兎喜子に御紋付木盃大一組等を賜い、その他の出

演者等にもそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、邦楽演奏会、東宮録、恩賜録、賜与録

十三日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、翌昭和四十七年一月七日の崇神天皇二千年

式年祭に先立ち、前正倉院事務所長和田軍一より「崇神天皇の御事蹟について」と題する進講をお聴

きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午前、花の間において、御機嫌奉伺のため参内の京都在住堂上会総代水無瀬忠寿よ

り拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に芳菊の間において、札幌オリンピック冬季大会組織委員会副会長竹田恒徳国際オリンピック委員会委員の拝

謁をお受けになり、翌昭和四十七年二月に開催予定の第十一回冬季オリンピック札幌大会についての

説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十五日 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、

典式録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 天皇と共に連翠において、パキスタン国特命全権大使サイド・モタヘル・フセイ

及び同夫人、ガーナ国特命全権大使シルベスター・コフィ・ウイリアムズ、カンボジア国特命全権大

使シム・ヴァル及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

翌昭和四十七年二月に札幌オリンピック冬季大会が開催されるに当たり、天皇・皇后より財団法人スポーツ振興資金財団に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、同じく日本赤十字社に天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十日 月曜日 翌昭和四十七年一月十日の天智天皇千三百年式年祭に先立ち、午前、正殿竹の間において、学習院大学教授黛弘道より「天智天皇の御事蹟について」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において新任のシンガポール国特命全権大使ロイ・ケン・フー及び同夫人、エクアドル国特命全権大使フランシスコ・ウルビーナ・オルテイス、レバノン国特命全権大使ハリム・シェビーヤ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
御夕食後、吹上御所において、ヨーロッパ諸国御訪問の記録映画「天皇后両陛下ヨーロッパご訪問の旅」の第一巻から六巻までを、天皇と共に御覧になる。翌日の夕刻も、天皇と共に第七巻から十二巻を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、天皇后両陛下御渡欧記録

二十一日 火曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎より日本赤十字社事業についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十二日 水曜日 連翠北において天皇及び御相伴に召された元内大臣木戸幸一・元侍従長大金益次郎・同三谷隆信・前侍従長稲田周一・前式部官長原田健と午餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、入江相政日記

午後、天皇と共に吹上御所において、朝日新聞社より献上されたヨーロッパ諸国御訪問の記念写真百数点を御覧になる。この度献上された写真は、去る十月十九日より二十四日まで日本橋の高島屋において開催の「両陛下ご訪欧写真展」朝日新聞社主催に展示されたものである。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、朝日新聞

人日誌、朝日新聞

二十三日 木曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀を、続いて女官長始め女官、元女官長始め元女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈録、宮内庁庁報

この日、歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録

二十五日 土曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。天皇・皇后よりの賜品についてのお礼言上をお受けになり、種々御歓談になる。この年は同妃が還暦を迎えたため、通例の鮮鯛代料とは別に、お品料並びに白葡萄酒・赤葡萄酒・シェリーを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 月曜日 午前、花の間において、御機嫌奉伺のため参殿の津軽久子正仁親王妃華子の母の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

アフガニスタン国特命全權大使サイド・カシム・リシテイヤ去る十九日結婚につき、この日、天皇・皇后より同大使に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、外交贈答録、賜与録

二十九日 水曜日 午前、鳳凰の間において天皇と共に、宮内庁長官始め総代より歳末の祝詞言上を、ついで女官長始め女官・御用掛より、続いて正仁親王始め皇族・元皇族・御親族より歳末の祝詞言上をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

夕刻、歳末につき、吹上御所において天皇と共に皇太子・同妃・徳仁親王と御対面になる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和四十七年（西曆一九七二年）

六十九歳

一月

一日 土曜日 午前九時四十五分より宮殿において新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・容子内親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及び各国外交使節団の長等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、天皇と共に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等、及び側近奉仕者の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、例規録、宮内庁庁報、官報

二日 日曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に、午前三回と午後五回の計八回、長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に集まった一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、年末年始行事、典式録、宮内庁庁報、官報

一回目の新年一般参賀にお出ましの後、天皇と共に鳳凰の間において、憲仁親王始め未成年の皇族等の祝賀を、ついで正殿竹の間において元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録

三日 月曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、年末年始行事、典式録、儀式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

四日 火曜日 デンマーク国王フレデリック九世の御病気につき、天皇・皇后より同国王にお見舞電報を発せられる。これに対し、王妃イングリットより五日に答電がある。十三日にもお見舞電報を発せられ、十四日に王妃より答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

五日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の雍仁親王墓所への女官御差遣につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

六日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のベルギー国特命全権大使フレデガン・コージェルス及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、鳳凰の間において元女官長保科武子始め元女官等の祝賀を、宮殿西車寄前において元女孀等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

花の間において服部豊子^{ヴァイオ}リニストの祝賀をお受けになる。引き続き同所において、元学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、典式録

七日 金曜日 午前、崇神天皇二千年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

九日 日曜日 吹上御所において、天皇と共に、正仁親王・同妃華子と御昼餐を御会食になる。終わって、お揃いにてお庭を御散策になる。以後この年は、月に二、三回の割合でこの二方と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 月曜日 午前、天智天皇千三百年式年祭の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員金倉円照より「日本のインド哲学」、同木村亀二より「刑罰の本質について」、同山内恭彦より「現代科学と人間」と題する進講をお聴きになる。進講後、進講者及び進講者控の賜謁があり、天皇と共に正殿竹の間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、講書始録、典式録、宮内庁庁報、例規録、宮内庁庁報、官報

吹上御所において、天皇と共に、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後この年は、概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十三日 木曜日 午前、花の間において、前任の侍従井関英男及び新任の侍従杉原正純の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十四日 金曜日 午前十時、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題

は「山」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

紺碧の海のかなたにそびえつつけさ見る富士は雪ましるなり

儀終了後、正殿竹の間において召人・選者・諸役等の、ついで宮殿回廊において預選者の賜謁があり、天皇と共に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、歌会始録、儀式録、年末年始行事、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

この日、過日英国王配エディンバラ公フィリップより冬景色を描いた自筆油絵^{額入}の御贈進を受けたことに対し、礼状を送られる。○外交贈答録、外国御訪問録

十五日 土曜日 この日、デンマーク国王フレデリック九世崩御につき、天皇・皇后より弔問使として侍従卜部亮吾を同国大使館に差し遣わされる。さらにフレデリック九世の崩御に伴い即位された女王マルグレーテ二世に対し、天皇・皇后より弔電を發せられ、二月五日に答電がある。また天皇・皇后より皇太后イングリットに弔電を發せられ、一月二十七日に答電がある。二十一日には、柩の安置されているコペンハーゲン市内のクリスチャンボー城内の教会に天皇・皇后より花環をお供えにする。これに対し、後日女王並びに皇太后よりお礼の親書が寄せられる。同国王の崩御により、十七日まで三日間の宮中喪が發せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、重要雜録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

十七日 月曜日 午前、第十五回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催・読売新聞社後援}受賞校代表者の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄の挨拶を受けられ、天皇に続き

昭和四十七年一月

お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

十八日 火曜日 午前、正殿竹の間において、第十一回冬季オリンピック札幌大会に関する進講を天皇と共に聴きになる。進講は、札幌オリンピック冬季大会組織委員会会長植村甲午郎・同副会長武典専門委員長竹田恒徳国際オリンピック委員会委員・同競技専門委員長青木半治日本オリンピック委員会委員長・同事務総長佐藤朝生が務める。進講の際、金・銀・銅の各メダル及び参加章を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 スペイン国王位継承者ファン・カルロス及び同妃ソフィア来日に先立ち、午前、正殿竹の間において、天皇と共に同国駐劄特命全権大使高橋寛の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

午後、花の間において、御機嫌奉伺のため参殿した法華寺門跡の久我高照の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、デンマーク国特命全権大使ジョシム・ヘンリック・ゲオ・ツイトフェン・アデーラーが死去したため、天皇・皇后より弔問使として侍従田中直を同国大使館へ差し遣わされる。二十五日の告別式当日には、式場である東京カテドラルに天皇・皇后より花環をお供えになる。○侍従日誌、外交慶弔録、

外交贈答録、賜与録

二十日 木曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国の前サウジアラビア国駐箭特命全権大使田村秀治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

午後七時、正殿竹の間に天皇と共にお出ましになり、公賓として来日したスペイン国王位継承者ファン・カルロス及び同妃ソフィアと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはイサベラ女王大綬章が贈られる。

御会見を終えて、豊明殿において宮中晩餐を天皇と共に催される。なおこの度の来訪につき、天皇・皇后よりファン・カルロス及び同妃に図録『宮殿』普及版を、ファン・カルロスに旭光学商事社製の写真機を、同妃に佐賀錦ハンドバッグを御贈進になる。また、ファン・カルロス及び同妃より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には同国伝統の貝細工扇子が贈られる。これとは別に、ファン・カルロス及び同妃の入京時には、皇后より同妃に花束の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十五日 火曜日 午前、正殿竹の間において、ソビエト連邦外務大臣アンドレイ・アンドレエヴィチ・グロムイコ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十六日 水曜日 午後、千草の間において、前デンマーク国駐箭特命全権大使小川平四郎及び同夫人の拝謁を天皇と共に受けられ、お茶を賜い、御歓談になる。この度の拝謁は、昨年の御訪欧時に同

昭和四十七年一月

国駐箚特命全権大使として尽力したことを慰労する意味で行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

二十七日 木曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 金曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国の前大韓民国駐箚特命全権大使金山政英及び同夫人、近く赴任のフィンランド国駐箚特命全権大使山本良雄及び同夫人、軍縮委員会日本政府代表部在勤特命全権大使西堀正弘及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、国際オリンピック委員会^{IO}委員、札幌オリンピックク冬季大会組織委員会役員、内閣総理大臣及び各配偶者等をお招きになり、春秋の間において天皇と共に茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮中茶会、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午後、正殿梅の間において、近く赴任のインド国駐箚特命全権大使小島太作及び同夫人、オランダ国駐箚特命全権大使須之部量三及び同夫人、ガボン国駐箚特命全権大使吉川紀彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

宮内庁庁報

二月

一日 火曜日 北海道において開催される第十一回冬季オリンピック札幌大会に御臨場、併せて道内事情を御視察のため、天皇と共に同地に行啓される。午前十時五十七分御出門、東京国際空港をお立ちになり、千歳空港を経て、午後二時三十七分札幌市の御泊所知事公館にお着きになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、札幌市役所所蔵資料、行幸啓誌

ネパール国王マヘンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ去る一月三十一日崩御につき、天皇・皇后より弔問使として侍従山本岩雄を同国大使館に差し遣わされる。また、天皇・皇后より新国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び皇太后ラトナに弔電を発せられ、新国王より十九日に答電がある。さらに十二日の在日ネパール国大使公邸における追悼式には、天皇の御名代として正仁親王が、皇后の御名代として正仁親王妃華子が差し遣わされ、天皇・皇后より花環をお供えになる。

○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、外交雑録、重要雑録、賜与録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二日 水曜日 午前十時、天皇と共に御泊所知事公館を御出発になり、最初に北海道開拓記念館を御視察になる。なお御到着前、車中から玄関前に建つ歌碑昭和四十三年九月二日の北海道百年記念祝典御臨席のため行啓された際に詠まれた御歌を刻んだものを御覧に

なる。ついで、札幌市役所を御訪問、市内を御展望になる。御昼食後、防寒のためパンタロンにお着替えになる。午後は養護老人ホームの札幌市長生園を御視察になる。ついで札幌市円山動物園に向かわれ、園内を御巡覧になり、午後三時二十分御泊所知事公館に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、札幌市役所所蔵資料、行幸啓誌

三日 木曜日 午前十時十二分、天皇と共に御泊所知事公館を御出発になる。札幌護国神社に御到着

になり、拝殿前の石段において御拝礼になる。ついで真駒内スピードスケート競技場における札幌オリンピック冬季大会開会式に御臨席になる。午後零時三十五分御泊所知事公館に還御される。御昼食後、天皇と共に拝謁室において、東京大学北海道演習林長高橋延清より北海道の林業について、北海道中央農業試験場長和田忠雄より北海道の農業についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、北海道行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、札幌護国神社創祀百拾年史、札幌冬季オリンピック

四日 金曜日 午前十時十五分、天皇と共に御泊所知事公館を御出発になる。真駒内距離競技場においてスキー男子三十キロメートル距離競技を御覧になる。御泊所において御昼食の後、真駒内屋内スケート競技場においてアイスホッケー競技の試合米国対イス国を観戦され、午後三時五十六分御泊所知事公館に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

五日 土曜日 午前九時二十五分、天皇と共に御泊所知事公館を御出発になり、真駒内スピードスケート競技場において、スピードスケート男子五百メートル競技を御覧になる。十一時十五分御泊所知事公館に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、北海道行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

夕刻、寛仁親王札幌オリンピック冬季大会組織委員会事務局勤務と御対面、併せて同伴の前ベルギー国特命全権大使アルベール・ユツペールの息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、入江相政日記

六日 日曜日 御泊所御出発前、元英語教師イレヌ・ストライカー及び同息女をお一方にて御引見になる。午前十時二十五分、天皇と共に御泊所知事公館を御出発になり、宮の森ジャンプ競技場にお

いてスキーの七十メートル級純ジャンプ競技を御覧になる。ついで御泊所において御昼食の後、真駒内屋内スケート競技場において、フィギュアスケートのペア規定競技を御覧になる。午後四時一分御泊所知事公館に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、札幌市役所所蔵資料、入江相政日記、行幸啓誌

七日 月曜日 午前十時二十分、天皇と共に御泊所知事公館を御出発、千歳空港より東京国際空港を経て、午後一時四十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、札幌市役所所蔵資料、行幸啓誌

八日 火曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のモロッコ国特命全権大使ハッサン・ハジューイを天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

札幌オリリンピック冬季大会に臨席のため来日中のスウェーデン国王子ベテイルをお招きになり、連翠において天皇と共に宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任の中華民国駐劄特命全権大使宇山厚及び同夫人、グアテマラ国駐劄特命全権大使森純造及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、千草の間において、前オランダ国駐劄特命全権大使藤崎万里及び同夫人の拝謁を天皇と共に受けられ、お茶を賜い、御歓談になる。藤崎は昨年の御訪欧時に同国駐劄特命全権大使として尽力した。

昭和四十七年二月

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

十日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任の大韓民国駐劔特命全権大使後宮虎郎、パラグアイ国駐劔特命全権大使種谷清三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

正殿竹の間において、この度離任のイラク国特命全権大使アル・サイド・モフセン・フセイン・アル・ハビーブ、同じく離任のインドネシア国特命全権大使アスハリ・ダヌディルジョ及び同夫人を天皇と共に順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十五日 火曜日 午前、正殿竹の間において、国立科学博物館理工学研究部長村山定男より最近の火星の研究についての進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

十六日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のタイ国駐劔特命全権大使藤崎万里及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、第十一回冬季オリンピック札幌大会に入賞の選手及び大会関係者の賜謁があり、天皇と共に石橋の間にお出ましになる。天皇に続きお言葉を賜う。ついでお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

この日、来る三月六日にお誕生日を迎えられるに当たり、思召しをもって日本赤十字社病院並びに恩

賜財団済生会病院の救助收容患者合計一万二千五百十名に対して手拭い一筋ずつを賜う。なお、従来は年末に下賜していたが、年末の郵便物の混雑状況に鑑み、この年より皇后のお誕生日に際して賜うことに改められた。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

十八日 金曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十日 日曜日 昨昭和四十六年のヨーロッパ諸国御訪問から御帰国につき、正午、皇太子始め菊栄親睦会会員を天皇と共にお招きになり、午餐の御陪食を賜う。これに先立ち、朝日新聞社から献上された御渡欧関係の写真。パネル百枚の展示を、春秋の間において天皇と共に御覧になる。ついで連翠にお出ましになり、菊栄親睦会会員と御会食になる。終わって、奏楽室において御渡欧の記録映画を会員と共に御覧になる。ついで会員と御一緒に春秋の間に進まれ、御渡欧関係の写真。パネルの展示を御覧の後、同所においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、天皇皇后両陛下御渡欧記録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 静岡県下田市に新御用邸として昨年竣工した須崎御用邸に天皇と共に初めて行啓される。午後一時十三分御出門、原宿駅より伊豆急下田駅を経て、四時三十八分御用邸に御到着になる。御夕餐後には、御用邸内を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁庁報

昭和四十七年三月

二十四日 木曜日 午前、御休所^{御展望所}など本邸付近を天皇と共に御散策になる。ついで自動車にて附属

邸に向かわれ、附属邸より海岸まで御散策になり、御用船かし^{和船}を御覧になる。附属邸に戻られ、自

動車にて御本邸にお帰りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に、御居間前ペランダ及び海岸において写真撮影に応じられる。

ついで附属邸内を御覧になる。御本邸にお帰りの際、天皇の植物御調査に同行される。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十八日 月曜日 午前、天皇と共に自動車にて爪木崎に向かわれ、レストハウス横の台地において

伊豆諸島等を御展望になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十九日 火曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時二十二分御出門、三時四十六分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、宮内庁庁報

三月

一日 水曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国の前中華民国駐劄特命全権大使板垣修及び同夫人、近く赴任のデンマーク国駐劄特命全権大使人見宏及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿竹の間において、この度離任のウルグアイ国特命全権大使アウレリオ・パストリ及び同夫

人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録

二日 木曜日 午後、正殿梅の間において、故元デンマーク国特命全権大使ジョシム・ヘンリック・ゲオ・ツイトフェン・アデーラー夫人エデイス、新任のクウェート国特命全権大使タラアット・ヤコブ・アル・グセインを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 金曜日 この度北白川道久永久王の王子がオーストラリア国へ赴任するため、午前、鳳凰の間において天皇と共に拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、旧皇族雑録、正殿梅の間において、新任のブルガリア国特命全権大使パルヴァン・チェルネフ及び同夫人・息女、ついで初代リビア国特命全権大使ハサン・エルハーディー・ブクレス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

御夕食後、天皇と共に、吹上御所において、札幌オリンピックへの行啓を扱った皇室アルバム「皇后さまはパンタロンで」の録画ビデオを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、読売新聞

六日 月曜日 この日、満六十九歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において宮内庁長官始め各部署局長等続いて側近奉仕者の祝賀を、花の間において石坂泰三の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本

部職員の祝賀を、御車寄前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、花の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、花の間において東久邇文子・同真彦の祝賀を、御車寄前において元女嬬等の祝賀を、再び花の間において元御用掛有島暁子・安東秀子・服部豊子、続いて元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀を順次お受けになる。その後、吹上御所において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・容子内親王、鷹司和子、島津貴子、東久邇信彦と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 火曜日 来る九日のメキシコ国大統領夫妻の訪日に先立ち、午前、正殿竹の間において、メキシコ国駐箚特命全權大使加藤匡夫より同国事情についての進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、初代ウガンダ国特命全權大使ミカエル・エデマ・オムビアを御引見になる。なお、この度の駐日大使赴任に際し、ウガンダ国大統領イディ・アミン・ダッダより同大使を通じて天皇・皇后に御贈進があり、皇后にはヒョウの毛皮製ハンドバッグが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 水曜日 祐子内親王の祥月命日につき、宮殿へのお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

九日 木曜日 国賓として来日するメキシコ国大統領ルイス・エチェベリア・アルバレス及び同夫人をお出迎えのため、午後一時二十六分御出門になり、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事の後、二時四十六分、大統領夫人と御同乗にて皇居に御到着になる。引き続き、正殿竹の間において大統領夫妻と御会見になる。七時三十分よりメキシコ国大統領及び同夫人のため豊明殿において宮中晩餐を催され、九時三十分より春秋の間において宮中夜会を催される。この度の来訪に際し、天皇・皇后より大統領夫妻に凶録『宮殿』特製を、大統領に有田焼花瓶葵に芍薬を、大統領夫人に七宝宝石箱古鏡を御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進があり、皇后へは大統領夫人よりレス付シヨール銀製箱入が贈られる。これとは別に、大統領夫妻の入京時には、皇后より大統領夫人に花束の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、接待書類、外賓参内録、幸啓録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

十日 金曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、池田厚子と御対面になる。池田厚子は翌十一日より二十九日まで池田隆政とオーストラリア国を旅行する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十三日 月曜日 メキシコ国大統領ルイス・エチェベリア・アルバレス及び同夫人主催の晩餐会に御出席のため、午後七時二十六分御出門になり、天皇と共にホテルニューオータニに行啓される。御会食の後、九時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、接待書類、幸啓録、宮内庁庁報、官報

昭和四十七年三月

翌十四日、京都市伏見区の最勝金剛院九条家縁故寺において、同院の再興記念法要が行われるため、この日、

天皇・皇后より同院にお品及び菓子料を賜う。○贈賜録

十四日 火曜日 メキシコ国大統領リス・エチエベリア・アルバレス及び同夫人をお見送りのため、午後一時十一分御出門になり、天皇と共に東京国際空港に行啓される。空港行事の後、二時三十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、幸啓録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、この日学習院幼稚園を卒業した文仁親王と御対面になる。文仁親王の学習院幼稚園卒業、並びに四月からの学習院初等科進学に当たり、この日、天皇・皇后より同親王に万那料及びお品を賜う。二十四日には、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を賜う。また別に、天皇・皇后より文仁親王に本箱代料・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任の米国特命全権大使アーミン・ヘンリー・マイヤー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のフランス国特命全権大使ルイ・ド・ギラソグー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦・同文子・同真彦の拝謁をお受けになり、

御夕餐を御会食になる。なお東久邇真彦に対し、この度玉川学園高等部卒業につき、天皇・皇后より特に思召しをもつて金一封を賜う。また玉川大学へ進学につき、天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十日 月曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 来る二十五日の後嵯峨天皇七百年式年祭に先立ち、午前、正殿竹の間において、青山学院大学教授眞達人より、後嵯峨天皇の御事蹟についての進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 スウェーデン国特命全権大使グンナール・エドヴァルド・ヘックシャー及び同夫人、トルコ国特命全権大使シクリユ・エレキダー、セイロン国特命全権大使アーサー・バスナヤケ及び同夫人のため、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午後、桃華樂堂にお出ましになり、ピアノストのクリストフ・エツシエンバッハによる独奏会を御鑑賞になる。正仁親王妃華子・崇仁親王妃百合子・東久邇聡子・同文子・同真彦・鷹司和子・近衛甯子・久邇桜子^{久邇朝建夫人}・木下英子・古河典子・宇治量子^{多嘉王の王子宇治家彦の夫人}・二条恭仁子のほか、

特に思召しにより元文化放送企画部長有坂愛彦及び同夫人・服部豊子・豊増昇^{ピアノが陪聴する。}が陪聴する。先着の正仁親王妃・崇仁親王妃のお出迎えをお受けになった後、会場においてモーツァルト作曲幻想曲ハ短調、同作曲ピアノソナタ第十四番、シューベルト作曲「四つの即興曲」より三曲、ショパン作曲「二

つの夜想曲」、同作曲「舟歌」をお聴きになる。演奏会后、楽部に設けられた御休所においてエッシェンバッハを御引見になる。この度の演奏に際し、エッシェンバッハに御紋付青磁花瓶等を賜う。なお、エッシェンバッハは昨昭和四十六年十月十三日、ドイツ連邦共和国ボン市のベートーヴェン・ハウスにおいて、天皇・皇后の御前で演奏した。○女官長日記、女官日誌、御前演奏会録、旧皇族雑録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、元侍従井関英男の拝謁をお受けになる。ついで同人と御夕餐を共にされる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十五日 土曜日 午前、後嵯峨天皇七百年式年祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、鳳凰の間において九条道弘ほか三名の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十六日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、昨日学習院初等科を卒業した徳仁親王と御

対面になる。なお参殿に際し、天皇・皇后より同親王に、万那料及び近藤等編『世界の山々 第一』

白水社刊・深田久弥著『日本百名山』新潮社刊を賜う。また同親王が学習院中等科へ進学するため、別に天皇・

皇后より同親王にお品料・万那料を、皇太子・同妃に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

社団法人才能教育研究会主催「二、〇〇〇人の児童による音楽祭」に御臨席のため、午後二時五十分御出門、日本武道館に行啓される。貴賓口に進まれ、同会名誉会長徳川義親以下のお出迎えを受け

られた後、同会会長鈴木鎮一の先導により二階会議室に進まれ、先着の皇太子・同妃・故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。続いて御一緒に会場にお出ましになり、箏合奏・ヴァイオリン合奏・ピアノ独奏・チェロ合奏等を御鑑賞になる。最後に参加者全員による「蛍の光」合唱・合奏をお聴きになり、会場を後にされる。四時三十二分、皇居に還啓される。○女官長日記、女官日記、幸啓録、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 午後、林鳥亭において、去る一日の生物学御研究所編『那須の植物誌』刊行を祝賀するための茶会を催される。出版に関係した東京大学名誉教授本田正次始め六名を招かれる。席上、天皇に対し、永年の御苦心が実り立派な御本が完成したことを皆と共に喜びたい旨の祝意を表され、乾杯の御合図の後、天皇と共に招待された学者たちと植物について御歓談になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、北村四郎関係文書、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、素顔の昭和天皇、北村四郎選集

この日より四月二日まで日本橋三越本店において「第十八回椿展」が開催され、椿の切り花八輪を御出品になる。○女官日記、贈賜録

二十九日 水曜日 午前、正殿梅の間において、任地より帰国の前コロンビア国駐箚特命全権大使深井竜雄及び同夫人、近く赴任のザイル国駐箚特命全権大使内田宏及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、この度慶応義塾大学を卒業し日本航空株式会社に就職する壬生基博参殿につき、吹上御所において同人の拝謁を天皇と共にお受けになる。参殿に際し、天皇・皇后より洋服地及び万那料等を賜う。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、贈賜録

三十一日 金曜日 午前、花の間において、前書陵部長井下田孝一以下新旧部課長九名の拝謁をお受

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌 内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁序報、入江相政日記
オーストラリア国から帰国の池田厚子参殿につき、吹上御所において天皇と共に、御昼餐を御会食に
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四月

一日 土曜日 午前、花の間において、新任の正倉院事務所長後藤四郎始め新旧部課長等五名の拝謁
をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

第十七回ユニセフ協力募金を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、御奨励のため金一封を賜う。○
賜与録、宮内庁序報

三日 月曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、
皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、
内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

四日 火曜日 午前、正殿梅の間にて、新任のガボン国特命全権大使クリストフ・ブパナ及び同夫人、
ポルトガル国特命全権大使マヌエル・ロドリゲス・デ・アルメイダ・コウテイニョ及び同夫人を順
次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、昭和四十六年度音楽大学卒業生による演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。皇
太子妃・東久邇聡子・久邇桜子・宇治量子のほか、服部豊子が陪聴する。第一部として、東京芸術大
学卒業生による箏曲、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるクラリネット

ト独奏、東京芸術大学卒業生によるアルト独唱、桐朋学園大学卒業生によるコントラバス独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。御休憩を挟み、第二部として上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるマリンバ独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるオーボエ独奏、桐朋学園大学卒業生によるチェロ独奏、東京芸術大学卒業生によるアルト独唱、桐朋学園大学卒業生によるコントラバス独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わつて、楽部に設けられた御休所脇廊下において各校代表者、ついで楽部玄関内において出演者に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、音

楽大学卒業生演奏会、賜与録、旧皇族雑録

五日 水曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、

宮内庁庁報

六日 木曜日 午前、天皇と共に、須崎御用邸に初めて参邸の崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、御一緒に本邸内を巡られる。御一緒に御昼食後、午後にはお揃いにて展望台まで御散策になる。ついで附属邸に向かわれ、御一緒に同邸内を巡られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用

邸行幸啓関係綴

この日前ドイツ連邦共和国大統領ハインリッヒ・リュプケが死去したことを受け、後日、天皇・皇后は外務大臣を経てリュプケ夫人に弔意を示される。○外交慶弔録

七日 金曜日 午前十時三十一分、雨の中を自動車にて御出門になり、賀茂郡南伊豆町石廊崎の静岡

県有用植物園に天皇と共に行啓される。御視察中、展示大温室では天皇よりカミカヤツリの説明を受けになる。午後零時三十五分御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、行幸啓関係資料、静岡県有用植物園要覧

八日 土曜日 常磐会バザー開催につき、切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

九日 日曜日 天皇並びに須崎御用邸に初めて参邸の故雍仁親王妃勢津子と共に、御昼食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

十日 月曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十六分御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のスイス国駐劔特命全権大使井川克一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

鳳凰の間において、去る三月二十日に結婚した朝香誠彦・同夫人貴子の拝謁を天皇と共に受けられ、お茶の席を設けられる。この度の結婚に際し、天皇・皇后より朝香^{誠彦}の父に清酒及び鮮鯛代料を、朝香誠彦に白羽二重等を賜う。また、この日の参内に際し、同夫妻にそれぞれ洋服地等を、さらに夫妻に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、正殿梅の間において、新任のポーランド国特命全権大使ズディスワフ・レグルスキー及び同夫人、エジプト国特命全権大使マハムード・サラールハツディーン・ハサン及び同夫人を順次御引見にな

る。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十三日 木曜日 午前、正殿竹の間において、パラグアイ国駐劔特命全権大使種谷清三より同国についての進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、正殿梅の間において、新任のフリーピン国特命全権大使ロベルト・S・ベネディクト及び同夫人、パラグアイ国特命全権大使デシデリオ・メラニオ・エンシソ及び同夫人を順次御引見になる。なお御引見に先立ち、フリーピン国大使夫妻よりテーブルクロス並びにナプキンの献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録

十四日 金曜日 午後四時四十分、この日国賓として来日したパラグアイ国大統領アルフレド・ストロエスネルと、正殿竹の間において天皇と共に御会見になる。その際、儀礼叙勲があり、大統領より有功特別一等大綬章が贈られる。なお、この度の来訪に際し、天皇・皇后より大統領に図録『宮殿』^{特製}及び七宝花瓶^{鶴紋}、大統領子息にキヤノン社製写真機を御贈進になる。また、天皇・皇后に対して大統領より御贈進があり、皇后には金首飾り及びテーブルクロスが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、外賓参内録、幸啓録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

十五日 土曜日 パラグアイ国大統領アルフレド・ストロエスネルのため、午後七時四十分より天皇と共に豊明殿において宮中晩餐を催され、九時四十分より春秋の間において宮中夜会を催される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、外賓参内録、幸啓録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

十六日 日曜日 この日、去る一月に即位したデンマーク国女王マルグレーテ二世の誕生日につき、

昭和四十七年四月

天皇・皇后より祝電を發せられる。これに対し、二十六日に答電がある。以後、同女王の誕生日に祝電を御發送になることが恒例となる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十八日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日満三歳の誕生日を迎えた清子内親王、及び皇太子妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午後、財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者五十六名の賜謁があり、宮殿北溜にお出ましになる。結核予防会理事長山口正義より挨拶を受けられ、お言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

パラグアイ国大統領アルフレド・ストロエスネル主催の晩餐会に御出席のため、午後七時二十八分御出門、天皇と共に帝国ホテルに行啓される。御会食の後、九時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、接待書類、外交贈答録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 金曜日 午前、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の第四回愛育班員全国大会に際し、総裁又は会長から表彰された愛育班員及び愛育班育成功労者等約三十名の賜謁があり、宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長・副会長新居善太郎よりお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に連翠において、大韓民国特命全權大使李滌及び同夫人、ビルマ国特命全權大使チツ・コー及び同夫人、ドイツ連邦共和国特命全權大使ヴィルヘルム・ゲオルク・グレーヴェ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

翌二十二日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の納骨並びに拝礼式が行われるに当たり、この日、天皇・皇后より厚生省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午後、花の間において、常陸宮家経済顧問中谷一雄・久邇家経済顧問栄木忠常・同密田博孝、鷹司家経済顧問舟山正吉・島津家経済顧問小笠原光雄の拝謁を受けられる。○女官長日記、

女官日誌、典式録

正殿梅の間において、新任のイラク国特命全権大使アル・サイイド・ジャーセム・カーゼム・アル・アッザーウイ、ついでニュージーランド国特命全権大使トーマス・セドリック・ラーキン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録

二十五日 火曜日 午前、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者又は更生援護功労者等の謁見があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生政務次官登坂重次郎より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任の米国特命全権大使ロバート・ステイブソン・インガースル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 土曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代の祝賀を、芳菊の間において女官長始め女官等の祝賀を、正殿梅の間において皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀を、再び花の間において元女官長始め女官等の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣

昭和四十七年五月

総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他が出席する。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国外交使節団の長等が出席する。両儀の間に、天皇と共に芳菊の間において、東久邇文子・同真彦・同優子・壬生基博の拝謁をお受けになる。御夕餐前には、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・清子内親王と御対面になる。

なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、天皇誕生日一般参賀綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

五月

二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三日 水曜日 去る五月一日、島津康久御母俱子の弟死去につき、霊前に切り花・野菜・菓子を賜う。○女官長

日記、贈賜録

八日 月曜日 昭和四十七年度全国赤十字大会へ名誉総裁として御臨席のため、午前十時四十七分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御到着後、二階御休所において名誉副総裁である皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、続い

て厚生大臣齋藤昇・日本赤十字社社長東竜太郎以下の拝謁を受けられる。ついで会場にお出ましになる。社長挨拶に続き、金色有功章の受章者総代十名、銀色有功章の受章者総代二名、特別社員章の受章者総代一名にそれぞれ記章並びに章記を御親授になり、次のお言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会が開催されるにあたり、赤十字関係者の皆さんと親しくお会いできたことを、大変うれしく思います。

日本赤十字社が、今日まで九十五年の長い間、人道と博愛のおとい使命にもとづき、国の内外にわたって、いろいろな事業を実施し、大きな成果をあげてきたことは、深く満足に思います。その任務は、これからますます重要性を加えると考えますので、ただいま、受章した方々をはじめ、関係者の皆さんが、よく力を合わせて、赤十字事業のいつそうの進展をはかり、世界各国の赤十字社と相携えて、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望みます。

ついで東社長の奉答、受章者総代弓場重昌の謝辞、厚生大臣の祝辞、赤十字奉仕団員・青少年赤十字団員による体験発表をお聞きになる。また、この度青少年赤十字中央審議会副会長橋本祐子にアンリ・デュナン記章が授与された旨の報告をお聞きになる。続く日本赤十字社幹部看護婦研修所研修生による「あこがれの赤十字」合唱をもって閉式となり、御退場になる。十一時五十五分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

九日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のギリシャ国駐箚特命全権大使安藤竜一及び同夫人、ザンビア国駐箚特命全権大使西宮信安及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。同所主任山崎太郎より、蚕の成育状況につき説明をお受けになる。ついで戸外で飼育中の天蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十日 水曜日 千代田区立番町小学校創立百周年記念式典に御臨席のため、午前九時五十七分御出門、天皇と共に同校に行啓される。校内を御視察の後、式典に臨まれる。十一時五分還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料、番町小学校創立百周年記念誌

十一日 木曜日 七十七歳の誕生日を迎えた東久邇聡子に、天皇・皇后より万那料及び白縮緬等を賜う。またこれとは別に、誕生日につき天皇・皇后より鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

十二日 金曜日 午後、天皇と共に千草の間において、インドネシア国大統領スハルト及び同夫人と御会見になる。その際、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には金製の首飾り・耳飾り・指輪・胸飾りのセットが贈られる。またこの度の来訪に際し、天皇・皇后より大統領夫妻に図録『宮殿』^{特製}版・有田焼花瓶^{更紗}文を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十四日 日曜日 母の日につき、皇太子妃よりバラの花が贈られる。○女官長日記

十五日 月曜日 沖繩復帰記念式典に御臨席のため、午前十時二十五分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓される。式典中、沖繩の戦没者及び祖国復帰までに死没した沖繩住民の冥福を祈る一分間の黙禱を献げられる。また、沖繩復帰を記念して万歳を御唱和になる。式典が終わって、十一時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、沖繩復

翌十六日より二十一日まで大阪阪急百貨店において「春のぼら会展」財団法人日本ばら会
会関西支部主催開催につき、この日、

吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。十八日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十七日 水曜日 午前、貞明皇后例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と

共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、園遊会録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、屋良朝

苗日誌

十九日 金曜日 午後、正殿竹の間において、元米国琉球列島高等弁務官ジェームス・ベンジャミン・ランパート及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、

謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 新潟県において開催される第二十三回全国植樹祭に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時二十三分御出門、原宿駅より新潟県の村上駅を経由して、午後四時二十二分、村上市の御泊所三嶋屋旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍

従職日記、内舍人日記、内舍人供奉日記、幸啓録、宮内庁庁報、官報、グラフにいがた

二十一日 日曜日 植樹行事に御臨席のため、午前九時四十五分天皇と共に御泊所三嶋屋旅館を御出発、北蒲原郡黒川村胎内平の全国植樹祭会場に向かわれる。同村新潟県下越スポーツハウスにおいて

昭和四十七年五月

御少憩の後、会場に御到着になる。お野立所に進まれ、天皇に続き、林業功労者代表三浦貞一・造林事業従事者代表野島ハツ・林業研究グループ代表半戸常子・学校生徒代表本間克則の介添えにより三本のスギ苗をお手植え箱にお手植えになる。なお、この日は荒天のため、お手植えは御料テント内において行われた。植樹祭終了後、岩船郡関川村公民館において御昼食を召される。続いて荒川台に向かわれ、羽越水害からの復興状況を御展望になる。荒川町立荒川中学校において御少憩後、村上市の新潟県水産試験場村上支場を御視察になる。午後三時五十二分御泊所三嶋屋旅館にお戻りになる。その後、二階拝謁室において、日本応用動物昆虫学会評議員馬場金太郎黒川村病院長より、同人が持参した新潟の昆虫標本についての説明を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、新潟県行幸啓録、宮内庁庁報、官報、昭和、新潟県水試日より、グラフにいがた

二十二日 月曜日 午前九時五十五分天皇と共に御泊所三嶋屋旅館を御出発、お手播き行事会場である岩船郡朝日村の新潟県林業試験場に向かわれる。御到着後、お手播き床に進まれ、新潟県市町村林政連絡協議会会長中山与志夫朝日村村長の介添えによりクロマツの種子をお手播きになる。天皇もスギの種をお手播きになる。ついで同試験場本館の展示室を御覧になる。村上駅より新津駅を経て、新潟市にある嘉瀬機械化営農組合圃場を御視察になる。新潟県民会館において市民等の奉迎にお応えになった後、午後三時御泊所ホテル新潟に御到着になる。その後、天皇と共に新潟大学教授野田光蔵より植物についての説明をお聞きになり、さらに良寛遺墨展示を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、新潟県行幸啓録、宮内庁庁報、官報、亀田郷土地改良区所蔵資料、グラフにいがた

二十三日 火曜日 午前十時三十四分天皇と共に御泊所ホテル新潟を御出発、新潟駅より弥彦駅を経

て、弥彦神社^{越後国一宮}に御到着になる。天皇に続き、拜殿内の御拝座において御拝礼になる。御参拝後、

拜殿内に展示された宝物を御覧になる。なお、御参拝の節、天皇・皇后より同社に幣帛料・神饌料をお供えになる。御泊所をやひこ観光ホテルにおいて御昼食の後、午後からは非公式日程となり、弥彦

山スカイラインを経由して弥彦山に向かわれる。山頂パノラマタワー^{回転上昇式展望塔}のキャビンにお乗りにな

り、霧のなか御展望を試みられる。御泊所やひこ観光ホテルにお戻りになった後、天皇と共に新潟県出身のマラソン選手宇佐美彰朗^{ミュンヘンオリンピック日本代表}に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日

誌、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報、弥彦神社所蔵資料、グラフにいがた、昭和、入江相政日記

二十四日 水曜日 午前十時十分天皇と共に御泊所やひこ観光ホテルを御出発になり、三島郡寺泊町にある心身障害者の療養施設コロニーにいがた白岩の里を御視察になる。作業棟において、皇后は基礎動作訓練について所長矢野達夫に御下問になる。なおこの度の御訪問に先立ち、天皇・皇后より入所者に菓子を賜う。次に三島町体育館を御訪問、町内の婦人によるバレーボールを御覧になる。同所において御昼餐の後、長岡市の新潟県中越青少年文化センターを御視察になる。青少年による無線クラブ等の活動を御覧になり、皇后は焼き物等を作る子供たちにお声をかけられる。午後三時十分御泊所のホテルニュー長岡に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、コロニーにいがた白岩の里所蔵資料、コロニーにいがた白岩の里創立十周年記念誌、グラフにいがた

二十五日 木曜日 午前十時四十四分天皇と共に御泊所ホテルニュー長岡を御出発、長岡駅より原宿駅を経て、午後三時五十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内

昭和四十七年五月

舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成育状態を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 土曜日 財団法人日本ばら会主催の創立二十五周年記念「春のバラまつり」を御覧になるため、午前九時四十分御出門、東急百貨店日本橋店に行啓される。日本ばら会理事長谷沢信雄の説明にて、会場内を御巡覧になり、十時二十五分還啓される。なお、会期中の昨二十六日、二十八日及び三十日には、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報

二十八日 日曜日 菊栄親睦会大会に御臨席のため、宮内庁庁舎に天皇と共に御出ましになる。記念撮影、午餐御会食等に臨まれた後、吹上御所に還御される。なお、この度の大会は、天皇の古希並びに欧州御訪問からの帰国のお祝い、梨本伊都子満九十歳のお祝い、朝香誠彦結婚のお祝いのため催された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、菊栄親睦会録、天皇皇后両陛下御渡

欧記録

二十九日 月曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のタイ国特命全権大使オツブン・ワニツクン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

英国王族ウィンザー公^{元英国国王エドワード八世}昨二十八日薨去につき、同国女王エリザベス二世及びウィンザー公夫人ウオリスに天皇・皇后より弔電を發せられる。これに対し、エリザベス二世よりは六月一日に、ウィ

ンザー公夫人よりは同月三日に、それぞれ答電がある。また六月五日にウインザー城内セント・ジョージ教会にて行われた葬儀には、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。これに対し、同月二十七日にウインザー公夫人より天皇・皇后へ札電がある。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、宮内庁序報、官報

三十日 火曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のイラン国特命全権大使ヌーレッツディン・キア及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

三十一日 水曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時二十分御出門、椿山荘に行啓される。御休所において正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子、及び常磐会会長賀陽敏子始め元皇族会員と御対面になる。続いて総会に御臨席の後、余興として佐良直美の歌を御鑑賞、終わって会員と御懇談、御会食になる。また会場をお廻りの際には、余興で歌を披露した佐良に御会釈を賜う。四時十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁序報

六月

一日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のインドネシア国特命全権大使ユスフ・ラムリ、リベリア国特命全権大使ジョン・D・コックス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のフランス国特命全権大使フランソワ・ルフエール・ド・ラブレール及び同夫人、ベルギー国特命全権大使アルベール・ユツペール及び同夫人を順次御

昭和四十七年六月

引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のユスタリカ国特命全権大使ヴィヴィアン・ジェイムス・ウツドフォード・ファーニス・セグレダ及び同夫人・息女二名を御引見にする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。繭掻きをされた後、繭の成育状況等について同所主任山崎太郎にお尋ねになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

午後、シュトウツトガルト室内管弦楽団の演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。先着の皇太子妃・正仁親王妃華子・寛仁親王と御対面の後、演奏会場にお出ましになる。鷹司和子・久邇桜子に加え、服部豊子・有坂愛彦が陪聴する。バッハ作曲「ブランデンブルク協奏曲」第三番、モーツァルト作曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」などをお聴きになる。終わって楽部に設けられた御休所にお入りになり、指揮者カール・ミュンヒンガーを御引見になる。廊下にてお見送りの楽団員に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、ミュンヒンガーに御紋付青磁花瓶等を、楽団員に同花瓶^小を、ハープシコード奏者小林道夫に御紋章型銀製手釦^両一組を、マネージャーのエルドストーマスに御紋付銀製スプーン^小一組を賜う。また、ミュンヒンガーより「ブランデンブルク協奏曲」が収録されたレコード二枚の献上がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、御前演奏会録、贈賜録、旧皇族雑録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

八日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任の英国特命全権大使ジョン・アーサー・ピルチャー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。同大使は、昨年の御訪英時の接待等に尽力した。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

九日 金曜日 午後、正殿竹の間において、この度離任のフィンランド国特命全権大使アールノ・エイノ・カールヒーロ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

千草の間において、前スイス国駐劄特命全権大使西山昭及び同夫人の拝謁を天皇と共に受けられ、お茶を賜い、御歓談になる。西山は、昨年の御訪欧時に同国駐劄特命全権大使として尽力した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

十三日 火曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁序報

夕刻、天皇と共に、本邸より海岸に向かわれる。御到着後、昭和四十五年七月九日に日本万国博覧会開催を記念してカナダ国政府より献上された海洋生物採集船に試乗され、湾内を御周遊になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、贈賜録、外交贈答録

この日、この度来日のケニア国ムジ・ジョモ・ケニヤッタ大統領夫人エンジンに花束を贈られる。なお、六月十六日にエンジンよりワニ皮ハンドバッグの献上がある。後日、外務省儀典官室を経て、エンジンに謝意を表される。○女官長日記、賜与録、外交贈答録

十四日 水曜日 午後、天皇と共に舟着場付近の海岸にお出ましになり、磯において御採集になる。

以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の海洋生物又は植物の御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

夕刻、天皇と共に、須崎御用邸に初めて参邸の正仁親王・同妃華子と御対面になる。ついで御一緒に展望台にお出ましになり、海上を御展望になる。その後、御一緒に本邸内を巡られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午後二時御用邸を自動車にて御出門、国立衛生試験所伊豆薬用植物栽培試験場に天皇と共に行啓される。御視察の後、四時三十三分御用邸にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、国立衛生試験所百年史

十七日 土曜日 夕刻、須崎御用邸に初めて参邸の皇太子・鷹司和子と天皇と共に御夕食を御会食になる。その後、同邸内を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、宮内庁庁報

十九日 月曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十六分御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午前、去る十二日に結婚した東久邇信彦・同夫人吉子参内につき、鳳凰の間において天皇と共に拝謁を受けられる。なお、この度の参内につき、天皇・皇后より東久邇信彦に洋服地等を、同吉子に洋服地^{紅葉山御養蚕所製}等をそれぞれ賜う。また、同夫妻に万那料及びお品を賜う。これより先、

天皇・皇后より、五月五日の結納につき、東久邇信彦に万那料等を賜い、去る十二日の結婚につき、東久邇稔彦に清酒及び鮮鯛代料を、東久邇信彦に白羽二重・金員・万那料及びお品を賜う。また別に、東久邇稔彦・同夫人聡子に万那料及びお品を、東久邇信彦に洋服地を賜う。なお、この度の結婚につき、皇后は故東久邇盛厚・同夫人成子の霊舎に切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、報道発表綴、贈賜録

この日グアテマラ国大統領カルロス・アラナ・オソリオ及び同夫人入京につき、大統領夫人に花束を贈られる。○賜与録、外交贈答録、外賓接待録

二十一日 水曜日 午前、芳菊の間において天皇と共に、東久邇稔彦・同夫人聡子の拝謁をお受けになり、この度の東久邇信彦結婚に伴う賜りにつき、お礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

新任のユーゴスラビア国特命全権大使ヨージェ・スモレ及び同夫人、チリ国特命全権大使オスカル・ピノチェ・デ・ラ・バラ及び同夫人、ペルー国特命全権大使ホセ・カルロス・マリアテギ・アレリヤノ及び同夫人のため、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、吹上御所にて李方子の拝謁をお受けになる。この度の拝謁に際し、紅葉山御養蚕所製の布地^{白地唐草模様}を賜う。○女官長日記、女官日誌、梨本伊都子日記

午後、楽部職員による洋楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。皇太子妃・東久邇聡子・久邇桜子・宇治量子・東久邇文子が陪聴する。途中休憩を挟み、ベートーヴェン作曲交響曲第八

番、スッペ作曲喜歌劇「輕騎兵」序曲などを御鑑賞になる。御休憩時、楽部に設けられた御休所において、東久邇聡子・同文子の拝謁をお受けになる。また、演奏会終了後、楽長・指揮者の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、旧皇族雜録

二十三日 金曜日 午後、正殿梅の間において初代モンゴル国特命全權大使ニヤミン・ルブサンチュルテム及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 日曜日 財団法人藤楓協会創立二十周年記念式典に御臨席のため、午前十時二十八分御出門になり、天皇と共に九段会館に行啓される。十一時十分還啓される。なお二十七日には、財団法人藤楓協会創立二十周年に当たり、同協会の救らい事業御奨励、特に沖縄県救らいの資金として、天皇・皇后より同協会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報、藤楓協会創立三十周年誌

二十六日 月曜日 午前、鳳凰の間において、この度スイス国ジュネーブの国際赤十字社連盟に赴任する近衛護輝及び同夫人甯子の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十七日 火曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のノルウェー国特命全權大使クヌット・トムセン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のラオス国特命全權大使チャ

ウ・ニット・ノカム及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

三十日 金曜日 午前、正殿花の間において、前式部副長吉川重国始め新旧部課長等の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

先般警察庁長官を退任した後藤田正晴、警視総監を退任した本多丕道に対し、思召しにより菓子を賜う。○女官長日記、贈賜録、入江相政日記

七月

三日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のコロンビア国駐劄特命全権大使星文七及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

四日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、正殿梅の間にて、新任のハンガリー国特命全権大使エルニュー・ホルヴァート及び同夫人、ベトナム共和国特命全権大使ドオウ・ヴァン・リー及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

五日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭脇にお出ましになる。山崎以下にお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

昭和四十七年七月

六日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のコスタリカ国駐筭特命全権大使人見鉄三郎及び同夫人、クウェート国駐筭特命全権大使石川良孝及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 金曜日 来る三十日明治神宮において明治天皇六十年祭を迎えるに当たり、午前九時四十三分御出門、天皇と共に同神宮に行啓される。天皇に続き内拝殿の御拝座において御拝礼の後、十時五十七分還啓される。なお、御参拝の節、天皇・皇后より幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来る八月二十四日の弘文天皇千三百年式年祭に先立ち、東京大学教授土田直鎮より「弘文天皇の御事蹟について」と題する進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、国際オリンピック委員会委員竹田恒徳より、翌八月からドイツ連邦共和国ミュンヘン市及びキール市で開催される第二十回オリンピック競技大会（ミュンヘンオリンピック）についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十三日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のポリビア国特命全権大使アルマンド・ヨシダ・バーカ及び同夫人・息女二名、ついで初代バンングラデシユ国特命全権大使モノランジャン・ダールを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 金曜日 午前、鳳凰の間において、今般英国に転勤の東久邇信彦及び同夫人吉子の拝謁を、天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

花の間において、前任の皇宮警察本部長重光武徳ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

メキシコ国特命全権大使グスタヴォ・ロメロ・コルベック及び同夫人、ギリシャ国特命全権大使テミストクレス・L・クリサントプロス、アルジェリア国特命全権大使ブラヒム・ガーファー及び同夫人のため、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 土曜日 この度の豪雨により甚大な被害を受けた熊本県・高知県・秋田県・島根県・広島県・愛知県・岡山県・岐阜県に、この日、天皇・皇后より災害お見舞金を賜う。なお、昭和二十五年に定められた御救恤金下賜標準は去る五月一日に廃止され、この度の賜金に際しては、新たに定められた災害お見舞金下賜審査基準が適用された。○賜与録、例規録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十三分御出門、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

天皇と共に謁見所において、新任の関東管区警察局長畠中達夫ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録

天皇と共に御内庭を御散策になり、植物を御調査になる。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、

栃木県庁所蔵資料

昭和四十七年七月

十八日 火曜日 ベルギー国特命全権大使アルベール・ユッペール病氣入院につき、天皇・皇后よりお尋ねとして花束を賜う。これは天皇・皇后が昨年同国を訪問された際、同大使の夫人が接伴員として尽力し、また大使本人は二度にわたり駐日大使を務めたことから、特に下賜されたものである。○女官長日記、外交贈答録、贈賜録、外国御訪問録

二十日 木曜日 午前、植物御観察に御出発の際、御用邸御車寄前において、那須町長笹沼賢弥及び同町議会議長石沢利治等に天皇と共に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

二十三日 日曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

二十四日 月曜日 午後、天皇と共に、新任の皇宮警察本部長雨森和雄ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、典式録、那須御用邸管理事務所日誌

二十九日 土曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午前八時五十八分御出門、十一時四十六分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

三十日 日曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のカナダ国駐箚特命全権大使西山昭及び同

夫人、インドネシア国駐箚特命全権大使田中弘人及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報
午後、正殿梅の間において、新任の英国特命全権大使フレデリック・アーチボルド・ウォーナー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八月

一日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十三分御出門、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

十一日 金曜日 今般ミュンヘンオリンピックに日本選手団が参加するため、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午前八時五十八分御出門、十一時四十六分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

午後、正殿梅の間において、任地より帰国の前インドネシア国駐箚特命全権大使八木正男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報
十五日 火曜日 政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時四十九分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓される。午後零時二十五分還啓される。なお、天皇・皇后より追悼式を行う厚

昭和四十七年八月

生省に対して生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十六日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十三分御出門、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

二十三日 水曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午前八時五十八分御出門、十一時四十六分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

午後、正殿梅の間において、近く赴任のニュージールランド国駐筭特命全權大使光藤俊雄及び同夫人、イタリア国駐筭特命全權大使竹内春海及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 午前、弘文天皇千三百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、弘文天皇山陵千三百年式年祭に参列した故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午後一時八分御出門、三時五十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

二十九日 火曜日 英国王族グロスター公ヘンリーの第一王子ウィリアム昨二十八日薨去につき、天皇・皇后より英国女王エリザベス二世及びグロスター公ヘンリー・同妃アリスにそれぞれ弔電を発せられる。これに対し、女王より九月一日に答電があり、グロスター公・同妃より九月九日に答信がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

三十一日 木曜日 午後、謁見所において、任地より帰国の前ベトナム共和国駐劄特命全權大使東郷文彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、典式録、

那須御用邸管理事務所日誌

元宮内庁御用掛檜山健児去る二十九日死去につき、天皇・皇后より祭葬料を賜う。なお、昨三十日には天皇・皇后より霊前に菓子を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

九月

一日 金曜日 関東大震災の日に当たるため、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

五日 火曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭付近において、植物を御調査になる。御昼食の前に、天皇と共に嚶鳴亭において、宮内記者会会員十四名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の発見された植物が『那須の植物誌』にどのくらい掲載されているのかについての質問をお受けになり、五から十である旨を天皇がお答えになる。また、ミュンヘンオリンピックについて、オリンピック競技の放送は可能な限り視聴している旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和四十七年九月

内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、天皇記者会見

六日 水曜日 夕刻、参邸の侍従次長徳川義寛より、過日前田青邨にお預けになった御絵の返却及び講評の伝達をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、那須行幸啓録、贈賜録

七日 木曜日 邦家親王百年式年祭に当たるため、終日お出ましをお控えになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

八日 金曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭において、栃木県知事横川信夫より、「那須御用邸キジ放鳥について」及び「県勢の概況と県政当面の課題」と題する奏上をお聞きになる。続いて同知事より献上のキジを放鳥される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

九日 土曜日 久邇^御_母倪子の祥月命日につき、お慎みになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、

栃木県庁所蔵資料

十三日 水曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前八時五十八分御出門、十一時四十六分皇居に御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

午後、正殿梅の間において、近く赴任のバチカン国駐^命全権大使吉岡俊夫及び同夫人、チリ国駐^命全権大使遠藤又男及び同夫人、ニカラグア国駐^命全権大使神原富比古及び同夫人の拝謁を受けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿竹の間において、この度離任のシンガポール国特命全権大使ロイ・ケン・フー及び同夫人を天皇

と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午後、先般ミュンヘンオリンピックで入賞した選手等の賜謁があり、天皇と共に石橋の間にお出ましになる。選手団長青木半治より挨拶をお受けになり、天皇に続きお祝いのお言葉を賜う。ついで春秋の間においてお茶の席を設けられる。その際、男子体操の塚原光男に話しかけられ、同選手の獲得した金メダルをお手に取られて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、第二十回オリンピック競技大会報告書、読売新聞

十七日 日曜日 大相撲九月場所八日目を御覧になるため、午後三時五十分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓される。六時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十八日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任の中央アフリカ国特命全権大使ネストル・コンボ・ナグモン及び同夫人、ガーナ国特命全権大使クレメント・オトウ・クデート・アマテ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 午後、正殿竹の間において、公賓として来日中の英国首相エドワード・リチャード・ジョージ・ヒースを天皇と共に御引見になる。引き続き同首相のために、豊明殿において天皇と共に宮中午餐を催される。その際、雅楽の演奏について、同首相と御会話になる。なお、この度の来訪につき、天皇・皇后より図録『宮殿』普及版を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓

参内録、宮殿行事録、恩賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、側近通訳二五年昭和天皇の思い出

二十一日 木曜日 午後、厚生大臣から表彰された第二十四回保健文化賞受賞者等の賜謁があり、天

昭和四十七年九月

皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生大臣塩見俊二より挨拶を受けられ、天皇に続きお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のイラン国特命全権大使アブドル・ホセイーン・ハムザービー及び同夫人、タイ国特命全権大使スポット・ピヤンストン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 東京国立近代美術館創立二十周年記念「現代の眼―近代日本の美術から」展を御覧になるため、午前十時御出門、天皇と共に同館に行啓される。御巡覧の後、十一時二十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 火曜日 タイ国皇太后ラムバイ・バルニ来日につき、連翠において天皇と共に宮中午餐を催される。なお、同皇太后の入京に際し、皇后より花束の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賜与録、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午前、正殿竹の間において、東京大学教授福岡正巳より「皇居のお濠の水量及び水脈の調査について」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

ヨーロッパ諸国御訪問後一年を迎えるに当たり、天皇と共に正殿梅の間において元首席随員福田起夫始め元随員の拝謁を受けられる。福田元首席随員より挨拶を受けられ、天皇に続きお言葉を賜う。続

いて豊明殿脇においてヨーロッパ諸国御訪問の記録映画を一同と御覧になった後、連翠北において天皇と共に午餐の御陪食を賜う。ついで連翠南においてお茶の席を設けられる。続いて元随行員等の賜謁があり、天皇と共に宮殿御車寄内広間にお出ましになる。元随行員森岡恭三郎より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録

二十八日 木曜日 午後、日本遺族会創立二十五周年記念式典に参列の遺族代表の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。同会会長賀屋興宣より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、国際オリンピック委員会委員竹田恒徳より、先般のミュンヘンオリンピックについての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

天皇と共に連翠において、オーストリア国特命全権大使レギナルド・トーマス及び同夫人、マレーシア国特命全権大使ラジャ・アズナム・ビン・ラジャ・ハジ・アハマド及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十七年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より事業御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御夕食を御会食にする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

昭和四十七年十月

十月

二日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任の英国駐劔特命全権大使森治樹及び同夫人、イラン国駐劔特命全権大使有田圭輔及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 火曜日 多摩陵^{大正天皇陵}及び多摩東陵^{貞明皇后陵}に御参拝のため、午前十時三分御出門、天皇と共に両陵に行啓される。天皇に続き両陵を御拝礼になり、午後二時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報

ビルマ国革命委員会議長ネ・ウインの夫人ドウ・キン・メイ・タン去る一日死去につき、この日、天皇・皇后より同議長に弔電を発せられる。これに対し、十七日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

従来、国賓来訪の際には、国賓に本邦駐在の各国外交使節団の長を引き合わせるため、天皇・皇后が宮中晩餐後に夜会を催されることが恒例となっていたが、今後は、夜会に代えて、国賓の外交団接見行事を式部官長が執行することとなり、この日、宮内庁式部官長より外務省儀典長に通知される。なお、この行事は、国賓接遇行事の一環として宮殿において行われるが、天皇・皇后は御臨席にならないこととされる。○例規録

四日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のブルガリア国駐劔特命全権大使岡田晃及び同夫人、バングラデシユ国駐劔特命全権大使小山田隆及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 木曜日 学制百年記念式典に御臨席のため、午前九時五十九分御出門、天皇と共に国立劇場に行啓される。式典に臨まれた後、十時三十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

六日 金曜日 午後、最高裁判所関係功労者として藍綬褒章を授与された調停委員等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。東京家庭裁判所調停委員小川清太郎より挨拶を受けられ、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のシンガポール国駐筭特命全権大使魚本藤吉郎及び同夫人、モロッコ国駐筭特命全権大使平原毅及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のエルサルバドル国大使ワルテル・ベネケ・メディーナ、フィンランド国大使オスモ・ユハニ・ラレス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のデンマーク国特命全権大使ティーエ・ダルゴー及び同夫人、ノルウェー国特命全権大使クリスティアン・ベルグ・ニールセン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のドイツ連邦共和国駐筭特命全権大使曾野明及び同夫人、タンザニア国駐筭特命全権大使中島信之及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十七年十月

午後、宮殿東庭にて開催の英国近衛兵軍楽隊アイリッシュ・ガーズの演奏会を御鑑賞のため、宮殿にお出ましになる。松風の間に於いて、皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子と共に、英国特命全權大使フレッド・ウォーナー及び同夫人、部隊指揮官ギルバート・デンハム少佐ほか二名を御引見になる。続いて長和殿ベランダのお席に着かれ、デンハム少佐より説明を受けられつつ、「聖パトリック祝祭」の演奏行進や、ホラビン編曲「日本民謡幻想曲」のバンド演奏などを鑑賞される。なお、プログラムの開始と終了の際には「君が代」が演奏され、皇后への敬礼が行われる。演奏会終了後、松風の間に於いて、英国大使夫妻、デンハム少佐、演奏指揮官エドモンド・ジェラルド・ホラビン少佐に御握手を賜う。この度の演奏会に際し、軍楽隊に御紋付銀花瓶を、指揮官兩名に御紋付銀製スプーン大六本入り一組を、隊員七十名に御紋付銀製スプーン大二本をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、重要雑録、英国近衛兵軍楽隊、宮内庁庁報

十四日 土曜日 鉄道百年記念式典に御臨席のため、午前九時五十七分御出門、天皇と共に日本国有鉄道本社に行啓される。式典に臨まれた後、十時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 月曜日 東京国立博物館創立百年記念特別展「琳派」を御覧になるため、午前九時四十九分御出門、天皇と共に同館に行啓される。学芸部長千沢楨治の説明により、本阿弥光悦など琳派の絵画・書跡・工芸作品を御覧になる。その際、皇后は千沢に対し、多数の質問をされる。御巡覧を終えられた後、十一時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、サンケイ

翌十七日より二十二日まで大阪阪急百貨店において「秋のぼら会展」財団法人日本ばら
会関西支部主催開催につき、この日、

吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。十九日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所御座所前芝生に設
けられた御遙拝所において神宮を御遙拝の後、賢所におい

て御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、花の間において、新任の主厨長中島伝次郎及び前任の主厨長秋山徳蔵の拝謁をお受けになる。なお退職の秋山に対し、天皇・皇后より御紋付銀花瓶を賜う。これとは別に、天皇・皇后よりお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録

クウエート国特命全権大使タラアット・ヤコブ・アル・グセイン及び同夫人、オランダ国特命全権大使テオドール・ポール・ベルフスマ及び同夫人、スイス国特命全権大使ジョヴァンニ・エンリコ・ブツヘルのため、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午前、靖国神社靈璽奉安祭に各都道府県代表として参列の遺族の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。靖国神社権宮司池田良八より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、千草の間において天皇と共に、前英国駐劄特命全権大使湯川盛夫及び同夫人の拝謁を受けられ、お茶を共にされる。湯川は、昨年の御訪欧時に同国駐劄大使として尽力した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

二十日 金曜日 鹿児島県において開催される第二十七回国国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地

昭和四十七年十月

方事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前十一時七分御出門、東京国際空港、鹿児島空港を経て始良郡溝辺町の高屋山上陵天津日高彦火
火出見尊陵に御到着になり、天皇に続き御拝所において御拝礼になる。終わって加治木駅より鹿児島駅を経て、午後三時一分鹿児島市の御泊所城山観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、しろやま

二十一日 土曜日 午前十時天皇と共に御泊所城山観光ホテルを御出発、鹿児島市の高齢者養護施設である社会福祉法人中江報徳園ひまわり療護園を御慰問になる。なお、この御訪問に先立ち、天皇・皇后より入園者に菓子を賜う。次に鹿児島県護国神社に御到着、拝殿前にお進みになり、御拝礼になる。ついで磯庭園において御昼食の後、鹿児島県農業試験場、鹿児島県熱帯植物園を御視察になる。午後三時四十八分、御泊所城山観光ホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、社会福祉法人中江報徳特別養護老人ホームひまわり園所蔵資料、鹿児島県護国神社所蔵資料、鹿児島県熱帯植物園所蔵資料、行幸啓誌、鹿児島県農業試験場八十年史

二十二日 日曜日 午前十時四十分天皇と共に御泊所城山観光ホテルを御出発になり、物産展示が行われている鹿児島市の鹿児島県文化センターを御訪問になる。同所において御昼餐の後、鹿児島県立鴨池陸上競技場において第二十七回国民体育大会秋季大会開会式に臨まれ、各集団演技を御覧になる。

午後三時四十五分御泊所城山観光ホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、鹿児島県庁所蔵資料、広報くしきの、行幸啓誌、しろやま

二十三日 月曜日 午前十時天皇と共に御泊所城山観光ホテルを御出発になり、鹿児島港桜島棧橋よ

り御乗船、桜島港を経て、垂水市役所に向かわれる。同所にて御昼食後、鹿児島県立垂水高等学校体育館において国体ウエイトリフティング競技フライ級を御覧になる。ついで、鹿児島県水産試験場垂水増殖センターを御視察になる。鹿屋市役所での御少憩後、鹿屋市体育館において国体バレーボール競技を御覧になる。終わって根占港より御乗船、山川港を経て、午後五時二十分指宿市の御泊所指宿観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、鹿屋市体育館所蔵資料、行幸啓誌、市報たるみず

二十四日 火曜日 午前八時三十八分天皇と共に御泊所指宿観光ホテルを御出発、指宿駅より串木野駅を経て、串木野市営相撲場に御到着、同所において国体相撲競技を御覧になる。終わって川内市の可愛山陵天津日高彦火瓊瓊杵尊陵に向かわれ、天皇に続き御拝所において御拝礼になる。ついで川内市立体育館において国体バスケットボール競技を御覧になる。終わって川内市民会館において御昼食の後、川内駅より西鹿児島駅を経て、鹿児島県立鴨池陸上競技場に御到着、同所において国体陸上競技を御覧になった後、午後四時一分御泊所城山観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、

幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、川内市立体育館所蔵資料、行幸啓誌、広報くしきの

二十五日 水曜日 午前九時二分御泊所城山観光ホテルを御出発、鹿児島駅より加治木駅を経て、鹿児島空港に御到着になる。十時十五分鹿児島空港を御出発になり、十一時三十五分奄美空港に御到着になる。大島郡の奄郷村公民館において御昼食を召された後、名瀬市の国立療養所奄美和光園を御視察になる。なお御視察に際し、天皇・皇后より患者自治会に金一封を賜う。次に名瀬市市立伊津部小学校の校庭において同校児童及び市民の奉迎を受けられる。続いて鹿児島県名瀬保健所及び併設のハ

昭和四十七年十月

ブ研究所・ハブ野外生態所を御視察になる。午後三時八分、御泊所奄美東急観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、大島支庁所蔵資料、藤楓協会創立三十周年誌、行幸啓記念誌、行幸啓誌、天皇皇后両陛下奄美ご訪問記念誌、新奄美史、奄美

二十六日 木曜日 午前八時四十分天皇と共に御泊所奄美東急観光ホテルを御出発、住用村中央公民館での御休憩の後、マングローブ自生地に御到着になる。御展望所においてマングローブ林を俯瞰された後、山間集落近くのマングローブ自生地にお入りになり、自生状況などを御覧になる。ついで古仁屋港に向かわれる。同港にてお召し船に乘られ、船内において御昼食をお召し上がりになる。大島

海峡を北進して薩川湾内入口付近においてグラスボートに乗り換えられ、加計呂麻島実久漁港周辺の海中の景観を御覧になる。薩川湾内入口付近において再びお召し船に乗り換えられ、名瀬港に御到着になる。午後五時八分、御泊所奄美東急観光ホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、大島支庁所蔵資料、行幸啓記念誌、行幸啓誌、天皇皇后両陛下奄美ご訪問記念誌、新奄美史、わきやシマぬあゆみ

二十七日 金曜日 午前九時三十五分、天皇と共に御泊所奄美東急観光ホテルを御出発、大島紬の生産を行っている名瀬市の南興産業株式会社を御視察になる。御少憩の後、奄美空港より鹿児島空港、東京国際空港を経て、午後三時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、鹿児島県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、大島支庁所蔵資料、行幸啓誌、天皇皇后両陛下奄美ご訪問記念誌、新奄美史、奄美

この日より翌十一月一日まで上野京成百貨店において「秋の日本ばら会展」開催につき、こ

財団法人日本ばら会主催

の日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十九日、三十一日にも御出品になる。

○女官長日記、贈賜録

二十八日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二十日に誕生日を迎えた皇太子妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、続いて女官より祝賀をお受けになる。なお、この日の御対面は、二十日の誕生日が鹿兒島行幸啓中であり、皇太子・同妃も宮城県行啓中であつたため、御延期になつたものである。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、贈賜録、宮内庁序報

天皇と共に正殿竹の間において、政府の賓客として来日中のガンビア国大統領ダウダ・カイラバ・ジャワラ及び同夫人と御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、外賓参内録、宮殿行事録、宮内庁序報

三十日 月曜日 午前、正殿梅の間において、新任のコロンビア国特命全権大使ルイス・ゴンサレス・バロスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

松風の間において松栄会会員の拝謁を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

三十一日 火曜日 午前、故雍仁親王妃勢津子参内につき、天皇と共に萩の間において御昼餐を御会食になる。この日、『雍仁親王実紀』吉川弘文館、昭和四十七年発行の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、連翠南において、来日中のドイツ連邦共和国ブレーメン州首相ハンス・コシュニツクを天皇と

昭和四十七年十一月

共に御引見になる。この度の訪日に際し、天皇・皇后より図録『宮殿』特製を賜う。なお、昨年同国を御訪問の際、同首相は、大統領グスタフ・ヴァルター・ハイネマンが入院加療中につき、その代行を務めた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、賜与録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一月

一日 水曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊会録、宮内庁庁報、官報

三日 金曜日 午前、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会で選ばれた健康優良学校の代表者及び健康優良児童等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。同表彰会会長広岡知男朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、朝日新聞

七日 火曜日 午後、千草の間において天皇と共に、前ドイツ連邦共和国駐劄特命全権大使甲斐文比古及び同夫人の拝謁を受けられ、お茶を共にされる。同人は、昨年の御訪欧時に同国駐劄特命全権大使として尽力した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

八日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のチェコスロバキア国駐劄特命全権大使木本三郎及び同夫人、コートジボワール国駐劄特命全権大使稲田繁及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 木曜日 日本赤十字社関東・山静支部連合赤十字大会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時四十九分御出門、国立劇場に行啓される。御休所において、名誉副総裁の正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで厚生大臣塩見俊二・日本赤十字社社長東竜太郎・同副社長田辺繁雄・同名誉社長島津忠承・同東京支部長美濃部亮吉・同山梨県支部長田辺国男の拝謁を受けられる。式場にお出ましになり、金色有功章・銀色有功章・特別社員章受章者総代計十名に記章・章記を御親授になる。社長特別表彰に続いて、次のお言葉を賜う。

本日、関東山静支部連合赤十字大会に臨み、平素から赤十字事業の進展に力を尽くしている皆さんに、親しくお会いできましたことを、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来今日まで九十五年の長い間、人道と博愛をもととして、幅広い活動を行なってきましたが、皆さんの深い理解とたゆみない努力とによって、この地区においても、年々社員が増加し、事業が発展していることを聞き、喜びにたえません。

赤十字の任務は、これからもますます重きを加えるものと思えます。皆さんは、いっそう力を合わせて、その使命を達成されるよう心から希望します。

ついで大会代表美濃部東京支部長による奉答、日本赤十字社社長挨拶、厚生大臣祝辞の後、御退場になる。御休所において正仁親王妃・故雍仁親王妃・崇仁親王妃と共に御昼餐をお召し上がりになる。終わって御一緒に劇場二階のお席に移られ、歌舞伎を御覧になる。前半は嬢景清八島日記より日向島の段を、後半は高瀬舟を御覧になる。午後四時二十九分、皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、内

舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

十日 金曜日 去る七日に落成した赤坂御用地内の新御殿秩父宮邸に移転する故雍仁親王妃勢津子に、天

皇・皇后より諏訪蘇山作青磁鳳雲浮模様香炉及び三種交魚代料等を賜う。○女官長日記、贈賜録

十一日 土曜日 午後、吹上御所において、新御殿へ移転の挨拶のため参殿した故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十四日 火曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のインド国特命全権大使ヴィンセント・ハーバート・コエリオ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、宮内庁庁舎講堂に天皇と共にお出ましになり、宮内庁職員組合による美術展を御覧になる。同展には、ブドウの絵「秋立ちて」掛軸・ハイビスカスの絵「伊豆にて」額・ジル人形の

絵「旅の思い出」額・カーネーションの絵「春酩」色紙額・イチジクの絵「初秋」色紙額を御出品になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、文化祭目録

十七日 金曜日 第四回日本美術展覧会を御覧になるため、午前九時三十四分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓される。日本画、洋画、書、工芸、彫塑を御巡覧になり、十一時還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料

十八日 土曜日 午前、花の間において、宮内庁職員組合による美術展を観覧した御学友・御同級生十二名の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

道明新兵衛去る十六日死去につき、霊前に菓子を賜う。道明は組紐「道明」上野池之端の七代目で、皇后は

同人の教授により組紐を学ばれた。○女官長日記、贈賜録、日本美術年鑑

二十日 月曜日 午後、黄綬褒章・紫綬褒章又は藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。紫綬褒章受章者田上穰治より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

英国女王エリザベス二世の御結婚二十五年記念日につき、天皇・皇后より祝電を発せられる。これに對し、二十八日に答電がある。また、この度の御結婚二十五年記念日に際し、天皇・皇后より七宝花瓶^{六角型花鳥模様}を御贈進になる。これに對し、エリザベス二世からお礼の親書^{十二月三十一日付}が寄せられる。○外交

慶弔録、外交贈答録、宮内庁序報、官報

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のベネズエラ国特命全権大使ヘスス・マヌエル・ペレス・モラレス及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に連翠において、新任のキューバ国特命全権大使リカルド・カブリサス・ルイス及び同夫人、エクアドル国特命全権大使フランシスコ・ウルビーナ・オルテイス、レバノン国特命全権大使ハリム・シェビーヤ及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。厚生大臣塩見俊二より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、

昭和四十七年十一月

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

日中国交正常化に伴い、近く帰国する元中華民国特命全権大使彭孟緝に、天皇・皇后より御署名入り

お写真^{御紋付皮張写真立て付き}を賜う。○外交贈答録

二十四日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のトリニダード・トバゴ国特

命全権大使アシュフオード・サストリ・シナナン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のチュニジア国駐箚特命全権大使矢野泰男

及び同夫人、ルーマニア国駐箚特命全権大使金沢正雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のイラク国特命全権大使アル・サイイド・ジャーセム・

カーゼム・アル・アッザーウイを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁

見録、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のアフガニスタン国第一王女ビルキス及び同夫君

サルダル・アブドル・ワリと御会見になる。ついで天皇と共に豊明殿において、王女・同夫君のため

宮中午餐を催される。同王女ホマイラ^{王女ビルキスの第一王女}も招かれる。この度の来日に際し、天皇・皇后よりビ

ルキス王女及び同夫君に凶録『宮殿』普及版を、同王女に銀製宝石箱を、同夫君に七宝花瓶を、ホマイラ王女に佐賀錦ハンドバッグを御贈進になる。また、ビルキス王女及び同夫君より天皇・皇后に対する御贈進があり、皇后には手刺繡卓子掛け及びナプキンが贈られる。これとは別に、ビルキス王女の入京に際して、皇后より同王女に花束の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、接待書類、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

二十九日 水曜日 午前、十月二十二日より宮内庁病院に入院中の北白川房子をお見舞いのため、天皇と共に同病院にお出ましになる。なお、十二月六日には退院につき、天皇・皇后より思召しをもつて金一封・万那料及び果物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

三十日 木曜日 午後、天皇と共に芳菊の間において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

重要無形文化財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。梨本伊都子・東久邇聡子・鷹司綏子・古河典子・宇治量子・二条恭仁子・久邇桜子及び服部豊子等が招かれる。楽部に設けられた御休所において、先着の皇太子妃の挨拶をお受けになり、御一緒に会場にお出ましになる。途中休憩を挟み、後藤得三・藤田大五郎・幸祥光・安福春雄・柿本豊次ほかによる能「遊行柳」、野村万蔵ほかによる狂言「寝音曲」、尾上松緑・清元志寿太夫ほかによる舞踊「斧琴草」を御鑑賞になる。終わって、御休所において、重要無形文化財保持者八名の拝謁をお受けになる。この度の演奏会に際し、出演者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、邦楽演奏会記録、旧皇族雑録、

恩賜録

昭和四十七年十二月

スウェーデン国王族故スタッフ・アドルフ王子の妃シビラ去る二十八日薨去につき、天皇・皇后より同国王グスタフ六世アドルフに弔電を發せられる。これに対し、十二月十五日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

十二月

二日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、侍従松平潔の説明により、昨年のベルギー国御訪問に関する記録映画等を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

四日 月曜日 午後、正殿梅の間にて、エリザベス・グレイ・ヴァイニング^{元皇太子家庭教師}を御引見になる。

○女官長日誌、女官日誌、内舍人日誌

五日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、スペイン国国会議長ロドリゲス・デ・バルカルセル及び同夫人を御引見になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録

入江相政日記

六日 水曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時三十分同邸に御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓関係綴、

宮内庁序報

八日 金曜日 フィリピン国大統領フェルディナンド・エドラリン・マルコスの夫人イメルダ昨七日負傷につき、天皇・皇后より同国大統領にお見舞電報を發せられる。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

九日 土曜日 夕刻、天皇と共に、須崎御用邸に初めて参邸の東久邇文子・同真彦と御夕食を御会食

になり、ついで邸内を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴
十二日 火曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十六分御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓関係綴、宮内庁庁報

十三日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のイラク国駐箚特命全権大使島静一及び同夫人、パキスタン国駐箚特命全権大使兼松武及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

花の間において、京都在住堂上会総代の冷泉為任の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、入江相政日記

午後、天皇と共に正殿竹の間において、東京大学名誉教授原寛・人事院総裁佐藤達夫植物学研究者より、常緑低木のトキワサンザシに関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、入江相政日記

夕刻、天皇と共に吹上御所において、毎日映画社製作の八ミリ映画「パンダちゃん」佐久間の監督を御覧になる。なお、この度の日中国交回復を記念して、去る十月二十八日、中華人民共和国よりジャイアントパンダ二頭雄カンカン、雌ランランが上野動物園に贈られ、十一月五日から一般公開された。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、上野動物園百年史

十五日 金曜日 夕刻、賢所御神楽につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎の進講をお聴きになる。この年一年間の主な活動報告と、翌昭和四十八年春から着工する中央病院等の再建計画について報告をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、賜与録

午後、正殿梅の間において、新任のラオス国特命全権大使ティアオ・カムヒン^王並びに同妃を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、同じく事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

十九日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のカナダ国特命全権大使ハーバート・オーウェン・モラン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に連翠において、アルゼンチン国特命全権大使ホルヘ・サルヴァドル・マリア・オリア及び同夫人、ブラジル国特命全権大使パウロ・リヤオン・デ・モーラ、イスラエル国特命全権大使エイタン・ロン及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る十一月七日に落成した赤坂御用地内の秩父宮邸を御覧になるため、午後三時四十九分御出門、天皇と共に同邸に行啓される。八時四十二分還啓される。なお、行幸啓に際し、天皇・皇后より故雍仁親王妃勢津子に菓子及び万那料を賜う。また、翌二十日午前、お一方にて吹上御所において、故雍仁

親王妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 天皇と共に連翠において、菊栄親睦会会員の皇太子始め皇族・元皇族等を御招待になり、午餐の御陪食を賜う。ついで石橋の間において、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

この日、歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録

二十三日 土曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀、女官長・女官・元奉仕者等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、典式録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午後、吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十七日 水曜日 午後、正殿梅の間において、インド国特命全権大使S・ティルヴェンガダ・タンを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 歳末に当たり、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、及び女官長等より祝詞言上を、ついで皇太子始め皇族・元皇族等より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記

昭和四十七年十二月

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、宮内庁序報

昨二十八日タイ国皇太子ワチロンコーンの立太子式挙行につき、この日、天皇・皇后より同皇太子に牡丹文七宝花瓶をお贈りになり、併せて祝意を表される。○外交贈答録、賜与録

昭和四十八年（西曆一九七三年）

七十歳

一月

一日 月曜日 午前九時四十五分より宮殿において新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・容子内親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及び各国外交使節団の長等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、天皇と共に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、例規録、宮内庁序報、官報

二日 火曜日 新年一般参賀につき、午前三回と午後五回の計八回、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、年末年始行事、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

一回目の新年一般参賀お出ましの後、天皇と共に鳳凰の間において、憲仁親王始め未成年の皇族等の祝賀を、ついで正殿竹の間において元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

三日 水曜日 午前、元始祭につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官

昭和四十八年一月

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

四日 木曜日 雍仁親王二十年式年祭につき、皇后宮使として侍従山本岩雄を秩父宮邸の霊舎に、侍従安楽定信を豊島岡墓地の墓所にそれぞれ差し遣わされる。なお、天皇・皇后より霊舎に菓子・榊を、墓所に榊を、写真に切り花・果物をそれぞれお供えになり、故雍仁親王妃勢津子に菓子を御贈進になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、重要雑録、贈賜録

五日 金曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、昨日雍仁親王二十年式年祭終了のお礼言上のため参殿の故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

七日 日曜日 新年につき、午後、天皇と共に吹上御所において、元女官等の祝賀を、続いて元女嬬等の祝賀をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

花の間において、元御用掛三名の祝賀を、ついで御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、内舎人日誌

八日 月曜日 午後、花の間において、久邇朝尊^{御兄朝融の孫、邦昭の子息}・同邦晴^同・弘世芳子^{邦昭夫人の母}の拝謁をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日誌、女官日誌

十日 水曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。青山学院大学教授三上次男より「東西文化の交渉について―中世の陶磁器貿易を中心として―」、日本学士院会員堀経夫より「経済学の父 アダム・スミス―彼の根本思想と現代―」、同桜田一郎より「高分子

の化学反応」と題する進講をお聴きになる。進講後、進講者及び進講者控の賜謁があり、天皇と共に正殿竹の間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、講書始録、年末年始行事、東宮録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のルーマニア国特命全権大使ヨシフ・ゲオルギウ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

吹上御所において、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十二日 金曜日 午前十時、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「子ども」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

われもまた昔にかへる心地してをさなき子らとともにあそびぬ

儀終了後、正殿竹の間において召人・選者・諸役の、ついで宮殿回廊において預選者の賜謁があり、それぞれ天皇と共ににお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、歌会始録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十三日 土曜日 午前、花の間において大聖寺門跡の花山院慈薫及び光照院門跡の一条智光の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 火曜日 去る四日の雍仁親王二十年式年祭にちなみ、午前十時三十二分天皇と共に御出門になり、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、天皇に続き、雍仁親王墓所、祐子内親王墓所、東久邇成子・盛厚墓所を順次御拝礼になる。なお、天皇・皇后より雍仁親王墓所に菓子・野菜を、祐子内親王墓所及び東久邇成子・盛厚墓所に菓子・色花をそれぞれお供えになる。十一時十四分還啓される。その後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、行幸啓についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

午後、第十六回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}受賞校代表者の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉をお賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、新任の式部官長湯川盛夫及び前任の式部官長島重信の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係係、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午前から正午過ぎにかけて、展望台・小磯道方面を天皇と共に御散策になる。以後、

御用邸滞在中は天皇の植物及び海洋生物の御調査に同行され、しばしば御用邸敷地内外及び海上にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十五日 木曜日 須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十六分天皇と共に御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、

幸啓録、宮内庁序報

二十六日 金曜日 吹上御所において、御昼餐御着席の折、女官長始め女官一同より御結婚記念日の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に吹上御所において、御夕餐の御相伴に召された前式部官長島重信と御会食になる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 火曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

三十一日 水曜日 ガボン国特命全権大使クリストフ・ブパナ及び同夫人、ブルガリア国特命全権大使パルヴァン・チェルネフ及び同息女のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二月

一日 木曜日 午前、東久邇盛厚の祥月命日につき、お仕向けのお礼のため参内の東久邇稔彦・同夫

昭和四十八年二月

人聡子・東久邇文子盛厚の息女の拝謁を、芳菊の間において天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、旧皇族雑録

二日 金曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時三十分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、

宮内庁序報

三日 土曜日 午前、フウトウカヅラ道を天皇と共に御散策になる。以後、御用邸御滞在中は天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

四日 日曜日 貞愛親王五十年式年祭に当たるため、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、贈賜録、旧皇族録

五日 月曜日 午前十時須崎御用邸を御出門になり、天皇と共に静岡県水産試験場伊豆分場を御視察になる。屋外池などの各施設を御巡覧になり、午後零時五分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

七日 水曜日 熾仁親王妃董子五十年式年祭に当たるため、終日、お出ましをお控えになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、贈賜録

元侍従長稲田周一去る五日死去につき、この日、天皇・皇后より賜物使・柩前使として侍従松平潔を稲田邸に差し遣わされ、祭糝料及び生花を賜い、柩前に拝礼させられる。昨六日には、天皇・皇后より菓子・果物を、皇后より切り花を霊前に賜う。また、十三日の葬儀には、天皇・皇后より葬儀使として侍従田中直を青山斎場に差し遣わされ、拝礼させられる。稲田は、昭和二十一年二月に宮内省に

入省し、内記部長、侍従次長を経て昭和四十年三月から四十四年九月まで侍従長を務めた。○女官長日記、侍従日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、恩賜録、賜与録、贈賜録、宮内庁序報

八日 木曜日 須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十六分天皇と共に御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁序報

九日 金曜日 午後、吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、熾仁親王妃董子五十年式年祭終了のお礼を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 水曜日 午前、去る一日に成年に達した東久邇真彦参内につき、鳳凰の間において天皇と共に拝謁をお受けになり、天皇・皇后より白羽二重・万那料・洋服地・菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、正殿梅の間において、新任のカナダ国特命全権大使ロス・キャンベル及び同夫人、グアテマラ国特命全権大使フェリペ・アントニオ・ガンダラ・ガルシア及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十五日 木曜日 午後零時二十五分、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中の国際連合事務総長クルト・ヨーゼフ・ワルトハイム及び同夫人を御引見になる。引き続き豊明殿において天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より同事務総長夫妻に凶録『宮殿』普及本

及び銀張蓑箱皿付等を賜う。後日、事務総長夫妻より内閣総理大臣を通じ、滞在中に受けた款待に対する天皇・皇后への謝意の伝達がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、

昭和四十八年二月

宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十六日 金曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のノルウェー国駐箚特命全権大使山中俊夫及び同夫人、スペイン国駐箚特命全権大使佐藤正二及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十一日よりパキスタン国を訪問する崇仁親王と御対面になる。ついで同所において随員のユネスコ国内委員会事務局次長広敬太郎の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

来る三月六日の皇后誕生日に際し、この日日本赤十字社病院救助収容患者及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計一万四千二百四十五名に手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十一日 水曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官市村菊重に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午後、吹上御所において、侍従次長徳川義寛より「美術について」と題する進講をお聴きになる。この日以後、徳川より美術についての進講を三月一日・十五日・二十二日の三回にわたりお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十七日 火曜日 ポルトガル国特命全権大使マヌエル・ロドリゲス・デ・アルメイダ・コウテイニョ及び同夫人、フィリピン国特命全権大使ロベルト・S・ベネディクト及び同夫人、パラグアイ国特命全権大使デシデリオ・メラニオ・エンシソ及び同夫人のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三月

六日 火曜日 満七十歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀を、花の間において石坂泰三の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、御車寄前廊下において女孀・雑仕の祝賀を、芳菊の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、花の間において東久邇文子の祝賀を、御車寄前において元女孀等の祝賀を、再び花の間において元御用掛服部豊子^{ヴァイオ、リニスト}、御学友・御同級生七名、続いて吉井愛子^{元久邇家侍女}・工藤田鶴子^{皇后乳人の息女}の祝賀を順次お受けになる。その後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・文仁親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、

昭和四十八年三月

宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、鷹司和子、島津貴子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、東宮録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・パキスタン国訪問の随員広長敬太郎の拝謁をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

吹上御所において、パキスタン国より帰国の崇仁親王、及びこの度スイス国に留学の容子内親王のため、天皇と共に内宴を催され、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王と御晩餐を御会食になる。天皇・皇后より容子内親王に金一封及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、東宮録、重要雑録、宮内庁庁報

八日 木曜日 祐子内親王の祥月命日につき、お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のバングラデシユ国特命全権大使モノランジャン・ダール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇が主催された皇后の古希祝賀会に臨まれる。天皇と共に松風の間において、皇太子・同妃始め皇族・元皇族・御親族二十六方の祝詞言上をお受けになる。ついで春秋の間において写真撮影を受けられ、続いて余興として催された荻江節「桃」の演奏及び落語「御神酒徳利」をお聴きになる。終わって、荻江節の出演者荻江露友^{画家前田青邨夫人すゑ}等、落語を演じた三遊亭円生等の賜謁があり、天皇と共に

北渡脇階段上にお出ましになり、天皇に続き、お言葉を賜う。ついで連翠におけるお茶の席に臨まれ、宣仁親王の音頭でお祝いの乾杯をされる。その後には催された福引では、アルパカの膝掛けをお当てる。出席者退出の際、各人にボンボニエール及び菓子を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、留学のため翌十一日スイス国に出発の容子内親王及び同行の崇仁親王妃百合子と御対面になる。崇仁親王妃は二十二日に帰国する。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、賢所諸件、宮内庁庁報

十二日 月曜日 午後、正殿梅の間において、初代カタル国特命全権大使ハマド・マンスール・アル・ハージリー、続いて新任のイラク国特命全権大使ムンダル・タウフイーク・アル・ウアンダーウイを御引見になる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌、謁見録、捧呈式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任の中華人民共和国駐劔特命全権大使小川平四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、花の間において、古希のお祝いにお召しになった久邇朝建御兄朝融の子息・同朝宏同・梨本正子御兄朝融の息女・木下英子同・古河典子同の拝謁をお受けになる。ついで萩の間において、茶菓を賜う。さらに芳菊の間に移られ、御団欒になる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌

二十日 火曜日 天皇と共に連翠北において、リビア国特命全権大使ハサン・エルハーディー・ブクレス及び同夫人、ポーランド国特命全権大使ズディスワフ・レグルスキー及び同夫人、エジプト国特

昭和四十八年三月

命全権大使マハムード・サラハツディーン・ハサン及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十一日 水曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十三日 金曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時三十分同邸に

御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸

啓録、宮内庁序報

二十四日 土曜日 午前、天皇と共に附属邸付近・カニ沢・三井浜を御散策になり、植物を御調査に

なる。以後、御用邸御滞在中は天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十七日 火曜日 この日、タイ国皇太后ラムバイ・バルニが御渡米の途次御来訪につき、御泊所の

帝国ホテルへ花束をお届けになる。これに対し翌々二十九日、同皇太后より皇后にバラの生花^{花瓶}の御

贈進がある。○外交雑録、外交贈答録

二十八日 水曜日 須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十六分天皇と共に御出門、四時一分皇居

に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、

幸啓録、宮内庁序報

この日、フィリピン国ラグナ州カリラヤにおいて日比両国共催による比島戦没者の碑竣工並びに追悼式実施につき、天皇・皇后より厚生省を通じて花環をお供えになる。○賜与録、外交雑録

二十九日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のルーマニア国特命全権大使ニコラエ・フィナ
ンツー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
連翠南において、古希のお祝いとしてお召しになった元女子学習院教授今井熊太郎、同松島彝、御学
友・御同級生三十五名の拝謁をお受けになる。引き続き連翠北においてお茶を賜う。また、出席者に
銀製スプーンうさぎのデザイン等を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

三十日 金曜日 午前、花の間において、東久邇真彦・同優子のお世話を務めた木越徳子・秋光正子
の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、去る二十八日臨時神宮祭主に就任の鷹司和子と御対面になり、ついで
御昼餐を御会食になる。翌日も御夕餐を御会食になり、御一緒に神宮遷宮に関する記録映画を御覧に
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族録

四月

二日 月曜日 午後、昭和四十七年度音楽大学卒業生による演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出
ましになる。皇太子妃第二部のみ・文仁親王第二部のみ・故雍仁親王妃勢津子ほかが陪聴する。第一部として、
東京芸術大学卒業生による長唄、国立音楽大学卒業生によるソプラノ独唱、桐朋学園大学卒業生によ
るフルート独奏、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、東京芸術大学卒業生によるバス独唱、武蔵
野音楽大学卒業生によるマリンバ独奏をお聴きになる。御休憩を挟み、第二部として、上野学園大学
卒業生によるヴァイオリン独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるバリトン独唱、桐朋学園大学卒業生に

昭和四十八年四月

よるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるヴァイオリン独奏、東京芸術大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わって、楽部に設けられた御休所脇廊下において各校代表者等に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、賜与録、旧皇族雑録、音楽大学卒業生演奏会、宮内庁庁報

第十八回ユニセフ協会募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金員を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三日 火曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のアイerland国駐節特命全権大使山下重明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昨日、英国滞在中の東久邇信彦御孫に皇后の初曾孫となる男子誕生につき、この日侍従長名の電報をもつて信彦に天皇・皇后よりの祝意を表される。また初曾孫は征彦まよひこと命名される。十六日再び侍従長名の電報をもつて信彦に天皇・皇后よりの祝意を表される。○女官日誌、重要雑録、旧皇族録

五日 木曜日 正午頃、正殿竹の間において天皇と共に、来日中のカメルーン国大統領エル・アジ・アマドウ・アヒジヨ及び同夫人と御会見になる。引き続き同夫妻のため、豊明殿において宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より大統領に有田焼花瓶赤地社丹文を、同夫人に佐賀錦ハンドバッグをそれぞれ御贈進になる。また大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には手製木綿

テールブルクロス及びナプキンが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、
宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

六日 金曜日 宮崎県において開催される第二十四回全国植樹祭に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前十時四十五分御出門、東京国際空港をお発ちになり、宮崎空港にお着きになる。ついで宮崎県庁を御訪問になる。屋上にて市民の奉迎にお応えになる。午後二時十二分、御泊所の宮崎観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下幸啓御日程細目、みやざきの両陛下
七日 土曜日 午前十時天皇と共に御泊所宮崎観光ホテルを御出発、宮崎神宮に御到着になり、天皇に続き、幣殿内にお進みになり、御拝礼になる。ついで宮崎県護国神社にお立ち寄りになり、石段上の御拝座にお進みになり、御拝礼になる。その後、宮崎県総合博物館を御視察になる。西諸県郡野尻町の萩の茶屋において御昼食の後、小林市役所において市民の奉迎にお応えになる。午後二時四十分、御泊所えびの高原ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内

庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下幸啓御日程細目、みやざきの両陛下

八日 日曜日 午前九時四十三分天皇と共に御泊所えびの高原ホテルを御出発、途中瀬田尾展望台の御休所において御少憩の後、霧島山麓夷守台の植栽地における全国植樹祭に臨まれる。お手植え地に進まれ、天皇のお手植え^{オビ}スギに続き、林業功労者高岩小吉・拡大造林推進委員代表浜砂定広・SAP会
員林業研究グループ代表牛谷栄子・学校生徒代表志岐八美の介添えにより、三本のオビスギをお手植えになる。再び瀬田尾展望台に臨まれ、周囲を御展望になる。ついで宮崎県総合農業試験場酪農支場

において御昼餐並びに御視察の後、都城市立志和池小学校、宮崎県立特別養護老人ホーム霧島荘を順次視察される。午後四時十五分御泊所島津邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下幸啓御日程細目、みやざきの両陛下

九日 月曜日 午前九時十四分天皇と共に御泊所島津邸を御出発、西都城駅より宮崎駅を経て、お手播き行事会場の宮崎県林業試験場に御到着になる。お手播き床に進まれ、天皇はヒノキの種子を、皇后は宮崎県林業関係諸団体代表税所篤行^{同県森林組合連合会長}の介添えにより、クヌギの種子を播かれる。ついで本館展示室の展示品を御覧になる。宮崎観光ホテルにおいて御昼食の後、宮崎県消費生活センター、宮崎県中小企業総合指導センター、宮崎県身体障害者総合福祉センター、社会福祉法人宮崎県大島振興協会大島授産場を順次視察される。午後二時三十六分御泊所のシーサイドホテルフェニックスに御到着になる。御少憩の後、フェニックス自然動物園を非公式に御訪問になる。その際、皇后はクロクモザル^コミ^ミをお抱きになり、また来園中の幼稚園児に取り囲まれ、園児と御握手をされる。三時四十分御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮崎県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下幸啓御日程細目、みやざきの両陛下、入江相政日記、ひなもり、話、あしおと、みやざき市広報、どうぶつと動物園、宮崎日日新聞

来る十一日、清子内親王柿ノ木坂幼稚園入園につき、天皇・皇后より同内親王にお品料・万那料をお贈りになる。○女官長日記、贈賜録

十日 火曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所シーサイドホテルフェニックスを御出発になり、宮崎県総合農業試験場を御視察になる。養蚕の展示を御覧の際、蚕の掃立ての開始時期、人工飼料育

による蚕の桑食いにつき御下問になる。児湯野菜集送センターを御視察の後、御移動中に車窓から大持田の野菜ハウス集団地の一部を御覧になり、宮崎県農業大学校を視察される。その後、高鍋駅よりSLの牽引する特別列車に御乗車になり、串間駅にて御下車、午後四時十三分御泊所の都井岬観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮崎県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、

第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下下行幸啓御日程細目、みやざきの両陛下、宮崎県庁所蔵資料

十一日 水曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中は静かにお過ごしになり、ホテルの窓より野生馬のスケッチをされる。ついで天皇と共に串間市のソテツ自生北限地を非公式に御訪問になる。

午後一時御泊所都井岬観光ホテルを御出発になり、南郷漁業協同組合水揚場を御視察になる。ついで鵜戸神宮を御訪問になり、天皇に続き、幣殿において御拝礼になる。また社殿近くにあるお乳岩と亀石を御覧になる。四時四十六分、御泊所宮崎県営国民宿舎青島に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮崎県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下下行幸啓御日程

細目、陛下と宮崎の植物、鵜戸神宮所蔵資料

十二日 木曜日 午前九時十七分、天皇と共に御泊所宮崎県営国民宿舎青島を御出発、青島駅より延岡駅を経て城山公園に御到着、展望台より周囲を御展望になる。ついで雇用促進事業団延岡総合高等職業訓練校を訪問され、御昼餐の後、同所を御視察になる。以上で宮崎県内での御日程を終えられ、細島工業港カーフェリーターミナルよりお召し船せんとぼーりあ日本カーフェリーに御乗船、午後二時四十三分御出港になる。その後、低気圧の影響により船の揺れが激しくなったため、早めに就寝される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮崎県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇

昭和四十八年四月

后陛下幸啓御日程細目、みやぎきの両陛下

十三日 金曜日 昨夜来の船の激しい揺れのため、午前はお静かに過ごされる。午後、船の揺れも収まったため、デッキにおいて夕刻まで天皇と共に海上を御展望になる。四時五十六分、川崎港カーフェリーターミナルに御着港、五時三十六分天皇と共に皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮崎県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二十四回全国植樹祭天皇陛下皇后陛下幸啓御日程細目、みやぎきの両陛下

十四日 土曜日 夕刻、吹上御所において、鷹司和子より臨時神宮祭主拝命のお礼を天皇と共に受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

ネパール国皇祖母カンテイ・ラジャ・ラクシュミ・デヴィ・シャー去る十二日崩御につき、同国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに天皇・皇后より弔電を発せられる。これに対し、二十三日同国王より天皇に答電が送られる。○外交慶弔録、外交雑録、宮内庁庁報、官報

十五日 日曜日 菊栄親睦会の催す探鳥会に御臨場のため、午前九時四十二分天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王と共に御出門になり、新浜鴨場に行啓される。御到着後、場内の鳥類を御観察になる。降雨により、午後は食堂において会員と御歓談になる。二時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、菊栄親睦会録、東宮録、獵場録、宮内庁庁報、朝日新聞、読売新聞

十六日 月曜日 午後、東京で開催中の国際連合アジア極東経済委員会^{F E C A}第二十九回総会に参加の加盟国及び準加盟国の首席代表夫妻並びに関係閣僚夫妻等をお招きになり、連翠において天皇と共に

茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮中茶会、宮殿行事録、宮内庁庁報
神宮式年遷宮が行われるにつき、その資として天皇・皇后より金一封を賜う。○宮内庁庁報、神宮彙報、神宮・明治百年史

十七日 火曜日 ニュージールランド国特命全権大使トーマス・セドリック・ラーキン及び同夫人、インドネシア国特命全権大使ユスフ・ラムリ及び同夫人・息女二名、リベリア国特命全権大使ジョン・D・コックス及び同夫人のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午後、皇太子妃及びこの誕生日を迎えた清子内親王参内につき、天皇と共に鳳凰の間において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報
十九日 木曜日 イタリア国首相の来日に先立ち、午前、正殿竹の間において、回国駐劄特命全権大使竹内春海の進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

午後、財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者六十二名の賜謁があり、宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長山口正義よりお礼を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、新任の中華人民共和国特命全権大使陳楚及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 午後、天皇と共に千草の間において、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部特命全

昭和四十八年四月

権大使北原秀雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。続いて賜茶がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

二十二日 日曜日 英国滞在中の東久邇信彦に去る三日男子誕生につき、午前、天皇と共に吹上御所において、東久邇稔彦・同夫人聡子、同文子・同真彦・同優子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 月曜日 午後、天皇と共に、宮内庁職員及び元奉仕者により催される皇后陛下古希奉祝会に御臨席になる。皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子が陪席する。天皇と共に桃華樂堂にお出ましになり、伊藤京子・立川清登の歌、三浦洋一のピアノ演奏による「花」「荒城の月」「待ちぼうけ」「夏の思い出」など明治・大正・昭和の唱歌をお聴きになる。終わって、御休所において出演者三名の拝謁をお受けになる。ついで日本丸天守台前広芝における模擬店による祝賀パーティーにお出ましになり、側近・元奉仕者等と御歓談になる。また、お一方にて卯年生まれの方との記念撮影に臨まれる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る五月六日よりオーストラリア国・ニュージーランド国を訪問する皇太子・同妃の首席随員東郷文彦^{外務審議官}及び随員の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後零時四十分、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のイタリア国首相ジュリオ・アンドレオッティ及び同夫人を御引見になる。ついで天皇と共に豊明殿において、首相夫妻のために宮中午餐を催される。この度の来訪に際し、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶・図録『宮殿』

普及等を賜う。また、首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后はイタリアの民芸品であるレースのテーブルクロス及びナプキンをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、東宮録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の第五回愛育班員全国大会において、総裁又は会長から表彰された愛育班員及び愛育班育成功労者等二十八名の賜謁があり、宮殿北溜にお出ましになる。同会理事長新井善太郎よりお礼をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、芳菊の間において、皇后のお招きにより参内の梨本伊都子・東久邇聡子・賀陽敏子・竹田光子・北白川祥子の拝謁を受けられ、宮殿南庭より東庭を御一緒に御散策の後、萩の間においてお茶を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

夕刻、皇居東御苑を天皇と共に御散策になる。途中、二の丸庭園において都道府県の木の生育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録

二十七日 金曜日 午前、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生政務次官山口敏夫の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

元内閣総理大臣石橋湛山去る二十五日死去につき、天皇・皇后の御使として侍従卜部亮吾を同邸に差し遣わされ、祭糝料及び生花を賜い、焼香させられる。○侍従職日誌、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

二十九日 日曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の祝賀を、正殿梅の間において皇太子始め皇族、元皇族等の祝賀を、再び花の間において元女官長・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他が出席する。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国外交使節団の長等が出席する。両儀の間に、花の間において東久邇文子・真彦・優子の祝賀をお受けになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

五月

四日 金曜日 日本貝類学会創立四十五周年記念世界の貝類展日本貝類学会・国立科学博物館主催を御覧になるため、午前九時四十三分御出門、天皇と共に東急百貨店日本橋店に行啓される。会場を御巡覧になり、十一時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、花の間において、鷹司綏子、同和子、同尚武和子
義子・同夫人久美子の拜謁を受けられる。去る四月

十六日結婚の尚武・久美子夫妻に万那料を、兩名それぞれにお品を天皇・皇后より賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日よりオーストラリア国及びニュージーランド国を訪問する皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、外交雑録、宮内庁庁報

八日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

午後、正殿竹の間において、この度離任のイタリア国特命全権大使ユスト・ジュステイ・デル・ジャルデーノ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のトルコ国駐箚特命全権大使広瀬達夫及び同夫人、ウルグアイ国駐箚特命全権大使近藤四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 この日千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の納骨並びに拝礼式が行われるにつき、天皇・皇后より同省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十三日 日曜日 この日常磐会において恒例のバザー開催につき、同会へ切り花を賜う。○贈賜録

十四日 月曜日 天皇と共に「世界に誇る大ブラジル展」読売新聞社・サンパウロ新聞社主催を御覧になるため、午前九時三十二分御出門、新宿伊勢丹に行啓される。アマゾン流域に生息する珍しい魚類やブラジル産の化石・

昭和四十八年五月

貴石などを御覧になり、十時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

午後、皇宮警察本部音楽隊創設二十周年記念演奏会を御鑑賞のため、桃華樂堂にお出ましになる。正

仁親王妃華子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

翌十五日より二十日まで大阪阪急百貨店において「春のばら会展」財団法人日本ばら会
会関西支部主催開催につき、この日、

吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。十七日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

コストリカ国大統領夫人カレン・オルセン・デ・ファイゲレス来日につき、入京に際して、皇后より

花束を贈られる。○外交贈答録

十五日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十六日 水曜日 翌十七日の貞明皇后例祭に先立ち、午後、連翠南において九条成子貞明皇后の甥九
条道秀の夫人始め

貞明皇后の御縁故者等の拝謁を天皇と共にお受けになる。ついで連翠北においてお茶の席を設けられ

る。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

十七日 木曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と

共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時四十八分還啓さ

れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

この日より二十三日まで上野京成百貨店において「春の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、この日、

吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十日、二十二日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

記、贈賜録

十九日 土曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日記、内舎人日記

二十二日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のスウェーデン国駐箚特命全権大使上田常光及び同夫人、アルジェリア国駐箚特命全権大使下田吉人及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、この日オーストラリア国及びニュージーランド国訪問より帰国の皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記

二十四日 木曜日 昭和四十八年度全国赤十字大会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時四十分御出門、日比谷公会堂に行啓される。御休所において、名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面の後、最高裁判所長官村上朝一、厚生大臣齋藤邦吉、日本赤十字社社長東竜太郎、日本赤十字社副社長石坂泰三、同小池欣一の拝謁を受けられる。続いて式場に臨まれる。式中、社長挨拶に続き、金色有功章・銀色有功章・金色特別社員章の受章者代表十三名に章記及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会に出席して、赤十字のために尽力されている皆さんと親しくお会いできたことを、大変うれしく思います。

昭和四十八年五月

日本赤十字社が、創立以来九十六年の長い間、国の内外において大きな成果をあげてきたことを、深く満足に思います。

人道と博愛を基調とする赤十字の任務は、今後ますます重要性を加えるものと思います。ただ今受章した方々をはじめ、関係者の皆さんが、力をあわせて、赤十字事業のいつその進展を待ち、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望みます。

社長の奉答、受章者総代の謝辞を受けられ、赤十字奉仕団員・青少年赤十字団員の体験発表等をお聞きになる。閉会の辞の後、御退場になり、十一時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十五日 金曜日 午前、花の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された外務事務官山口達男の拝謁をお受けになる。その後、鳳凰の間において天皇と共に同人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

米国特命全権大使ロバート・ステイヴン・インガースル及び同夫人、フランス国特命全権大使フランソワ・ルフューヴル・ド・ラブレール及び同夫人、ベルギー国特命全権大使アルベール・ユツペール及び同夫人・息女のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

正午、天皇と共に鳳凰の間において、オーストラリア国及びニュージーランド国訪問より帰国した皇太子・同妃の随員戸田康英^{東宮侍}_{従長}始め七名の拝謁をお受けになる。引き続き、随行員七名の賜謁があり、

天皇と共に御車寄内広間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時二十一分椿山荘に行啓される。御着後、御休所において、正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、会場に臨まれる。会員一同により「金剛石」が合唱される中舞台にお上りになり、会長賀陽敏子の古希の祝詞言上、献上品目録の贈呈後、園部繁八・同朝野等による直心影流薙刀の演武を御覧になり、引き続き菅原洋一の歌唱をお聴きになる。ついで会員と御懇談・御会食になり、菅原に御会釈の後、御退場になり、四時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のアルゼンチン国特命全権大使ホルヘ・サルヴァドル・マリア・オリア及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

皇太子・同妃オーストラリア国及びニュージーランド国訪問より去る二十三日帰国につき、この日夜、吹上御所において、皇太子・同妃及び正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子をお招きになり、天皇と共に内宴を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、東宮録、宮内庁庁報

三十一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和四十八年六月

六月

四日 月曜日 来る二十一日の後三条天皇九百年式年祭に先立ち、午前、正殿竹の間において学習院大学教授安田元久より「後三条天皇の御事蹟について」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、東宮録、宮殿行事録

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 火曜日 天皇と共に箱根及び須崎御用邸に行啓される。午前九時二十分御出門、初めて東名高速道路を御利用になる。静岡県御殿場市の矢崎総業一休荘において御少憩の後、箱根樹木園に御到着になる。同所での御昼餐の前後、園内の植物を御覧になる。その後、伊豆スカイラインを経由して須崎に向かわれ、途中スカイポート亀石において御少憩になる。ついで、伊豆高原駅より伊豆急下田駅まで列車を利用され、午後四時四十八分須崎御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓関係綴、箱根樹木園行幸啓綴、宮内庁庁報

六日 水曜日 午後、天皇の植物御調査に同行され、カニ沢方面を御散策になる。翌七日と翌々日も御用邸敷地内を天皇と共に御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

八日 金曜日 午後零時三十四分天皇と共に須崎御用邸を御出門、四時一分皇居に還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓関係綴、宮内庁庁報

十二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、卜部亮吾侍従日記

十三日 水曜日 午前十時三分御出門、天皇と共に多摩陵^{大正天皇}及び多摩東陵^{貞明皇后}に行啓される。御到

着後、天皇に続いて両陵を御拝礼になる。午後二時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のナイジェリア国特命全権大使ジョージ・

ダヴ・エドウィン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 午前、吹上御所において、デンマーク国より帰国の久邇正子の拝謁を受けられる。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十九日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、元オーストラリア国駐劔特命全権大使齊藤鎮

男の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のユーゴスラビア国駐劔特命全権大使吉良秀

通及び同夫人、スーダン国駐劔特命全権大使川島利雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

素顔の昭和天皇

二十一日 木曜日 午前、後三条天皇九百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 中央アフリカ国特命全権大使ネストル・コンボ・ナグモン及び同夫人、ガーナ国

昭和四十八年六月

特命全権大使クレメント・オトウ・クデート・アマテ及び同夫人、英国特命全権大使フレデリック・アーチボルド・ウォーナー及び同夫人のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午後、花の間において、前田青邨の拝謁を受けられる。これより先、日本赤十字社社長・朝日新聞社社長より宮内庁長官に対し、皇后の古希を記念し、この年九月に両社主催・宮内庁後援による「皇后さまの絵と書展」を日本芸術院会館において開催のため、御作品日本画・書など約五十点のお貸し下げについて願ひ出がある。これに対してこの月五日、宮内庁長官より両社社長に対し、御作品のお貸し下げをお許しになる旨が通知される。これを受けて、この日前田は同展に出品される絵画を拝見するため参内した。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、重要雑録

二十六日 火曜日 午後一時十九分天皇と共に御出門、この度渋谷区神南に完成の日本放送協会NH放送センターに行啓され、施設等を御視察になる。三時十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 水曜日 午後、正殿竹の間において、この度離任のスペイン国特命全権大使メリー・デル・ヴァル及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 第二十四回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時四十分御出門になり、東京プリンスホテルに行啓される。日本赤十字社社長東竜太郎の先導にて御休所に入られ、名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親

王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面の後、内閣総理大臣代理二階堂進内閣官、房長官、東社長、日本赤十字社副社長小池欣一、同社名誉社長島津忠承の拝謁を受けられる。続いて式場に臨まれ、受章者矢野シマ鹿児島純心女子短期大学助教・佐賀リユウ三条市私立三ノ町病院附属高等看護学校専任教員・雪永まさる枚方市星カ丘厚生年金病院顧問の三名に章記並びに記章を授与された後、次のお言葉を賜う。

本日、第二十四回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式に出席して、親しく皆さんとお会いすることができましたことを、大変うれしく思います。

このたび、矢野シマ、佐賀リユウ、雪永まさるの三名の方々が、赤十字国際委員会から看護婦として最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長い間看護の道に献身的に尽くされたたまものであり、本人の榮譽はもとより、わが国にとりましてもまことに喜ばしいことであります。

受章された三名の方々は、今後も健康に注意して後進の指導に当たると、博愛と人道のためいつそうこの道に尽くすよう希望します。

閉式の後、御退場になり、十一時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

午後、楽部職員による洋楽演奏会を御鑑賞のため、桃華楽堂にお出ましになり、ドヴォルザーク作曲ピアノ五重奏曲第二番、モーツァルト作曲交響曲第三十八番「プラハ」等の演奏をお聴きになる。皇太子妃前半のみ、正仁親王妃華子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、旧皇族雑録

昭和四十八年七月

二十九日 金曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のベネズエラ国駐箚特命全権大使中川進及び同夫人、米國駐箚特命全権大使安川壯及び同夫人の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拜謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 午前、吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、昨二十九日執行の威仁親王妃慰子五十年式年祭につき、天皇・皇后からのお供えに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録

七月

三日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午後、正殿竹の間において、この度離任のエジプト国特命全権大使マハムード・サラハッディーン・ハサン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭脇にお出ましになる。天皇と共にお言葉を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

六日 金曜日 ベトナム共和国特命全権大使ドオウ・ヴァン・リー及び同夫人、ボリビア国特命全権大使アルマンド・ヨシダ・バーカ及び同夫人・息女、タイ国特命全権大使スポット・ピヤンストン及び同夫人・息女のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のブラジル国駐箚特命全権大使宇山厚及び同夫人、国際連合日本政府代表部特命全権大使斎藤鎮男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のマダガスカル国駐箚特命全権大使加川隆明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、正殿梅の間において、新任のシンガポール国特命全権大使ウィー・モン・チェン及び同夫人、モロッコ国特命全権大使アブデスラム・タドラウイ及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、花の間において、新任の宮内庁御用掛須山節子ほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前、薔薇の間において、国立科学博物館理工学研究部長村山定男の進講を天皇と共に聴きになる。その際、村山の説明により、米国のアポロ十七号乗組員が持ち帰り、この度日本

に寄贈された「月の石」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後三時三分御出門になり、六時五十一分同邸に御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、三井浜に天皇と共に御出ましになる。海上にお出ましの天皇をお見送りの後、

昭和四十八年七月

海岸を御散策になる。以後、御用邸御滞在中は天皇の植物及び海洋生物の御調査に同行され、しばしば御用邸敷地内外及び海上にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十三日 月曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴

二十七日 金曜日 午前八時三十九分天皇と共に須崎御用邸を御出門、午後零時十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓関係綴、幸啓録、宮内庁庁報

午後、千草の間において、前米国駐劄特命全権大使牛場信彦及び同夫人の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

ノルウェー国皇太子の第一王子誕生につき、同国王オラフ五世に天皇・皇后より祝電を發せられる。これに対し、翌二十八日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十八日 土曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のパナマ国駐劄特命全権大使片上一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 月曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、三重県に行啓の皇太子・同妃と御対面にな

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十三分御出門、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

御内庭を天皇と共に御散策になる。以後、御用邸御滞在中は天皇の植物御調査にしばしば同行される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録

八月

二日 木曜日 午前、御散策に御出発の際、御用邸御車寄前において那須町長笹沼賢弥・同町議会議長佐藤又作並びに同町議会議員に天皇と共に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

去る七月末の集中豪雨により甚大な被害を受けた福岡県に対し、天皇・皇后よりお見舞金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 天皇と共に那須御用邸より一時御帰京のため、午前八時五十八分御出門、十一時四十六分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、近く赴任のオーストラリア国駐箚特命全權大使吉田健三及び同夫人、エ

昭和四十八年九月

ジプト国駐箚特命全権大使和田力及び同夫人、モンゴル国駐箚特命全権大使柘植格及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、元宮内庁御用掛羽澄光彦ほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

十五日 水曜日 午前十一時四十九分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席になる。午後零時二十五分還啓される。なお、天皇・皇后より追悼式を行う厚生省に対し生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十六日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十三分御出門、午後一時同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 スウェーデン国王グスタフ六世アドルフ御病気につき、天皇・皇后よりお見舞電報を寄せられる。これに対し、九月四日に同国摂政より天皇に答電が送られる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

九月

一日 土曜日 関東大震災の日^{五十周年}に当たるため、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録

五日 水曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになり、キジを放鳥される。ついで天皇と共に同所において、宮内記者会会員に御会釈を賜い、各記者からの質問にお答えになる。その際に、関東大震災について、翌一月の結婚満五十年について、翌六日より開催の「皇后さまの絵と書展」についての質問をお受けになる。関東大震災に関しては、震災発生時には赤倉に滞在していたこと、結婚五十年に関しては、感慨無量であるとされた天皇と同じ気持ちであること、展覧会に関しては、自信のある作品はないことなどをお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、天皇記者会見、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、昭和天皇と私達

嚶鳴亭において、栃木県知事横川信夫より県勢の概況と県政の課題についての奏上を天皇と共にお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

オランダ国女王ユリアナの即位二十五周年記念日につき、天皇・皇后より祝電を発せられる。これに対し同月七日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

六日 木曜日 この日午前、日本芸術院会館において「古希をお祝いして 皇后さまの絵と書展」日本赤十字社・朝日新聞社主催、宮内庁後援の開場式が行われ、故雍仁親王妃勢津子がテープカットを務める。この展覧会はこの日より二十四日まで十九日間にわたり開催され、御作品の日本画五十一絵皿二点を含むと書五点が初めて公開される。入場者総数は七万六千七百四十四人に上った。なお、本展覧会開催につき尽力の向きに対し、それぞれ賜品がある。この後、展覧会は翌四十九年三月一日より二十四日まで京都国立博物館、五十

年十月二十五日より十一月三日まで愛知県美術館においても開催され、三会場における収益金は日本赤十字社事業資金に繰り入れられた。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

九日 日曜日 久邇侁子^{御母}の祥月命日につき、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十日 月曜日 午前、テレビ番組「皇后さまの絵画展」^{TBS}を天皇と共に御覧になる。○女官日誌

十一日 火曜日 午前八時五十八分天皇と共に那須御用邸を御出門、十一時四十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において臨時神宮祭主鷹司和子と御対面になる。ついでお一方にて正殿竹の間にお出ましになり、参内の皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王と共に神宮式年遷宮に供進される御装束・神宝を御覧になる。その後、天皇と共に芳菊の間において皇太子以下の皇族と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賜与録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、神宮彙報

十三日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のネパール国駐箚特命全権大使小林春尚及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のネパール国特命全権大使ブラカーシュ・チャンド・タ

クール及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

十四日 金曜日 「古希をお祝いして 皇后さまの絵と書展」日本赤十字社・朝日新聞社主催、宮内庁後援を御覧になるため、午

前九時御出門、日本芸術院会館に行啓される。日本赤十字社社長東竜太郎の先導にて御休所に入られ、東社長、朝日新聞社社長広岡知男、文化庁長官安達健二、日本芸術院長高橋誠一郎の拝謁を受けられる。ついで御休所を御発、廊下にてお出迎えの皇太子妃・正仁親王妃華子と御一緒に展示室に臨まれ、

前田青邨の供奉にて御出品の御絵四十九点、志野御絵皿二点、御歌御懷紙五点を御覧になる。続いて第五十八回日本美術院展覧会財団法人日本美術院主催を御覧になるため、東京都美術館に行啓される。日本美術院同

人平山郁夫の先導、同院同人塩出英雄の説明、前田青邨の供奉にて、第一室から第七室に出品の作品を御巡覧になる。十時二十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、事業年報(日本赤十字社)

十六日 日曜日 スウェーデン国王グスタフ六世アドルフ崩御につき、この日より三日間の宮中喪となり、午後予定されていた大相撲九月場所を御覧になるための蔵前国技館行幸啓はお取りやめとなる。また、新国王カール十六世グスタフに天皇・皇后より弔電を寄せられ、これに対し九月二十一日に答電がある。十七日、天皇・皇后より弔問使として侍従杉原正純を同国大使館に差し遣わされる。

また二十四日、特派大使松井明より新国王及び王女クリステイーナ・ルイズ・ヘレナ新国王の姉に天皇・皇后・政府・国民の弔意が伝達され、二十五日の同国ストックホルムにおける葬儀に際しては、柩前に

昭和四十八年九月

天皇・皇后より花環をお供えになる。二十六日、港区六本木のフランシスカン・チャペルセンターにおいて挙行の弔祭式に、皇后の御名代として正仁親王妃華子^{天皇の御名代は正仁親王}を差し遣わされ、天皇・皇后より花環をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、重要雑録、外交慶弔録、

外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十七日 月曜日 午前、花の間において、新宮内庁御用掛小和田恒・同加藤淳平の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十八日 火曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のパキスタン国特命全権大使サイド・モタヘル・フセイン及び同夫人、続いて離任のアフガニスタン国特命全権大使サイド・カシム・リシテイヤ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮

殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のバン格拉デシュ国特命全権大使アブドウル・ムンタクイム・チョードリ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

元式部官長原田健去る十八日死去につき、天皇・皇后より賜物使として侍従松平潔を原田邸に遣わされ、祭料を賜う。また、天皇・皇后より霊前に切り花・菓子を賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、

贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 正午より正殿竹の間において天皇と共に、英国トレード・センター開所式出席並びに英国フェア視察のため来日中の英国王族ケント公エドワード・同妃キャサリンと御会見になる。

続いて連翠北において、ケント公・同妃のために天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后よりケント公に広角・望遠レンズ付写真機を、同妃に宝飾付佐賀錦ハンドバッグ等を御贈進になる。ケント公・同妃より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には陶製人形等が贈られる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、東宮録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

午後、厚生大臣から表彰された第二十五回保健文化賞受賞者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。厚生大臣斎藤邦吉より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、式年遷宮奉仕のため翌日伊勢市に赴く臨時神宮祭主鷹司和子の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十三日 日曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 御訪欧二周年に当たり、午前、天皇と共に正殿梅の間において、元首席随員福田赴夫始め元随員十七名の拝謁をお受けになる。福田より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。ついで豊明殿脇において天皇と共に、御訪欧の記録映画イギリス・フランス・ベルギー篇を一同と御一緒に御覧になる。終わって、連翠北において午餐の御陪食を賜う。午後、元随行員十六名の賜謁があり、天皇と共に

宮殿御車寄内広間にお出ましになる。元随行員森岡恭三郎より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、宮殿行事録

二十八日 金曜日 第二十回日本伝統工芸展文化庁・東京都教育委員会・日本放送協会・日本工芸会・朝日新聞社主催を御覧になるため、午前九時三

昭和四十八年十月

十分天皇と共に御出門、日本橋三越本店に行啓される。御到着後、七階会場において、漆芸・金工・陶芸・木竹工・人形・染織などの作品を順次御覧になる。十時三十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

二十九日 土曜日 昭和四十八年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より事業御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁序報

十月

一日 月曜日 午前、正殿竹の間において、環境庁長官官房審議官橋本道夫より「環境汚染による健康被害」と題する進講を天皇と共にお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

進講録、宮殿行事録

この日、新任外国大使に対する皇后の御引見について、行うのは一回限りとすることが定められる。夫人の来日が遅れ、新任大使が信任状捧呈後に単独で皇后の御引見を賜った場合には、従来、夫人の来日時に再度皇后の御引見を賜っていたが、今後は夫人を伴う再度の御引見は行わないこととされる。なお、夫人が日本に未着である新任大使について、大使が皇后の御引見を単独で賜るか、夫人の到着を待つて賜るかに關しては大使の選択によって決められることとするが、当該国の賓客の来日等によりその新任大使が皇后と御会話を交わす機会がある場合には、大使の選択によらず皇后の御引見を事前に必ず行うこととされる。但し、新年の行事等における儀礼的な挨拶は、皇后の御引見が行われる前になされても差し支えないものとされる。○例規録

二日 火曜日 午後八時、神嘉殿南庭における皇大神宮式年遷宮遙拝の儀の天皇御遙拝の時刻に合わせ、吹上御所バルコニー前庭において御遙拝になる。五日の午後八時には神嘉殿南庭における豊受大神宮式年遷宮遙拝の儀の天皇御遙拝の時刻に合わせ、吹上御所バルコニーにおいて御遙拝になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭典録、宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のスペイン国特命全権大使ホアキン・グティエレス・カノ及び同夫人、ホンジュラス国特命全権大使セサル・モツシ・ソルト及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 金曜日 午後、最高裁判所関係功労者として藍綬褒章を授与された調停委員等の謁見があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。受章者の広島地方・家庭裁判所調停委員増原改磨より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、来る十一日よりスペイン国を訪問する皇太子・同妃の首席随員中川融特命全権大使及び随員の謁見をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 火曜日 ハンガリー国特命全権大使エルニユー・ホルヴァート及び同夫人、イラン国特命全権大使アブドル・ホセイーン・ハムザービイ及び同夫人、エルサルバドル国特命全権大使ワルテル・ベネケ・メデイーナをお招きになり、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、正殿竹の間において、来日中のイラン国有石油会社総裁マヌウチエヘル・エ

昭和四十八年十月

クバー^{元同国}ル^{首相}及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

御夕食後、天皇と共に吹上御所において、この日よりスペイン国訪問に出発する皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交雑録、宮内庁序報

去る九月十二日港区高輪の光輪閣跡地に落成した新御殿^{高松宮邸}に移転の宣仁親王・同妃喜久子に対し、天皇・皇后より三種交魚代料等を賜う。○女官長日記、贈賜録、新築工事式典関係、宮内庁序報、高松宮宣仁親王

十二日 金曜日 千葉県において開催される第二十八回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前十時十分御出門、原宿駅を御発車、館山駅に御到着になる。それより財団法人千葉県観光公社南房パラダイスを御訪問になる。次に千葉県水産試験場千倉分場を御視察になる。午後四時十二分、御泊所鴨川グランドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、行幸啓誌

十三日 土曜日 午前十時三十五分天皇と共に御泊所鴨川グランドホテルを御出発、鯛の浦^{特別天然記念物}を御訪問になる。お召し船にて出港され、群泳する鯛を御覧になる。鯛の浦について、次の御歌が翌年一月一日に発表される。

波の間にすがたを見せつつ鯛のむれふなべり近くあまた寄りくる

御帰港後、財団法人日本武道館研修センターにおいて御昼食の後、千葉県がんセンターを御訪問になり、電子顕微鏡室を始めセンター内の各室を御巡覧になる。次に千葉市加曽利貝塚博物館において貝

塚断面保存施設や館内展示場などを御視察になる。ついで千葉県護国神社にお立ち寄りになり、拝殿前の石段上において御拝礼になる。午後四時五十七分御泊所の千葉グランドホテルに御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

十四日 日曜日 午前十時十分天皇と共に御泊所千葉グランドホテルを御出発、千葉県赤十字会館を御訪問になる。日本赤十字社社長東竜太郎より同社千葉県支部の概況に関する奏上をお聞きになった後、血液センター及び義肢製作所を御視察になる。次に千葉県文化会館において同県の物産展示品を御覧になり、続いて同館正面玄関前広場にある県政百年記念歌碑を御覧になる。同館において御昼食の後、千葉県総合運動場陸上競技場における第二十八回国民体育大会秋季大会開会式に臨まれる。午後三時五十二分、御泊所千葉グランドホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉

日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、事業年報（日本赤十字社）

この日、京都市の曇華院において開山智泉聖通和尚尼大禪師順徳天皇の曾孫六百年、及び中興開山大成聖安和

尚尼大禪師後西天皇皇女二百五十年御忌法要執行につき、同寺院に菓子及び香華料を賜う。○女官長日記、贈賜録

十五日 月曜日 午前九時四十六分天皇と共に御泊所千葉グランドホテルを御出発、社会福祉法人千葉市社会福祉事業団千葉市和陽園を御訪問になり、入園者・同園職員らを御慰問になる。次に千葉県立東金青年の家において東金市長石橋一弥・同市議会議長鶴沢治躬の拝謁を受けられる。その後、午後にかけて東金運動公園野球場において国体ソフトボール競技を、銚子市野球場において国体高等学校硬式野球競技を、銚子市体育館において国体卓球競技をそれぞれ御覧になる。午後二時五十五分、御泊所大吠埼京成ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官

昭和四十八年十月

報、行幸啓誌

十六日 火曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所大吠埼京成ホテルを御出発、銚子漁港を御訪問になり、夫婦ヶ鼻の外港御展望所において外港建設状況を御展望になる。続いて銚子漁港魚市場において水揚作業や水揚魚を御覧になる。次に香取神宮に向かわれる。御到着後、天皇の御拝礼に続き、拝殿内にお進みになり、御拝礼になる。次に斎館において御昼食の後、宝物館において神宝類を御覧になる。ついで千葉県立佐原高等学校グラウンドにおいて国体ハンドボール競技を御覧になる。終わって佐原駅より原宿駅を経て、午後四時二十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十七日 水曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮を御遙拝になる。ついで神嘗祭賢所の儀にお出ましになり、御拝礼になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、吹上御所において、李方子の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人日誌
天皇と共に鳳凰の間において、バングラデシユ国駐劔特命全権大使小山田隆の進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十八日 木曜日 財団法人日本傷痍軍人会創立二十周年記念式典に御臨席のため、午前十時二十四分御出門になり、天皇と共に日本武道館に行啓される。同五十四分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のメキシコ国特命全権大使グスタヴオ・ロメロ・コル

ベックを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、靖国神社霊璽奉安祭に各都道府県代表として参列した遺族の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。靖国神社権宮司池田良八より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

翌十九日より二十二日まで大阪阪急百貨店において「秋のばら会展」財団法人日本ばら会
関西支部主催開催につき、この日、

吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十二日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録
十九日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のバングラデシユ国首相シェイク・ムジブル・ラーマンを御引見になる。ついで天皇と共に豊明殿において同首相のために宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より首相に御紋付銀製花瓶等を賜う。また首相より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には皇后肖像画、ピンクパールのネックレス、サリー布地等が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十一日 日曜日 去る十九日より翌二十二日まで上野京成百貨店において「秋の日本ばら会展」財団法人

日本ばら会主催開催につき、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録

二十二日 月曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、スペイン国訪問より帰国した皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

昭和四十八年十月

二十三日 火曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において鷹司和子と御対面になり、この度臨時神宮祭主として式年遷宮の職務終了につき挨拶を受けられる。続いて萩の間において御昼餐を御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、この度第二十八回国際動物園長連盟総会に参会の連盟会員及びオブザーバー等をお招きになり、連翠において天皇と共に茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮中茶会、

宮殿行事録

二十四日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この度スペイン国を訪問した皇太子・同妃の首席随員中川融及び随員九名の拝謁をお受けになる。ついで随行員石原重孝ほか五名の賜謁があり、天皇と共に宮殿御車寄内にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のリベリア国駐節特命全権大使片山醇之助の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午後、東京で開催の第二回日豪閣僚委員会に出席等のため、公賓として来日中のオーストラリア国首相エドワード・ゴッフ・ウィットラム及び同夫人を、正殿竹の間において天皇と共に御引見になる。続いて豊明殿において首相夫妻のために天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来訪につき、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶等を賜う。なお同夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはオパール^{銀台ブローチ}等が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 来る二十九日に日本武道館において財団法人警察協会主催の全国殉職警察職員・

警察協力殉難者慰霊祭が行われるに当たり、天皇・皇后より警察庁に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、
濟寧

二十九日 月曜日 午後、連翠南において、財団法人結核予防会理事長山口正義の進講をお聴きにする。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮殿行事録

三十一日 水曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時三分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、東宮録、宮内庁庁報、官報、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十一月

一日 木曜日 鳩彦王妃允子内親王四十年式年祭^{正辰は十一月三日}に当たるため、午前、皇居勤労奉仕者への御会釈のためのお出ましを除き、御座所においてお慎みになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、贈賜録、旧皇族録

二日 金曜日 フィンランド国特命全権大使オスモ・ユハニ・ラレス及び同夫人、デンマーク国特命全権大使ティーエ・ダルゴー及び同夫人、ノルウェー国特命全権大使クリステイアン・ベルグ・ニールセン及び同夫人のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 土曜日 午前、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会において選ばれた健康優良児

童及び健康優良学校代表等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。同表彰会会長広岡

知男朝日新聞
社長より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る十月二十日に誕生日を迎えた皇太子妃と御

対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に芳菊の間において、初参内の初曾孫東久邇征彦、及び東久邇聡子・同文子・同吉子

の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任の米国特命全権大使ロバート・ステイヴン・インガー

ソル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、

外交贈答録、宮内庁庁報

七日 水曜日 夜、天皇と共に吹上御所において、先般スペイン国訪問より帰国の皇太子・同妃のた

め内宴を催され、皇太子・同妃及び正仁親王・同妃華子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王、寛仁親

王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、宣召録、東宮録、宮内庁庁報

八日 木曜日 スウェーデン国訪日工業視察団の団長として来日中の同国王族ベテイルのため、連翠

北において天皇と共に宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内

録、東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日本トンガ協会の招待により来日中のトンガ国国王タウファアハウ・トウポウ四世及び王妃と御会見になる。この度の来訪につき、天皇・皇后より国王・王妃に七宝花瓶淡赤釉梅語文を、国王に『相模湾産貝類』を、王妃に『桃苑画集』をそれぞれ御贈進になる。なお、国王・王妃より天皇・皇后に御贈進があり、皇后には王妃御製作の貝殻張りハンドバッグ等が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十一日 日曜日 創立二十周年となる錦江会島津家関係者の親睦会に御出席のため、午前十一時四十八分御出門になり、天皇と共に開東閣旧岩崎家別邸、三菱グループの賓客接遇施設に行啓される。出席の会員と御昼食を御会食になり、御談話及び庭園御散策の後、記念写真の撮影に応じられる。午後三時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、東宮録、行幸啓録、宮内庁庁報

十二日 月曜日 午前、天皇と共に松風の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、スイスアルペンホルン・ヨーデルグループ演奏会を御鑑賞のため、桃華楽堂にお出ましになる。アルペンホルントリオ・バツヘンブラッハによるアルペンホルンの演奏、ヨーデルクラブ・アルペブルーメによるヨーデルソング「スイス讃歌」などをお聴きになり、さらにアンコールとしてヨーデル、ついでアルペンホルンの演奏をお聴きになる。正仁親王妃華子・鷹司和子が陪聴する。終了後、御休所においてスイス国特命全権大使ジョヴァンニ・エンリコ・ブツヘルを御引見になり、廊下において

ヨーデルグループ団長レネ・ヴェスピにお言葉を賜う。出演者には御紋付銀スプーンを賜う。なお、両楽団は昭和四十六年御訪欧の際にも、スイスにおいて天皇・皇后にアルペンホルンの演奏とヨーデルを披露した。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、御前演奏会録

十四日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のタイ国特命全権大使スポット・

ピヤンストン及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

高松宮新邸披露につき、午後四時二十分御出門になり、天皇と共に同邸に行啓される。御到着後、宣仁親王・同妃喜久子主催の御晩餐に臨まれ、皇太子・同妃も交えて御会食になる。終わって八時十六分還啓される。天皇・皇后より宣仁親王・同妃に菓子及び万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、東宮録、宮内庁庁報

この日、京都市上京区の三時知恩寺において開山見子内親王六百年及び中興開山即生院宮二百五十年の遠忌執行につき、同寺に菓子及び香華料を賜う。○贈賜録

英国王女アンこの日結婚につき、天皇・皇后より銀製置物御所車を御贈進になる。これに対して後日、王

女より謝意を表する書簡十一月十日付が寄せられる。○女官長日記、外交贈答録

十五日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のアフガニスタン国駐筋特命全権大使山田淳治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午前、宮内庁庁舎講堂に天皇と共にお出ましになり、宮内庁職員組合主催の文化祭

の美術展を御覧になる。同展には、絵画五点「冬の須崎」、「暖国の花」、「伊豆、人形「鴨を、手に」、文鎮「鬼」」を出品され

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、文化祭目録

十七日 土曜日 午前、花の間において、宮内庁職員組合主催の文化祭を拝見のため参内した御学友・御同級生九名、及び前女官長保科武子以下元女官三名・元皇子傅育官二名の拝謁を順次受けられる。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、重要雑録

十九日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のオーストラリア国特命全権大使ゴードン・フリース及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、黄綬褒章・紫綬褒章又は藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。紫綬褒章受章者三上次男より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉をお賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午後、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に春秋の間にお出ましになる。厚生大臣斎藤邦吉より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前、正殿梅の間において、新任のベネズエラ国特命全権大使フレディー・アロチャ・カストレサナ及び同夫人、ナイジェリア国特命全権大使イグナティウス・ジュリアス・ダワー・ダーロング及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮

内庁庁報

昭和四十八年十一月

コロンビア国特命全権大使ルイス・ゴンサレス・バロス、ラオス国特命全権大使ティアオ・カムヒン^王及び同妃、インド国特命全権大使S・テイルヴェンガダ・タン及び同夫人のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前九時五十八分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、自治体消防二十五周年記念全国消防大会に御臨席になる。十時五十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 月曜日 午前九時二十分御出門になり、天皇と共に東京都恩賜上野動物園に行啓される。御到着後、東園においてジャイアントパンダ等を、西園において鳥類・魚類・両生類等の動物を御覧になる。十一時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料、東京動物園協会所蔵資料、昭和

午後、文部大臣より表彰された教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に宮殿北溜にお出ましになる。教育功労者村上元之輔より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のリベリア国特命全権大使ジョン・D・コックス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

天皇と共に芳菊の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。各方退出の際、古希記念として皇太子・同妃にお手製の文鎮桃の葉
上に宛を贈られる。十二月一日には、

正仁親王・同妃華子にも贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

二十九日 木曜日 午後、重要無形文化財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華樂堂にお出ましになる。故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子の他、元皇族等が招かれる。演奏会では、桜間道雄のシテ、藤田大五郎笛・幸宣佳小鼓・安福春雄大鼓の囃子方、早野隆太郎他の地謡による能の舞囃子「歌

占」、宮藺千寿・同千寿弥の三味線による宮藺節「夕霧」下、尾上梅幸の舞踊、清元志寿太夫他の浄瑠璃、清元志寿朗の上調子による舞踊「保名」を御鑑賞になる。演奏会終了後、御休所において、故雍仁親王妃・崇仁親王妃と御対面になり、ついで、重要無形文化財保持者の桜間道雄・藤田大五郎・安福春雄・宮藺千寿・尾上梅幸・清元志寿太夫の拜謁をお受けになる。また他の出演者にも御会釈を賜う。この度の演奏会に際し、出演者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、賜与録

三十日 金曜日 午前、天皇と共に皇居東御苑本丸跡南端松の廊下
跡付近にお出ましになり、岩手県知事千田正より献上のキジを御一緒に放たれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に芳菊の間において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

十二月

二日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 火曜日 午後、正殿梅の間において、近く赴任のセネガル国駐箚特命全権大使荒木外喜三及び

同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内

序序報

五日 水曜日 去る十一月二十九日に熊本市の大洋百貨店における火災により多数の犠牲者発生につ

き、この日、天皇・皇后より災害お見舞いとして熊本県に金一封を賜う。○賜与録

六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のチリ国特命全権大使オスカル・

ピノチェ・デ・ラ・バラ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日

誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内序序報

七日 金曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分御出門、四時四十八分同邸に御

到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、須崎御用邸行幸啓綴、幸啓録、宮内序序報

八日 土曜日 午前から正午過ぎにかけて、植栽地・展望台道・カニ沢・三井浜等を天皇と共に御散

策になる。以後、御用邸御滞在中は天皇の植物御調査にしばしば同行される。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、須崎御用邸行幸啓綴

十四日 金曜日 午後零時三十四分天皇と共に須崎御用邸を御出門、四時一分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、須崎御用邸行幸啓綴、幸啓録、宮内序序報

十五日 土曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のローマ法王庁大使大司教ブルーノ・ヴュステンベルグを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、着袴の儀終了後参殿の清子内親王と御対面になる。同内親王の着袴につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、内親王に鮮鯛代料及び御台人形代料を賜う。

これとは別に天皇・皇后より内親王にお品を賜う。また皇太子・同妃より天皇・皇后に鮮鯛代料の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、贈賜録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、花の間において、京都在住の堂上会総代梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

清子内親王の着袴の儀が昨十七日滞りなく終了につき、この日皇太子・同妃が主催する内宴に御臨席のため、午後六時二十四分御出門になり、天皇と共に東宮御所に行啓される。清子内親王のほか、徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、寛仁親王、宜仁親王が出席する。終わって八時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を賜う。また皇后より財団法人結核予防会

に金一封を賜う。なおこの月、歌道御奨励のため、皇后より向陽会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

十九日 水曜日 カナダ国特命全権大使ロス・キャンベル及び同夫人、カタル国特命全権大使ハマド・マンスール・アル・ハージリー及び同夫人、イラク国特命全権大使ムンダル・タウフィーク・アル・ウアンダーウイ及び同夫人のため、連翠北において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のマダガスカル国代理公使アンドリアナンピー・ラマウリミハソ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、在日米軍司令官兼第五空軍司令官ロバート・E・パーズレイ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、タイ国特命全権大使ソムポン・スチャリトクン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、古希のお祝い言上のため参内の東伏見慈洽^{御弟}及び同夫人保子、四条淑子^{御妹三条西信子の息女}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十二日 土曜日 夕刻、吹上御所において天皇と共に、この日誕生日を迎えた東久邇文子、及び同真彦・同優子の拝謁をお受けになる。ついで御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十三日 日曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、ついで女官長始め女官、元女官長始め元奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁序報

二十五日 火曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十六日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官以下総代、ついで女官長・女官、続いて皇太子始め皇族・元皇族・御縁故者より、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、典式録、宮内庁序報